

ライダーを試作し滑空実験を行つたが、之がソ聯邦に於ける近代式ライダーの嚆矢と謂はれる。其後一九二三年に至り漸くライダーの重要性に着目し本格的な研究が行はるゝに至つたのである。

同年モスクワに滑空團體が組織され、滑空場としてクリミア半島の東南にあるコクテペリが選定された。此處のクレナメンチエーフ丘がライダーの滑空に好適の條件を具備して居るので爾來年々此處で滑空競技大會が開始され技術の發達向上に資され、ソ聯のライダー界は逐年盛大に趣きつゝあるのである。ソ聯邦に於けるライダー記録は一九二五年には高度四三五米、距離二四、四軒、滑空時間一二時間六分、一九二九年には高度一、五二〇米、距離三二、六軒、一九三〇年にはソ聯邦で最初のライダーの宙返りが行はれた。次で一九三三年には高度二、六〇〇米、滑空一五時間四七分(單座)十三時間(複座)九時間(三座)連續宙返二〇九回の記録を出し、翌一九三四年には更に躍進的記録が作られ滑空時間三

五時間一分(單座)一四時間(複座)とレコードを更新し、更に一九三五年には次の如き新記録が作成された。

- 複座機スタリネツ・二型
リツイン氏 三八時間四〇分
- 單座機スタリネツ・四型
スオムリノフ氏 三八時間一〇分
- 三座機 (不詳)
コーシツ氏 一一時間
- 女子記録
ゼリヨソコワ嬢 一二時間九分

一九三七年にはラストルグエフ滑空士により距離五三九軒の滑翔が行はれ、ロギノフ飛行士はフヨドロフ滑空士操縦のライダーを曳航し高度一二、一〇五米に上昇し、ライダーは此の亞成層圏から滑空して無事着陸したのである。

一九三八年にはイリチエンコ、ゼリヨソコワ兩滑空士搭乗の「スタハノウエツ」機は距離五五二軒を滑翔、更にイリチエンコ、コロトフ兩滑空士は「ゲ・エヌ・七型」で距離四八五軒を滑翔した。

一九三九年には左に掲げる四種の世界新記録が樹立され國際航空聯盟から正式

に公認された。

- △單座機による長距離記録
一九三九年七月六日
滑空士クレビコワ嬢(ロット・フロント號)
距離 七四九軒二〇三——モスクワよりスタリングラード州オドラドノイに至る
- △指定地滑翔距離記録
一九三九年六月三日
滑空士サフツオフ氏(ロット・フロント號)
距離 四一五軒一四三——モスクワよりタシボーフに滑翔
- △上昇高度記録
一九三九年七月十日
滑空士 ゼリヨソコワ嬢(ロット・フロント號)
高度・二、〇七一(於モスクワ)
- △複座機に依る上昇高度記録
一九三九年七月十日
滑空士 ウエリコツセルツエワ嬢ナウイア
ロワ嬢(スタハノウエツ號)
高度一、六三四(於モスクワ)

パラシュート

ソ聯邦に於てパラシュートが着目され

たのは一九二二年で、當時レニングラード氣球學校のビルンバウム氏は其重要性を強調し當局に提言したが偶々モルチャノフ飛行士がパラシュート降下實驗中墜死した爲當局は基礎案を排し之を禁止するに至つたのである。爾來オソアヴィアヒム當局はアウイング式其他の外國製パラシュートを多數購入して研究に勉め一九二七年グロモフ飛行士が新型戰鬥機の試験飛行中危機を脱する爲高度一、二〇〇米からパラシュートで脱出し無事着陸、其後ピサレンコ、ブゴルツ兩飛行士が飛行中機體に故障を生じパラシュートで無事危難を脱して以來其重要性に着眼し積極的研究に乗出すに至つたのである而して一九二九年オソアヴィアヒムはミノーフ氏を米國に派遣しパラシュート技術を研究せしめ、一九三一年から本格的練習が赤軍兵士間に實施されたのである一九三二年ザベリンは高度六、二〇〇米から降下してソ聯邦最初の高空よりの降下に成功したが同年アフアナシエーフはソ聯邦最初の閉塞降行を爲し高度二、

〇〇〇米より閉傘のまゝ一、六〇〇米を落下地上四百米で開傘無事着陸したのである

一九三一年に至りパラシュートの大衆化が叫ばれ一般市民への普及の爲モスクワの「文化と休息の公園」内に始めてパラシュート塔が建設され、次第に全國各地に塔を建設、現在では五〇〇箇所以上にパラシュート塔が建設されてゐる。

一九三二年より一九三七年に至るソ聯邦に於けるパラシュート降下記録を摘記すると左の通りである。

高 度	人 名	年 度
六、二〇〇米	ザベリン	一九三二
六、三五〇米	フヨドロフ	一九三五
六、八〇〇米	カイタノフ	同
七、〇三五米	ヤコウレワ	同
同	同時降下	同
同	バブシキナ	同
同	ブローヒナ	同
同	ニコラエワ	同
同	バルツエワ	同
同	マリノフスカヤ	同
七、五〇〇米	コズリヤ	同

高 度	開傘高度	年 度
七、七五〇米	ク タ ロワ	同
七、九七五米	シシマレワ	一九三五
同	同時降下	同
九、八〇〇米	カイタノフ	一九三七
一一、〇三七米	同	同

△開傘制限降下記録

高 度	開傘高度	年 度
二、〇〇〇米より落下	四〇〇米	
三、〇〇〇米	三〇〇米	一九三二
六、九二〇米	四八〇米	一九三四
七、二〇〇米	一五〇米	一九三三
八、一〇〇米	二〇〇米	一九三七

△夜間降下記録

通常降下	年 度
四〇〇米	
バビツキ	一九三五
閉傘四、五〇〇米より開傘九〇〇米	
ザベリン	一九三五

△多人數同時降下記録

降下人員	實施種別	年 度
六二名	航空デ	一九三三

一五〇名	同	一九三五
二二五名	同	一九三六
一、二〇〇名	赤軍演習	同
一、五〇〇名	同	同
二、二〇〇名	同	同
二、二〇〇名	同	一九三七

特殊飛行機

【オートチャイロ】

空の奇形児としてオートチャイロは従来の飛行機と異つた形態を呈し、舊慣打破の目新しいものとして一時ソ聯邦で注目されたが現在は次第に熱も冷え餘り注意されなくなつてゐる。オートチャイロの原理を發見したのは露人リヤブンスキーで、之を實用化したのが西班牙の技師シエルヴァである。

一九二九年にソ聯邦で最初のオートチャイロが實驗されたが其成績は面白くなかつた。此種飛行機の取扱に不慣れであつた事も原因と見られ、其後製作された二號機は約九〇回のテストの結果稍々良好の成績を示したのである。一九三四年

に至り「ア・三號」機が作られ漸く完全なものとして成功したのである。

【空の蚤】

最小飛行機として佛人ミニエの作つた「空の虱」(プー・デ・シエル)に對し其理論を應用してソ聯邦で製作されたのが「空の蚤」である。此種の最小飛行機として著名なものはシエレメテーフの「空の蚊」で僅か十八馬力の發動機を裝備して飛行に成功、ランデインエーフの設計のものは廿四馬力のものであるが之亦好成績を挙げた。

【無尾翼機】

ソ聯邦に新ける無尾翼機はハリコフ航空研究所の「ハイ・四型」を始めチエロノフスキーの一九三七年設計になる「胡蝶型」がありM・百型發動機を付け時速一七五軒を出し、四千米の上空に上昇した。チエロノフスキーは一九二〇年以來無尾翼機の研究を續けて來たが一九四〇年製作された「SG-1型」は第六番目の設計で、座席一箇、密閉キャビン型を爲し發動機は二二〇馬力を裝備して最大速

度四〇〇軒を出し降着装置は引込脚式で操縦も簡單に行ひ得るものである。チエロノフ記念ソ聯邦中央飛行俱樂部では此の新型無尾翼機を同俱樂部のスポーツ航空用として採用したと謂はれる。

航空發動機

ソ聯邦に新ける航空發動機の製作は極めて困難な階梯を経て最近漸く完成の域に進んだもので精密と高速度を絶對條件とする此種の機械工作に従事する熟練工乏しく初期に在つては全く絶望視されるに至つた事さへある。中央航空力學研究所(ツアギ)の外に航空發動機中央研究所(ツウエイ)があつて専門的研究を行つた結果英米佛獨等の優秀發動機を購入し外國技術家の指導を得て國內生産に成功するに至つたのである。

ソ聯邦で生産された外國式發動機の主なるものは米國のライト・サイクロ式、英國のプリストル・ジュビター式、佛國のイスパノ・スイザー式及ノーム・ロー

ン式等で之等外國製發動機の國內模倣製出發動機に對し「M型」の呼稱を以て「M三四型」「M・一〇〇型」等と稱して居るソ聯邦内の主要航空發動機工場として著名なものは左の諸工場である。

- モスクワ第二四航空發動機工場
- フルンゼ記念航空發動機工場
- リビンスク第二六航空發動機工場
- ザボロジイ第二九航空發動機工場
- ベルム「M」航空發動機工場
- レニングラード航空發動機工場
- キエフ航空發動機修理並に調整工場
- スモレンスク航空發動機修理工場
- セヴァストポリ航空發動機修理工場

ソ聯邦に新ける航空發動機専門技師として有名なミクリンは「ア・エム三四型」九五〇馬力のソ聯邦製發動機の國內製出に成功し名聲を博したが、同發動機は幾多の長距離飛行に於て優秀な成績を示したのである。「M」字を冠したソ聯邦發動機には次の諸種がある。

- M・五型水冷式四〇〇馬力(現在使用されず)
- M・六型水冷式三〇〇馬力(同 右)

- M・一型空冷式一〇〇馬力
- M・一五型空冷式四五〇馬力
- M・一七型水冷式六八〇馬力
- M・二二型星型・四八〇馬力
- M・二五型空冷式七五〇馬力
- M・八五型星型八五〇馬力
- M・一〇〇型水冷式九五〇馬力
- A・M三四型水冷式九五〇馬力

最近航空用ダイゼル機關の研究が行はれ獨逸より「ユーモ型」其他のダイゼル發動機を購入し之を基本に製作に着手、アクシュチン技師は航空用蒸氣機關について研究中と傳へられてゐる。

ソヴェート・クリツパー其他

ソヴェート・クリツパー飛行艇はソ聯邦政府が米國マルチン航空會社に依頼し製作されたもので太平洋定期旅客飛行艇として有名なチャイナ・クリツパー號より遙かに巨大なもので、發動機はライト・サイクロン式八五〇馬力四基を裝備、最大速度三〇六軒、全幅四七米八五三、全長二八米二九五、全高七米四六八、翼面積二二二平方米、自重一三、八〇七瓩、搭

載量一四、七七〇瓩、航續距離八、〇四七軒である。此外ソ聯邦政府が米國から購入し使用中のものはシコルスキー式S四三型兩操機、ダグラスDC三型陸上旅客機、セヴェルスキー二PA型軍用機、カーチス・ホーク七五型軍用機、ヴアルティV G型軍用機等がある。

此外米國コンソリテテット會社から購入の飛行艇PBY一型は高價な代償を以て其製作權をソ聯邦で買収し工作器械及製作指導技術員を二ヶ年間の期限を以て招聘し國內大量生産を企圖し列強の注目を惹いてゐる。

ソ聯機による著名な飛行

【一九三七年】

三月廿二日飛行機による北極探險飛行が敢行されシュミット博士の一行は五臺の飛行機に分乘しモスクワを出發、ルドルフ島に向ひ五月廿一日同島を出發北極に着陸し北極探險飛行に成功した。同年六月十八日「ANT式二五型」機にチカロフ、バイドコフ、ベリヤコフの

三飛行士搭乗、モスクワを出發、北極上空を通過して北米大陸に入りヴァンクーヴァーのピアソン飛行に着陸、六十三時間十七分で距離八、五〇四軒であつた。

次で二番機は七月十二日グロームフ、ユマシエーフ、ダエーリンの三名搭乗の「ANT・二五型」で決行、モスクワ、北極上空を経て北米合衆國加州サンテイゴの南方サンジャントまで距離一〇、一四八軒を翔破直線飛行の世界新記録を樹立した、所要時間六二時間〇九分である。之に次いで八月十二日第三回飛行が決行され、レヴァネフスキー外四名搭乗の四發動機附大型機を以てモスクワを出發したが北極通過後行衛不明となり同機

【一九三八年】

二月六日ソ聯邦最大の飛行船「V6號」白海附近で爆破十數名死傷す。
六月廿七日コツキナキ、ブリヤデンスキー兩飛行士モスクワ極東間無着陸飛行を決行しスバスコエに不時着す。

七月十二日オシベンコ、ロマニワ、ラスコワの三女島人セバストポリ、アルハンゲリスク内無着陸飛行に成功、所要時間十時間三三分、
九月二日チャチエフ飛行士、モスクワ浦鹽間の一六、三八〇軒を五四時間餘で翔破す。

九月廿四日、オシペンコ、グリゾドヴァ、ラスコワの三女島人モスクワ極東間無着陸飛行を決行、コムソモルスク附近に不時着す、距離五、九〇八軒、女子長距離無着陸飛行の世界新記録を樹立す。
十二月十五日ソ聯邦の英雄チカロフ飛行士モロクリで墜死す。

【一九三九年】

二月廿六日、亞成層氣球VR七七號高度一〇、二〇〇米に上昇す。
四月三日ブリルツキー、アリオシシ兩操縦士搭乗の自由氣球六一時間三〇分滞空す。

四月廿七日、コツキナキ飛行士「モスクワ號」で大西洋横斷飛行を決行、モスクワを出發約七、〇〇〇軒飛行し加奈陀

の聖ローレンス灣附近に不時着す。
五月十日女流飛行士オシベンコ少佐モスクワにて墜死す。

五月十五日コンドラチエワ女史自由氣球で滞空二二時間四四分、距離五〇〇軒高度三、〇〇〇米に上昇す。
六月九日モスクワにて落下傘手七名高度八、二〇〇米より一齋降下を行ひ指定地着陸に成功す。

七月六日女流滑空士クレビコワ「赤色戰線號」ソアラで距離七三五軒を翔破し、グライダーの直線距離世界新記録を作成す。

七月三十日、ホルズロフ空軍中將（滿蒙國境？）墜落慘死す。

八月十八日「マクシム、ゴーリキー號」の代換機、航空デー祝賀飛行に始めて公開飛行を行ふ。

【一九四〇年】

一月廿一日獨ソ新協定によりモスクワ伯林間の定期航空新規に開始されソ聯邦側は米國より購入の「ダグラスDC三型」旅客機を使用す。

オソアヴィアヒム當局は一九四〇年度航空競技を次の通り施行と發表す。

三月廿三日—四月四日、モスクワ附近にて全聯邦吊籠風揚大會を開催。

五月廿日より六月十日までツィラ市にて全聯邦第十五回グライダー大會開催。

七月廿四日より八月三日までツシノにて全聯邦パラシュート大會を開催。

八月一日より十二日までドンバスのコンスタンチノフカに於て全聯邦模型飛行機大會を開催する。

九月初旬、全聯邦スポーツ航空大會をツシノを中心で開催、モスクワ、フェエドシア（クリミヤ半島）モスクワ間を其航路と指定さる。

マリア・ネステレンコ大尉、マリア・ミハレワ大尉、ニーナ・ルサコワ中尉の三女流飛行家搭乗ソ聯歐亞連絡無着陸飛行の「ウクライナ」號は七月二十七日午前八時第一特別赤旗軍司令官シュテルン一等大將、シハレフ少將以下の見送りを受け豫定の如くハバロフスクを出發、ルヴオウ（新ソ聯領ポーランド南部）に向

つた。

ハバロフスクイルヴオウ間歐亞無着陸飛行を目指す女流飛行士操縦の「ウクライナ」號はハバロフスク出發以來快翅を續けてゐたが二十八日午前六時三十分ハリゴフ北方クリスクに差かゝつた前後より天候險惡を極め數時間も密雲中の飛行を餘儀なくされたためガソリンも残り少なくなつたので飛行を中止するのやむなきに至つた、よつて機長ネステレンコ大尉以下乗組員は附近のイサヴオ市に着陸壯途は惡天候に阻まれて遂に成らなかつた。

八月ソ聯當局はハバロフスクと勘察加半島突端のベトロバウロフスクとの間に水上機による無着陸旅客輸送を開始した、同線は水上機航空路としてソ聯邦第一の長距離で航程二千二百五十軒、これを約十時間で連絡するものである。

財政金融

ソ聯邦財政概観

ソ聯邦財政の特質

ソ聯邦財政の特質を説明するためにはソ聯邦社會主義的計畫經濟と財政（國家豫算）との關係を明らかにして置かなければならない。ソ聯邦に於ては、凡ての最高經濟指令は、一切國家の手中に收められて居り、憲法によれば、

- (一) 聯邦國民經濟計畫の決定、
- (二) 聯邦單一國家豫算の確定、並に聯邦、共和國及地方豫算に編入される諸租税及收入の確定、
- (三) 全聯邦的意義を有する諸銀行、農業機關及企業、並に商業諸企業の管理、
- (四) 貨幣及信用制度の監督、

- (五) 國家保險の組織、
 - (六) 借款の締結及貸付許可、
 - (七) 統一的國民經濟計算制度の組織
- はすべて、聯邦最高會議及行政諸機關を通じて、ソ聯邦の管掌に屬するものである。

ソ聯邦財政中、最も重大な意義を占めるものは單一財政計畫であり、それは國民經濟計畫に對應する資金計畫をなすものである。而してこれに含まれるものは

- (一) 國家豫算
- (二) 地方豫算
- (三) 各部門の財政計畫
- (四) 國立銀行の短期信用計畫
- (五) 特殊銀行の信用計畫

ソ聯邦財政學者がソ聯邦財政制度の特徵として自ら説くところによれば資本主義

諸國に於ける豫算收入は主として金と租税に依つてゐるが、ソ聯邦の收入は、多く國家經濟的活動（企業）によつて得られ、勿論租税は收入の一部をなしてはゐるが、取引税を除き、悉く人々の不勞働部分に重課されてゐる地方支出に於いても、ソ聯邦に於いては國民經濟に對する支出は七五・九%にして資本主義諸國の三五乃至一〇%のそれと比較するとき格段の相違であると稱してゐるが、彼の謂ふ國民經濟の中には軍需工業も國民經濟なる煙幕のなかに含まれてゐることを知らねばならぬ。

ソ聯邦財政々策に於いて、最も劃期的な事は、一九三〇年特別四半期及一九三一年度より適用された單一財政計畫である。

最近に於ける社會主義的建設の進展するに伴つて、ソ聯邦の計畫的建設の基礎をなす財政組織に關する重大なる改革が行はれた。それはこゝに説明される單一財政計畫の採用と信用及會計組織の改造である。

資本主義諸國に於いては、國家の全收支は豫算によつて示され、豫算經濟と國家經濟とは一致するが、ソ聯邦に於いては全く之と異つてゐる、即ち豫算面の全收支と國家の全收支とは一致しない。それはソ聯邦國家は豫算面に現はれない收支を有するからであつてこれは國家企業に於ける商業的勘定なるものがあるからであらう。資本主義諸國に於いても亦商業的勘定は郵便或は鐵道等の如き諸企業に用ひられてゐる。之等諸企業の收支は何れも一般豫算面に現はれてゐないか或はその純益が極めて少額であるか、或はその一部が豫算に繰入られてゐるに過ぎないからであつて、若し之によつて損失を生じた場合は國家は豫算のある収入を以て穴をふさいでゐる。

この資本主義諸國に於ける國家諸企業はソ聯邦の商業的勘定による諸企業とは類似してゐるが、然しその類似は形式的であつて本質的のものではない。

ソ聯邦財政の沿革

十月に續く所謂「戰時共產主義」時代には、國家的秩序は全く混亂に陥り、正常なる國內經濟、從つて正常なる貨幣經濟も行はれず、この時代に於ける財政も何ら確たる豫算制度によつたものではなく、國家收入として入つて來たものをそのまゝ必要に応じて支出し、その不足を印刷機、即ち新紙幣發行によつて補つて行つたものである。而してこの場合に於ける國家收入とは、殆ど國家的財産及強制徵發（主に農産物）によるもののみにして、租税の占める役割の如きも極度に小さかつた。

新經濟政策の實施と共に、貨幣經濟は漸く回復し、租税制度も現物税より金納税となり、租税の歳入豫算に於ける割合は増大して來たが、このことは資本主義復活の危険を示唆するのであつた。

その後一九二五—二六年以後テエルウオネット貨によるソ聯邦貨幣の安定方策の實施によつてソ聯邦財政も健全な發展を示すこととなつた。

ソ聯邦財政の動向（單位十億留）

會計年度	歳入	歳出
一九二五—二六	四、〇	四、〇
一九二六—二七	五、三	五、三
一九二七—二八	六、六	六、四
一九二八—二九	八、四	八、二
一九二九—三〇	一一、九	一一、三
一九三〇年二月—三月	五、三	四、六
一九三一年	二、三、八	二、三、一
一九三二年	三、一、六	三、〇、七
一九三三年	四、四、五	三、九、九
一九三四年	五、五、〇	五、二、五
一九三五年	七、一、七	七、〇、六
一九三六年	八、八、五	八、六、七
一九三七年	一〇、四、一	一〇、三、一
一九三八年	一三、二、六	一三、一、一
一九三九年	一五、六、〇	一五、五、四
一九四〇年	一八、三、九	一七、九、九

單一財政計畫

國家の豫算の非豫算部面はそれ自身の財政計畫、即ち産業財政計畫、信用計畫、社會保險計畫、國家保險計畫等を有する。かくて國家經濟の豫算及非豫算部面

は、共に各種の方法によつてその財源を作るため、全體に互つてソ聯邦國家によつて集められる全額を知る方法がない。しかもソ聯邦國家財源の急速なる増加と非豫算部面の諸企業に於ける蓄積並にその蓄積及財源の配分が著しく増大し、且つ財源を要求に應じて廣汎なる範圍に互つて配分し、國家の工業化と集中化に適應する必要に迫られたので益々この單一財政計畫が必須のものとなつた。

教育支出を例にとれば、從來この支出は國家及地方豫算に於いて、取扱ふのみでなく各企業労働組合、信用機關等からも支出されてゐたのであるが、單一財政計畫なるものはこの不統一を統一し一定年度に於けるソ聯邦國家の教育支出を明瞭にするものである。

即ち單一財政計畫によつてソ聯邦國家に於ける全般の收支を統轄し、各種の財政計畫を決定する極めて大なる重要性を持つものである。これは既に一九三〇年特別四半期及一九三一年度以來適用され、單一財政計畫は個別的な財政計畫、

即ち産業計畫、保證計畫等々に先立つて編成されるのである。

單一財政計畫の収入計畫及支出計畫は次の如きものより成る。

△収入計畫

- (一) 社會化企業が、工業製品及農産物の生産及販賣、商業、運輸、公營事業、通信業等より得る収益、
 - (二) 取引税(ホルホーズ所得税を含む)その他の社會企業税
 - (三) 固定資本の減價償却積立金
 - (四) 國民資金動員
 - (イ) 個人所得税、ホルホーズ員及個人農に對する農業税、住宅文化税
 - (ロ) 國債、貯蓄銀行預金
 - (五) 關稅、企業内財源の動員その他
- △支出計畫
- (一) 固定資本投資
 - (二) 流動資金の補充
 - (三) 新生産部門の開拓費
 - (四) 社會文化施設費
 - (五) 國防費
 - (六) 行政及豫算費

- (七) 國債費
- (八) 雜支出

財務人民委員部官制

一九三六年五月二十七日聯邦中央執行委員會及人民委員會議は聯邦財務人民委員部の新官制を確定した。同官制に依れば財務人民委員部の任務はソ聯邦政府の設定せる財政政策の實行、財政事務の統轄、財政諸法律案の作製提出、右法律の實施、金融制度の監督調整、統一國家豫算案の提出、全聯邦豫算の實行、諸共和國豫算實行の管理、統一國家豫算實行に關する報告の提出、國立銀行及同支店業務の管理等にて其權限は國家豫算により維持せらるゝ機關及企業並に獨立會計制度による企業及機關全部の財政業務に關聯する會計資料の現地検査、法律に定められたる報告を提出せざる諸團體に對する金融の停止、所定の期限内に國家豫算に對する義務を履行せざる個人及團體よりの罰金徵收等である。

財務人民委員部を構成する局部は左の如

し。

- 一、豫算局
- 二、租稅及公課局
- 三、歳入局
- 四、人事局
- 五、重工業及林業融資部
- 六、輕工業食料品工業地方工業融資部
- 七、農業融資部
- 八、交通及通信融資部
- 九、公益事業融資部
- 一〇、國內商業及買付融資部
- 一一、文化施設融資部
- 一二、通貨部
- 一三、國防及國防工業融資部
- 一四、金融教育機關局
- 一五、經理部
- 一六、ソ聯邦財務人民委員部企業課
- 一七、書記局

聯邦財務人民委員部は、ソ聯邦全體に共通の人民委員部であり、各共和國にはそれ／＼別箇の財務人民委員部が存在し、聯邦財務人民委員部の統制下に置かれてゐる。各財務人民委員部の長は、勿論、財務人民委員であるが、この下に參與會がある。參與會は人民委員を補佐す

る役目をもち人民委員會議によつて選出される。財務に關するあらゆる權力の執行は財務人民委員の權限にあり、參與會はこれを制限することは出来ないが、兩者の間に意見の對立があるときは、後者は最高會議幹部會に提訴することが出来る。

各共和國内の州、地方區にはそれ／＼の財務部があり、各執行委員會の一構成要素をなしてゐる。而して、これらの財務部は、縦の關係から見れば上部財務機關に所屬し、横の關係から見れば執行委員會に從屬してゐるわけである。財務部の主要任務は、徵稅事務であつて、多數の財務検査官及び助手が配置されてゐる。

豫算制度

豫算の構成

聯邦豫算は國家豫算と地方豫算に分れ國家豫算は聯邦及共和國の豫算で國民經濟にとり重大意義を有し地方豫算は地方團體の局地的小額豫算で國民經濟に大な

る影響を及ぼさず、構成共和國豫算と聯邦豫算とを合したものを一般國家豫算と稱する。聯邦豫算は國防、交通、通信、外交、外國貿易、重工業、輕工業その他聯邦的事業に關する豫算であり、共和國豫算は教育、司法、保健等の共和國的意義を有する事業の豫算である。

豫算は一會計年度毎に調整決算し一月一日から十二月三十一日を以て終ることに規定されてゐる。

豫算の編成

國家豫算編成を行ふ機關は財務人民委員部及國家計畫委員會である。財務人民委員部は主として金融上の計畫を行ひ國家計畫委員會は生産上の計畫を行ふ。國家計畫委員會は毎年統制數字を編成し各共和國の同名委員會を統制する。

財務人民委員部は各共和國の豫算案並に附屬評議會議決に基き聯邦一般金融計畫を作成し同計畫案と其實施計畫案を聯邦人民委員會議及國家計畫委員會に提出、國家計畫委員會は此等計畫案に對し

自己の意見を添へ國民經濟統計數字と共に聯邦人民委員會に提出、聯邦人民委員會議は右金融計畫、統制數字及これに基き作成された一般國家豫算案を聯邦中央執行委員會に提出し、其の裁可を受け

る。ソ聯邦の豫算編成には部、局の必要とする一切の經費を豫算に組入れる、而して是等の經費は所與の部、局の權限を定めた現行法律、その定員、勞働賃銀の定率及部、局の計畫に基いて決定する、一方原則として部、局の總ての収入も豫算に計上する豫算編成には特別手續により産業、運輸及通信部門の見積るる作成す、而してソ聯邦では産業企業は總て經營會計に移され、企業の支拂ふ租税及企業の純利益のみが全部又は一部収入見積りとなりて豫算に組入れられる、運輸及通信部門の収入は第一にそれら自身の費用に充當し、國家収入の總額には入らない、これは運輸も通信も恒久的な巨費を要することと、これらの事業には恒久的な財産を許與し、最初から國庫に收めず後に

交通人民委員部及び郵電人民委員部に移讓することが都合が良いからである、從つて豫算には運輸及通信による収入と、それらの支出とが掲げられてゐるが、實際は其中にはたゞ運輸、通信から生ずる利益及損失だけが組入れられてゐるのである。因みに運輸といつてもこゝでは鐵道だけについて言ふので、海運はソ聯邦では經營會計の方に移されてゐる。支出以上の収入超過は、臨時支出に對し豫備として置く所謂單一國家豫備資金といふものなる。

豫算の審査

聯邦最高會議は先づ右豫算の審議を最高會議附屬豫算委員會に於て審議に附し然るべき審査修正の後これを一般國家豫算として裁可する。斯くして成立した豫算は官報又は機關紙を通じて公示されると共に夫々の計算書を關係官廳に配布し直ちにこれを實施する。聯邦及共和國豫算上の主なる金融管理機關は夫々の所管に從つて聯邦財務人民委員部又は共和國

財務人民委員部に對して金融計畫上の歲入歳出計算書を提出し又國民經濟上の金融開始及豫算超過並に豫算外支出上の金融開始に關する請求を爲すものであり、財務人民委員部は送付された計算書及金融開始に關する請求を裁可された豫算と對照し、之らのうち聯邦中央機關所管の金融に關するものは、聯邦國立銀行管理の所管財務機關及軍管區會計部へ送付する。聯邦共和國の豫算は制規の方法で編成されて、共和國人民委員會及中央執行委員會によつて審査せられ、而して豫算作成手續の第一次的段階は諸共和國及聯邦共通である。各部、局の見積は、當該部、局に於て作成せられ、後に聯邦及聯邦共和國の財政人民委員部所屬の豫算協議會に送附され、更に國家計畫委員會に差向けられ、國家計畫委員會は財政人民委員部によつて一般豫算に統一した一切の見積りを、國民經濟全體の觀點に立つて審査する。

豫算の最終的決定を爲すものは聯邦最高會議である、而してこゝで形式的にせよ最高會議幹部會の確認を経なければならぬ。

豫算の實行

原則として總ての収入は財務人民委員部の金庫に入り、且つ聯邦並に諸共和國の總ての支出は、この金庫より出るのであつて、茲に單一金庫の原則が存してゐる。個々の部、局の特別金庫は特別な法律に基いてのみ許される。同時に各共和國の収入及支出の計算は個々に行はれる。一九二八年八月二十二日の法律によれば總ての金庫の豫算實行は國立銀行の施設を通して行はれる。

若し豫算實行期間に見積に於て豫想しなかつた何等かの支出の必要が起つた場合には、人民委員會の特別豫備資金から豫算外クレジットが開かれる。この場合は例外的な支出であるため或は豫算手續において既に確定せられた或る支出を犠牲にするか、或は新しい収入財源を

つくる。

豫算決算

一般國家豫算の決算は聯邦豫算の決算と共和國豫算の決算とから成り、共和國豫算の決算は共和國最高會議により確認された後に聯邦人民委員會に回付され同人民委員會委任に基き聯邦財務人民委員部により聯邦豫算の決算と共に一般國家豫算の實施に關する決算に編入される。右決算は聯邦人民委員會に於て聯邦財務人民委員部の報告に基いて審議され聯邦最高會議の裁可を受ける。聯邦豫算及構成共和國豫算の収入及支出は豫算超過金額を含めて當該年度の十二月三十一日を以て終了し決算される。

新會計法案

ソ聯邦の現行會計法は一九二七年五月二十五日發布のものであり、大綱に於ては大體現在に於ても効力を持つものであるが、五ヶ年計畫遂行其の他に依る政治經濟的激變と相俟つて、その内容形式も

様々なる修正をうくるに至つた。特に、一九三〇—三一年に於ける税制の大改革の結果、根本的に變更さるべきものである。

しかも新憲法も數年前より實施されてゐるにも拘らず、會計法に關する統一的な新法律は未だに發表されてゐない。

ソ聯邦綜合豫算の増大

ソ聯邦綜合豫算（國家豫算並に地方豫算）は逐年飛躍的な増大を示してゐるが、一九二四—五年度より一九三七年度までの歳入總額をみるに實に四千五百億留の多額に上つてゐる。猶右期間の支出内譯は一九二四—五年度より一九二七—二八年度までが百七十一億九千萬留、第一次五ヶ年計畫では八百十三億七千八百萬留、第二次五ヶ年計畫に於ては三千五百億六千二萬留である。

次に、聯邦構成共和國の國家豫算並に地方豫算の膨脹率を見るに、一九三七年に於ては一九二四—二五年度に比し、露西亞共和國が二十倍、ウクライナ共和國

が二十三倍、アルメニア共和国、グルジヤ共和国、アゼルバイジャン共和国等が二十八倍、白ロシア共和国が三十倍と云ふ数字を示してゐる。

一九三八年年度豫算遂行實績確認

一九四〇年三月の聯邦最高會議第六會期に於て、一九三八年年度國家豫算實績が確認されたが、それによれば、同年度豫算實績は、(單位千留)

歳入 一二七、四八〇、八九〇
歳出 一二四、〇三八、九四二
歳入超過 三、四四一、九四八
にして、計畫よりも著しく好成績に終つたことが看取される。

一九三九年年度國家豫算遂行實績

一九三九年度ソ聯邦國家豫算は一九三九年五月二十九日附、最高會議幹部會決定により、(千留)

歳入 一五六、〇九七、八二九
歳出 一五五、四四七、八二九
歳入超過 六五〇、〇〇〇

であつたが、一九四〇年一月一日附財政紙上の財務人民委員ズヴェリヨフが暫定資料として發表せるところによれば、同年度豫算は約二十億留の歳入超過を以て遂行された。即ち歳入實績は一、五六六億留にして豫定計畫の一〇〇・四%を遂行し、その主要財源たる取引税徴收計畫は、近年初めて一〇二%の超過遂行を見た。猶歳出豫算も大體豫定通りの成績を挙げたと稱してゐる。

一九四〇年度國家豫算案

聯邦財政人民委員ズヴェリヨフは一九四〇年三月三十一日、聯邦會議及民族會議の合同會議に於て、一九四〇年度國家豫算及一九三八年國家豫算遂行實績に關する長時間の報告を行つたが、その大要は次の通りである。

(一)、一九三八年年度豫算實績と一九三九年度實績概算。

一九三八年年度豫算實績は
歳入 一、二七五億留
歳出 一、二四〇〇〇〇〇〇
歳入超過 三五〇〇〇〇〇〇

にして、之を前年度に比較すれば、歳入は一八二億ルーブル(一六・七%)、歳出は一七八億ルーブル(一六・八%)の各増加を示してゐる。しかし聯邦最高會議によつて確認せられたる一九三八年年度歳入豫算は三・九%の未遂行に終つた。これは若干の工業部門が生産高及原價引下げの課題を完全に遂行せず、また個々の財政機關が徴收事務を充分に行はなかつたためである。

一九三九年度國家豫算遂行の概算は

歳入 一五五九億ルーブル
歳出 一五三一〇〇〇〇〇〇〇〇
歳入超過 二八〇〇〇〇〇〇〇〇〇

にして、歳入は前年に比して二二・三%を増加し、原案は歳入に於て九九・九%歳出九八・五%の遂行を見たのである。特に昨年度に於ては取引税が原案より四・四%増収であつたことを注意する必要があるが、これはソ聯邦に於ける生産及商品取引の増大と財政機關の徴收事務の改善の結果である。

(二)、一九四〇年度豫算案

一九四〇年度に於けるソ聯邦國家豫算案は歳入、歳出ともに著しく前年度より増加し、歳入は總額約一、八二六億ルーブル、歳出約一、七九七億ルーブル、年末に豫定される國立銀行勘定の國家豫算剩除を計算すれば總額一、八一二億ルーブルの巨額に達し、歳入超過は一四億ルーブルである。これを前一九三九年度に比較すれば、歳入に於て二六七億ルーブルを増加し、一七・一%増となつてゐるわけである。全豫算中、一般聯邦豫算は、歳入一、四〇〇億ルーブル、歳出一、三八六億ルーブルにして、加盟共和国、自治共和国及地方ソ聯邦豫算は歳出入共に四二六億ルーブルと決定されてゐる。

(三)、一九四〇年度豫算案

A、歳入
一九四〇年度聯邦國家豫算歳入—聯邦、共和国及び地方——の主要項目は次の通りである。(單位百萬ルーブル)

歳入總額 一八二、五八五・九
内譯
取引税 一〇八、三四九・〇

収益税

國家社會保險資金 二二、三六七・九
M T S 收入 九、一三六・〇
國 債 二、六二三・四
個人税及公課 一一、一七一・〇
その他 九、七〇三・八
一九、二三七・八

本年度に於ける、取引税増加見込は一五五億ルーブルにして前年度に比して一・九%増である。この取引税収入増加の同年度商品生産増加率一三・六%に及ばない理由は、収益を増加させるため若干の國民經濟部門に於て、取引税率の引下げを豫定してゐることによる。取引税引下げによる工業の収益増加は總額二三億ルーブルにして、石油工業人民委員部關係七三五億ルーブル、調達人民委員部關係一、五三二億ルーブルの収益増加を齎す豫定である。収益税は前年度に比して四五%の増収を豫定してゐるが、該稅收入増加の主なる理由は、本年度に於て工業諸部門に於ける勞働生産一一%の引上げを豫定せられ、更に生産原價が二・八%の引下げを豫定せられてゐるた

め、四七億ルーブルの追加的蓄積が行はれるといふにある。なほ一九四〇年度に於ける全國民經濟の利潤は總額三三三億ルーブルを豫想せられてゐる。國債中の八六五億ルーブルは大衆公債であり、同公債は前年度に比し三五・八%の増加を示してゐる。

B、歳出

一九四〇年度聯邦國家豫算歳出總額は、七九七億ルーブルに達し、之を前年度に比較すれば二六六億ルーブル(一七・三%)の増加となつてゐる。(單位百萬ルーブル)

歳出總額 一七九、七一〇・九
内譯

國民經濟 五七、一一七・五
文化施設 四二、八七五・四
國防、海軍兩人民委員部 五七、〇六六・二
内務人民委員部 七、〇四五・四
行政及司法機關 七、一六〇・二
公債利子及割増金 二、四八〇・〇
聯邦人民委員部及構成 五、〇一一・〇
共和國人民委員部豫備金 五、〇一一・〇
その他 九五五・二

國民經濟に對する支出中三六一億ルーブルは基本建設費（固定資本）にして、これは前年度に比し一五%の増加である。文化施設費は前年度の一二億ルーブルより一躍四二億ルーブルの巨額に達し軍事國防費また二倍餘の急増を示してゐる。尙ソ聯邦國家豫算に於ける軍事費の比率は本年度遂に三一・七%を示すに至つた。

構成共和國豫算

なほ審議の結果四月三日滿場一致可決せられたる聯邦國家豫算は、歳入歳出共原案よりも増加してゐるが、總額及構成共和國豫算は次の通りである。

Table with 2 columns: Category and Amount. Includes entries like 一九四〇年度國家豫算 (單位千留), 歳入總額, 歳出總額, 構成共和國國家豫算 (單位千留), and various republics like ロシヤ共和国, 共和國豫算, 地方豫算.

Table with 2 columns: Category and Amount. Continuation of the budget breakdown for various republics and regions, including 共和國豫算, 地方豫算, and specific regional budgets like アルメニヤ共和国, トウルクメン共和国, ウズベク共和国, etc.

共和國豫算 一、四六六、六六〇 六三六、八三一
地方豫算 三三三、九九〇 一、〇三二、八一九
キルギーズ共和国 四四五、四三七
共和國豫算 三九九、九二五 一七三、八五三
地方豫算 四五、五五八 二六、五五五
聯邦構成共和國 四三、八五九、七六 四三、八五九、七六
國家豫算合計 三六、三六六、三六 三六、三六六、三六
共和國豫算 一四、五五五、四三三 三〇、四九一、五四二
地方豫算 一四、五五五、四三三 三〇、四九一、五四二

ロシヤ共和国決定豫算
ロシヤ共和国最高會議第三會期五月二十八日の會議に於けるサフロノフ財務人民委員報告による一九四〇年度同共和國豫算案に關しては後述の通りであるが、これを審議にかけた結果同會議は六月二日附ロシヤ共和国豫算——
歳入—二五、四五三、二六〇千留
歳出—二五、四三八、九九五千留
を確認した。
即ち同豫算は一四、三〇五千留の歳入超過を示してゐる。尙歳入歳入合計を構成各自治共和国、地方及州別に列記すれば左の如くであり、原案よりも著しく増額されてゐる。

一、自治共和国

(千留)

Table with 2 columns: Republic Name and Amount. Includes entries like バシユキール, プリヤート蒙古, ダゲスタン, カバルヂノ・バルカール, コミ, タルイム, マリイ, モルドワ, 沿ウオルガ獨逸人, 北オセチヤ, タタール, ウドムルト, チエチエノ・イングーシユ, チヌワーシニ, ヤクト, 二、地方, アルタイ, クラスノダール, クラスノヤールスク, オルヂョニキエ, 沿海, ハバロフスク.

三、州

Table with 2 columns: Region Name and Amount. Includes entries like アルハンゲリスク, ウオロロダ, ウオローネシユ, ゴーリキイ, イワーノウオ, イルクーツク, カリーニン, キーロフ, クイブイシエフ, クールスク, レニングラード, モロトフ, モスクワ, ムールマンスク, ノウオシビルスク, オムスク, オリョール, ペンザ, ロストフ, リヤザン, サラトフ, スウエルドロフ, スモレンスク, スタリングラード.

Table with 2 columns: Region Name and Amount. Includes entries like タンボフ, ツウーラ, チェリヤビンスク, チュカローフ, ヤロスラーウリ, 四、都市, レニングラード, モスクワ.

一九四一年豫算

一九四一年度ソ聯邦國家豫算は、獨ソ戦争勃發のためか、結局發表されなかつた。従つて、茲では、國防費の飛躍的増大、取引税・國民稅等增收に伴ふ國民負擔の加重を付度し得るに過ぎない。

租稅制度

ソ聯邦に於ける租稅制度も、私的資本主義的經濟を多分に許容してゐた新經濟政策時代に於ては、可成り一般資本主義諸國と類似してゐたが、現在に於てはその意義は著しく變化し、且ソ聯邦財政に於て占める租稅收入の役割も極めて僅少

となりつゝある。

これにつき最も重要な意義を有する
のは一九三〇年九月の税制改革である。
現在のソ聯邦税制は、大體この一九三〇
年改革の税制に基くものであり、ソ聯邦
税制に於ける租税収入は、

(イ) 社會化經濟收入

(ロ) 私經濟收入

の二つに分れ、前者は國營企業又は公營
事業に對する課税であり、私經濟收入は
所謂國民資金動員に屬するもので、その
種目は次の如きものである。

(一) 社會化經濟收入

(イ) 取引税

(ロ) 國營企業收益税

(ハ) 社會化企業所得税(ソフホーズ税、
コルホーズ所得税、勞務税)

(二) 私經濟收入

(イ) 住宅文化税

(ロ) 個人所得税

(ハ) コルホーズ員及個人農の農業税

取引税

例へばトルキスタンでは鹽に對する低率
取引税が定められ、後コーカサスでは葡
萄及び葡萄酒に低率取引税がかけられ
てゐる。

取引税は極めて高率でない場合でも必
ず生産の上に不利に反映し得るものであ
るため、百十等級に分ち、例へば後コー
カサスにおける製茶業を奨励するために
は完全に製茶に對する取引税を撤廢し、
また石油取引税はソ聯邦では單に石油製
品、却ち精油、ベンデン、木工及び塗布
用の油のみから徴収して原油からは徴収
しない。

歳入豫算の主要源泉をなす取引税の一
九四〇年度收入豫定は、一〇八、三四九
百萬留にして前年より一五、九一―百萬
留を増加し總歳入の五九、四%に當る。
歳入豫算中に於ける取引税収入の連年
比率を掲げれば次の通りである。

一九三三年	五七・七%
一九三四年	五九・七
一九三五年	七八・九
一九三六年	七九・六

ソ聯邦に於ける租税収入は主として取
引税によると云ふ事實に對しては特別の
注意を拂はなくてはならぬ。之は單一財
政計畫によつて、從來まち／＼に徴收さ
れてゐた社會化企業よりの國庫收入が統
一された結果生じたものである。

新經濟政策實施後、しばらく社會主義
企業は餘儀なく個人企業に適用さるべき
會計的方法を以て進んだ。即ち社會化企
業は消費者の負擔となるべき諸説(消費
特及び輸入税の如きもの)及び社會化企
業はその得るところの利益に比例して、
収入の一定部分を各々まち／＼に國庫に
納入し、且つ國債に對しても相當の支出
をしなければならなかつた。然しかゝる
不統一なる制度は社會化の發展につれて
全範圍にわたつて改造せらるゝに至つ
た。

一九二九―三〇年度の中頃に於いて
は、商品の回轉に於いて個人的部面の占
める部分は著しく低下し、個人資本は全
く大規模企業の埒外に追ひやられた。之
に反し社會化企業組織のレベルが非常に

一九三七年	七八・三
一九三八年	七一・三
一九三九年	五九・四
一九四〇年	五九・四

近年この比率の減少を見たるは他の財
源の増大と共に、間接税の役割を有して
ゐる取引税率の増加については慎重なる
考慮を拂ひつゝある證據であり、その増
加は主として商品流通高の増大によるも
のと思はれる。

收益税

國營企業收益税は取引税に次ぐ主要財
源にして、一九四〇年度の同税収入は二
二、三六七・九百萬留を見込まれてゐ
る。これは近年著増の傾向にあり、歳入
總額に對する比率は一九三九年度の一
一・四%より二・三%に増加してゐる。
連年の比率は左の通りである。

一九三三年	二・八%
一九三四年	三・一
一九三五年	二・六
一九三六年	四・〇
一九三七年	六・四
一九三八年	八・一

高くなり、その活動によつて計畫と統制
の問題を惹起するに至り、生産活動(賃
銀物價市場等の上にある)―は國家權力
によつて統制され初めた。かゝる情勢の
下に於いて始めて、雜多の國庫收入の如
きは、計畫的諸活動を妨碍し、社會化
諸企業の財政的及び行政的諸機關に多大
の冗費を負擔せしむることが明かにな
る至つた。故にこの國庫收入の大部分が
一九三〇年九月より一個の税、即ち取引
税に統一せられた。同税は消費税の如く
從來發行せられた諸税、國家保險基金の
支拂、其他重要性の少い諸種及び從來利
益金から支拂はるべき雜種の支出金等々
が悉く之に含まれてゐる。

ソ聯邦においては、大體次ぎの如き生産
物に取引税を課してゐる、即ち煙草製
品、砂糖、鹽、石油製品、葡萄酒、酒精、
コニヤク、リキニール、麥酒、クワス、
蜂蜜、酒、菓汁、礦水、茶、珈琲、酵母、
地蠟、蠟燭、燐寸、纖維工業生産物、オ
ヴァンニウス。取引税の税率は全聯邦を
通じ同一率であるが、多少の例外があり、

一九三九年	一一・四
一九四〇年	一二・三

ズヴェリヨフ財務人民委員は、一九四
〇年度國家豫算の説明に當り、「同年度に
於ける國民經濟の利潤總額は三三六億留
と豫定されてゐるが、利潤増大の主要な
原因は先づ第一に工業労働者の勞働生
産性増大であり(前年に比し一一%増)、
第二に生産原價の引下である(前年度に
比し二・八%引下)」と述べ、ソ聯邦國營
企業の収益性向上を謳歌してゐる。

然しながら歳入費目構成の變化を見る
に一九三五年以降收益税は、絶對額に於
ても歳入總額に對する比重に於ても高度
の増加率を示してゐるのであるが、取引
税は絶對額に於ては逐年上昇しつゝも、
歳入總額中に占める比重は一九三七年以
降次第に遞減してゐる。これは、ソ聯當
局が、間接税乃至消費税的な形態をとる
取引税から、企業利潤の發展を基礎とす
る收益税にむかつて、其の蓄積手段を移
行せしめんとする政策をとり始めた證左
であらう。

印 紙 税

印紙税は一九二三年八月十七日付法律に基き實施せられ、後一九二七年九月十四日の法律によつて變更せられた。印紙税には單純税と證書の金額に對する比率で徵收する比例税との二つあり、前者は登録税の性質を有し、後者は契約或は證書の金額と關聯する。一般に營業税を支拂はない企業は印紙税を免れる。

一九二七年九月十四日の法律によれば以前の印紙税は印紙税と價值移轉税の二つになつた。各種の證書は印紙税を支拂つてゐるが、その場合單純税と比例税とに區別され、單純税はその性質に應じて證書から徵收されるもので比例税にその證書の價額に應じて取られるものである。價值移轉税は取引の〇・五五の額で均等税を課せられる商業及び工業企業から徵收される。

國民の租税及公課

ソ聯邦歳入の大部分は、取引税、收益

税、その他の社會化經濟收入によるものであり、一般資本主義諸國の如き國民の租税及び公課は極めて財政上小さな意義しか有してゐないが、之も近年社會政策的役割から、新農業税法、新所得税法等の改正を見、漸次増加の傾向にあることが窺はれる。特に獨ソ戰勃發と共に、この方面に於て驚異的な増税が斷行され、國民の負擔は殆んど倍化してゐる。尙、ソ聯邦國家豫算總額に對する本税收入の比率は、一九三八年には四％に過ぎなかつたが、一九四〇年には五・三％に増大した。

新農業税法

一九三九年九月一日最高會議にて決定を見た新農業税法は、コルホーズ生産發展、コルホーズ内勞働規律振肅、コルホーズ内畜産業の發展を目的とする劃期的立法であるが、その全文は左の通りである。

農業税法 (全文)

第一章 總 則

第一條 農業税は左の所得に之を賦課す
(イ) コルホーズ員、即ち農業アルテルリ、コンミュニオン、混合經營農業アルテリ(プロムコルホーズ)及漁業アルテリ加入者並に土地共同耕作組合(トーズ)加入者の私的經濟收入
(ロ) 個人農並に其他の非コルホーズ員が農村地方に於て農耕、畜産、野菜栽培、園藝其他の農業部門より所得する收入

第二條 本税は左記財源よりの所得に基き各世帯別に之を査定す

(イ) 農耕、畜産一切、草刈、野菜栽培、瓜類栽培、煙草栽培、工業用作物及橄欖樹播種、果樹園、苳烟、葡萄園及其他の農作物栽培、養蜂業、養蠶業よりの收入

(ロ) 所得税を賦課せられざる非協同化手工業作業收入並に其他の農業外稼行收入

所得類別	共和國別										
	露西亞	ウクラ	白露西亞	アゼルバ	ゲルシヤ	ニヤメ	トルク	ウズベ	タジク	カザフ	キルギ
一ヘクタール當り所得額	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520	520
穀物並左記以外ノ農作物播種地	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
馬鈴薯播種地	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
亞麻播種地	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
棉花播種地	700	700	700	700	700	700	700	700	700	700	700
大麻播種地	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
煙草播種地	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900	900
マホル方播種地	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
菜園及瓜畑地	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500
果樹園及苳畑地	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500
草刈地	700	700	700	700	700	700	700	700	700	700	700
生産的家畜一頭當り所得額	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600
山羊及羊	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
牝牛	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600	600
自家經濟ニ於ケル役畜利用ノ一頭當り所得額	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
馬、駱駝、騾、馬	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500
去勢牛、牡牛、水牛	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200

但非協同化手工業作業收入並に其他の農業外稼行收入にして出稼中に所得せ

るものは之に所得税を賦課すべきものとす

第二章 被課税所得の査定手續
第三條 農業部門よりの被課税所得は左

の平均所得課基準に基きて之を定む

第四條 構成共和國民委員會議は本法第三條規定の平均所得基準に基き個々の區の各種農業部門並に農作物に付區の經濟的特殊性に應じて三〇%以内の範圍内に於て増加乃至低減せる基準を定むるの權利を保留す第三條に指示せられざる農作物播種の所得基準は第三條中に列擧せられたる農作物の所得基準に準し構成共和國民委員會議之を規定す

養鹿業、養蜂業及養蠶業の所得基準は構成共和國民委員會議之を規定す

第五條 農耕、野菜栽培、煙草栽培、瓜類栽培、工業用作物及橄欖樹植付、多年性植物栽培並に草刈により所得せらるる被課税所得は左記に基きて之か定む

(イ) 秋蒔及春蒔農作物の全播種面積但本年度に於て收穫せらるべき國家計畫規定の播種面積に滿たざるを得ず尙播種計畫の規定無き農作物に付ては實際の播種面積に基きて之を定む

む

(ロ) 果樹園、苺畑、葡萄園並に結實年齢に達したる其他の多年性作物の實際の植付面積

(ハ) 草刈場の實際の面積

第六條 各世帯に於ける家畜及養蜂關係被課税所得の査定に當りては當該年度七月一日現在の狀態に基き左の諸點を考慮すべきものとす

(イ) 生産的家畜にありては牝牛、越冬の羊及山羊、生後六箇月以上の豚、役畜にありては二歳半以上の牡牛、去勢牡牛及鹿、三歳以上の馬、駱駝、水牛及驢馬

(ハ) 蜜蜂の巢箱數

第七條 所得税を賦課せらるる収入を除

一戸當り被課税所得年額	五〇留
七〇〇留以内	五〇留
七〇〇留以上一、〇〇〇留以内	五〇留プラス
一、〇〇〇留以上二、〇〇〇留以内	七四留
二、〇〇〇留以上三、〇〇〇留以内	一六四留
三、〇〇〇留以上四、〇〇〇留以内	二七四留
四、〇〇〇留以上	四〇四留
一戸當り被課税所得年額	一戸當り 税 額
五〇留	九哥
七〇〇留以上ノ所得額一留ニ付八哥	一哥
一、〇〇〇留	一三哥
二、〇〇〇留	一五哥
三、〇〇〇留	
四、〇〇〇留	

く非協同化手工業作業収入並に其他の農業外稼行収入の査定に當りては前年度七月一日以降本年六月三十一日迄の期間中に所得せられたる収入總額を算定す

第三章 コルホーズ員の私經濟所得に對する税額査定手續

第八條 屋敷附屬地収入、家畜収入及農業外稼行収入を有するコルホーズ員世帯に對する農業税は一戸當り被課税所得年額に付(第五條乃至第七條参照)左の税率表に基きて之を査定す

コルホーズ員が貨幣及現物形態を以て労働日に應じコルホーズ員より所得する収入に對しては農業税を賦課せず

第九條 土地共同協作組合(トーズ)加入

者の世帯に對する査定課税額は一〇%を増すべきものとす

第十條 コルホーズより脱退せる世帯は個人農世帯の爲に規定せられたる税率に基きて農業税を納入すべきものとす

コルホーズ農家の家族中に於ける個々の労働可能者がコルホーズ員に非ざる場合若くはコルホーズより脱退し且雇傭労働に従事し居らざる場合には斯る世帯に對する課税額は二〇%を増すべきものとす

第四章 非コルホーズ員世帯に對する課税

(一) 農村地方に於て農業を營む労働者、勤務員及手工業協同組合員世帯に對する課税

第十一條 非コルホーズ員たる労働者及勤務員世帯並に手工業協同組合員世帯にして農業を營むときは左の條件に基きコルホーズ員世帯と同一基準の農業税を納入すべきものとす

(イ) 主たる労働可能者が年七月一日現在に於て一箇年以上經常的雇傭労働に従事しあり若くは手工業協同組合員の地位にあり且主婦及就學者を除く殘餘の労働可能家族員が同じく雇傭労働に従事し若くは手工業協同組合員たる場合

(ロ) 家畜頭數が農業アルテリ定款に依りて許可せられたる基準を超過せざる場合

第十二條 非コルホーズ員世帯にして其の主たる労働可能者若くは其他の家族員が赤軍、海軍若くは國境及内務部隊に勤務中の場合にはコルホーズ員世帯と同一基準を以て農業税を賦課す但右世帯が本法第十一條の各項に該當する場合に限るべきものとす

第十三條 鐵道運輸、水運及道路運輸關係の常備労働者にして運輸部門に提供せられたる土地に於て私的農業を營むときはコルホーズ員と同率を以て農業税を納入す但右運輸所有地に於ける土地面積が聯邦人民委員會議規定の基準を超過せざる場合並に其他の諸點が本法第十一條の各項に完全に該當する場合に限るべきものとす

合に限るべきものとす

第十四條 山林警備の労働者にして其の警備する山林地帯又は其の居住する村落に於て私的農業を營む場合にはコルホーズ員と同率を以て農業税を納入す

但右労働者の山林地並に村落地に於て營む農業か(山林地に於て労働者に分與せられたる草刈地を除く)本法第十一條の各項に完全に該當し且山林警備の職務上乗用すべき其の所有馬匹が他の稼行目的に供せられざる場合に限るものとす

第十五條 本法第十一條乃至第十四條の各項に該當せざる世帯は個人農世帯と同等の農業税を納入すべきものとす

(二) 個人農世帯に對する課税

第十六條 個人農世帯の被課税所得は本法第三條、第五條、第六條及第七條に規定の手續に依り農業收入並に農業外稼行収入に付之を査定す

個人農世帯の被課税所得中には右以外に農作物の市場賣却収入を加算す

第十七條 個人農世帯が被課税年齢に達したる所有家畜を所得源泉の査定期日迄に賣却し乃至は個人的必要に充用したる場合には所定の所得基準額を被課税所得中に加算す

第十八條 個人農世帯の納税者名簿作成後本年八月一日迄に購入せる家畜は追

一戸當り被課税所得年額	一〇〇〇留以内
一〇〇〇留以上二、〇〇〇留以内	一一〇留
二、〇〇〇留以上三、〇〇〇留以内	一二〇留
三、〇〇〇留以上四、〇〇〇留以内	一三〇留
四、〇〇〇留以上五、〇〇〇留以内	一四〇留
五、〇〇〇留以上六、〇〇〇留以内	一五〇留
六、〇〇〇留以上	一六〇留

加的に家計内に算定せられ且最初に査定せられたる農業税額は之に準して増加せられるべきものとす
第十九條 個人農世帯に對する農業税の算定は左の税率表に基きて之を行ふべきものとす
第二十條 個人農世帯が農業税の第一回納

一戸當り 税額	一〇〇留
一〇〇〇留以上二、〇〇〇留以内	一六〇留
二、〇〇〇留以上三、〇〇〇留以内	二〇〇留
三、〇〇〇留以上四、〇〇〇留以内	二五〇留
四、〇〇〇留以上五、〇〇〇留以内	三一〇留
五、〇〇〇留以上六、〇〇〇留以内	三八〇留
六、〇〇〇留以上	四五〇留

第五章 農業税納入期日

入期日前にコルホーズに加入せるときはコルホーズ員の税率に準し課税す但個人農世帯が農業税の第一回納入期日經過後に於てコルホーズに加入せるときはコルホーズ員ニ對スル課税率ニ依ル税額再計算ハコルホーズ加入後に於ける期間に付てのみ之を行ふべきものとす

第二十一條 農業税は十月一日、十一月一日及十二月一日の三期に同額宛之を分納すべきものとす
構成共和国人民委員會議は第一回納入期日を一箇月以内の範圍内に於て繰上ぐるがとを得

第六章 農業税の免除

第二十二條 コルホーズ員世帯に個人農世帯内に第一種及第二種に屬する廢兵及勞働不能者あるときは本税を半減し且右世帯内に勞働可能者存せざるときは本税全額を免除す
第二十三條 高齡（男子六〇歳以上、女子五五歳及其以上）の爲勞働不能のコルホーズ員及個人農世帯にして且其の家族中に私的勞働を以て家計に關與しつつある勞働可能者を有せざるときは本税を免除す
第二十四條 コルホーズ員及個人農世帯の息子乃至は家長自身が勞農赤軍、海軍或は國境及内務部隊内に於て現役の軍務に服しつつあり且八歳未満の子供を有する軍役服務者の妻を除き家族内に他の勞働可能者存せざるときは本税を免除す
第二十五條 コルホーズ員及個人農世帯内に於て勞働可能者一名の下に二名乃至三名の子供ある場合若しくは勞働可能者二名の下に十二歳未満の子供二名乃至三名以上ある場合には査定

第二十八條 コルホーズ員及個人農世帯にして所定の手續の下に移住する場合に於ては聯邦人民委員會議の特別決定に基き一定基間中本税を免除す
第二十九條 金及白金工業の採取業者（スクラッチェリ）並に錫及其他の稀金屬の採掘及加工業關係の採取業者にして右金屬鑛床の探査及試掘に従事しつつある場合には右世帯に對する本税は之を免除す但採取作業に依る稼行所得が右採取業者の主たる収入財源たり且右採取業者が採取業者組合に加入し居る場合に限るべきものとす
右免除は採取業者が採取作業に轉じたる以後に於ける納税期間に付之を適用す
第三十條 一箇年以上の期間に互る石炭工業の地下勞働を契約し若しくは自發的に之に従事したる者の世帯に對しては本税を免除す但所定の義務を履行せざるときは一般規定に基きて本税を賦課すべきものとす
第三十一條 聯邦人民委員會議は移

税額中より一五%を減額すべきものとす

第二十六條 自然的災害を蒙りたる世帯は其の被害程度に應じ構成共和国人民委員會議に依りて本税の全部若しくは一部を免除せらるべきものとす

第二十七條 教師、農業技師、畜産技師、耕地整理指導員、醫師、獸醫、藥局生、助産婦、土地改良指導員、農業技手、「エム・デー・エス」(機械「トラクター」配給所)、「エム・デー・エム」(機械「トラクター修理所」)及ソフホーズ(國營農場)の技師、技手長及所長、一地區に付三〇名以内の地區指導員に對しては州(地方)執行委員會議に構成共和国人民委員會議(州行政區劃を有せざる場合)の規定せる名簿に基き農業税を賦課せず但右世帯が耕區に於ける播種任務を有し居らず且私用を目的とする其の所有家畜頭數が農業アルテリ定款に依りて許可せられたる當該區のコルホーズ員の所有頭數を超過せざる場合に限るべきものとす

第三十二條 聯邦人民委員會議は個々の國民經濟部門の發展を促進せしむるの目的を以て必要なる場合には農業税に關する免除を規定すべき權限を保留す

第七章 納税者の責任
第三十三條 所得財源を隠蔽したる納税者は刑法上の責任を問はるべきものとす
第三十四條 所定の期間内に本税を納入せざるときは滞納者に對し左の處罰手段を講ずべきものとす
(イ) 納入期日を経過せるときは延滞日一日に付〇・二%の料金を徴收す
(ロ) 納入期日經過後に於ては滞納者の財産目録を作製したる上滞納事件を人民裁判所に移管し且人民裁判所の判決に基き滞納者の財産中より滞納金補填に必要な額を沒收す
(ハ) 本税の滞納數次に及ぶときは滞納者は刑法上の責任を問はるべきものとす

第三十條 一箇年以上の期間に互る石炭工業の地下勞働を契約し若しくは自發的に之に従事したる者の世帯に對しては本税を免除す但所定の義務を履行せざるときは一般規定に基きて本税を賦課すべきものとす
第三十一條 聯邦人民委員會議は移

のとす

第三十五條 本税の徴収は申請及訴願の提起に依りて停止せらるることなきものとす但判決が納税者の勝訴となりたるときは不正徴収金並に没落財産は之を十日以内に補償すべきものとす既に財産を賣却せる爲之を返却すること能はざるときは右賣却實收金額を補償す

買銀に對する課税を免ぜらる外、又他の源泉収入が年收六千留以下なる場合免稅せられ、陸海軍人も課稅せられず。(ハ)、労働者、勤務員にして月收百五十留以下の場合も課稅されず、農業税を課稅されてゐる収入には所得税は課せられないと規定してゐる。次に第五條には労働者及び勤務員の賃銀収入に對し月宛左の如き課稅額を規定してゐる。

三〇%を控除されると規定してゐる。第十六條は文士及び藝術家(俳優を含む)收入課税を左表の如く規定してゐる。

同 書記
エム・カリニン
アー・ゴールキン
モスクワ、クレムリ、
一九三九年九月一日

國民所得税法

一九四〇年四月四日の聯邦最高會議に於て、國民所得税が採擇されたが、その大要は左の通りである。

新國民所得税法は全文四十二條よりなり總則中に

(イ)、ソ聯邦の英雄、労働の英雄の稱號を有する者及帶勳者は其の受取るべき

第九條は労働者勤務員にして三人以上の生計不能者を有する者は基本課稅額の

Table with columns for '年收貨銀' (Annual Income) and '年宛課稅額' (Annual Tax Amount). It lists various income brackets and their corresponding tax rates, such as '1,000留以上' with a 7% rate.

100,000留—300,000留 四、三六留 + 100,000留を超過する額の四三%
300,000留—以上 六、三六留 + 100,000留を超過する額の四三%

率は、一九三三年以來次の如く減少の傾向を示しつつあるが、これは國防費その他の異常の激増の結果である。

歳 出

國民經濟費

ソ聯邦歳出豫算の大部分を占める國民經濟費は、工業、農業、運輸、通信、商業その他の國民經濟部門に對する國家補助金又は助成金であり、(これは聯邦國家豫算を通じて行はれるものと、企業自身の蓄積中から行はれるものとある)一九四〇年度に於ける國家豫算中の國民經濟費は、五七、一一七・五百万留の豫定にして、前年度より約二億留の減少を示してゐる。

國家歳出豫算中國民經濟費の占める比

ソ聯邦國防費の激増

第一次五ヶ年計畫當時の最終年度である一九三二年度のソ聯邦國防費は僅々一、二九六百万留に過ぎなかつたが、第二次五ヶ年計畫の初年度即ち一九三三年以降は逐年膨脹を示し一九四〇年度には總額五七、〇六六百万留となつてゐる。前記期間には幾多の對外的情勢の變化を見て來たのであるが僅々七ヶ年間に二十三倍の膨脹を示したことは驚嘆に値する。今總豫算に對する國防費の比率を見

れば次表の如くである。
△歳出總額中の國防費 (單位、十億留)
これを列國に比較すると獨逸に於けるそれは一九三六年度は既に六七%であり、日本に於ける同年度は四五%強に達してをり一見ソ聯邦の比率は甚だ低いやうであるが、これは豫算體系が根本的に異なるからである。即ちこれを強ひて他國に比較しようとするならばソ聯邦の豫算中から一般諸國の市場經濟に相當する國民經濟費の大部分と社會文化支出の諸費目を削除して國防費の比較を求めねばならない。従つて廣義國防費を合せて考慮するならば決して低率だといふことは出

來ない。國際情勢の逼迫と積極的な對外政策への轉向に伴ひソ聯邦國防費の増加は今後共疑ひのないところである。

文化施設費
教育費を主とする尨大な社會文化施設費はソ聯邦の常に世界に誇示するところであるが、一九四〇年度に於ける社會文化費は四二、八七五百萬留にして、全歳出豫算の二三・九%を占め、前年度に比較して四、三一―百萬留の増加となつてゐる。社會文化施設費の内容は、教育、保險、體育、社會保險、勞働保險が主なものである。

ソ聯邦政府は一九二一年三月の新經濟政策を実施する迄は一切公債を募集しなかつたが、新經濟政策は財政方針を全く一變せしめ、先づ留安定策として一九二二年五月二十日の命令に依り初めて穀物

公 債

ソ聯邦に於ける公債

ソ聯邦政府は一九二一年三月の新經濟政策を実施する迄は一切公債を募集しなかつたが、新經濟政策は財政方針を全く一變せしめ、先づ留安定策として一九二二年五月二十日の命令に依り初めて穀物

公債を募集した。猶政府は外債を募集せんとして西歐諸國と交渉したが遂に成功せず、加之、資本主義諸國は何れもソ聯邦に對し敵對行動を示したるを以て差當り外國によらず、一切内債に依り經濟上の需要を満すことに決したのである。
ポリシエヴィキー革命以後、一九三〇年度に發行せられたる公債、地方債並に社債總額を擧ぐれば左表の如し。

一、各種公債	四、二〇六、四〇〇千留
二、オブリガーチャ	三、一〇〇、〇〇〇千留
(聯邦政府保障付)	
三、ソ聯邦諸機關債券	一、七〇七、七〇〇千留
(二種の地方債又は社債にして政府の保障なし)	
合計	四、五五五、一〇〇千留

是等諸公債中には短期公債にして、既に償還済と見るべきもの七億五千萬留あり、是に抽籤により部分的に償還せられたるものを合すれば、其の推定額は八億五千萬留に上り、是を全額中より削除せる残額は約三十七億一千五百十六萬留となる。

是等諸公債の利子については第一、第二穀物公債、一九二三年砂糖公債、一九二九年富籤付内國公債、同内國公債は無利息なるも大抵五分乃至一割二分にして、又償還期限は五年乃至十五年である。ソ聯邦政府保障「オブリゲーシヨン」の利息は二分乃至九分で、期限は無利息の交通省債券の一ケ年を除き六ケ年乃至三十一ケ年である。政府無保證ソ聯邦機關發行債券(地方債又は社債)は大部分無利息であるが、一九三〇年に發行された自動車債券は六分である。而してその償還期限は二年乃至十ケ年である。

聯邦政府が最近數年間一般勞働大衆に對し事實上強制的に購買せしめたる公債は一九二七年發行農業振興公債一億二千五百萬留を始めとし、第一回、第二回工業公債であつて此合計八億五千萬留であつたが、是を回收し、同時に「五ケ年計畫を四ケ年に」なる標語を冠せる新公債を發行し、單一公債として五ケ年計畫完成に至る迄年々發賣を繼續することとなつた。是は一九三〇年七月三日附命令を

以て公布せられたものである。
猶ほ一九三一年度には「五ケ年計畫第三決定年度公債」なるものを發行したが、同年七月三十日迄の賣行は十六億二百六十萬二千留で、此の金額は政府の決定したる計畫の一〇〇%に當る。

第一次五ケ年計畫に於ける公債

第一次五ケ年計畫の完成期たる一九三二年は、第一回公債發行(一九二二年末)後十年、戦前ロシアの國債廢棄宣言(一九一九初)後十五年に當る。

世界大戰前に於ける帝政ロシアの國債は八十八億留にして、その半は外債であつた。大戰中(二月革命まで)に更に二百六十二億の國債(その内四十六億留は外債)を發行した。その後臨時政府は三十六億留の「自由」公債を發行し、百二十億留の短期證券を發行した。斯くしてソ聯邦政權は五百三十億留の國債を遺産として繼承したのである。
然し一九一八年一月二十日戦前國債の

廢棄を宣言し、ソ聯邦公債發行の地盤を造つた。戦時共產主義期には、經濟關係の現物取引主義化とソ聯邦紙幣の續落のため公債を發行することが出来なかつたが、新經濟政策が實施されるに及び、その氣運が醸成された。一九二二年五月、即ちチエルヴォネツ貨發行前に第一回穀物公債を、同年の秋にはチエルヴォネツ貨發行と同時に一億留の第一回富籤公債を發行した。一九二三年三月には一億留の第二回穀物公債を、十一月には砂糖公債を發行した。

巨額の歳入不足(一九二二―三年度には歳入不足のため三億九千四百十萬留の國庫債券を發行した)期にはこれらの公債は豫算の均衡を計る上に於て積極的な役割を演じた。一方幣制改革も進捗し、一九二四年までに貨幣流通も健實となり一九二五―六年度には公債需要高はその發行高を超過するやうになつた。
一九二七年に復興期を終り改造期に入つたソ聯邦は、國內工業化事業に巨額の投資を必要とするに至つたので、公債を

大いに利用した。同年には總額三億二千五百萬留の三種の公債が發行された、其内の二億留は第一回工業化公債である。一九二八年には一億五千三百萬留の農業鞏化公債と五億留の第二回工業化公債が發行された。

五ケ年計畫は六十億留の豫算財源を國家信用に求めた。その内三十一億一千七百萬留を一般民衆より、二十八億八千三百萬留を國民經濟の社會化部門(十四億二千六百萬留は貯金局引受)より動員する計畫であつた。一般民衆よりの資金動員手段は即ち公債である。この公債發行計畫を作成する場合、都市及び農村の住民が一九三三年までにその勞賃の二ケ月半に相當する公債を所有するものと想定したのであつた。所が、計畫遂行の進行中プロレタリアートの數と勞銀支拂高は最初の豫想よりも著しく多くなつた。即ち一九三一年の月平均勞銀支拂高は計畫の九億六千二百萬留なるに對し十七億八千萬留となつた。従つて一般民衆に對する公債發行計畫の遂行も次の如く好調に

進捗した。(単位、百萬留)

四年三ヶ月	五ヶ年計畫
都 市	四、五八六
農 村	一、五八四
計	六、一七〇
豫算繰入額	五、五三九
	三、一七二

斯かる好成绩を収めるに至つたのは、専ら住民の収入が増大したからである。殊に農村に於ては、農家の六〇%以上がコルホーズ化して金銭収入が増大したので公債の賣行率が邦市よりも良かつた。

一般公債以外の住民資金動員手段は、預金、前納、掛金、株等の任意的な拂込みである。右の如き住民の諸拂込みに依り、コペラーチヤ、國營保險局、社會保險局に於ける豫備金及自由資金が急激なる増加を見たので、これらの諸機關は社會化部門の主要なる公債所有者となり、然も豫定額の二二〇%を引受けた。

住民及び社會化部門よりの資金動員五ヶ年計畫と実績を示せば、左の如くである。(單位百千留)

五ヶ年計畫豫定

一九二八—一九二九年	八〇〇
一九二九—一九三〇年	一、一五〇
一九三〇—一九三一年	一、一五〇
一九三一年—一九三二年	一、四〇〇
一九三二年—一九三三年	一、七〇〇
五ヶ年間合計	六、〇〇〇
實 績	
一九二八—一九二九年	七二五
一九二九—一九三〇年	一、二七四
(特別期間)	
一九三一年	三、二九二
一九三二年	四、三三七
四年三ヶ月間合計	一〇、〇三〇

五ヶ年計畫に於ては公債の償却及び利子の支拂額を二十七億五千萬留と計上してゐたが、一九三二年の支拂分も加へて十一億二千五百萬留となり、即ち六億二千五百萬留の減少を見た。之は一九三〇年に既發行公債を「五ヶ年計畫を四ヶ年に」公債に借換へた爲めである。

斯くして、豫算に於ける公債の地位は目立つて鞏固になつた。即ち國家豫算總額に於ける公債収入の割合は、一九二八—一九二九年の八・七%より一九三二年の一

四・六%に増加して來た。この公債よりの豫算収入は全部國民經濟に支出されてゐるが、一九三二年には國民經濟支出の二二%を占めるに至つた。戦前及び戦中の公債を廢棄してから、第一次五ヶ年計畫の完成に至る十五年間のソ聯邦公債の實績は外國資本家の援助を受くることなく社會主義建設を促進せしめたのである。

第二次五ヶ年計畫國債

第一次五ヶ年計畫完了と共に直ちに第二次五ヶ年計畫に入つたのであるが、ソ聯邦中央執行委員會並に人民委員會は第二次五ヶ年計畫遂行資金として三十億留の内國債を募集することに決定し、一九三三年五月十四日左の通り人民委員會議令を公布した。

ソ聯邦政府は第二次五ヶ年計畫の財政的基礎を確立するため第二次五ヶ年計畫第一年度内國債を發行する。發行額は三十億留、償還期限は向ふ十ヶ年である。

三十億留の「第二次五ヶ年計畫公債」は六月六日までの二十日間に三十億五千萬留賣却された。同公債と前二ヶ年間の公債の二十日間に於ける賣行き成績を示せば左の如くである。(單位百萬留)

一九三三年發	一九三三年發	一九三三年發
行公債	行公債	行公債
「五ヶ年計畫三年	「五ヶ年計畫三年	「五ヶ年計畫三年
畫度」	畫度」	畫度」
年間	年間	年間
計	計	計
一、〇五・九	一、一四・八	一、〇〇・四
内		
コルホーズ員	一、七〇・〇	五、〇〇・二
私營農民	一	七・五
		一、四・四
勞働者、勤務員	九六七・五	一、八五・九
其他都市住民	六四・一	一〇八・四
農 村	二〇・三	一八四・五
		六四・六

公債賣却計畫を超過遂行した共和國、地方及州を擧ぐれば、モスクワ州、レニングラード州、イワノヴォイ工業地方、ウクライナ共和國、ヴォルガ下流地方、クリミア自治共和國である。

富籤公債の發行

一九二九年—三二年度に發行された富

籤附内國債は、勤勞者大衆によつて非常な歡迎を受けたのであるが、その後、ソ聯邦中央執行委員會及び人民委員會は、「一九三三年度富籤公債」發行を左の如く決定した。

- 一、富籤公債額面は百留とし、發行總額は一億留、尙右一億留を二種類に分ち、各々五千萬留宛とする。
- 二、右五千萬留を二萬組に分ち、一組、二千五百留とする。
- 三、勤勞者大衆の共同申込に便ならしめるため公債の三部を可分公債となす。この可分公債は同一番號を有する二株(各五十留)に分ち各株の所有者はその持分に應じて富籤金を受くる權利を有す。
- 四、發行期限は、一九三五年三月一日より一九四五年三月一日に至る十ヶ年とす。
- 五、債券賣却擔保は自由
- 六、償還方法は富籤による
- 七、富籤債券は償却され、次回の抽籤より除外される。但、富籤債券の額面金は、その富籤金に含まれること
- 八、富籤は二萬五千留、一萬留、五千留、一千留、五百留及び二百留の六種とす

九、一年間に四回宛、即ち十ヶ年間に四十回富籤抽籤を行ふ

十、債券、富籤金及び債券の賣買には一切の課税が免除される

國防公債發行

國防強化に大章のソ聯邦當局は一九三六年六月鐵道從業員の提唱により六月二十日財務人民委員部に對し發行條件に關する法案提出方を命じ、七月一日聯邦人民委員會會議決定を以て右法案を可決した。

國防公債發行條件左の如し。

- 一、發行總額 四十億留
- 二、年 利 四分
- 三、期 間 二十ヶ年
- 四、公債並に割増金を含む公債収入に對しては一切の國稅並に地方稅が免除される。
- 五、新公債は割増金附公債と利子附公債の二種類に分たれ、割増金附公債は年四回抽籤が行はれ、額面百留を基本單位として最高三千留、最低百五十留の割増金が附いてゐる。
- 六、同公債は八月三十一日まで應募額四

十九億一千五百八十萬七千留に達し、九億留餘の超過を示したので政府は募集を打切つた。

整理公債發行

一九三六年七月一日巨額の内債借換を行ふ爲百九十億の整理公債發行を發表した。借換及發行の條件左の如し。

- 一、新整理公債の發行總額 百九十億留、既發行産業開發公債七種、總額百五十九億留は總て新統一國內公債に乘換へ、四十億留は新規發行とす。
- 二、新整理公債の發行期日は九月一日、一九五六年九月一日満期の期限に十年四分利附とす。

右の中四十億留の新産業公債發行は頗る好成績にて發表後十一日迄の十日間に應募額は既に發行豫定高を超過、總額四十二億二千七百萬留に達した。

一九三八年度割増金附公債

財務人民委員の告示によれば、左記要旨の條件を以て一九三八年度割増金附内國債を發行することになつた。

- 一、發行總額 六億留
- 二、期 限 二十ヶ年（一九三八年六月一日より一九五八年六月一日に至る期間）
- 三、利 率 年三分
- 四、債券額面 三種（二〇〇留、一〇〇留、五〇留）
- 五、割増金 額面二〇〇留に付二萬五千留、一千留、四百留の五種とし、毎年六回抽籤、二十ヶ年間に於ける割増金總額は四億六千二百萬八千留

尙ルルーブルの強化、低金利政策の實施と關聯して一九二九年、一九三〇年、一九三二年、一九三四年發行の各割増金附内國公債の借換を行ふことになつた。右借換は額面價格より本年度割増金附内國公債と交換することによつて行はれる筈であるが、交換を欲せざるものは一九三九年三月一日までに貯金局に於て額面額を受領することが出来る。

第三次五ヶ年計畫第一年度公債

一九三八年七月一日附聯邦人民委員會

二連続	一、〇〇〇〇〇
寫眞器(FED)	六五〇〇〇
自轉車	五〇〇〇〇
蓄音器(レコード附)	四五〇〇〇
ラゲオ受信器	四〇〇〇〇
懐中時計	二八〇〇〇
手廻ミシン	二〇〇〇〇

金融制度

ソ聯邦政府は、一九一七年十二月銀行國有に關する法令を公布し、一切の株式銀行を國立銀行に合併したが、それ以來戰時共產主義の實施により金融信用機關は存在の意義を失ひ、國立銀行も財務人民委員部の一課となり一九二一年初頭に於て國內に一の信用機關をも有せざるに至つた。然るに新經濟政策の實施となり、漸増する信用の需要を満足するためロシア共和國國立銀行を創設し、銀行券の發行權を付與するに及び、信用制度も次第に復活し商工業の發達に伴ひ各種の銀

「ZIS」型自動車	價格二七、〇〇〇留
「N-1」型自動車	一〇、〇〇〇〇〇
オートバイ(サイドカー附)	八、〇〇〇〇〇
オートバイ	三、五〇〇〇〇
ピアノ(豎形)	二、五〇〇〇〇

行、信用機關の開設を見た。茲に於て各銀行、信用機關の統制を必要とし、一九二五年全聯邦的に金融計畫案を作成し、經濟建設の一般原則を指示したが、實施の方法に矛盾を生じたるを以て一九二七年更に金融制度を改訂し、其の根本方針を公布し信用機關の業務の分割を計り、國立銀行をして信用機關を指導せしむることにした。

ソ聯邦國立銀行(ゴスバンク)

國立銀行は國家豫算及地方豫算に關す

議決定によれば、左記要旨の條件を以て第三次五ヶ年計畫(初年度)公債を發行することになつた。

- 一、發行總額 五十億留
- 二、期 間 二十ヶ年（一九三八年十二月一日より一九五八年十二月一日に至る期間）
- 三、年 利 四分
- 四、公債證券及び公債收入(割増金を含む)は國稅、地方稅及び公課を一切免除する

尙、聯邦財務人民委員ズヴェレヨフの布告によれば、右債券の額面單位は百ルーブルとなつてゐるが、その他、最高五百ルーブル、最低三十五ルーブルの債券數種の發行をみる筈である。

第三次五ヶ年計畫第二年度公債

第三次五ヶ年計畫第二年度公債、發行額面總額六十億留は一九三九年八月二日發行せられ、八月二十日現在に於て、七、四三一、八七一千留に達し、豫定額を突破すること、四三一、八七一千留を示し、八月二十一日以後募集を締切つた。

發行條件は左の通りである。

- 一、發行額面總額 六十億留
- 二、期 限 二十ヶ年
- 三、年 利 四分

第十四回全聯邦オソアウ

イアヒム富籤券賣出

ソ聯邦國防飛行化學協會(オソアウイアヒム)は一九四〇年四月十五日より六月十五日までの期間にて國防基金募集のため第十四回全聯邦オソアウイアヒム富籤券を賣出した。同富籤券は一留、三留、五留の三種で賞品は發表によれば最低二〇留より最高二七、〇〇〇留の價格の品物であるが、その主なるものは左記の如くである。尙賞品には一々その價格が示されてあるので大體の物價を比較し得て極めて興味深。

「ZIS」型自動車	價格二七、〇〇〇留
「N-1」型自動車	一〇、〇〇〇〇〇
オートバイ(サイドカー附)	八、〇〇〇〇〇
オートバイ	三、五〇〇〇〇
ピアノ(豎形)	二、五〇〇〇〇

る金庫事務を取扱ひ、短期貸付を集中し、發券銀行としては貨幣の流通を調節し、綜合信用計畫案を作成し、諸銀行の指導統制に任ず。一九二八年六月財務人民委員部を離れ獨立機關となり、資本金二億五千萬留を有してゐる。

社會主義建設特に五ヶ年計畫の實施の進捗するに従ひ、金融問題は益々重要性を加へ來り、重要部門の投資取扱を各専門の機關に委任し、建設費の合理化を圖る必要に迫られ、一九三二年五月聯邦財務人民委員部の管下に長期投資特殊銀行の設立を行ふことになつた。却ち工業及電氣事業の投資は工業銀行（プロムバンク）、社會主義的農業の投資は農業銀行（セリホズバンク）、協同組合の投資はフセコバンク、公共施設及住宅建設の投資はツエコムバンクをして取扱を行はしむることゝなつた。

右特殊銀行は當該機關に於て作成し且つ規定の手續によりて裁可せらるゝ年次計畫に基づき業務を執行するものであつて、出納事務は國立銀行にて取扱ひ、聯

邦に於ける金庫の單一を實現化する組織である。

國立銀行正貨準備高及銀行券發行高

一九三七年一月一日現在に於ける國立銀行正貨準備高及び銀行券發行高左の通り。

- 一、正貨準備
 - イ、金貨及金地金（純金一瓦を五留六三・〇七哥として計算） 一、九六、一五三、三〇〇留
 - ニ、外國貨幣（一磅を二十四留七十四哥、

一九三四年一月一日	金貨及金地金	八〇、七〇〇
同	同	八一、〇七四
同	同	八三、三〇〇
一九三五年一月一日	同	八五、四三四
同	同	八九、四〇一
同	同	九六、三三六
一九三六年四月一日	同	一四〇、三九六
同	同	一五六、三〇〇

（註）國立銀行のバランス・シートは一九三七年以降に於ては發表されておな。

- 一米弗を五留〇四哥、百法を二十三留五十三哥として計算） 一五、八四六、九七〇留
- 三、短期貸付證書（總額六、六二五、五五五、五五〇留より規定額を控除） 五、九三三、〇〇〇留
- 五、九三三、〇〇〇留

貸方合計 八、〇五〇、〇〇〇留

借方合計 八、〇五〇、〇〇〇留

一、銀行券發行高 八、〇五〇、〇〇〇留

二、發行餘力 四、六七八、二〇〇留

借方合計 八、〇五〇、〇〇〇留

尙、一九三四年以降に於ける國立銀行正貨準備高及發券高を表示すれば左の通りである。

（單位、舊平價千チエルヴオネツ）

銀貨及銀	發行高
白金地金	四、三二七
九元	三三、二八三
八七七	三三、二八三
八五	三三、二八三
八四二	三三、二八三
八九〇	三三、二八三
八四一	三三、二八三
七九	三三、二八三
七三九	三三、二八三
一一、三三六	三三、二八三
一一、三三六	三三、二八三
一一、三三六	三三、二八三
一一、三三六	三三、二八三
一一、三三六	三三、二八三
一一、三三六	三三、二八三

銀行及貯金利子引下問題

ソ聯邦人民委員會議は一九三六年六月十四日附を以て國立銀行、長期信用銀行及貯金の利子引下に關する決定を發表し七月一日より之を實施することゝした。要旨は左の通りである。

一、國立銀行

（イ）預 年

- 企業、經濟機關、公共團體、官廳及地方豫算の當座勘定、決濟勘定及貯金 一、五%
- 貯金局の當座勘定 三、五%
- コルホーズ（集團農場）の當座勘定 三、五%
- 農業銀行のコルレスボンデンス勘定 三、五%
- 中央及地方自治團體銀行並商業銀行のコルレスボンデンス勘定 二、〇%
- （ロ）貸 付
 - 短期貸付 四、〇%
 - 金錢證券流通中の貸付 二、〇%
 - 延滞利子 六、〇%

二、貯 金 局

（イ）個人及コルホーズの貯金及當座勘定 三、〇%

（ロ）國營企業、官廳及公共團體の貯金 一、〇%

三、長期信用諸銀行

1、農業銀行

（イ）預 金

- コルホーズの不可分資金及其他の資金 三、五%
- 經濟機關の計算勘定 一、五%
- （ロ）貸 付
 - 長期貸付 三、〇%
 - 建築請負團體に對する短期貸付 四、〇%
 - 延滞利子 六、〇%
 - 2、中央公共事業銀行（公共事業及住宅建築金屬中央銀行）及地方公共事業銀行
 - （イ）預 金 一、五%
 - 住宅建築組合の決濟勘定、當座勘定及貯金
 - 地方公共事業銀行に於ける中央公共事業銀行のコルレスボンデンス勘定及中央公共事業銀行に於ける地方公共事業銀行のコルレスボンデンス勘定

定 付 二、〇%

（ロ）貸 付 四、〇%

- 短期貸付 四、〇%
- 金錢證券流通中の貸付 二、〇%
- 延滞利子 六、〇%
- 銀行の資金、労働者住宅建築特別資金及公共事業の特別資金中よりの長期貸付 一、〇%
- 3、工業銀行（工業、運輸及通信の資本的建設金融銀行）
 - （イ）預 金 一、五%
 - 建築請負團體の計算勘定
 - （ロ）貸 付
 - 建築請負團體に對する短期貸付 四、〇%
 - 延滞利子 六、〇%
 - 4、商業銀行（商業及組合の資本的建設金融銀行）
 - （イ）預 金 一、五%
 - 建築請負團體の決濟勘定
 - （ロ）貸 付
 - 建築請負團體に對する短期貸付 四、〇%
 - 延滞利子 六、〇%
 - 組合（コーベラチヴ）機關の資金 一、〇%
 - 中より長期貸付

國立銀行、長期融資銀行並に貯金局關係の金利引下に關する聯邦人民委員會議決定の布告は極めて重大なる國民經濟的意義を有するものである。先づ第一に國行銀行關係の金利引下を見るに、借方勘定の部に於ては從來利率の二分の一に引下げられ、短期貸付の部に於ても略右に近い利率引下が行はれてゐる。尙、農業銀行其他の長期融資銀行關係の金利も著しく引下げられ特に貯金局の利率は從來の二分の一以下に引下げられるに至つた。これを約言すれば、ソ聯邦に於けるクレヂットが非常に低廉化されたことを意味すると同時にソ聯邦・ルーブル貨の鞏化策が好成績を収めたことの證左である。國立銀行が國民經濟部門に融資せる短期クレヂットのみで、現在約二百八十億ルーブルを算してゐることを考慮すれば、其の意義の重大なることは思ひ半ばに過ぎるものがある。然して、右クレヂットに對する金利引下は、將來に於て生産品原價並に一般物價水準を低下せしむる要因となり、従つてルーブル貨をよ

り一層鞏化させることになるのである。最後に注意すべきことは、資本主義諸國に於ける金利引下は、經濟界の沈滞、不景氣並に生産力發展の阻害を意味するのことに反し、ソ聯邦に於ける金利引下は、社會主義の勝利、特に貨幣經濟部門に於ける著しい發展を示すものであると云ふ一事である。

通 貨 幣

貨 幣

ソ聯邦には今日三種の基礎的貨幣が流通してゐる、即ち(一)國立銀行發行の銀行券、(二)國庫證券、(三)銀銅硬貨。銀行券の流通は一九二二年七月二十五日、十月十一日及び二十六日の諸法律によつて規定せられた。銀行券は一、三、五、一〇、二五及び五〇チエルオネツの價格で發行せられ、そして一チエルオネツは舊ロシア金貨一〇留に等しい。銀行券發行保證のために發行額の四分の一を貴金屬及び外國貨幣、又殘餘は容易に賣

却出来る商品、短期手形、容易に回收しうる他債權を以て充當する。將來この銀行券は金に、即ち現實の金チエルウオネツと交換せられるようになることを豫想してゐる。金チエルオネツの發行は一九二二年十月二十六日の人民委員會議の布告によつて規定せられ、即ちチエルウオネツは舊十留金貨中に含んでゐただけの金を保有しなければならぬことになつてゐる。(一)ゾロトニツク七八・二四ドリヤ)

國庫證券は一九二四年二月五日付の布告で確實なる金計算の新貨幣となり(五留、三留、一留の三種の金留)、チエルオネツの國庫證券兌換は如何なる相場上の差額もなく行はれる、國庫證券の發行は、その發行額が發行せられたチエルオネツの總額の半分を超過し得ないといふことになつてゐる。銀貨及び銅貨の發行及び鑄造は一九二四年二月二十二日付布告によつて銅及銀の純量を保持する意味において銀貨及び銅貨の舊型を保ち外觀だけを變じた、銀

貨は一留、五十哥、二十哥、十五哥及び十哥を發行し、銅貨は五、三、二、一哥及び半哥である(半哥は現在流通せず)。なほ紙幣の國庫發行が將來において豫算不足を補ふための財源たるを得ないことが認められた。

國際金融經濟より孤立せるソ聯邦は、從來より資本の缺乏に加へ、産業五ヶ年計畫に基く莫大なる資金の需要並に過去兩三年に於ける穀物輸出の杜絶等の事情はソ聯邦財政上に異常なる困難を來さしめ、當局をして紙幣増發によるの外なからしめた。一九二八年八月一日附法律を以て何等の準備なくして發行し得る財務部の國庫券(政府紙幣)發行高を國立銀行券發行高の七五%(從來は五〇%)に引上げ、更に事態に押されて實際上の増發を餘儀なくされてゐたが、遂に一九三〇年九月十八日附聯邦中央執行委員會幹部會決定を以て之を一〇〇%に迄引上げらるることとなつた。

備考ソ聯邦に於ける通貨とは獨立銀行券並之と同額に對する迄發行を許さるる財務部發行の國庫券(不換紙幣)を指す。

財務人民委員會部發券額

一九三〇年一月一日	二十七億七千三百萬留
一九三一年一月一日	四十三億二百萬留
一九三二年二月一日	五十四億九百七十二萬留
一九三二年七月一日	六十一億八千三百萬留
一九三三年七月一日	六十八億二千五百萬留
一九三四年一月一日	六十八億六千五百五十萬留
一九三五年一月一日	七十七億三千三百七十三萬留
一九三五年十月一日	百億留(推定概數)

並之と同額に對する迄發行を許さるる財務部發行の國庫券(不換紙幣)を指す。

一九二八年一月一日現在 六億六千四百餘萬留

一九三二年三月一日現在 二十七億四千五萬留

一九三二年一月一日現在 三十二億五千七百萬留

一九三三年七月一日現在 三十四億六千八百八十萬留

一九三四年一月一日現在 三十四億二千九百四萬留

右の如く通貨流通額の激増は第一次及第二次五ヶ年計畫に要する産業建設資金

の需要により、國立銀行の短期貸付金は一九三五年一月一日現在に於て四、五四五、四十萬留、三六年七月一日現在五、四〇億留、三七年一月一日現在六、六二五、五五五、五五〇留、三七年度投資額は三二、五〇億留である。

新紙幣の發行

聯邦財務人民委員會部は一九三八年度に額面一留、三留、及び五留の新紙幣を發行することになつたが、右紙幣は各々表面の模様、大きさ及び印刷色を異にする。即ち、一留紙幣は、表面右側に鑽孔を持つた労働者の圖を配し、右側にソ聯邦の國章が印刷される。三留紙幣には左側には行軍準備をした赤軍兵士とそれに並んでソ聯邦國章が配されてゐる。また五留紙幣には、右側には飛行士、左側にはソ聯邦國章が配されてゐる。裏面も同様に額面により色彩を異にするが、金額は憲法第十三條に基き聯邦に加入してゐる十一の共和國語を以て記載されてゐる。

通貨流通額

一九二八年一月一日 十七億六千七百萬留

貯 金

ソ聯邦貯金局が開設されてから十年になるが、この間貯金者数と貯金高が急速に増加した。殊に第一次五ヶ年計畫に於て貯金者数は三百五十萬人から二千九百萬人に、即ち八倍以上の激増を見た。又個人の貯金高も右期間に二億一千三百万から九億九千四百萬留に、即ち四五倍以上増加した。

國營貯金部は資金の動員だけでなく、勤勞大衆及一部は社會化經濟の出納、決濟に關する國民經濟機能をも遂行、殊に農村に於ては、ソ聯邦の財政上重要な地位を占め、最近二年間にはますます好成績を示してゐる。

貯金業務の進展に伴ひ預金者の社會的構成も次表の如く著しく變化した。

預金者社會構成變化

(貯金者總數に對する割合)

Table showing social composition of depositors by year and category (Social groups, Laborers, etc.)

Table showing deposit trends by region (Urban, Rural, Average) from 1932 to 1935.

尙、一九三二年以降都市及農村の平均預金額増加左の如くである。

Table showing average deposit amounts per person in urban and rural areas from 1932 to 1935.

預金者數 百分率(%)

Table showing the percentage of depositors by year from 1932 to 1935.

Table showing deposit trends by region (Urban, Rural, Average) from 1924 to 1936.

預金額増加左の如し。(一九二四—三〇年までは十月一日現在、三一—三三までは一月一日現在)

Table showing average deposit amounts per person in urban and rural areas from 1924 to 1936.

國民貯蓄と公債拂込狀況

ソ聯邦國民の貯金高總額は現在六十億留に垂んとし、且つ一九三七年九月以降一ヶ年間に十四億留の預金増加を示したのであるが、右尨大なる數字に拘らず、ソ聯邦當局の意圖せる豫定計畫には遠く及ばず、特に第三・四半期に於ける預金増加額は一億留に止まり(計畫の僅か二〇%)成績不良を傳へられてゐる。ソ聯邦當局は之が原因を貯金局従業員の懈怠に歸してゐるが、就中、トロツキスト一派の閉鎖せる數千の取扱局(モスクワのみでも二百八十八局中、四十四局が閉鎖された。尤も一九三八年度に於て新たに六千十一局の取扱局が新設された。)の復活が順調ならず、之が促進を強調してゐる。

尙第三次五ヶ年計畫公債(第一年度)

の拂込狀況も、局部的には拂込を完了したところもあるが、全國的には稍不良といふべきで、十一月十日現在に於ける第

四・四半期計畫の遂行率は都市四一・二%、農村四〇・二%であつた。これがため政府が公債を打ち切つた後に於て、貯金取扱局は公債に關する活動を全く中止する傾向が見られる。その結果勤勞者乃至は勤務員が、自己の職業が變じた場合、公債應募を更新することが出来ず、勢ひ拂込成績も不良とならざるを得ない。右の場合更新事務をなす者が全くゐないといふ有様だつたのである。

勤勞大衆貯金増加

勤勞大衆の貯金額は、一九三八年度十ヶ月間に於て十億七千萬留の増加を示した。昨年度に於ては同期間に六萬七千留の増加を見たのみであつた。

預金者の數は現在千五百萬人に上つてゐる。一八三八年度には主として農村に五千六百の貯金局が新設せられた。

据置貯金制度新設

一九三九年六月、人民委員會議附屬經濟會議決定を以て「据置貯金制度」が新

設されたが、右貯金の据置期間は六ヶ月以上にして、六ヶ月後には預金額の如何に拘らず、年五分の利子を附するのである。尙六ヶ月未滿にて拂戻の場合には、普通貯金として取扱ひ、年三分の利子を附することゝなつてゐる。

一九三九年度國民貯蓄實績

一九四〇年度一月國營貯金局の發表によれば、一九三九年度國民貯蓄の實績は次の通りである。

Table showing national savings performance for 1939, including depositors, withdrawal amounts, and interest.

爲替規定と相場

ソ聯邦の立法はソヴェート貨幣の價值下落をもたらす外國爲替相場の壓迫に對抗する方法を採用した、一般に國營及び

一九三七年 (豫定) 三、五五、〇〇〇、〇

協同組合的施設の爲替取引は財務人民委員部附屬の特別爲替相場會議の決定によつてのみ實行することが出来る、貨幣及び貴金屬の外國輸出を阻止する特別處分が採用され、一人につき輸出することの出来る最高額が制定せられた。現在爲替の外國輸出、送附及び轉送は一九二六年七月九日の布告によつて規定されてゐる。

而してソ聯邦財務人民委員部決定の對外爲替相場發表によると一九四〇年四月より六月に至る各月十五日現在の主要外貨換算は次の如くである。

四月十五日現在

一米弗	五・三〇留
一磅	二四・八一〃
一〇〇マルク	二二・五五〃
一〇〇リラ	二七・八九〃
一〇〇ズロトイ(波)	九九・七七〃
一〇〇フラン	一四・〇三〃
一〇〇圓	一四四・七〇〃
五月十五日現在	五・三〇留
一米弗	二四・八一〃

ソ聯邦國際貸借表

一〇〇マルク	二二・五五〃
一〇〇リラ	二七・八九〃
一〇〇ズロトイ(波)	九九・五九〃
一〇〇フラン	一四・〇四〃
一〇〇圓	一四四・七三〃
六月十五日	
一米弗	五・三〇留
一磅	二四・八〇〃
一〇〇マルク	二二・五九〃
一〇〇リラ	一七・八九〃
一〇〇ズロトイ(波)	九九・七六〃
一〇〇フラン	一四・〇五〃
一〇〇圓	一四四・八六〃

ソ聯邦は一九三六年の中頃、國際聯盟の求めに應じ、一九三五年國際貸借表を聯盟當局に提出せるがソ聯邦政府が國際貸借表を公表したるは右を以て嚆矢とする。一九三六年度國際貸借表は聯盟當局に提出されると同時にフィナンソワヤ・ガゼータ紙も其の内譯を左の如く發表した。

△一九三六年度ソ聯邦國際貸借表

(單位、千留 一留四・二五法)	
A 流動的諸項目	
受取勘定	
一、商品輸出收入	一、四九七、五四二
二、海運收入	七一、六三六
三、港灣手数料	一、八三四
四、其他運輸收入	一五、八九三
五、保險收入	一、六九五
六、非商業送金收入	七、〇九〇
七、觀光收入及外國人消費收入	三五、一三三
八、其他收入計	三二、三七五
合計	一、六六三、一九八
支拂勘定	
一、輸入現金支拂	一、三二八、一八一
二、技術援助及び機械据付に對する支出	二二、四三九
三、在外公館費其他	五五、〇八一
四、國債及クレヂット利子	四三、九九〇
五、其他支出	六一、六四五
合計	一、五一二、三三六
差引受取超過	一五〇、八六二
B クレヂット及在外資金の増減	
一、在外資金の引上	七一、二七五

二、金融クレヂット收入	二四一、五七四
計	三一、二八五〇
一、國債償却	四五、九八二
二、商品輸入に關する商社クレヂット償却	三五四、一〇〇
三、短期輸出クレヂット及び銀行クレヂット關係の債務減	三一、六〇六
計	四三一、六八八
差引支拂超過	一一八、八三八一

流動的諸項目の受取超過額一億五千八百十六萬二千留よりクレヂット及び在外資金の變動に關する支拂超過額一億八千八百八十三萬八千留を差引くととき一九三六年在在外勘定に於ける現金外貨の増加額は三千二百二萬四十留となつてゐる。

右表に徴して明かなる如くソ聯邦國際貸借の大宗をなし居るは外國貿易取引にして貿易外收支は微々たる數字を示すに過ぎず、即ち一九三六年度に於て受取勘定總額の約九割は商品輸出收入にして一方支拂勘定の約八割八分は商品輸入支出なり。ソ聯邦の主要輸出品は木材、石油、亞麻、毛皮、礦物、金屬、各種原料品、

製品等なるが、右は主として現金取引により輸出され、短期クレヂットによるものは極めて少量に過ぎず、外國輸出品は大部分當該年度中に決済さるゝ結果その實績は國際貸借表に直に反映する。商品輸出の受取勘定は海運收入、港灣手数料、鐵道通過貨物收入、來遊外國人消費收入、商業外送金收入、外國公館經費收入等なるが就中注目すべきは海運收入が極めて多額に上れることであり、海運收入は一九三五年には四千七百五十萬留なりしが一九三六年度には一躍七千六百六十三萬留に増大した。右はソ聯邦商船隊の躍進に伴ひ外國船舶利用の必要性が次第に稀薄化しつつある動向を示すものである。ソ聯邦は現在輸入品の大部分を自國船により輸送し輸出貨物の約三割餘も同様自國船を以て輸出しつゝる。

次に右流動的諸項目中の「其他收入」が一九三五年の一億六千四百九十萬留より三千二百四十萬留に減少せるは在外資金關係收入並に北鐵讓渡收入が國際聯盟の國際貸借作成方法に準據し「在外資金

並にクレヂットの變動」項目中に繰入れられたる結果である。而して一九三六年度に於て同項目中に計上された二億四千五百五十萬留の長期金融クレヂット收入(チエツコ・スロヴァキヤ、英國及獨逸の提供に係るもの)は總額十三億二千八百二十萬留の輸入現金支拂項目中に包括さるべきものである。

但、一九三六年七月二十八日調印の英・ソ・クレヂット協定が國際貸借表中に眞に影響を示すは一九三七年以降であらう。

ソ聯邦國際貸借表の支拂勘定中最も主要なるものは輸入商品に對する現金支拂並に輸出入クレヂットの償却支出である。

其他、支拂勘定項目として擧げらるゝものにソ聯邦在外公館費、國債及クレヂット利子、技術援助並に機械据付に對する支出等があるが技術援助並に機械据付に對する支出が二千三百四十三萬に上つて居る事實はソ聯邦の工業技術が未だ外國への依存性を完全に清算し得ないこと

並びに先進國の技術輸入に如何に汲々たるかを如實に物語るものであらう。

ソ聯邦は過去數ヶ年に於て外國ブローカー商社提供の輸入クレジット債務を完済せるが一九三六年度に於ては本項關係の支拂額は更に一段と減少した、即ち外國商社クレジットの償却額は一九三五年には六億九千三百七十萬留に上つたが一九三六年度には三億五千四百十萬留に減少して居る。尙、短期輸出クレジットの債務額は一九三六年度には引續き低下の傾向を辿り一九三五年の支拂額十億一千二百六十萬留に比し僅かに三億八千五百七十萬留(前年度の三〇%)の實績を示してゐるが、之はソ聯邦が不利益なる外國商社提供クレジットを拒否しつゝある動向を示すものであらう一九三二年初頭に於けるソ聯邦の輸入債務が實に十二億二千萬弗に上れる這般の事情に想到すれば過去五ヶ年間に於けるソ聯邦の對外債務償却は相當順調なる傾向を辿りつゝあるものと解される。

一九三六年度に於けるソ聯邦國際貸借の受取超過額は前述の如く三千二百萬留であるが、一九三六年度國際貸借表を檢討するに際しソ聯邦は今や不利益なる外國商品の商社クレジットを清算し現金買付並に長期金融クレジットの利用に移行しつゝあることに注目する必要がある。而して外國貿易輸入額は一九三五年の八億六千萬留より一九三六年度には十三億二千八百二十萬留に激増したにも拘らず對外勘定に於て三千二百萬留の外貨蓄積を見るに至つたことはソ聯邦が對外貿易乃至對外爲替操作の點に於て相當程度に所期の目的を達しつゝあるものと解することが出来るであらう。

國立銀行業績

一九三九年十一月七日附財政紙に於て發表せられたる「ソ聯邦財政の現勢」に關する資料によれば、國家銀行最近の狀態は次の通りである。

(一) 國家銀行決濟勘定(十億留)
一九二八—一九二九年 一七六・七

一九三三年	八八七・八
一九三八年	二、七四四・七
(各年度一月一日現在百萬留)	
(二) 國民經濟短期投資額	
一九三三年	一〇、四五一・七
一九三八年	四〇、六九八・三
一九三九年	四四、九四九・二
十月一日	四六、三七一・八
(三) 國立銀行網(各年度一月一日現在支店數)	
一九二八年	五七一
一九三三年	二、一九九
一九三九年	三、三〇〇
十月一日	三、四〇五

一九三九年度國立銀行實績

一九四〇年一月一日附財政紙上に於ける國立銀行理事會委員ゲラシモフの發表によれば、一九三九年度に於ける國立銀行營業實績は左の通りである。(百萬留)

對國民經濟部門融資額
一九三九年一月一日現在 四四、九五三
内、計畫的貸付額 三一、五一七

一九三九年十二月一日現在 四七、九九四
内計畫的貸付額 三三、四七七
また一九三九年度に於ける計畫的貸付額を各經濟部門別に示せば次の通りである。

國營及協同組合商業機關	八、七四八
織維工業	六、五四七
食料品工業	三、五八一
肉類及製酪工業	一、七六八
林業	一、三七九
漁業	一、一九六
調達機關	二、七〇二
重工業	一、九八〇

(單位百萬留)

なほ一九四〇年三月五日附同紙によれば、一九三九年度に於ける國立銀行の實績は各前年度に比し取扱高總額一五・九%、當座預金及決濟預金帳尻二四・四%方の増加となつてゐる。支店數も増加を見たが、主なるものはポーランド西部併合地域のリヴォフ、ドロゴブイチ、ベロストーク等にして、オホーツク、プロヴィジエーニヤ灣、デクソン灣等の邊境地方に出張所が設けられた。

ソ聯邦留價對外換算率

ソ聯邦國立銀行發表による一九四〇年六月五日現在のルーブリ對外換算率は左の如くである。

日本	圓	一二四・二八留
米國	一 弗	五・四〇〇
英國	一 磅	一六・九七七
白耳義	百ベルガ	八七・七七〇
勃利	百レヴア	四・七八〇
獨逸	百マルク	二二・〇〇〇
和蘭	百グルデン	二八・三八〇
丁抹	百クローネ	一〇二・三四〇
伊太利	百リラ	二六・七六〇
加奈陀	一 弗	四・一六〇
ラトヴィア	百ラート	九八・一五〇
リヌアニア	百リタ	八八・四八〇
諸威	百クローネ	一一〇・三六〇
土耳古	百リラ	三二四・五七〇
芬蘭	百マルク	一〇・六〇〇
佛蘭西	百フラン	九・六二〇
瑞典	百クローネ	一一六・四〇〇
瑞西	百フラン	一一八・八三〇
エストニア	百クローネ	一二六・一九〇

第三次五ヶ年計畫第三年度公債

ソ聯邦人民委員會會議は一九四〇年七月一日付決定を以て第三次五ヶ年計畫における産業・文化建設及び國防強化の目的遂行のため第三次五ヶ年計畫第三年度公債八十億留を發行する旨七月二日發表されたが、右發行條件左の如し

- △發行額 八十億留、期限二十ヶ年(一九四〇年十二月一日より一九六〇年十二月一日迄、年利四分)
- △公債及其の收入(割増金を含む)に對し國稅、地方稅及附加稅を賦課せず。
- △公債は割増金付と利付とあり、割増金は三千留、一千留、五百留、二百留及百五十留(額面を含む)の五種とす。

なほ第三次第五ヶ年計畫公債は既に第一年度、第二年度分發行されたが、其の發行額は第一年度(一九三八年發行)五十億留、第二年度(一九三九年發行)六十億留で兩年度共應募額は發行額を超過してゐる。

本公債發行に關聯し、勞働組合本部は、勞働者、勤務員に對し給料二三週間分、特に収入多き者に對しては一ヶ月分程度にて應募する様勸誘してゐるが、右支拂は十ヶ月賦（一九四〇年七月—一九四一年四月）、或は即時拂にて、應募者の都合により次の通り行はれる。

- 一、勞働者及勤務者は對しては勤務先會計により差引く
- 二、學生に對しては學校より受くる給費より差引く
- 三、コルホーズ員、個人農は現金にて支拂ひ、村ソヴェト代表が集金する。但し第一回拂込金は申込と同時に、或は十日以内に納入すること。殘金は一九四一年五月までに月一回以上の割合に支拂ふこと、コルホーズ事務所は、コルホーズ資金又はコルホーズに仕拂ふべき金額より支拂ふことを得ず。トラクター運轉手はMTS代表を経てコルホーズ員と同様に支拂ふ。
- 四、主婦、女中及び組合に加入してゐ

ない家内勞働者よりの應募受付は、貯金局が援助委員會の協力の下に用ひ、家屋管理人が家賃請求の際、公債代金をも同時に集金する

五、不定期収入者（採金業、出版業、演劇等）は現金或は分割にて債券を入手す

尙コルホーズ員の一人應募額の規準は活めて居ないが、最高百留程度のやうである。

最高會議第六會期に於て採決せられた新豫算法によれば都市住民より受入れたる公債収入の五〇%を構成共和國の豫算に配分し其半額は更に地方豫算に配分され、コルホーズ員、個人農よりの公債収入の九〇%は構成共和國を経て全部地方豫算に配分されることになつてゐるが、當局は如くの如く各人より集つた資金が各自の地方に於ける建設事業の爲還元せられるものなりとて愛償心を昂揚して居る。又公債應募は各自の自由意志による建前となつて居る。

公債の受付は右の如く團體的に申込を

受付ける外貯金局に於て自由に現金にて額面百留を以て購入し得るが貯金局は市民の手持債券の買付を行はざるため流通性はない。但し一九三八年度割増金附内國債のみは貯金局に於て自由に賣買し得るを以て一般市民の人氣を博し最初六億留を發行したるも需要大なる爲翌年又六億留を追加した如き盛況を示した。

國民貯金額及公債應募額

年 度	國民貯金額 (一月一日現在)	單位百萬留
一九二八年	二一三	
一九三三年	九七四	
一九三五年	一、六三八	
一九三八年	三、五三八	
一九三九年	四、五一五	
一九三九年	六、〇六一	
一九四〇年	七、〇五七	
一九四〇年(六月一日)	七、六五六	

一九二八年以降の一月一日現在國民貯金額の増加は次の通りである。

國民貯金額 (一月一日現在)

年 度	單位百萬留
一九二八年	二一三
一九三三年	九七四
一九三五年	一、六三八
一九三八年	三、五三八
一九三九年	四、五一五
一九三九年	六、〇六一
一九四〇年	七、〇五七
一九四〇年(六月一日)	七、六五六

また公債に對する國民の應募額は更に

増大してゐる。

年 次	國民の公債應募額	單位百萬留
一九二七年	二〇〇	
一九二八年	四九九	
一九二九年	八二九	
一九三〇年	一、〇二五	
一九三一年	一、九三五	
一九三二年	三、〇七六	
一九三三年	三、四〇二	
一九三〇年	三、九六五	
一九三五年	四、九三二	
一九三六年	五、九二八	
一九三七年	七、六三七	
一九三八年		
一九三九年		

(註一九三二年、一九三六年は不明)

ソ聯邦の公債

(ソ聯邦財政人民委員報告)

ソ聯邦財務人民委員ズウエリヨフはブラウダ紙(一九四〇年六月二十二日)に「ソ聯邦公債」なる長論文を掲げ大要左の如く論じてゐる。

ソ聯邦政府の發行する國債は豫算の赤字をカバーする爲めではなく社會主義建設のテンポを促進し、商品の生産を強化するを目的とする。

資本主義諸國における國債は豫算歳入を數倍超過するが、ソ聯邦では其の發行公債の總額は豫算の二〇%以下である、従つて公債利息も豫算支出の極めて小部分を占めるに過ぎない。例へば一九四〇年のソ聯邦國家豫算(支出の部)は最高會議で承認を受けた金額は一七九、九一三萬留で此の中公債支出は二、四八〇萬留、即ち國家豫算支出の一、四%以下である。一九四〇年一月一日現在公債償還額は證券をも含み六十五億留であつた。

國民の公債應募は常に増加を示し左の如き成績を示した。

- 一、國防強化公債(一九三七年發行)
 - 募 集 額 應 募 額
 - 四〇〇〇百萬留 四九三二百萬留
- 一、第三次五ヶ年計畫第一年度公債(一九三八年發行)

五〇〇〇百萬留 五九二八百萬留

一、第三次五ヶ年計畫第二年度公債(一九三九年發行)

六〇〇〇百萬留 七六三七百萬留

尙ソ聯邦公債の應募増加は左の通りである。

第一次五ヶ年計畫の初め、即ち一九二八年十月一日迄の公債収入は三億留、第一次五ヶ年計畫の數年間は五十九億留、第二次五ヶ年計畫百九十億留、一九三八年の公債収入は五十四億留、一九三九年六十一億留で、一九三九年の一ヶ年だけで公債應募額は第一次五ヶ年計畫の數年度の應募額を超過した。

斯して一億八千三萬のソ聯邦國民は第三次五ヶ年計畫の巨大なプログラムを遂行しようとしてゐる。

資 源

ソ聯邦資源概観

資源分布状態

世界陸地の一六%、約六分の一を占め、境界線の總延長實に六萬五千軒に及び、龍大二千一百三十五萬平方軒に擴がるソ聯邦の領土には、無数の礦、植物性、又は河川等の動力資源が包含される。之等の莫大な資源は、過ぐる一九二八年より開始された同國の第一次經濟建設五ヶ年計畫の遂行によつて最初の開發を見た。續いて第二次五ヶ年計畫（一九三二—三七年）に於て兎も角も效果的に遂行せられ之等資源は、ソ聯邦の、所謂後進資本主義國家として有して居つたハンデキャップを可能な最大限度にまで克服した。即ち之等許多の礦物、動力資源は、ソ

聯邦國家に生産手段の生産——重輕機械燃料、發電所、鐵道建設を確保せしめるに至つたのである。

一九三八年は第三次五ヶ年計畫の初年度であつた。而して今や第三次五ヶ年計畫第三年度の遂行に際した。一九三九年三月、全聯邦共產黨大會がモスクワに開催せられ、その席上スターリンは、ソ聯邦の經濟的發展と今後の動向に就て次の如く述べてゐる。

「我が偉大なるソヴェート國家は生産技術及び工業發達のテンポに於ては、世界の他の如何なる資本主義國をも追越したが、一人當りの生産額より見る時は、主要資本主義國に及ばず、各人がこの不成績を揚棄し之を追越した場合のみ、日常必需品は潤澤に供給せられ、共產主義の第一段階より第二段階に移行し得る

が、少くともそれには今後長年月を待たなければならぬであらう。」

而してソ聯邦國家の社會主義的發展の爲には、工業の可能な範圍に於ける發展農業に於ける機械化、集團經營の全的組織の必要が強調せられた。この事は第三次五ヶ年計畫の後に來るところの成果、それに立脚して當然展開されるであらうところの資源の全的開發、利用を、我々に豫想せしめずには置かないであらう。次に此の資源の分布、その容積の概略を記すことにしよう。

礦物資源

歐亞の境界をなすは有名なウラル山脈である。これは古生代の末期ペルムスキー紀の成立で、最高一、六七六米を有し、蜿蜒二、五〇〇軒に互つてソ聯邦を南北に縱斷する。

その山麓に十三億噸の鐵礦、一億五千萬噸のマグネシウム、亞鉛銅の莫大な資源を擁してゐる。マグネシウム、亞鉛銅の莫大な資源を擁してゐる。マグネシウム、亞鉛銅の莫大な資源を擁してゐる。マグネシウム、亞鉛銅の莫大な資源を擁してゐる。

資 源

ウラル山脈の西南方、ヴォルガ水系中流には中部ヴォルガ高地（標高三八五米）が横はる。この山中には約三十億噸の片油岩が包含されてゐる。スイズランには大規模片油岩發電所が設立された。

中部ロシアの中央高地並にその北端をなすワルダイ高地は、共に三百米程度の高さであるが、ロシア國土の母と呼ばれるヴォルガ大水系を始め、ドウネーブル、ドン、北ドヴィナ其の他多くの河川體系の源泉をなし、發電動力の源泉でもあるが、その南麓のクルスクには無慮二、〇〇〇億噸の異質鐵礦を包含することが、五ヶ年計畫の調査によつて判明した。

西北方、芬蘭國境にある、始生代の岩石層で成立するヒビン山脈は、その山中に十五億噸以上の、農業肥料に有效な過磷酸の原礦であるところの、燐灰石を包蔵する。第一次五ヶ年計畫中に、二萬五千の人口を有するヒビンゴルスク市が、その採掘事業によつて成立し、勃興した。南部露西亞アゾフ海北岸のドネツ山脈の麓、其處には現在ソ聯邦に於ける最

大の炭礦ドンバスがある。

カフカーズ山脈（最高五、六三米〇）は經濟的意義が最も大である。即ち二億五千萬噸を有する滿庵鐵山、二億噸のダシゲサン鐵山、二億立方米を數ふアラギスの凝灰石、更に北麓には、三億噸を誇るグロズヌイ油田あり、その附近カスピ海の東岸にはソ聯邦最大の油田バク1がある。

河川湖沼資源

河川體系の全延長は三十四萬一千六百軒に及び、之等各河川は、運河により連絡され、聯邦の經濟建設に貴重な役割を遂げてゐる。北緯六〇度のバルト海も、三千六百軒にわたるヴォルガ水系によつて東南路のカスピ海と完全に握手してゐる。しかし乍ら河川の經濟的意義の代表的な面は寧ろより多くその動力供給の中に見出されるのである。ソ聯邦政府の調査によれば、ロシアの全河川は六千五百萬馬力の動力を有することが明かであり、第一次五ヶ年計畫に於て最も偉力を

發揮したものはドウネープロ水系である。ドウネープロストロイ發電所、これは總計八十一萬馬力に及ぶ九臺の大タービンを裝備し、第九タービンの据付完了後（三九年六月中）は五十六萬キロワットの發電力と、二十五億キロワット時に及ぶ電力生産量があり、附近にはその電力を中心として冶金、機械、アルミニウム、化學等の大工業を綜合的に行ふドウネープロ綜合企業が建設された。

東部シベリヤ區のアンガラ河の動力は一千六百萬馬力、こゝにアンガラストロイ大發電所が建設され、それは電力生産六百億キロワット時に及び、正にドウネープロの二十五倍に相當する。更にカフカーズのリオ、クラ、アラクス等の河川體系は、最低一千六百萬馬力の動力を有し、中亞のシル・ダリア、アル・ダリヤ、イルトウイシユ、バフシユ、イリ等も亦、之と同等の動力を有する。

猶河川の灌漑力の經濟的意義も見逃し得ない。殊に中央亞細亞に於ける棉花の栽培は最も之を要求する。ドウネープロ

水系は第二次五ヶ年計畫中、その河下に四萬二千ヘクタールの新耕地開拓の可能性を與へ、ヴォルガ水系も第三次五ヶ年計畫により、數十億プードの小麥を沿岸の農場より増収せしめると謂はれる。

河川と共に此の舞臺に登場するものに湖沼がある。湖沼の經濟的、工業生産的意義は河川に比し、さゝかの遜色もない。これ又豊富で、四十三萬九千平方料を有する世界最大のカスピ海を初めとし、アラル海(六八、〇〇〇平方料)バikal湖(三四、〇〇〇平方料)、バルハシ湖(一九、〇〇〇平方料)、歐露レニングラード州のラドガ湖(一九、〇〇〇平方料)、(一萬平方料)同州のオネガ湖等は代表的なものである。

カスピ海が國內運輸、ペルシャ貿易、漁業に貢獻することは實に多大である。歐露ラドガ湖、オネガ湖は大マリン運河體系の主要構成を成して、レニングラードの運輸戦線に寄與し、前記アングラ河の水源はバikal湖であり、アラル、バルシン湖は中亞の沙漠を沃野に變ぜしむる作用をなしつゝある。

湖沼は又、化學工業の原料を提供する。カスピ海北方のバスキンチャク湖は、ソ聯邦化學産業に四十億噸の食鹽、加里酸を提供し、東部シベリヤのドロニシ湖は五十萬噸のソーダを含み、中亞のインシクル湖は莫大な硫酸、クロール、マグネシウムを包蔵する。シベリヤ森林地帯の湖沼は發電所に利用され、モスクワ州シャツラ發電所(十三萬六千キロ)、西露州ブリヤンスク發電所(二萬二千キロ)はその代表的なものである。

ソ聯邦天然資源の世界的地位

石炭	第二位
石油	第一位
水力	第一位
森林面積	第一位
泥炭	第一位
鐵礦	第一位
錳礦	第二位
内利用可能埋藏量	第一位
加里鹽	第一位

光石及燐灰石 第二位
内燐灰石 第一位
註 1 硅鐵礦を含む

森林・表土

ソ聯邦の所謂森林地帯は、大體ソ本國の中部以北の地帯を凡て蔽ふ。即ちソ聯邦本國の西南部國境、北緯五十度からキエフ市の北を通過し、中央モスクワ州の南方を東北進して、ウラル山脈の略々中部に達する。森林地帯は是より東に伸び西南部シベリヤを除くシベリヤ大陸の殆んど凡てを包含し、一方中央亞細亞の東部、南部の山岳地帯に分布する。松、樅の針葉樹が大部分であるが、ソ聯邦本國の西南部では樺、とねりこ、胡桃紅葉等の潤葉樹が景色を加へる。森林面積は九億三千四百二十七萬三千ヘクタールに達し、それは實に北半球森林地帯の過半を占據し、ソ聯邦領土面積の四二%に達する。之をシベリヤ、ソ聯邦本國、中央亞細亞の三地方に區分すれば、シベリヤ最も廣く七十四萬一千三百六十六ヘクタール

ソ聯邦本國十五萬九千二百九十ヘクタール中央亞細亞三萬三千八百七十八ヘクタールで、全森林面積に對する比率は七九・二一%、一七%、三・六%の割合である。

五ヶ年計畫の遂行は新らたなる伐木法運搬の機械化、電化を強行し、林業は大なる發展を遂げた。當該地方の産業に木材加工工業の占める割合は實に大であり、ソ聯邦本國の北露區に在つては工業産額の九二%、カレリ自治共和國では八五%に及び、シベリヤに於ては一般工業の五〇%前後を占めてゐる。この森林地帯につゞく南方草原は、南部ロシア、北部カフカズ、カスピ海を除く東南部ロシアを蔽ひ、ウラル山麓から中亞カザフスタンの北部と西南部シベリヤに連なる、その地貌も廣漠とした際限なき一大平原を呈し、表土が豊饒な沃土であること、相俟つて、百パーセント妥當なる農業地帯を形成した。その黒壤土は通例六一―四%の腐植土を含み、その厚さも十糎乃至一米に及び、正に數年間なら肥料を施さずとも農作を可能ならしめてゐる。

海に當該地方はソ聯邦の代表的農業地帯である。

カスピ海の北岸からカザフスタンにかけての沙漠地帯が展開する之等沙漠はソ聯邦經濟に羊、牛、馬、駱駝等の家畜、百數十に上る畜産國營農場、精肉罐詰、皮革、精乳等の工業が結成された。以上はソ聯邦資源の概観であるが、更に之を稍詳細に、分類して所在を示せば左の如くである。

燃料資源

石炭 埋藏一兆〇七三億噸。
西部シベリア區(クズバス炭田)―埋藏四、〇〇〇億噸、東部シベリア區(チエレムホフ炭田)―五八〇億噸、カンスク炭田―四〇〇億噸)ウクライナ共和國(ドンバス炭田)―六六五億噸)カザフスタン埋藏量一三〇億噸、炭田數七五(カラガンデン炭田―五十億噸)他、モスクワ州、カフカズ地方、ウラル地方(キゼロフ炭田) 泥炭 埋藏量四〇〇億噸。

シベリヤ兩區(八七億噸)極東區(五五億噸)モスクワ州(三億八、〇〇〇萬噸)他)ニヂェゴロード區、ヴォルガ下流區イワノフ工業州(一億三千萬噸)。
石油 埋藏量二八億八、三〇〇萬噸
アゼルバイジャン共和國(バクー油田)―十一億四、〇〇〇萬噸)、北部カフカ―ズ區(グロズヌイ油田)―三億噸)、カザフスタン(カスピ海北岸七萬五千平方料のエムバ油田)、極東區サガレン油田(一億噸)、他ウラル州
燃燒片岩 埋藏量七八億噸。
ヴォルガ中流區(スイズラン)―三〇億噸)、レニングラード州、ニヂェゴロード區、ヴォルガ下流區。
燃燒瓦斯 埋藏量容積九八〇億立方(石炭九、八〇〇萬噸に相當)
ヴォルガ下流區(アストラハン附近包有量七二〇億立方)、ダゲスタン自治共和國(二四三億立方)、クルイム自治共和國(一八億立方)其の他。

金屬資源

鐵 鑛 埋藏量、二四、〇〇億噸
 中央黒土州(クルスクの異質鐵鑛——
 二、〇〇〇億噸「包有鐵量七〇〇億噸」)、
 ウクライナ共和國(クリウオイ・ローグ
 ——五億七、五〇〇萬噸「鐵包有量七〇
 %」)、ウラル州(マグニトゴルスク——
 一五億噸)、クルイム自治共和國(二億
 六、五〇〇萬噸)、ニヂエゴロド區(一
 〇億噸)、他、西部シベリア區、モスク
 ワ州。

マンガン鑛 埋藏量五億噸。
 グルヂヤ共和國(チャツル——二億五、
 〇〇〇萬噸「ソ聯邦第一」、ウクライナ
 共和國(一億一、〇〇〇萬噸)、他ウラル
 州。

アルミニウム鑛 埋藏量四、六六〇
 萬噸。
 レニングラード州(チフウイン、ヒビン
 一、〇〇〇萬噸)、他ウラル州、ウクラ
 イナ共和國。

銅 埋藏量一、三〇〇萬噸。「金屬噸」
 カザフスタン(八〇〇萬噸——コウラ
 ツド銅山、同地方第一——二〇〇萬噸)、

スバスコエ、アドバサル、ヂエズカズガ
 ン銅山)「以上金屬噸」。ウラル州(三一
 九萬噸)、アルメニア、バシキール、西
 部シベリア區。

亞 鉛 埋藏量六〇〇萬噸。「同上」
 カザフスタン(二八〇萬噸)、ウラル州
 (二三六萬噸)、他北部カフカズ區、シベ
 リア兩區。

鉛 埋藏量三〇二萬噸。
 カザフスタン(一九六萬噸)、タヂツク共
 和國(約三萬噸)、シベリア兩區、北部カ
 フカズ區。

金 ウラル州、(八六〇萬噸)、東部シ
 ベリア區(ボダイボ金山)、西部シベリア
 區、(アバカンスク金鑛)、タヂツク、ウ
 ズベツク共和國。

銀 鑛 ウラル州ヤクート自治共和
 國、シベリア兩區、ウズベツク共和國、
 ウオルガ中流區。

クローム鑛 ウラル州(七九〇萬噸)、
 ヤクート自治共和國、シベリア兩區、ウ
 ズベツク共和國、ヴォルガ中流區。
 ニツケル鑛 ウラル州(一一〇萬噸)、

同上諸地方。

ブラチナ 同上地方。

化學原鑛

磷灰石・磷灰土 埋藏量三〇億噸。

レニングラード州(ヒビン——一五億噸)
 モスクワ州(五千萬噸)、ニヂエゴロド
 區(八億噸)、カザフスタン、ウクライナ
 の諸地方。

加里・食鹽・芒硝 埋藏量數千億噸。
 ヴオルガ下流區(バスクンチャク湖)、ウ
 ラル州、カザフスタン、ウクライナ共和
 國諸地方。

硫酸 埋藏量六〇億噸。
 カザフスタン、北部カフカズ區、シベ
 リア區。

石 綿 埋藏量八〇〇萬噸。

ウラル州(七八〇萬噸)、バシキール自治
 共和國、東部シベリア區、アゼルバイヂ
 ヤン共和國地方、
 曹 達 埋藏量一、二五〇萬噸。
 東西兩シベリア區。
 マグネシウム 埋藏量一億六、〇〇

〇萬噸。

ウラル州(一億五、四〇〇萬噸)、バシキ
 ール自治共和國。

臭 素 埋藏量一億四、五〇〇萬噸。
 クリミヤ自治共和國、アゼルバイヂヤ
 共和國。

硫黃、水銀 ウラル州ドンバス(水銀
 ——六〇〇萬噸)。タヂツク、トルクメン、
 ウズベツク共和國、キルギーズ、タゲス
 タン自治共和國諸地方。

建築材料

耐火粘土 埋藏量數十億噸。

中央黒土州、イワノフ工業州。

粘土 埋藏量數十億噸。

中央黒土州、ニヂエゴロド區、ヴォル
 ガ下流、ダゲスタン自治共和國。

火山土 埋藏量一億噸。
 クルイム自治共和國。

最近の状態

軍需物資の自給状態

石 油	一〇〇・〇%
石 炭	一〇〇・〇
鐵 鑛	一〇〇・〇
滿 俺 鑛	一〇〇・〇
電氣合金鐵	九九・一
亞 鉛	一〇〇・〇
輕 銀	七四・一
過 燐 酸 鹽	一〇〇・〇
セルローズパルプ	九九・六
棉 花	一〇〇・〇
クローム鑛	一〇〇・〇

現代戰に於て金屬が如何に不可缺のもの
 であるかは今日各國の陸軍の工業的性
 格がそれを示してゐる處で、従つて銑鐵
 鋼塊、鋼材等の生産發展が一國の戰爭能
 力を決定するものであるが、今ソ聯邦の
 戰略物資の自給状態を見るに主要戰略物
 資の需要は殆んど國內生産によつてカバ
 ーされ石炭、石油、鐵鑛石、加里鹽、窒
 素等の埋藏量に於てもソ聯邦は世界第一
 位を占めてゐると言はれてゐる、左にソ
 聯邦の重要軍需資源の自給率を示す。

一九三七年

一九四〇年度資源調査隊

ソ聯邦本年度資源調査の大調査隊は地
 質學者、地理學者、土壤學者等二百三十
 名より成るが、今回數班に分れ愈々目的
 地に出發することゝなつた。第一部は歐
 露平原の「第二バクー地方」に、第二部
 はクルスク地方に、第三部は(植物調
 査も含む)はスタリングラード州に向つ
 たが、他の班も續いて出發した、歐露の
 調査班は四十部に分れ「第一バクー」、
 「大ドンバス」、クルスク磁針偏差地方
 の調査を續行するほか、スタリングラ
 ド州及カルムイク自治共和國、ウクライ
 ナの石油、瓦斯埋藏地の廣汎な調査を行
 ふ豫定である。

猶人民委員會議附屬地質調査委員會議
 長マルインエフの談話としてイズウエス
 チャ紙(四月二十四日)に發表せられた
 るところによれば、本年度の石炭、石油
 鐵鑛、有色及び稀金屬調査には全國に互
 り三千組の調査班が出發する豫定で、極
 東地方ではブレイヤ、スーチャン其の他

の炭田を調査し、ハバロフスク及び浦潮
兩市の石炭自給策に資する筈であると、
東部シベリヤではグシ湖畔の炭層が有望
視せられ、其の埋藏量は、極めて多大で
あるといはれる。石油ではコミ自治共和
國のウフタ油田の試掘、白露に於ける石
油鑛脈の探査であるが、稀金屬では大々
的試掘の結果最近発見した鉛鑛層の埋藏
量が極めて豊富な事が判り是によつて鉛
の需給差額が十三倍増加され、又銅は二
十九倍、モリブデン百倍以上、ウオリフ
ラム百五十倍以上になつた。と稱してゐ
る。

カラ・クム沙漠開發

世界屈指の大沙漠カラ・クムには老大
なる硫黄資源あり全丘陵悉く硫黄より成
ると稱せられてゐるが、過去十年間に鑛
場二ヶ所開設され爾來數十萬噸の硫黄を
産出し、爲めにソ聯邦は硫黄の自給自足
を確立したといはれる。現在鑛山労働者
の三分の二はトルクメン人であるが、會
て機械の觀念に全然無智であつた彼等遊

牧民も熟達せる作業員となり帶動者もあ
るといふ。

ソ聯占領地の富源

(學士院會員セリスキイ報告)

二月二十七日附ブラウダ紙にウクライ
ナ學士院會員V・セリスキイは合併さ
れた舊波蘭領西部ウクライナに於ける有
用埋藏物に關し詳述してゐるが、その大
要は左の如くである。

一、石油—これは第一を占むるもので、
數十の油田と數千の掘鑿井が長さ約二
五〇杼幅四〇杼の一大地帯に擴がつて
ゐる。即ちカルバト産油地帯の西部に
は最も豊富なドロゴブイチュ大油田が
あり、その中心地はボリスラフ、トウ
スタノウイツイ、ムラズインツイ、ウ
ーリチ、スホードニツアその他である
また南東部にはビトコフ、パセーチュ
ナヤ、スロボデルンゲールスカヤそ
の他を含むスタニスラフ、コロムニス
キイ油田が横はつて居る。合計四〇個
所の産油地があり、その内二〇個所が

現在採油を行つてゐる。

二、天然瓦斯—殆んどすべての産油地に
産し、良質で脂肪に富み、濃化すると
きはガソリンを得ることが出来る。そ
の壓力が強大で平均六〇キロあり、ベ
セーチュナヤに於ては一七〇キロに達
してゐるので、現地で利用出来るのみ
ならず、數百杼の遠隔地に供給するこ
とも極めて容易である。
三、地蠟—其の主なる産地はボリスラ
フ、トルスカフツ、ウオリヤンカ其の
他で、ボリスラフ地方に産するものは
其の質が世界第一で、一八六五年初め
て採掘され、一八七九年には其の産額
が一萬九千噸に達したが一九三六年に
は三四七噸に減じた。
四、オイルシエール—産油地の鑛石中に
見出され、主なる産地はビトコフ、デ
リヤーチナ、コロームイユ、ポプーチ
ユ其の他である。
五、褐炭—其の産地は主としてリュブリ
ン、リウオフ、サルヌイを結ぶ線の南
方を占め、最も有名なクレメネツコエ

の炭層は殆んど水平をなし、其の厚さ
は一—二〇米の深所で二・五—三・
八米あり、埋藏量は六千萬噸と算せら
れてゐる。

其の他岩鹽(ラスク、ドロゴブイチュ、
ステブニク、ボレホフ其の他)、硫黄(リ
ウオフ附近のシエルウエツ、ドロゴブイ
チュ附近のズウイニチュ及びスタニスラ
フの南西其の他)、燐灰石、鐵鑛、鉛鑛、
陶土、石灰岩、白雲石等の莫大な富源が
埋藏されてゐるが未だ殆んど開發されて
ゐない。

硬質油層新掘進法考案

第二バクー地方の油田は地層硬質の爲
め試掘困難を極め一時間一米の掘鑿が最
大限度となつてゐるが、今回新式の掘鑿
法により速度を著しく高める事が出來た
と、即ち此の方法はボーリングの行はれ
る媒體組織の變更で、ボーリングに普通
使用される洗鑛用溶液に「硬度低下劑」と
稱する積極的物質を若干附加するだけ
で、地層の微細な間隙に此の物質が浸透

すれば、ボーリング機の活動が促進さ
れ、平均掘鑿速度は五〇%高められると
いふ、此の新法考案者レビンデル教授並
びに助手達は政府より賞金を受けた。

第二のバクー地質學者會議

一九四〇年三月二十一日クイブイシエ
フ市に於て中部ヴォルガ地質探査トラス
トにより「第二のバクー」地質學者會議
が開催せられた。同會議には石油トラス
ト、聯邦科學アカデミー、その他の研究
所の代表者が多數参加し、「第二のバク
ー」地方に於ける地質探査事業、モロト
フ、キーロフ兩州及びクイブイシエフ水
力發電所基地の埋没地帯その他に於ける
地質調査事業の結果に關する十二の報告
を討議した。尙同會議は五日間に互り行
はれた筈である。

ソ聯邦泥炭資源

ソ聯邦の燃料資源のうち泥炭は比較的
新しい燃料であるが石炭に次ぎ重要な
もので其の埋藏量は三百億噸と稱せられ

世界泥炭埋藏量の五分の二を占め、ソ聯
邦の全産業の燃料に泥炭のみを充當する
も優に三百五十年間を支え得るといふ。
併しソ聯邦動力資源の總量からいへば泥
炭は僅か三%に過ぎない、それは泥炭の
性質として遠距離への運搬が不便利益
であるからである。従つて泥炭利用は其
の産地の工場又は、發電所に限られるが
又は泥炭を電力に代へて其の電力を動力
需要各地に送電する方法もある。

ソ聯邦は泥炭の埋藏量が多いばかりで
なく其の利用技術の進歩せる點に於て各
國に優越し、其の採掘法は最も進歩し、
泥炭からコークスを採り泥炭の化學的再
製問題も實際的解決に近づき最初の泥炭
使用發電所が建設されてゐる。現在ソ聯
邦では其の歐洲部中央諸地方に於て泥炭
は動力資源の最重要なる種類となつてゐ
る。

ソ聯邦泥炭の一九三八年の採掘計畫高
は二千六百四十六萬噸で一九二九年に對
する百分比は三八二・七である、又之を
戦前に比較すると十五倍の増加である。

同國中泥炭の最も多く採れる地方はモスクワ、イワノオ、ヤロスラウリ、レニングラードの諸州で、其の主なる需要先は現在のところ發電所である。一九二九年以後の各地方泥炭採掘高と、採掘機械化の發展を表示すれば左の通りである。

△泥炭産出量(單位千噸)

中央地方	一九二九年	一九三三年	一九三六年(定)
沿ウオルカ	五、九三三	一三、三三六	一七、二九〇
ウラル	一、七四六	一、七四六	一、三三六
ウクライナ	一、二二	六九五	二、二二五
白ロシア	一、九三	九三	二、三五五

△泥炭採掘機械化割合

水壓利用機	一九二九年	一九三三年	一九三六年(定)
水壓デツチャー	一六〇	二四〇	二八八
デツチャー	一	二九	三〇
バーゲル法	一	〇・四	二・四
創設法	〇・四	一・一	二・〇三
切斷法	二四・八	一七・三	一四・七

腐植炭からベンゼン

一九三九年ドンバスで腐植炭の炭層が発見されたが、灰分が多いため、今日まで利用されなかつた所、ブラウダによれば、最近良質のものを蒸溜した結果二二%のタールを含有し、これよりベンゼン、燈油その他の液體燃料を採取し得ることが判明したので、聯邦學士院の地質學研究所では大々的に腐植炭の埋藏地域の調査に着手することになつた。その結果ウクライナには近き將來新らしい生産部門が創設されるであらう。

鑛滓より燃料製造

イワノウオ州織維工場空地の鑛滓は五〇%の良質炭を含有することを發見、フロフ技師は電氣マグニットの作用を應用して右抽出特殊装置を製作したが、これは必要な夾雜物を分離するもので、これによつて得たる炭は灰分僅かに一八%以下であると、「ボリシエウイク」工場で右装置によつて二萬三千噸の純良炭を得たが、各工場で右装置を採用すれば三月月間良質炭を自給することが出来る。

舊波蘭領西ウクライナの石油

一九三九年三月のソ聯邦最高會議に於ける西ウクライナ選出代議員の報告によれば、併合以來相當の石油増加を見てゐる。即ち、併合前の産額は、二、五八〇の油井より一ヶ月當り石油三萬五千噸、瓦斯二萬八千方米だつたものが、合併後本年に入り一月及び二月には、夫々石油三萬四千二百噸、瓦斯三萬四千二百立方米で、何れも計畫遂行率一〇〇%を示してゐるといはれる。尙ほ石油工業の復活も着々進行して居り、蒸溜工場の如きは從來二十三工場の内十二工場しか操業してゐなかつたものが、現在では十九工場に増加して居り、その産額も二萬乃至二萬二千噸から、三萬乃至三萬五千噸に増加したと報告されて居り、この勢で行けば、同地方石油の年産額は、約四十二萬乃至四十五萬噸まで増加せしめ得るだらうと見られてゐる。

ソ聯占領地の新油田

(ソ聯邦専門家の調査發表)

東ガリシヤの石油産地調査のため石油工業人民委員部より派遣されたソ聯邦専門家の一行の團長エレメンコ技師はコムブラウダ紙上に調査結果を發表、それに據れば一行は東ガリシヤ最大のドロブイチ、ムラズニツア、スホドニツア、トスタノウイツア及びボリスラウの油田施設を視察したが是等の油田は波蘭總産油量の六割を占めてゐたもので現在殆んど總ての油井は復興し一晝夜約千噸の油を出してゐる、精油工場も操業を開始してゐる、今後は是等施設の徹底的改造と新油井の掘鑿、進歩せる採油法の施行が必要とされてゐる、調査した油田は長さ二〇〇—二五〇軒、幅七〇軒で現在の如き原始的な採掘法でさへ産油高はもつと増加することが可能であり、尙近き將來には油田の内容に相應する産油高を擧げる筈であると。

占領地の油田開發

ソ聯邦政府は舊波蘭領西部ウクライナ地方のドロブイチ其の他の油田開發のため本年度六千五百萬留を支出した。其の内三千五百萬留は掘鑿事業に(本年度の掘鑿計畫は十三萬四千米、内試掘は二萬三千八百米)、九百萬留は掘鑿設備改善に、二百萬留は地質調査に、其の他住宅及び文化施設に多額が當てられてゐる。

貝加爾湖沿岸の滿掩鑛基地

一九三九年の東部シベリヤ、バイカル湖沿岸地方地質調査により、同地方が六萬七千七萬噸の滿掩の埋藏量を有することが推定されたが、最近また新鑛床が発見され、原鑛を分析した結果極めて良質のものなることが判明したので近く調査隊を派遣して大々的に試掘を行ふこととなつた。同時にニジュネ・ウージンスタ地区の試掘もなす筈で、その目的は第三次五ヶ年計畫に於いて建設されるべきチエレムホーウオ冶金綜合工場のために強

磷灰石産出の現状

力な滿掩基地を創設することである。

ソ聯邦の化學工業は他の經濟諸部門に比して比較的新らしいものであるが、近年一大飛躍を遂げ現在はアメリカ及び獨逸に次ぎ世界第三位を占めてゐる。更に第三次五ヶ年計畫に於ては「第三次五ヶ年計畫は化學の五ヶ年計畫である」として重要視され、その生産品は一九四二年度には一三四億留、一九三七年度に對して二・三倍の増加が決定されてゐる。而してソ聯邦はまた化學工業の各種原料に恵まれ、その點でも世界有數であるが、特に最も利用價值の廣い磷灰石の埋藏は夥だしく、新たに着手されたその採掘は百五十萬噸以上に達し、國內の需要を充すのみならず西歐諸國へも輸出してゐる。最大産地は歐露の西北端コトラ半島のキエロフスク(舊ヒビノゴールスク)市附近で、その鑛石は平均二三%の磷酸と、アルミニウムの原料として貴重な霞石を含み、その埋藏量は九億六千萬噸

と推定されてゐる。この他の主なる産地は、鑛質が良好で、埋藏量、磷酸含有率も豊富なキーロフ州の東北隅ウヤトカ、カマ兩河分水點のウヤトカ地方（中心—フオスフオリトナヤ）の外モスクワの東南ウオスクレセンスク附近、クールクス州のシチグレイ附近、ウクライナ及びカザフスタンのアクチュビンスク附近とカラ・タウ山脈等であるが、カラ・タウ山脈中の鑛床は目下肥料研究所地質調査隊が踏査研究中で、その報告によれば同鑛床は廣大なる地域を占め推定埋藏量五億噸を算し鑛質も極めて優良であるといふ。

石灰石は前述の如く化學原料として最もその利用範圍が廣く、化學工業及び冶金業の三〇部門に利用されてゐる。以前は磷のみをこれから生産してゐたがソ聯邦では種々研究の結果、今日では弗素その他の元素も抽出されてゐる。また霞石含有の石灰石鑛は冶金にも利用され、四〇以上の工場に於ては既に溶鑛に常用ひられる外、種々の合金の生産にも使用

されてゐる。尙石灰石を原料とする工場中主なるものはウオスクレセンスク（モスクワ附近）、チエルノレーチエ（ゴーリキイ附近）、コンスタンチノーフカ（ウクライナ）諸綜合工場である。

カザフスタンの石灰石鑛床

カザフ共和国のカラ・タウ山脈に於て數年前發見された石灰石の鑛床に關し目下肥料研究所地質調査隊が踏査研究中であるが、その報告によれば、同鑛床は廣大なる地域を占め推定埋藏量五億噸を算し世界最大なるもの一つである。一九三九年中に開かれた二鑛區のうちヂャヌイ・タス鑛區は鐵道より約二〇〇軒の距離にあり、鑛床は延長十五軒、層の厚さは三五米に達する所がある。他のチュラーク・タウ鑛區は比較的鐵道に近接してゐるためその開發が容易と見られてゐる。兩鑛區共鑛質が極めて優良である。カラタウの石灰石産地は將來中央アジア、西部シベリア及びその他の地方に對する良質肥料の一大近接供給基地となる

であらう。

カレロ・フィン共和国の資源

聯邦最高會議は三月二十一日、ジュダノフの報告に基くカレリヤ自治共和国を今回のフィンランド割讓地を合して、カレロ・フィン・ソ聯邦社會主義共和国に改組に關する法律案を通過し、ソ聯邦の構成共和国が一より一二に増加したることは當時報導した通りであるが、近着ブラウダ紙により、新構成共和国の現状を略述すれば次の通りである。

カレロ・フィン構成共和国の面積は、舊カレリヤ自治共和国の一四萬七千六百平方軒に、一九四〇年三月一二日のソ芬條約によりフィンランドより割讓せられたる大略三萬五千平方軒（ラドガ湖水域を含む）を合したる一八萬平方軒餘を占め、幾多の自然的富源に恵まれてゐる。同國資源の第一を占めるものは總材積十億立方米と稱せられる木材にして、林業は新共和国國民經濟の基本部門をな

す。また輝綠岩、泥石、石英、花崗岩、大理石、雲母等の有用石材、亜鉛、銅、銀、モリブデン、錫、酸化バリウム等の有用鑛物の埋藏量が極めて多い。第一次五ヶ年計畫以後これらの開發が行はれ、第二次五ヶ年計畫末までに二〇の工業企業が新設せられた。一九三八年にはソ聯邦唯一のコンドボーガ巨花崗岩工場が操業を開始し、一九三九年第一・四半期には最新技術裝備のセゲジャ製紙セルロイズ綜合企業（第一工場）の運輸が開始せられ、之と共に新製材工場も建設中である。また白海—バルチック運河がカレリヤの經濟發展のため巨大なる意義を有してゐることはいふまでもない。

文化的方面に於ても、帝政時代カレリヤ人中讀書力あるものは僅かに一三%に過ぎなかつたが、現在カレリア住民中九五%が讀書力を有するに至り、教育機關についても高等學校三、技術學校一二を有し、新聞一二、雜誌二が發行されてゐる。占領地區を加へたる新カレロ・フィン共和国がソ聯邦構成共和国の一として

今後の開發、建設に邁進したならば、同國の産業は更に面目を一新するであらうと見られてゐる。

カザフ共和国の資源

三月十六日附ブラウダ紙にカザフ共和国アクチュビンスク州黨委員會書記エヌ・ジャトディーノフが同州の有用地中埋藏物に關し左の如く述べてゐる。

アクチュビンスク州内には極めて豊富な地中埋藏物がある。先づ埋藏量二億五千萬噸の石油と同じく二億五千萬噸の石灰石であるが、既にこの石灰石を原料としてアクチュビンスク化學綜合工場が操業してゐる。また一九三七年發見された世界最大の良質クロム鐵鑛産地と三十一ヶ所のコバルト含有ニッケル鐵所在地の外、銅、硫黃、石綿製陶原料、褐鐵鑛、オイルシェール等を有してゐる。地方燃料の基地としてベルチヨグールの石炭があり、昨年各十萬噸の採炭力を有する三個の堅坑が建設されたが、その埋藏量は一億噸と

見積られてゐる。分析の結果同石炭がコークス化學用の原料となり得ることが判明したのでカンダガチュー—オルスク鐵道によつてこれを輸送し南部ウラル冶金業の發達に利用し得るのである。この外二萬平方軒の廣大なる地域に亘る二十一ヶ所のジュラ紀褐炭の所在地があるがその發熱量は五、五〇〇カロリーで總埋藏量は五〇億噸と推定される。これらの豊富な埋藏物と州の南東部に於ける水力源を利用するときは一大工業基地を建設し得るであらう。

北極探險隊の事業

北極航路本部北極學術探險研究所は一九四〇年夏の綜合學術探險隊派遣に關し所長代理ウインニクは左の如くブラウダ記者に語つてゐる。

バレンツオ及びカルクスカ海に向け數隻の小型船から成る二班の探險隊を派遣することになつたが、その報告は毎日到着することになつてゐる、ガツケリ指揮の

一班はパトリリ號に乗船ラプテウイフ海に於て水學的調査を行ふが、其他スモリーヌイ號はサンニコフ海峡に、ネネツ號は東部西伯利海に、水路船マルギン號はチユコト方面に出動する。地質調査班は現在燃料問題の解決に努力してゐるが、同班中最大規模のウスチ・エニセイ班は調査員四百五十名から成りウスチ・エニセイ港地方の油田探査に従事する豫定で多數の掘鑿機械を持参し千米乃至千七百米の二個の探掘ロータリー式油井を掘鑿することになつてゐる。最大規模の石炭調査班は豊富な埋炭量を有するウゴリナヤ灣に於て調査に従事してゐるが、一九四一年度より堅坑の建設を開始する筈である、尙近くコリマ及びインヂギルカ地方に二班を派遣する計畫であるが、其の目的は燃料埋藏發見にある。

ソ聯邦一九三九年度産金高

ソ聯邦一九三九年度の推定産金高はエンヂニアリング・アンド・マイニング紙によれば五、二五〇チフライン・オンスで

あると。

ウラル金鑛再探掘

ウラル地方スウエルドロフスクの北方ニージュニイ・タギール河の沿岸で革命前一時行つてゐた探金を最近再び探掘に着手する事になり試掘坑を設けた所豫期以上の好結果を収めたので、大々的に同地方金鑛區の調査開拓に着手することとなつた。

沿海州新砂金産地

ブラウダ紙ハバロフスク特電に依れば「沿海探金」トラスト一九四〇年度の地質調査の結果、七ヶ所の新砂金産地を發見した、此の新産地はコムソモリスク附近の黒龍江中流地方である。

堪察加の金鑛

(ソ聯邦學士院調査資料)

ソ聯邦の産金事業は嚴秘に附されてゐるため種々世界に問題を提供してゐるが我國とは漁業問題で因縁淺からざる堪察

加半島に於ける金坑に就てソ聯邦學士院編纂の堪察加地方經濟事情は大要左の如く記述してゐる。

堪察加半島に於ける採金熱の勃興し始めたのは、恰もバグダノウキチ調査隊(一八九五—一九八年)が調査を終了し西岸に於ける含金地帯を確認した直後のことであるが、今半島に於ける砂金床を見るに含金地帯としては左記諸地方を指摘することが出来る。

△コリヤク民族管區||ペンジナ地方に於て有名な砂金床はタイゴノス半島、即ち同名山脈西隅傾斜アウエコワ河流域とタロフカ河口から四〇料の地點にあるシヤマン山が産業的に有望なるものと見做されてゐる、尤もシヤマン山はペンジナ村を距る二八料の地點にあるが、一九一四年此の地方に於て試掘されたことがある。ペンジナ村上方八〇料に於けるペンジナ河左方支流のムルガリ河も既に一九一四年に一千四百瓦餘の砂金を採取したといはれてゐる。

△オホツク沿岸||オホツク沿岸區域にあ

つては、砂金採取は著しき發達を遂げてゐる。かつて此地方には多數個人業者の外、日、米、英、佛等資本家の投資による露人及外國企業家等もあつた

一九一四年—一九年間に互りフオゲリマン及びコリツオフ共同商會はグシンカの細流砂丘で作業し、單獨的に約二萬弗に達する砂金を採取したといふ。小企業者及び個人的探査者を含め、泥砂、平均一呎平方一弗の採金を規準として通算するときは一九二三年に至る總採取高は、優に五百萬弗を突破せるものと言はれてゐる。

△スレドニカン區||之等の鑛區はフルチヤンスク凍土帯、コルキマ河上流々域等である。有名なる地質學者アネルト氏は一九二八年金鑛地帯として之等の地方が有望なる事實を指摘して左の如く記述した。

原始的で廣漠な還疆カルキマ河上流右岸流域は、吾人に大なる興味を惹起せしめるに足るものである。恐らくはコルキマ地方は、金鑛地帯とし

て既定の大金鑛地區オホツクと輸贏を決するのは遠くはあるまいと。

△チユコトカ管區||チユコトカ管内領域の金鑛が開發を見たのは一九一〇年代のこと、蓋し當時アラスカに於ける豐饒な金鑛の發見に刺戟された結果であるが、抑々地理的に密接な聯絡のある露領チユコトカ及びアラスカの類似的構成は、ユーコン金鑛山脈系統の連續延長ならんと推定に想到され、斯して二十世紀の初葉に於て、米人探査者等をして激烈な探査及び採金競争に従事せしめるに到り、チユコトカ地方は遂に著名な採金地區たらしめたといはれてゐる。

堪察加北端に新金鑛發見

堪察加金坑の調査に關しては前述の通りであるが、ハバロフスク情報によれば昨年春堪察加のアナドリ地方に知名の金鑛探査者五名到着、チユコトカ半島において短期間に若干の金鑛を發見、金含有五一〇瓦の鑛一疋を採取したので目下

同地方に學術調査隊を派遣する計畫が進められてゐると傳へられる。

ウラルのダイヤモンド産地

ウラルには百年以前初めてダイヤモンドが出たが、是は砂金洗鑛の際偶然に發見したもので、何處に産地があるかといふことは其後百十年間に結晶體二二〇簡程發見したが、皆砂金と一諸に出たもので、産地を突止めることは出来なかつた而して一世紀に亘る間地質調査を何回も行つたが結局目的を達することが出来ず國內にはダイヤモンドの大量的産地は存在しないといふ決論が支配的であつたが一昨年より調査研究の結果、此の斷定を覆すに至つた、それはウラルにおいて七ヶ所のダイヤモンド鑛區を發見したからである、此中でもクシエ、アレクサンドロフスク鑛區は最も有望で、近き將來に企業的に採取を行ふ計畫である。尙ほ今夏は更に産地の詳細なる試掘を行ふため大掛りな調査隊を二班ウラルに派遣した

稀金屬インジウム發見

稀金屬インジウムは特殊有色合金、テレヴィジョンの寫像幕、高級鏡玉の製造等に缺くべからざる貴重な元素であるが、聯邦學士院カザフスタン支部では最近鑽石を分光器利用によつて研究した結果、カラマザル及び北部キルギーズ地方の阿克・チユズ、ブトルドウ産の鑽石に含有されてゐることを發見した。

カザフ共和國の最近發見の鑛物資源

カザフ共和國の中央部デエズ・カズガン銅産地はその埋藏量に於てソ聯最大のものでアフリカの北部ロデジヤ、米國のシユーペリオル湖に匹敵するもので目下大規模の熔銅工場が建設中であるが、同地方は銅のみならず、他の埋藏物も極めて豊富で鑛物資源の寶庫とも云ふべきである。即ち附近のカルサクバイ工場を距る十七軒デユセルバイ河に沿ふて鐵の含有三五―五二%の厚さ八米に達する鐵鑛

脈が横はり、またクマラ河岸には含有量五五―六三%の鐵鑛脈が八十米の幅をなし四五軒に亘つて續いてゐる。その他アスター、タルドイ兩河流域にはマイルイ・クタイ、ポリシヨイ・クタイ、ウスタインデヤル、ケニチユベ等の鐵産地があり、カルサクバイの東方ナイザタスは合金鋼製鍊に必要な高級原料たる複合滿俺鐵鑛を産し、デエズ・カズガン近郊のデエズドイよりはウラルの冶金基地に對して安價な多量の滿俺鑛を供給することが出来る。更にデエズ・カズガン地方には最近數ヶ所の産金地が發見された。その主なるものはカルサクバイを距る百軒のムイクと阿克チエクで、ムイクには金の外モリブデンも發見された。斯くてデエズ・カズガン地方は近き將來ソ聯に於ける最大工業地帯の一となるであらう。

西部シベリヤの大油田調査

聯邦地球物地學トラストでは最近シベリヤ低地に於ける石油調査隊の報告を發表したが、タス通信の報道によればオム

スク、チエリヤビンスク、北部カザフスタン州に亘る約五萬平方キロの領域における調査進行中で、ペトロバヴロフスク（北カザフスタン）地區において石油の集積に好適の構成を發見した、殊にガンキノ驛、トクン及アサノオ驛附近に發見されたものは重要である、西部シベリヤ低地に石油含有層のあることは故グブキン教授が豫言したことがあるが、それが的中したと認むべき根據充分であると稱せられる。

工

業

ソ聯邦工業概観

ソ聯邦工業の大部分はスターリンの所謂工業化政策以來建設されたものでありそれは若い、新しい工業であると言ふことが出来る。ソ聯工業の固定資本總額（建物、設備、附屬施設等）は一九二八年には一〇三億留であつたが、一九三五年には四四六億に達した。これはソ聯工業の大部分が第一次五ヶ年計畫開始以後に創設されたものであることを示してゐる。第一次五ヶ年計畫による建設は主として重工業、即ち生産財、特に機械の生産に向けられたが、この傾向は第二次五ヶ年計畫に於ても何ら變更されてゐないことが判る。五ヶ年計畫の概略については五ヶ年計畫の項に述べて置いたから、ここでは、世界工業に於けるソ聯邦の地位に

つき若干觸れて、後は部門別に述べて行きたい。

先づ戰前水準と比較せる列強の工業生産を見れば、次の如くであり、ソ聯工業の發展の如何に急激なものであるか諒解されよう。

戰前水準に對する工業生産

	一九二九年	一九三三年	一九三五年	一九三七年
ソ聯邦	一九四	三三九	五六七	八二五
米國	一七〇	九二	一三三	
英國	九八	八二	一〇五	
獨逸	二二	六六	一〇六	
佛蘭西	一三	九六	九三	

世界に於けるソ聯工業の順位

工業總生産	一九三三年	一九三五年	一九三七年
電力生産	一五	五	二
炭	六	一〇	七
石	六	四	四

(A) 動力

石油	二	三	二	二
銻	五	六	九	五
銅	七	九	二	三
アルミニウム	ナ資料	ナ資料	ナ資料	ナ資料
一般機械	ナ資料	ナ資料	ナ資料	ナ資料
農業機械	ナ資料	ナ資料	ナ資料	ナ資料
機關車	ナ資料	ナ資料	ナ資料	ナ資料
自動車(貨物及乗用)	二	三	七	五
貨物自動車	二	六	七	二
トラクター	二	四	二	二
過燐酸	二	八	九	二
セメント	二	八	七	二
製紙	七	二	七	四

ソ聯邦は無盡藏ともいふべき動力資源を有してゐるが、その主なるものは石炭、石油、頁岩、薪及び水力等である。國民經濟にとつて決定的意義を有する動力資源即ち燃料及水力の豊富なることはソ聯邦經濟を論ずる上に極めて重要である。動力資源の規模に於てソ聯邦に勝るものは現在米國だけである。ソ聯邦は、世界

ソ 聯 邦 發 電 所

發 電 所 種 類	1913年	1929年	1933年	1938年 (概數)	1938年度分 は1913年に 比し何倍増 しか	1938年度の 1933年度に 對する百分 比
全發電所……………	1 098	2 296	5 583	8 692	7,9	115,7
内 譯						
地方發電所……………	177	938	3 708	5 637	31,8	152,0
工業用發電所……………	750	974	1 463	2 220	3,0	151,7
公共施設用發電所……………	151	311	279	435	2,9	155,9
電力生産(單位百萬 キロワット時)						
全發電所……………	1 945	6 224	16 357	39 600	20,4	242,1
地方發電所……………	431	2 786	11 499	29 856	69,3	259,6
工業用發電所……………	1 255	2 527	3 849	7 425	5,9	192,9
公共施設用發電所……………	259	798	747	1 500	5,8	200,8

電力の五分の四以上は地方的燃料經營の水力發電所及發電所により供給せらる。

ソ 聯 邦 製 及 輸 入 發 電 機 械 の 運 轉
(電力の百分比)

	1930 年	1933 年	1938 年(概數)
タービン—總計……………	100,0	100,0	100,0
ソ 聯 邦 製……………	10,7	41,2	80,4
輸 入 品……………	89,3	58,8	19,6
發電機—總計……………	100,0	100,0	100,0
ソ 聯 邦 製……………	11,6	94,1	100,0
輸 入 品……………	88,4	5,9	—

水力資源の豊富なることもソ聯邦は世界第一である。ソ聯邦は早くより電化に多大の關心を示し、かの「ゴエルロ」案以來不斷の努力を拂つて來たのである。一九三二年ドニエプル急流に歐洲第一の大水力發電所が建設されて以來幾多の大水力發電所が新設され、特にアンガラ河ウオルガ河のそれが重要である。水力は最も廉價なる電力を供給し得るものにして、現在アンガラ水力發電所の動力コス

水 力

動力資源中(埋藏量)石炭—二〇%、石油—五五%、泥炭—一四〇%、薪一七・五%、水力三五・七%を所有してゐる。石炭は世界動力資源の九割を占めてゐるのであるが、ソ聯邦にては四分の三を占めてゐる。石油、泥炭、頁油の埋藏量は殘餘の全世界合計に匹敵する。また動力資源の地方的配置状態についても、ソ聯邦は全國至る所に動力資源を有し、この合理的利用が行はれば、ソ聯邦の動力供給は完璧に近いものとなるであらう。

ソ 聯 邦 主 要 工 業 生 産 高

生 産 種 目	計 算 單 位	1913年	1929年	1933年	1938年 (概數)	下 記 年 度 に 對 する 1938年 の 百 分 比	
						1913年	1933年
機械製作及金屬加工……………	1926—27 年價格單 位百萬留	1446	3349	11283	33613	23.2倍	297.9
幹線用機關車(「エー」及 型の假定類別=依ル)……………	個 數	418	502	941	1626	389.0	272.8
貨 車 (二軸勘定)……………	千 個	14.8	15.9	21.6	49.1	331.8	227.3
自 動 車……………	”	—	1.4	49.7	211.4	—	425.4
電 力……………	百萬キロ ワット時	1,945	6,224	16,357	39,600	20.4倍	242.1
石 炭……………	百萬噸	29.1	40.1	76.3	132.9	456.4	174.1
石 油 及 瓦 斯……………	”	9.2	13.8	22.5	32.2	349.0	143.5
泥 炭……………	”	1.7	6.9	13.8	26.5	15.7倍	191.1
鐵 礦……………	”	9.2	8.0	14.5	26.5	288.0	182.8
滿 僦 鐵……………	千 噸	1245.3	1409.2	1021.3	2272.8	182.5	222.5
銑 鐵……………	百萬噸	4.2	4.0	7.1	14.6	347.3	206.0
鋼 鐵……………	”	4.2	4.9	6.9	18.0	426.1	261.7
鋼 材……………	百萬噸	3.5	3.9	5.1	13.3	380.4	263.5
化 學 工 機……………	百萬留	450	619	2283	6715	14.9倍	294.1
セ メ ン ト……………	千 噸	1520	2232	2710	5696	374.7	210.2
製 紙……………	”	197.0	384.9	506.1	834.1	423.4	164.8
木 棉 織 物……………	百萬米	2,224.0	2,996.0	2,732.0	3,491.0	156.9	127.8
絹 織 物……………	”	103.0	100.6	86.1	114.0	110.7	132.4
履物(綿布卷靴, オー ヴァシユーズを除く)……………	百萬足	8.3	48.8	99.4	213.0	25.7倍	21.41
粉 砂 糖……………	千 噸	1,346.8	1,282.6	995.3	2,519.5	187.1	253.1
漁 類 捕 獲……………	”	1,018.0	956.4	1,303.0	1,560.0	153.2	119.7

1. 狹軌機關車を包含す
2. 「コルホーズ」及其他の工業に於ける採取高を除く
3. 粗布品を除く外せる數字
4. 36頁第五表備考(一)参照
5. 多數製品に付き 1928—29 年資料
6. 1928年

トは一キロワット〇・五——〇・三哥である。しかしソ聯邦電力界に於ける水力発電所の役割はまだ甚しく低位にあり一九三二年は全體の僅かに七・三%、一九三七年度豫定計畫によつても一九・五%を占めるにすぎない。

石 炭

石炭は現在ソ聯邦燃料中の三分の二を占めてゐる。しかし動力資源の外、例へばガス、コークスの如く化學工業原料としても極めて重要な意義を有してゐる。ソ聯邦炭田中最大のものはドンバス(ドネツ炭田)にして、同炭田は面積二萬五千平方尺、埋藏量九百億噸。ドンバスは、クリウオイ・ローグ、ケルチ半島の鐵礦産地と近接してゐる點に特に強味がある。同炭田の西部はコークス用炭を、東部は無煙炭を産する。

ドンバスの經濟的役割は次の通りである。

(一)南部冶金業に冶金用燃料、ウクライナ化學工業に化學工業用原料を供

主要炭田別採炭高
(單位千トン)

	1913年	1929年	1933年	1938年	下記年度に對する 1938年度の百分比	
					1913年	1933年
ソ聯邦	29 117	40 067	76 333	132 888	456,4	174,1
ドネツ炭田	15 288	30 980	51 060	80 733	319,3	158,1
モスクワ地方						
炭田	300	1 261	3 833	7 416	24,7倍	193,5
クズネツ炭田	774	3 004	9 160	17 338	22,4	189,3
ウラル炭田	1 217	2 072	4 200	8 062	662,4倍	192,0
東部シベリヤ						
産地 ¹	847	1 161	2 889	6 850	808,7	227,1
極東産地	373	1 123	2 678	4 752	12,7倍	177,4
カザフ共和國						
産地	90	73	1 229	4 427	49,2倍	360,2
トウクヴィブリス						
コエ産地	70	88	185	262	374,3	141,6
トウクヴァルチエリ						
スコエ産地	—	—	—	167	—	—

1 「ミヌシンスキー」炭田を含む。

第二次五年計畫期間中及 1938 年に操業開始せる水力發電所

發電所名稱	操業開始年度	1939年1月1日現在算定發電能力
スタリノゴルスク國營地方發電所	1934	200,0
ドゥプロフ國營地方發電所	1933	200,0
中部ウラル國營地方發電所	1935	100,0
スターリン火力發電所	1935	75,0
ケメロヴォ國營地方發電所	1934	73,0
全ソ熱工學研究所附屬火力發電所	1933	60,0
クリヴオイログ冶金工場	1934	50,0
ザカムスカヤ火力發電所	1936	50,0
クラスノザヴオドスカヤ火力發電所	1934	50,0
ウラル車輛工場	1935	49,0
ヤロスラヴリ護謨アスベスト	1934	49,0
クラマトルスク機械製作工場	1937	25,0
オルスカヤ火力發電所	1938	25,0
ノヴォシビルスク國營地方發電所	1935	24,0
ヴオローネジ國營地方發電所	1933	24,0
アルテム國營地方發電所	1936	24,0
ノヴォトウーラ冶金工場	1935	24,0
ノヴリペツ冶金工場	1934	24,0
トウクヴァルチエリスカヤ國營地方發電所	1938	24,0

以上の外第二次五年計畫期間中現存發電所に次の通り追加的に新發電能力が實施せられたリズウエフカ國營地方發電所—100千キロワット、ドネプロゼルシンスキー 74千キロワット其他

第二次五年計畫期間中及 1938 年に操業開始せる大水力發電所

發電所名稱	操業開始年度	1939年1月1日現在算定發電能力 (單位千キロワット)
スヴィルスカヤ水力發電所	1933	100,0
リオン水力發電所	1933	50,0
ニヴァ水力發電所	1934	45,0
カナキル水力發電所	1936	42,0
スホドネンスカヤ水力發電所	1937	30,0
イワニコフスカヤ水力發電所	1937	30,0
バクサン水力發電所	1936	24,9
トウロムスカヤ水力發電所	1937	24,0
ギゼリドン水力發電所	1934	23,1
ウリビンスカヤ水力發電所	1937	18,4
カドウィリインスカヤ水力發電所	1933	13,0

以上の外第二次五年計畫期間中に次の通り現存水力發電所に新發電能力が實施せられたリ、ドネプロ水力發電所—189千キロワット、ザ水力發電所—24千キロワット、ゾラ水力發電所—15千キロワット

主要地区別石油採取量
(石油ガスを含む) (単位千吨)

	1913年	1929年	1933年	1938年 (豫定)	下記年度に対する 1938年の百分比	
					1913年	1933年
ソ連邦	9 234,1	13 809,9	22 458,0	32 230,8	349,0	143,5
バクー油田	7 669,1	8 754,8	15 981,5	23 980,0	312,7	150,1
グロズヌイ油田	1,208,2	4 570,4	5 053,0	2 763,6	228,7	54,7
其他の地方	356,8	484,7	1 423,5	5 487,2	15,4倍	3,9倍
内 譯						
ヴォルガ及びウラル地方	—	0,6	36,3	1 298,4	—	35,8倍
クラスノダール地方	86,8	157,4	766,0	2 250,3	25,9倍	293,8
極東(サハレン)	—	17,6	196,4	360,9	—	183,8
トウルクメン共和国	129,5	8,8	154,7	436,7	337,2	282,3
ウズベク共和国	13,2	24,4	35,8	225,3	9,8倍	435,8
タダク共和国	9,7		15,9			
カザフ共和国	117,6	269,9	198,1	652,0	554,4	329,1

新製油加工地方の發達
(製油加工量, 単位千吨)

	1913年	1929年	1933年	1938年 (豫定)	下記年度に対する 1938年の百分比	
					1913年	1933年
ソ連邦	5 702,3	11 034,0	18 455,5	28 409,3	498,2	153,9
アゼルバイヂ	4 554,4	6 405,8	9 309,4	15 545,8	341,3	167,0
ヤン共和国	946,4	3 944,4	4 282,0	5 166,8	545,9	120,7
チエチエノ・インゲシ及 びダゲスタン自治共和国	201,5	683,8	4 864,1	7 696,7	38,2倍	158,1
内 譯						
グルツヤ共和国	—	189,7	3 053,0	3 162,1	—	103,6
クラスノダール地方	49,8	250,6	1 471,8	2 268,4	45,6倍	154,1
中央地方(ヤロスラヴリ州, ゴリキー州)	151,7	226,5	293,9	261,5	172,4	89,0
沿ヴォルガ(サラトフ州)	—	—	—	663,5	—	—
ウラル(チユカロフ州, バシキール自治共和国)	—	—	—	781,0	—	—
極東	—	—	—	209,4	—	—
トウルクメン共和国	—	—	—	172,0	—	—
ウズベク及び タダク共和国	—	17,0	42,1	123,7	—	293,8

給する。
(一) 歐露南部及びレニングラード、モスクワの大工業に動力燃料を與へる。
(二) ウクライナを中心とする南部鐵道網に燃料を補給する。
第二位はクズバス(クズネット炭田)にして、同炭田はアルタイ山脈間のトミ河流域にあり、面積はドンバスと大差ないが埋藏量は遙に多く、四千五百億噸と計算され、ソ連邦石炭埋藏量の三割を占め、米國アツパラ炭田に次ぎ、世界第二位である。同炭田は採掘費もドンバスより遙かに廉く、しかも炭質極めて良好である。クズバスは第一次五ヶ年計畫まで全く顧みられなかつたが、スターリンの發意による巨大なウラル・クズネット綜合企業地帯の建設案によつて著々と開發せられ第二のドンバスとして急激に發展しつつある。
第三位はカザフ共和国のカラカンダ炭田にして、埋藏量五百億噸、コークス用炭である。ウラル鐵礦基地にはクズバス

よりも近く、且カザフスタン有色冶金及び運輸業にとつて極めて重要である。モスクワ近郊炭田は、幾多の缺點を有しあまり開發せられなかつたが、現在は特殊熔鑛爐によつてその利用を經濟的ならしめることが出來た。同炭田の強味は輸送距離の短いことであり、地方的燃料として最大限に利用されつつあり、盛に増産されつつある。
その他の主要炭田は次の通りである。
キゼル炭田(ウラル)
チエリヤビンスク(同)
チエレムホウオ(イルクーツク附近)
トウングース(エニセイ河右岸)
ブレレーヤ(極東)
ペチョーラ(ペチョーラ河流域)
ウグロフスク(沿海州)
スーチヤン(同)
サハリン(北樺太)等である。
ソ連邦は石油資源に於て世界第一位、産油高は米國に次ぎ第二位で、うちバク

石 油

は埋藏量、産油高共、同國の半以上を占めてゐる。
エムバ油田は埋藏量に於て第二位、グロズヌイ油田は産油高に於て第二位である。
マイコブ(クラスノダール地方)は埋藏量、産高共に次ぎ、ソヴェート時代になつてから開發されたものに、チヨソフスキエ・ゴロドキ(ペルミ附近)、イシムバ(バシキール共和国)、スイズラン(クイブシエフ州)、ウフチンスク(コミ自治共和国)、サハリン(極東)フェルガナ(ウズベク共和国)、ネビトダグ(裏海沿岸)等がある。
ソ連邦採油業は最近著しく技術的に進歩し、バクー及びグロズヌイ油田は完全に電化されて居り、主要油送管も次の如く多數に上つてゐる。バクー—バトウミ間、グロズヌイ—トアブセ間、グロズヌイ—アルマウイル—ドンバス間、エムバ—オルスク間等。

泥炭採取量
(單位千噸)

	1929年	1933年	1938年 (豫定)	下記年度に對する 1938年の百分比	
				1929年	1933年
ソ聯邦	6 913,7	13 845,8	26 460,7	382,7	191,1
内 譯					
ロシヤ共和國	6 644,5	12 236,0	21 876,3	329,2	178,8
中央地方	5 951,8	9 906,1	17 269,2	290,2	174,3
沿ヴォルガ	549,7	1 748,2	1 136,2	5,6倍	175,4
ウラル	141,0	556,3	3 067,2	8,1倍	204,3
ウクライナ共和國	111,5	694,7	2 214,5	19,9倍	318,8
白ロシヤ共和國	157,7	912,0	2 354,5	14,9倍	258,2

泥炭採取の機械化
(%)

採 取 方 法	1929年	1933年	1938年 (豫定)
採取法水壓利用機採取法	16,0	24,4	28,8
水壓デツチャー採取法	—	2,9	3,0
デツチャー採取法	58,8	41,9	30,8
バーゲル採取法	—	0,4	2,4
削 截 法	0,4	13,1	20,3
切 斷 法	24,8	17,3	14,7

ソ聯邦の主要冶金基地は南部、中央及び東部にある。

南部地方はウクライナ、クリミヤ、アゾフ、黒海地方の冶金地帯を含み、ドンバスの石炭とクリウオイ・ローグ、ケルチ半島の鐵鑛によるものである。近年南部にはクリウオイ・ローグ、ザボロジエ、マリウポールの三新工場が建設され、これらは何れも舊冶金業の面目を一新してゐる。

中央地方の製鐵業はゴリキ州からブリヤンスクに至る廣大な地域に亘り、この中には(一)ゴリキ州オコ河沿岸(二)ウオローネジュ州内リベーツ、(三)トウーラの三工場地帯を含んでゐる。これらはこの近くに鐵鑛産地を有し、以前は木炭を燃料としてゐたが、現在はドネツ炭を使用してゐる。小規模の冶金工場は大部分機械製作工場の一部をなして居り、多くの良質鋼を生産してゐる。

東部地方は即ちウラル・クズバス綜合

黑色冶金

石油採取量の割合
(總計に對する百分比)

	1913年	1929年	1933年	1938年 (豫定)
ソ聯邦	100	100	100	100
バクー油田	83,05	63,40	71,17	74,40
グロースヌイ油田	13,09	33,10	22,50	8,58
其他の地方	3,86	3,50	3,50	17,02
内 譯				
ヴォルガ及びウラル地方	—	—	0,16	4,03
クラスノダール地方	0,94	1,14	3,41	6,98
極東	—	0,13	0,88	1,12
トウルクメン共和國	1,40	0,06	0,69	1,35
ウベズク及びタヂク共和國	0,25	0,18	0,33	0,70
カザフ共和國	1,27	1,95	0,88	2,02

労働者一人當りの石油及びガス採取量
(單位 噸)

	1913年	1929年	1933年	1938年 (豫定)	下記年度に對する 1938年の百分比	
					1913年	1933年
労働者一人當りの採取量	276,0	563,7	891,2	1 415,3	5,1倍	158,8

泥 炭

ソ聯邦の泥炭埋藏量は三百億噸にして世界全埋藏量の五分の二を占める。ソ聯邦動力資源に於ける泥炭の割合は三%にすぎないが、地方工業、發電所燃料として重要性を加へつゝある。主要泥炭産地は、モスクワ、イワノウオ、ヤロスラウク、レニングラード諸州であり、その産額も戦前に比し、一五倍となつてゐる。

頁 油 岩 (オイルシェール)

燃焼性頁油岩は地方的燃料として用ひられるが、化學工業原料としてベンゼン採取に廣く用ひられてゐる。主要産地はノイブイシェフ州、サラトフ州カザクスタン等である。

マンガン鑛採取高

(單位千噸)

	1913年	1928年	1932年	1937年	下記年度に對する 1937年の百分比	
					1913年	1932年
ソ聯邦……………	1 245,3	702,4	832,1	2 752,0	221,0	330,7
ロシア共和國……………	3,6	—	—	144,7	40倍	—
内 譯						
バシキール自治共和國……………	0,3	—	—	79,1	264倍	—
クラスノヤルスク地方……………	—	—	—	65,6	—	—
ウクライナ共和國(ドネ プロペトロフスク州)……………	275,9	530,6	443,3	956,9	346,8	215,9
グルシヤ共和國……………	965,8	171,8	388,8	1 650,4	170,9	424,5

第二次五年計畫期間中に操業を開始した新設熔鑛爐

工 場	新設熔鑛爐數	有效容積 單位立方米
全工場……………	20	18 814
1933年1月1日現在に於ける全熔鑛爐の數及び有效容積に對する百分比……………	19,4	51,0
オルゲヨニキツゼ名稱ザボロジスタリ……………	2	1 900
オルゲヨニキツゼ名稱アゾフスタリ……………	2	1 860
スターリン名稱マグニトゴルスク……………	2	2 360
スターリン名稱クズネツク……………	2	2 326
クリヴオイ・ローグ……………	2	1 860
ノヴォリペツク……………	2	1 860
ノヴォトウーラ……………	2	1 860
キーロフ名稱マケフカ……………	1	1 143
ヴオロシエーフ名稱(ヴオロシエーフグラート州)……………	2	1 680
ザエルシンスキー名稱(トネプロペトロフスク州)……………	1	930

企業地帯をなすものにして、その延長は二千軒に及ぶものである。ウラル鐵鑛地帯はイウデリハリロウオに至る間に連なつて居り、その埋藏量は十六億噸餘と言はれる。主要産地は、マグニトゴルスク(四億七千萬噸)、バカール(一億五千萬噸)、コマロウオ・ジガジンスク(一億噸)、タギーロ・クシユウインスク地帯(二億八千萬噸)、スターリンスク(舊クズネツ)近傍(三億噸)等である。この地方の巨大工場としては、マグニトゴルスク工場、クズネツ工場(各年産一億萬噸餘)及びウラルのノウオタギール新設巨大工場を擧げることが出来る。

更に東部シベリヤのアンガラ・イリム鐵鑛産地(約一億噸)があり、これはアンガラ河の廉價な水力とチエレムホウオ、トウングースの石炭を利用し得る點が注目される。また極東地方の小興安産地(二億噸)は、新しく發見されたブレイヤ炭田のコークス炭によつて一大冶金工場が生れる筈である。

鐵鑛採取高(單位千噸)

	1913年	1929年	1933年	1938年 (豫定)	下記年度に對する 1938年の百分比	
					1913年	1933年
ソ聯邦……………	9 213,5	7 997,1	14 454,5	26 529,7	288,0	183,5
ロシア共和國……………	2 825,5	2 398,1	5 462,9	10,459,8	370,2	191,5
中央地方……………	564,3	534,8	717,8	1 388,2	246,0	193,4
ウラル……………	1 778,0	1 762,7	4 256,5	7 729,1	434,7	181,6
シベリヤ……………	3,2	8,8	206,5	490,4	153,3倍	237,5
クルイム自治共和國……………	480,0	91,8	282,1	852,1	177,5	302,0
ウクライナ共和國……………	6 388,0	5 599,0	8 991,6	16 069,9	251,6	178,7
(總計に對する百分比)						
ソ聯邦……………	100,0	100,0	100,0	100,0	—	—
ロシア共和國……………	30,7	30,0	37,8	39,4	—	—
中央地方……………	6,1	6,7	5,0	5,2	—	—
ウラル……………	19,4	22,0	29,4	29,2	—	—
シベリヤ……………	—	0,1	1,4	1,8	—	—
クルイム自治共和國……………	5,2	1,2	2,0	3,2	—	—
ウクライナ共和國……………	69,3	70,0	62,3	60,6	—	—

(ウラル)、ウクライナの諸工場が擴張された外、ロストフ、サラトフ(コンバイン工場)、タシユケント(棉花收穫機械工場)の諸大工場が新設され、トラクター工場にてはレニングラード(クラスヌイ、プテロフ工場)、スターリングラード、ハリコフ、チェリヤビンスク等の巨大工場がある。

トラクターと密接な關聯ある自動車工場には、モスクワのスターリン工場、ゴリキイのモロトフ自動車工場、ヤロスラウリの大貨物自動車工場の三大巨大工場があり、モスクワのボールベアリング工場は世界最大のものである。

發動機製作に於てはハリコフのタービン發電機工場、モスクワ、レニングラードのディゼル機關、ガソリン機關諸工場が急速に増産を行ひつゝある。

製鐵及び鑛山用機械製作工場にはノウオクラマートル(ウクライナ)、ウラルマシユ(スウエルドロフスク)の二大工場がある。

工作機械製作は機械製作業の中樞をな

すものであるが、これは第一次五ヶ年計畫以來最も急激な發展を示した。これは主として、モスクワ、レニングラード、ゴリキイに集中され、工具はモスクワとウラルに集中されてゐる。

運輸機械に於ては、帝政時代の工場は改装されて全く面目を一新し、最新式強力機關車、電氣機關車、ディゼル機關車等が増大し、幾多の新工場が建設されたが、中にもウオロネーロフグラードの工場は最大のものである。車輛製作も大部分大型貨車製作に移行し、タギール工場は特に強力なものである。

造船は最も立運れた部門であつたが、近年之に力を用ひ、海洋、河川用船舶の建造は共に急激に發展しつゝある。主要造船中心地はレニングラード、ニコラーエフ、セワストポリ、浦鹽、コムソモリスク等である。まだ河川用船舶建造基地はゴリキイ、ゼリコーヌイ・ドール(カザン附近)、モロトフ(舊ベルミ)、クラスノアルメイスク(スターリングラード附近)、キエフ、チューリメン(オビ河

域)等が主なるものである。

主要機械製作高

	一九三三年	一九三八年(豫定)	増大率倍
金屬加工及機械製作生産額(百萬留一九三三年價格)	一一,三三三	三三,六三三	三・〇倍
自動車(千臺)	四九	三二一	四・三
機關車(臺)	九四	一,六二六	一・七
大型機關車(臺)	三三	一,〇三五	一
貨車(千臺)	三三	四九	二・三
金屬地斷機(千臺)	三	五四	二・六
蒸氣灌(千平方米)	一七	二四〇	一・三
ディゼル機關(千馬力)	六三	二六一	二・八
無限軌道トラクター(千臺)	二	三三	一五・三
コンバイン(千臺)	九	三三	二・七

註：自動車、鐵道車輛の詳細は交通の部參照。

化學工業

ソ聯邦には化學工業の主要原料たる磷灰石、鹽化曹達、鹽酸加里、芒硝、硫黃、硫化鐵、クロム鑛の世界的に豊富なる資源を有してゐることが明らかであるが

現在未だ完全に利用されてゐるとは言はれない。ソ聯邦化學工業の主要部門は曹達工業、磷酸肥料、加里及窒素肥料工業、硫酸工業、合成ゴム工業、アニリン染料工業、プラスチック・コークス化學工業、酒精工業その他であり、一九三三年以來次の如き急激なる發展を示した。

化學工業生産品

	一九三三年	一九三八年(豫定)	増大率倍
化學工業總生産額(一九二六—二七年價格百萬留)	三三〇一	六,〇九五	二・九
苛性曹達(千噸)	三三五	五三二	一・六
過磷酸鹽(〃)	六九〇	一,五七一	二・三
黃鐵鑛(〃)	四二五	九七六	二・四
アニリン染料(〃)	一六	三五	二・二
自動車タイヤ(千個)	六七三	三,五四八	五・三

纖維工業

纖維工業は第一次五ヶ年計畫中他の輕工業と共に、既存設備の改善擴張を主として他の重工業の如く、新しく大企業の建設を行はなかつたが、之は重工業重點主義よりすれば當然の歸結であり、この

事情は第二次五ヶ年計畫に於ても本質的變化を見得なかつたといふことが出来る。しかし最近原料基地工場の接近を計り、幾多新工場がこれらの地方に建設されつゝある。

纖維工業生産高

	一九三三年	一九三八年(豫定)	同上比率
棉纖維(千噸)	三七六	八三〇	二・九
木棉纖維(百萬米)	一四〇	二七二	一・九
毛織物(〃)	六六	一四	一・三
絹織物(〃)	三六	五九	一・七
男女靴下(百萬足)	二五〇	四四〇	一・七
メリヤス下着(百萬着)	一七	一三〇	七・七
上着(〃)	一七	一三〇	七・七
履物(百萬足)	九	二二	二・四

食料品工業

ソ聯邦食料品工業も第一次五ヶ年計畫中はさしたる増加を示さなかつたが、第二次五ヶ年計畫中に著しき増産に成功した。食料品工業の主要部門は製粉、製バ

ン、製糖、製菓、製肉、火酒、罐詰、漁業等であり、主要中心地は、ウクライナ、中央地方、沿ウオルガ地方、北コーカサス等であり、消費地に發展せるものにはレニングラード、モスクワがある。近年著るしく巨大綜合建設が計畫されつゝある。

食料品工業生産高

	一九三三年	一九三八年(概算)	同上比率
總額(九六—一七一年價格百萬留)	九,七六六	一九,八三五	二・〇
魚(噸)	一,〇〇三	一,五六〇	一・五
肉(〃)	四九	一,一四〇	二・三
腸詰燻製(〃)	四九	三九五	八倍
動物油(〃)	一四	一七	一・二
双白糖(〃)	九九五	二,五二九	二・六
パン及パン製品(〃)	一六,〇〇〇	二〇,五〇〇	一・三
菓子類(〃)	四八	一,〇三〇	二・一
卷煙草(十億本)	六	九六	一五・〇

最近の工業狀態

ソ聯工業一九三九年度成績
一九三九年度各生産關係人民委員部成

續及一九三八年に對する増加率がゴス
プラン(國家計畫委員會)から一九四〇年
一月十五日發表された。この發表に依れ
ば一九三九年度に於ける成績は九六四六
二・〇百萬留(一九二六年及一九二七年
の不變價格にて)であつて一九三八年
に比較すると一二三五八・三百万留(一
四・七%)増加であり、各部門とも一様に
増加を示して居るが、就中、機械及國防工
業部門に於ける増加が著しく、機械工業
に於ては一一、九七五・二百万留(對一九
三八年度比較一、四〇二・三百万留一八・
一%増)國防工業は一六、九三五百万留
(對一九三八年比較五三七八、八百萬
留四六・五%増)の好成績を示して居る。
石炭は二、〇六二・五百万留(九・二%
増)、石油は二、九七三・六百万留(四・
八%増)、黑色冶金は五、五二四・六百
萬留(四・七%増)、有色冶金は一、六一
八・九百万留(一四%増)、化學工業は四
三、四六・五百万留(一一・六%増)で之
に次ぎ、又各消費部門に於ては八・一%
(輕工業)乃至一四・二%(肉及酪農業)

の増産を示してゐる。
尙交通運輸部門に就ては海上運輸及河
川運輸に於て夫々二〇%餘の増産を示し
て居り、鐵道運輸に於ては六・一%の増
加を示し一晝夜平均貨物積載量は九三、
三七四輛である。

モスクワ州の工業生産

モスクワに於て開催された同市及びモ
スクワ州合同黨大會に於けるシチエルバ
コフ(モスクワ州黨委員會書記長)の報告
によれば、一九三九年度の同州(モスク
ワ市をも含めて)工業總生産高は計畫の
〇・九%を超過遂行し、二七、四二七
萬留で、全聯邦總生産高の二三・七%を占
め、一九三七年度の同州生産高に比して
三八・五%の増加を示してゐる。しかし
農産物の成績は不良で、粒穀物の收穫は
平均ヘクター當り八・八ツエントネル、
馬鈴薯は同じく六五ツエントネルで、牧
畜の發展も計畫未遂行に終つてゐる。

ソ聯石炭の節約状態

第十八回黨大會に於て燃料と電力の節
約が工業、農業及び公共經濟諸部門に對
する重要課題の一つとして決定された
が、これに關聯して、聯邦石炭工業人民
委員代理イー・クルマシヨフが一九四〇
年五月二十四日附ブラウダに「石炭の消
費を節約すべし」と題して發電所、冶金
工場及び鐵道運輸に於ける一九三九年度
の石炭の浪費が前年に比し著しい事實を
挙げ、今日まで燃料消費の問題を取扱ふ
統一機關なく國家計畫委員會がこの問題
に對して無關心なことは遺憾である、聯
邦人民委員會議附屬燃料及電氣事業會議
が新設された今日燃料消費節約強化のた
め積極的な方法を講ずべきであると論じ
てゐる。即ち聯邦發電所人民委員部關係
に於ては石炭の浪費が一九三八年の五六
萬噸に對して一九三九年は六〇萬噸以上
に上り、例へばゴリキイ國營地方發電
所では一キロワット時に對する石炭消費
量が一九三六年の〇・五八一噸が昨年に
は〇・六二六噸となり、レニングラード
第一國營地方發電所では同じく〇・七一

〇噸が〇・七七五噸に増大してゐる。ま
た冶金部門に於ては既に政府が一九三七
年一〇%の燃料消費節約をなすべき課題
を決定したに拘らず、これを遂行しない
ばかりではなく却つて消費量が増し、鉄
鐵一噸の製鍊に要するコークス消費量
が、ペトロフスキ工場に於ては一九三
六年九一五噸であつたものが昨年度は
一、〇二七噸となり、ウオロシロフ工場
では同じく九四五噸が一、〇五四噸とな
り、黑色冶金人民委員部關係の諸工場を
通じて一九三九年度のコークス超過消費
量は四六萬噸に達してゐる。また鐵道運
輸方面に於ても燃料の超過消費量は莫大
で、ゴリキイ鐵道の八萬二千噸、地方
鐵道の八萬五千噸、リヤザン・ウラル鐵
道の六萬八千噸、南東鐵道の十萬噸等總
計九十萬噸に上つてゐる。

クズバスとマグニトゴル
スク冶金基地連絡

一九四〇年一月、極めて短期間に敷設
を終了したカザフ共和國のアクモリンス

ク、カルタイ間の鐵道は延長八〇六軒あ
り、本年中に開通される豫定でこれによ
つてマグニトゴルスク冶金工場に對す
るカラガンダの石炭輸送路が著しく短縮
されるが、一九四〇年中にアクモリンス
ク、パウロダール間(四三三軒)、明年は
パウロダールよりバルナウルを経てスタ
ーリンスクに至る鐵道の敷設に着手する
豫定でこのマグニトゴルスクスター
リンスク幹線が達成する時は、クズネツ
炭田とマグニトゴルスク冶金基地との
最短輸送路となる譯である。

ドンバスの成績不良

ドンバスは彼のスタハノフ運動の發
祥地なるにも拘らず近年著しく沈滞状態
にあり、度々問題に上つてきたが、最近
其の成績不良は特に著しく、ブラウダ紙
も社説に於て此の問題を取り上げ、其の
内狀を曝露し痛烈に批判してゐる。これ
によればドンバスには嘗て摘發された官
僚的指導方面が又々復活し、有害分子一
掃後相當期間を経たるにも拘らず、同所

の有害行爲は依然として徹底的に清算し
切れない有様である。最近公布された
政府及び黨の決定中にも一九三三年四
五月の決定は二三年來石炭工業指導者よ
り全然忘却されつゝありと指摘されてゐ
る。近來ドンバスには炭坑より事務所
に歸還する技術員頗る多く、坑内技術員
の事務所に於けるそれに對する比率は甚
しく減少しつゝあるのみならず絶對數に
於ても著しく減少し、現在全體の僅々一
〇%が坑内に従事してゐるに過ぎない。
坑内に於けるかゝる専門技師及び技手の
減少の結果は、最新技術裝備を有する堅
坑の技術的指導状態を著しく悪化せしめ
生産力の停頓のみならずその減退を來す
に至らしめたものであると。

西部白ロシアに泥炭工場
新設

ソ聯邦は舊ポーランド占領地方に於け
る産業開發に大童であるが、西部白露西
亞バラノウイチ州にても一九四〇早くも
泥炭採取が組織せられ、ゴロディンチエ

ンスキイ、ノウオムシユスキイその他の諸地區に、十二の新泥炭工場が開設せられた。また春になつて更にバラノウイチ市近傍探査作業も開始せられたと。

石油の對獨輸送と國內需給状態

戦時に於ては血の一滴よりも貴い石油の産出の少ない獨逸にあつては平時石油の需要量は年六百萬噸、戦時二千萬噸と稱せられてゐるが、海上を封鎖された今日ソ聯の海路輸入は困難なわけだが、併し獨ソ經濟協定ではソ聯の對獨輸出が申合はされてゐるのだから、第三國を通じてか何かの方法で輸入されるに違ひなからう。例へば之はブルガリヤ方面からの情報であるが、ソ聯はドニエプル、プリピヤチ、ブグ、ドニエストルの各河流を繋ぐ大運河を急造し黒海バツムから石油を初め其他物資の對獨輸送を行ふと稱せられてゐる。併し運河は出来ても肝心のソ聯自體が戦時體制下にあつて莫大な石油需要を持ち、且其の

産油量は近年需要の激増に比較して増加してゐない爲め決して獨逸の期待するやうに都合良くは行つてゐない様である。ルーマニヤ油の供給確保に對する獨逸最近の執拗な活躍こそ是を裏書するものだと見られてゐるが、いづれにせよソ聯の對獨補給は却々困難の様である。現にソ聯政府發表の統計によれば昨年度(一九三九年)のソ聯産油高は二十九億七千三百六十萬留で一九三八年度に比較し僅か四・八%の増加であるといふ。是では國內に需要増加のテンポとは格段の相違である。一九三九年十月のソ聯報紙も一齊に次の様なことを發表しソ聯に於ける石油不足を訴へてゐる。

ソ聯は米國に次ぐ世界第二の産油國であるに拘らず石油が不足してゐる、これは第一に農業の機械化による激増と第二は國防方面の需要増加である、殊に舊波蘭領西部白ロシア及び西部ウクライの需要にも應じなければならなくなつた、最近西部白ロシアに對して七百萬噸の石油を送つたが、これは其

の端緒に過ぎないと論じてゐるが、是は正に其の通りであらう、尙米國側からの發表によるとソ聯が今次の歐洲戰亂以來米國から輸入したガソリンが百三十六萬バレルに達してゐる點など見るとソ聯の精油能力の程も窺はれる。

ソ聯最初の天然瓦斯發電所

北部高架索オルヂョニキーゼ地方のウオロシロフスク市に、同市及びその近郊一帯の地下に充滿する天然瓦斯を利用する最初の發電所が建設され、そのため四〇〇馬力の瓦斯發動機が製作された。現在坑井に貯藏された瓦斯は三萬立方米に達してゐる。尙同發電所は、市の一般家庭及び諸企業に對し九、〇〇〇キロワットまでの電力を供給する筈である。

ソ聯の石油と對外戦

(白耳義誌ルヴユ・ベルジュ評)

白耳義誌「ルヴユ・ベルジュ」はソ聯

邦の石油と對外戦争に關聯し左の如く論じてゐる。

ソ聯は過般の對芬作戰に要する石油を波蘭油田から得ようとした、これは一見奇異に感ぜられるかも知れぬが、ソ聯は今日國內に生産する巨額の石油を殆ど全部消費してゐるためである。是はソ聯における自動車化が進捗した結果でソ聯石油の輸出は一九三二年に於て六百萬噸だつたのが一九三八年に於ては五十萬噸に減少してゐる。且つソ聯の油田地帯は遠隔の地點にあるのだから波蘭の石油は對芬作戰等、西部に活動する赤軍の需要に應ずるのに便利である、併し波蘭の石油生産額は一九三八年に於て五十萬噸に過ぎず、ソ聯の芬蘭作戰における需要を満たすことが出来ない、ソ聯の石油管は裏海及び黒海に達し黒海の最大石油港たるバツムはトルコ國境から二十五軒の地點にあり、又裏海の石油港たるバクーはイラン國より遠からず是は英佛とソ聯との衝突を招來

する可能性がある。

カザフスタンの送油管改造

カザフスタンのグリーエフとチユカイロフ州のオルスクとを結ぶ送油管はエンバ油田(カザフスタン)石油をハリロウオ・オルスク工業地帯に供給する重要役割を演ずるものであるが、近年同油田の産油高の激増に伴ひ、送油管改造を要求されてゐたが、一九四〇年五千餘萬留を投じていよいよ着手することとなり既にそのプランを完成した。同年末には第一期の工事を終了する筈であるがこれによつて送油量が倍加されるといふ。

ノウオ・タギール冶金工場建設進捗

中部ウラル最大の鐵礦産地たるタギール・クシュワ地方の中心地ニージュニイ・タギールに巨大なるノウオ・タギール冶金工場の建設を急ぎつゝあつたことは周知の通りであるが、近着プラウダ紙によれば、同工場の建設事業は著しく進

捗し、全工事完成の暁にはかの強力なるマグネトゴルスク及びクズネツツの巨大企業にも劣らざる大冶金工場が出現するであらうと言はれてゐる。

即ちノウオ・タギール冶金工場は今や社會主義工業企業の體列に加はり、自己の進歩的技術によつて建設されたソ聯邦最大の黑色冶金企業の一となるに至つた。

熔鐵職場の第一部は一、一〇〇立方米の熔鐵爐二基を含み第二部にては一、三〇〇立方米の熔鐵爐同じく二基を建設される豫定であり、同職場の一ヶ年生産力は鉄二百萬噸に達する。工場はまた二つのマルチン職場を有し、現在第二職場の建設が進捗中にして同職場は一〇〇噸爐三基よりなり、一ヶ年鋼鐵三十萬餘の生産能力を有する。計畫によれば將來六基にまで擴張され得る筈である。第一職場は二二〇―二五〇噸のマルチン爐八基を有する筈にして、一ヶ年の生産能力は鋼鐵百五十萬噸と計算される。壓延職場は強力なるブリュミング(分塊壓延機)

その他三機より成りブリュミングの一ケ年製造能力は鑄塊五十萬噸である。これは一ケ年百二十萬噸の金屬を製出する同工場の車輛工場は一九三七年操業を開始し一九四〇年度には一ケ年製品十五萬噸の能力を有する大規模な車輛壓延機が運轉を開始する豫定である。

無錳鋼の新製法

モスクワ學院電氣冶金學講座教授サマリシ及びポリヤコフ工學士指導の下に電氣爐によらずマルテン爐で、しかもフェロ・クロームの如き高價なる無炭素鋼を使用せずに無錳鋼を製造する新方法を發見した、此方法によれば熔鑄過程に於て直接硅酸クロームに還元されるクローム鋼によつて鋼合金を得るもので、ポリヤコフ工學士指導下にソ聯邦最初のマルテン爐式無錳鋼八噸を製出した、此の新製法は極めて安價で鑄及び還元材料費は熔解金屬一噸に對し僅かに一九二留にしか當らず、若し電氣爐で製造すれば無炭素フェロ・クローム一、八〇〇留乃至一、

九〇〇留を要するといはれる、ノギンスク「エレクトロスタール」工場のマルテン爐で試験的に十五噸を製造し其の結果により前記新製造を一般に採用する豫定であると。

ソ聯の稀金屬自給問題

一九四〇年一月四日附ブラウダ紙上に於てソ聯邦有色冶金人民委員部技術協議會員エル・ウエーレルは「我國埋藏稀金屬の完全利用」と題し大略左の如く述べてゐる。

ソ聯邦國民經濟の稀金屬消費(ウオルフラム、モリブデン、アンチモニー、錫その他)は現在のところ、ソ聯邦國內の生産では完全に満たされて居らず、一部は輸入に仰いでゐる。われわれは全然稀金屬の輸入なくして済まし得るが、然し乍ら現在のところ單に之等の鑛山からモリブデンを採取してゐるのである。近い將來に、モリブデン、ボルフォラムのツイルヌイ・アウズク大鑛山の採掘が實施された後と雖も結果に於ては、ソ聯

邦に於て發表された全モリブデン埋藏量の五分の一に過ぎないであらう。問題はソ聯邦のモリブデンの大部分(七〇%以上)が、コウンラード、ビルドウダン、アガラツク、ボシエクリ、キヤルイフ・ウゼーニ其他の鑛山の銅鑛中に、附隨鑛としてあることである。處が現在之等鑛山中の一つだにモリブデンを採取してゐない。斯様な狀況は他の極めて重要な金屬コバルトの採取にも見られるところである。稀金屬局に屬するコバルト鑛山に於ても全コバルト埋藏量に對し、憐れむべきパーセンテージを含有してゐる。ソ聯邦のコバルトは八〇%以上ニッケル鑛に、又約一八%は鐵及びマンガン鑛に附隨してゐるのである。正に同様に本邦の蒼鉛諸鑛山に於てもこの金屬の全埋藏量の一三%を含有してゐるに過ぎない。殘餘の凡ての蒼鉛は金、錫、ボルフラム、鉛、亞砒の附隨鑛である。

斯様な例は多數にある。或る種の金屬例へばカドミウム、セレニウム、テール、インデニウム、ゲルマニウム

其の他も全然本來の鑛山がなくすべて附隨金屬であつて、只之等を隨伴する金屬の半製品及び殘滓より採取出来るのである。稀金屬を多量に埋藏する鑛山の内容の研究と並んで、有色及び黑色金屬鑛の採掘に當り、之等金屬の最も集約的な隨伴採取が必要なることは明白である。遺憾乍らソ聯邦にはかくも必要な稀金屬を獲得する、この大源泉の利用は現在甚だしく微力なものである。ソ聯邦は現在ヴァナヂウムはクシン及びケルチエンの鐵鑛より、セレニウム、テルトルを銅の電解生産の殘滓より、カドミウムを亞鉛生産の殘滓より、蒼鉛を鉛精鍊の殘滓及びヴォルフラム撰鑛工場の塵埃より、又コバルトはニッケル鑛よりその一部を採取してゐる。附隨的なヴォルフラムの少量が金及び錫鑛山で採取されてゐる。處が稀金屬のこの隨伴採取はソ聯邦の原鑛の含有量に比較して現在のところ極めて少量である。隨伴採取の不振に於ける此の凡ての禍根は企業、調査及び計畫機關局及び人民委員部に於て多數の從

業員が只一種の主要金屬の採取に専念してゐるところにある。要するに彼等は無理解と無學によつてか、逡巡と惰性からか國民の富の奇怪な逸脱を默許してゐる。ソ聯邦の經營組織者及技術家等は稀金屬に關しそれ等の國民經濟並びに國防に對する性質と意義に就てははば漠然とした紹介をしてゐるに過ぎないのである。然りわが原料資源の状態では稀金屬の輸入なくして済まし得る。稀金屬の原料採取及びその生産はソ聯邦に於ては、比較的稀金屬に豊富な鑛山を經營してゐる有色冶金人民委員部の稀金屬局によつて占められてゐる。之等鑛山の埋藏量はソ聯邦に於ては、發表された稀金屬埋藏量の小部分に過ぎない。例へば稀金屬の鑛山(チコイ、ウマリフタ其他)に於けるモリブデンの埋藏量は、ソ聯邦に於て調査済のモリブデンの全埋藏量に對し極めて低い比率を構成してゐる。

滿俺鑛減産と輸出減少

ソ聯邦の冶金業は同國工業中の最重要

たるもので、其の發展建設の動向は世界の注視を集めてゐるばかりでなく金屬生産の分量如何は工業部門の生産高と全國國民經濟の發達の限度を決定する事が出来る、其の決定的意義を有せるソ聯邦黑色冶金中の重要輸出品たる滿俺鑛を本邦に於ては一九三二年度以來輸入を見、其の當初における輸入高は左の通りである。

年度	數量 (單位噸)	價格 (單位留)
一九三二年度	六、八〇七	五七
一九三三年度	四八、五六五	三九七
一九三四年度	四三、一二九	二二二

一方ソ聯邦に於ける滿俺鑛の埋藏量は如何といふに五億噸と推定せられ、最も大なる産地はグルヂヤ(二億五千萬噸)で次にウクライナ(一億一千萬噸)、他にウラル州、東西シベリア、カザツクスタン等に多く、大産地のグルヂヤは重工業に必要な水力を豊富に恵まれ、チアトラーに於ては滿俺の三分二を占め、現在の採掘は機械化され、戦前より三・五倍の増加を示してゐる、ウクライナは、ソ聯邦の最も資源豊富な部分で開發上の地理状態は極

めて良好、多く満俺鑛を産出してゐる。最近に於けるソ聯邦滿俺鑛生産高は一九三六年、三百萬担一九三七年、二百七〇萬担に減じ一九三八年の生産課題を三百二〇萬担と發表してゐるが、過去數年の生産状況には必しも發展が伴つてゐない様である。併し豊富なる富鑛を有するソ聯邦に取つて滿俺は重工業發展に不可欠の前提を具備してゐるものである。グルヂヤの滿俺は多くポーチ港經由、輸出されてゐるが、最近の主要なる各國向輸出状況を示すと、

	一九三六年度(担)	價格(千留)
米 國	二四二、九九六	八、七三二
佛 國	一五三、〇〇三	五、〇〇六
白耳義	六〇、二二八	一、七八三
波 蘭	四一、二〇九	一、三八五
伊太利	三〇、四六〇	一、一五七
日 本	一五、三三二	六一一
獨 逸	二、二二二	二七六

戰亂勃發以來ソ聯邦の外國通商も多く停頓の状態であり、滿俺の輸出も漸落を辿つてゐるが、一方國內の消費量も巨額

に上り、多量のストックもあるが最近の生産不良を反映して現在一年の輸出高を三十五萬担と目されてゐるもので、かつて需要の半數を供給受けた獨逸は現在、ソ聯邦よりの輸入量の減少(九分の一)に最も深刻なる滿俺鑛不足を悩むに至つてゐる。

錫の節約及代用品の奨励

錫工業はソ聯邦では最新の工業部門であるが、政府當局は現下の錫不足に悩み種々對策をめぐらし、錫使用の節約、代用品の奨励等を行つてゐる、併し所期の目的は達せられてゐない模様で深刻なる不足難に當面してゐることは政府機關紙イズウエスチャ(三月二十日)の「錫を節約せよ」なる記事がこれを物語つてゐる即ち

ソ聯邦鑛業に使用する製罐用錫は年約二千噸で、一九四二年には三千噸に増加する見込みである、今一噸のブリキを製造するに工場により二乃至二五キロを消費し、米、英、佛では僅か

に一四—一六キロに過ぎない、従つてソ聯邦における錫の冗費は年四百噸、即ち金額にして約九百萬留である、従つて自動車、トラクター、デゼル、モーター等に使用する高度錫含有のベビットの代りに近年錫含有一〇%の砒素含有ベビットを代用してゐるが、スターリン、チェリヤビンスク、スターリングラードの如き大トラクター製造工場でも未だ此種のベビット使用を躊躇してゐる、錫の代用品を作る一方其の消費標準を引下げ、且つ製品の強化を計る必要があるが、自動車ZIS—5號製造に當り現在の技術水準ではベビット二、五キロを要し、燃減り其他に七三〇グラムが消耗されてゐる。

ブリキ屑から錫抽出法發見

錫に不足してゐるソ聯邦では一九三九年末から頻りに南洋錫の買附をしてゐるが、最近ペルミの一銅工がブリキ屑から錫を抽出する方法を發見した。それは電鍍金法によるもので彼はブリキ屑一噸か

ら錫二三〇担を得た、尙一晝夜に三〇〇担生産の設備を完了した由。

白金代用合金の發見

モスクワ白金器具製造工場は金屬及び化學加里分析用電氣爐の製造を行つてゐるが、此の分析爐には千度以上の加熱を要する爲め加熱器の針金に白金を使用し、其の白金消費量も年五十担に達してゐるので白金代用金屬の研究を行つてゐた處、此程クロム・アルミニウム鋼の特殊合金を代用する方法を發見し試験の結果極めて良好であつたので同工場は代用金屬製加熱器各種電氣爐の製作に着手したが此の代用合金の使用によつて従來高價な白金の消費額百萬ルーブルを節約することになつた。

重機械製作人民委員部一九三九年度實績と一九四〇年度課題

一九四〇年二月十五日開催の聯邦重機械人民委員部關係者大會に於て人民委員

ウエー・ア・マルインヨフは一九三九年度の實績に關して、

總生産高は一三・七%の増加を示し、ウオロンロフグラード汽關車工場を除き他のすべての工場は生産増加をなし勞働生産能力も前年度に比し二一・七%、計畫より五・七%の向上を見た。併し全體としては生産計畫の九二・五%を遂行したに過ぎない、計畫に豫定された機械の一部は遂に製作されず、生産費の引下げも充分實現されなかつた。また不合格品の製作と金屬の浪費も甚だしく、工作機製造工場「クラスヌイ・プロレタリイ」では三七%、ウオロンロフグラード汽關車工場では「FD」型機關車製作に際して六六%の鐵を浪費した。即ち不合格品の製作は一二三百萬留、金屬の浪費は二〇〇百萬留に達してゐる

と報告し、一九四〇年度課題に就いては、生産高を一四・八%増加せしめ、就中冶金設備、鍛工壓搾機、汽關車、各種工作機、高速及び瓦斯チエネレーター、

デイーゼル等の生産擴充をはからなければならぬが、それが爲めには金屬の浪費を徹底的に清算し、設計圖の速成を廣く採用することが必要である。また現在重機械製作工場に八千人の技師が配置されてゐるが、四六%は工場の事務所に座つてゐる。ところが一方數千人の職場の指導者中技師が三三五人に過ぎない状態である

一九四〇年重機械製作の展望

第三次五ヶ年計畫に於て「黑色及有色冶金用設備の生産並びに大量の勞働力を要する作業を機械化するための諸設備の生産擴充」と、「各種工作機械の生産を保障し、高度の生産能力を有するもの及び特殊工作機械、就中自動式並びに半自動式工作機械の比率の向上をはかるべき」課題を與へられたるソ聯邦の重機械製作は、第三次五ヶ年計畫の三年目である

年度に於て如何なるプログラムを有するか。聯邦重機械製作人民委員ウエー・マルシヨフは、これに關し一九三九年末ブラウダ紙に「一九四〇年に於ける重機械製作」と題する論文を掲載してゐるその要旨左の如し。

第三次五ヶ年計畫の最初の二年間（一九三八—三九年）に於て吾々は四個の熔鑛爐と四個のマルテン爐の完全なる設備を製作した。また數千臺の工作機械を作り、特に自働式及び半自働式工作機械の生産を二・四倍に増加せしめた。製作されたダイゼル機關は數十萬馬力に及び機關車、車輛各種起重機、トラクターも夥しき數に上つてゐる。

一九四〇年に於ける重機械製作は新發展をなし、三九年に比し一六%の増産をなし、若干の部門工作機械工場に於ては三〇%、鍛工壓搾機械製作企業に於ては三五・五%の生産増加をはかり更に吾々は六個の熔鑛爐と十四個のマルテン爐の設備を完成しなければならぬ。三九年度に比して熔鑛爐は三倍

マルテン爐は六倍である。而して吾々の目的は最近の技術を以て造られた冶金設備をなすことである。即ち一九四〇年度製作の熔鑛爐の起重機は秒速三米で十二乃至十五噸の重量に堪え得るものでなければならぬ。その他の各部分もこれに應じてその性能が著しく強化されるであらう。また今日まで製作されたことのない新しい複雑な機械も生産される筈であるが、そのうちで最も興味あるものは大型掘鑿機で、それは二五基の發動機と五基のモーター用ジェネレーターを有しドラツグラインの支柱の長さが五〇米あり一時間の掘鑿量が五四〇立方米に及ぶものである。次に工作機械製作に於ては特に高能率の自働式及び半自働式工作機械の生産を、七六%増加せしめ、その比率を五・七%より七・六%に引上げる豫定であり、鍛工壓搾機はその生産が激増されるばかりでなく、三十二種の新製が製作される筈で、既に「ウラルマシユ」工場では八千噸の巨大なる壓搾

機の製作に着手してゐる。蒸氣機關車はテングー・コンデンサー附「SO」型が五七%、旅客列車用「IS」型が七一%の生産増加をなし、最近ウオロシロフグラード及びコロムナ工場で造られた最初の二個のダイゼル機關車も試運転に於て好績を収めたので、一九四〇年には大量製作に着手されるであらう。その他工具製作工場に於ては最新式の硬質合金の刃を有するグリツソフ式カッター、冷却装置のある穿孔機、螺旋截用バイトその他の大量生産をなし、運搬機械工場に於ては一時間五〇立方米の能率を有する無限軌道式積載装置や強力なる萬能起重機等の國民經濟上極めて重要な新式機械と最も簡単な構造の小型運搬機械の大量生産がその課題となつてゐる。

かくの如く一九四〇年度に於ける重機械製作の特徴は、新型及び新構造の機械の生産に重點を置いたことである。隨てこの課題を遂行するために先づ設計の速成が必要である。この方法は工

作機械製作工場「クラスヌイ・プロレタリー」で試みられ、十五日間に四個の新型工作機の設計圖を完成して好成績を収めたが、従來は數ヶ月をこれに要したものであつた。第二は生産能率を更に向上せしめることである。既に吾々は三九年度に於て前年度に比較して二二%の増産をなし、生産の増加は殆んど全部これによつたのであつた。而も労働者の數は三八年に比しその數が少なかつたのである。それが爲にはスタハーノフ運動を更に深く行き渡らしめ、労働者一人の操作する工作機械の數を殖し、個々の作業を機械化する簡単な装置を廣く採用し以て作業のノルマを向上せしめなければならぬ。また生産費の節約も重大意義を有つてゐるが、その實現のためには浪費防止の徹底が絶対に必要である。三九年度の重機械製作に於ける不合格品の生産は九ヶ月間だけで實に一億留の多額に上つてゐる。四〇年に於ては斯くの如き現象を決して繰返してはならぬ

い。次に必要なのは金屬の—特に有色金屬の節約であるが、これは三九年度に於ては極めて微々たる結果を齎したに過ぎなかつた。多數の重機械製作工場に於ける金屬の利用程度は未だ低く例へばウオロシロフグラード汽關車工場で「IS」型機關車の製作に於ける金屬の使用率は〇・六六%であつて、即ち三分の一の金屬が廢物となつてゐる譯である。工作機械工場に於ても同様で、オデッサのレーニン穿孔機工場は廢物金屬は三〇—四〇%である。また三九年度に試験された有色金屬の代用品の使用も四〇年には廣く採用されるであらう。最後に吾々は、舊式の生産設備を改造しなければならぬ。これは決して輕視すべからざる重大問題である。

以上述べた所は一九四〇年度に於ける重機械製作のプログラムであるが、これが遂行に當つては最も嚴重なる規律を必要とすることは勿論であつて、それは各工場の指導者の責任である。

新型貨物自動車試作

最近ゴリキイ市のモロトフ自動車工場では新型貨物自動車「GAZ—五一」を試作した。同車は六氣筒のモーターを有し、載積量は二噸、最大時速は一二〇軒で本年に大量製作に着手される筈である

航空工業、中機械製作

人民委員部經費節減

ソ紙報道によればソ聯邦航空工業人民委員シャフリンは同委員部の經費三割減を命令した。節減の對象となつたのは各課長級の乗廻す自動車の使用制限、出張制限、官費による部員用物資及び劇場映畫館の切符購入の嚴禁等で、殊に部員の出張は人民委員代理の許可を絶対に必要とすることになつた。尙ほ中型機械製造人民委員リハチヨフも同様の經費節約命令を出したが、同人民委員部自動車運輸課の經費節約のみでも數萬留に達する。

自動車工業の課題

ソ聯邦の自動車工業第三次五ヶ年計畫に於ける重要課題に關し最近ソ聯邦側の發表によれば瓦斯發生器附自動車の大量製造、五馬又は其以上の積載力を有するダイゼル・モーター附重量貨物自動車製造、輸送費の低減を保證する車體の製造、自動車の廻送を速かならしむること輕量自動車（ベンチン消費量の少い自動車を含む）の新しい形式の製造すること等である。因みに一九四二年には自動車の臺数は二百萬臺以上に達するであらうと言はれてゐる。

ソ聯邦の機械化強行と勞働力

ソ聯邦全國民經濟の技術的改造の指導的役割を爲すものは機械工業であり、又機械工業が此の目的を遂行するためには其の動力の基礎たる電力に待たなければならぬがソ聯邦工業の電化は最近著しく、裝備率を増大してゐる、即ち第一次五年計畫に於て電力生産量は一三五億KW、第二次五年計畫期には三六四億KW

WH、約二・七倍に増大してゐるが、第三次五年計畫によれば一九四二年度の發電量は七五〇億KW、即ち第一次計畫の五・五倍になる豫定である。

右の如き發電量の増加及び工業の機械化も、之に従事する勞働者なくては死せる物に過ぎぬ。第一次五年計畫期以降の固定資金の加速度的増大に伴つて新たな勞働力の補充が要求され、第一次五ヶ年計畫期に於ては人口の自然増加により第二次五ヶ年計畫期に於ては主として農村の餘剩勞働によつて補足されたが、熟練度の低い農民に更迭された生産設備の完全な使用、即ち新技術の獲得は極めて困難な課題であつた、現在熟練工の問題は當時に比較して著しく緩和されたとは云へ依然として重要な問題として残されてゐる。

新式機關銃の發明者デグチャレフに博士號授與

優秀な性能を有する新式機關銃の發明に依り、聯邦最高會議幹部會よりスター

リンに次いで二回目の「社會主義勞働英雄」の稱號と賞金五萬留とを授與されたデグチャレフ（ワシリー・アレクセーエウイチ）に對し、此度最高學位審査委員會では工學博士の學位を授與することを決定した。ブラウグ紙の報道に依ればデグチャレフは本年六十歳、親譲りの鍛冶工から獨學でたゞき上げ遂に各種自働銃の設計家として三十五年間の經歷を有する權威者となつたもので、レーニン勳章、赤星勳章、名譽發明家章を有してゐる。

大電話機工場新設

聯邦通信人民委員部は一九四〇年度に於てモロトフ市（舊ベルミ市）に新電話機具製作工場の建設を開始することに決定した同工場は最新技術裝備を施したる優秀工場にして一ヶ年各種の最新式電話機約一八〇、〇〇〇臺の生産能力を有し、操業開始豫定は一九四一年である。

分析用精密秤の發明

イズウエスチヤに依れば、ロストフの衡器工場の職工長シユクレンコは此度獨特の構造を有する分析用精密秤を發明した。これは從來のものとは異なり秤皿は一つでその上に重量をはかる物體と分銅とを同時に載せ、秤皿から除去つた分銅の數量によつて〇・一ミリグラムまでの重量を迅速にはかり得るものである。

塗色法の機械化

現代に於て一切の機械其他の設備に塗料を使用しないものはなく、ソ聯邦に於ても此種の塗料に對し毎年十億留を消費する、普通塗料は手式的作業によるが、表面塗色にはコンプレツサー式方法を廣く採用する、併し此方法は手式に比し遙かに能率的であるが、人體に有害なる塗料を噴霧する缺點があり、且つ此の装置は移動にも不便である、従つて車輛製造、造船等には餘り使用されてゐない、最近前記の諸缺點を除き、且つ大小の物體を自由に塗色する萬能機械をフェフェルボイム技師が創案した、是は一種の電流計

式、水壓式、特別タービン式ビートル型噴霧器である、昨年四月中央機械製作科學試驗所のテストによると噴霧状態を呈せず、コンプレツサー式に比し能率は三倍手式に比し二五倍と發表された、同器の缺點はビートル型噴霧器の取替には手をもつて爲さねばならぬが、若し是が機械化されたら一器の色塗能率は一時間千平方米にまで引上げることが可能である。

ソ聯製機械の非堅牢性

最近モスクワに於て兵器人民委員部、一般機械製作人民委員部、農業人民委員部、學士院關係者等參加の機械磨損防止に關する研究會議が開催されたが、席上機械部分品の磨損率低下、ボールベアリング製造用新材料及び合金の發見のほか有色金屬代用品の發明等に關する成績發表があり、殊に注目を惹いたのは齒車磨損防止、航空機用モーターのピストン・リングの堅牢性を高める問題に關する報告であつた。

右に就て學士院副院長チユダゴフはプ

ラウグ記者に、ソ聯邦は帝政時代に出來なかつた飛行機、自動車、トラクタ等を製造してゐるが、如何なる種類の機械たるを問はず其の完璧を期し、其の性能を向上せしめるのは吾人の最大責務であるが、此の過程において最も障害となつてゐるのは機械における堅牢性の缺如であると語つてゐる。

電氣工業一九三九年度成績

一九三九年度に於けるソ聯邦電氣工業の成績に關する綜合的數字は未だ判明しないが大體に於て地方發電量は三〇三億KW時（前年度に比し九・七%増）、火力發電量は一五・三%増、電氣機械製作工業は量的にも幾多發展を遂げ電氣工業人民委員部所屬工場に於ては約千五百名の多數機臺受持員が五千機臺以上を操作してゐる模様である。

ソ聯邦最初の電氣計量器工場

前年末モスクワ近郊のムイチンチにソ
聯邦最初の電氣計量器製作工場が建設さ
れた。一九四〇年早々操業を開始する筈
であるが、同年度は家庭用のもの十五萬
個製作する計畫である。

ソ聯邦の再生護謨工業

ソ聯邦ザ・インドウストリザ・チユ紙
は「再生護謨生産の昂揚」と題し屑護謨
の利用に關し大要左の如く述べてゐる。
使用を果した護謨製品(タイヤ、チユ
ーブ、オーバートンニューズ及び採温器)
が塵芥置場へと搬入され、集積される古
護謨の山―之は我々に必要な原料護謨の
幾千噸と云ふものに外ならない。此の最
も價値ある廢物を新たに役立てる爲に
は之に加工し、この護謨を原料護謨の最
初の性質に還元しなければならぬ。再生
護謨の生産は現在の護謨工業と同時に生
れたのでロシヤに於ける最初の再生護謨
工場は、一九〇五年に「トレウゴリニツ
ク會社」で作業を開始し、一九一二年に
はモスクワに再生護謨生産が出現した、

然し再生護謨の大量消費は革命後で之を
促進せしめたものは一九三三年ヤロスラ
ウ再生護謨工場の建設と、一九三七年に
再建を完了し、現在ソ聯邦護謨企業中最
も完全に機械化されたレニングラード再
生護謨工場であつてソ聯邦に於ける再生
護謨の消費は十年間に一倍に増加した
然し乍ら最近の二年には反對の傾向が現
はれ、再生護謨の消費は減少して居る、
即ち一九三七年の再生護謨の消費を一〇
〇%とすれば、一九三八年には八二%、
一九三九年の九ヶ月間には僅かに五七%
となつてゐる。一九三七年に於ける現在
の護謨工業局の企業に依る再生費が原料
護謨に對し六七%とすれば本年(一九三
九)は此の釣合は四四迄低下して居る。
米國に於ては十年前に既に大規模の再生
護謨工場が約二百存在したのに、ソ聯邦
に於ては僅かに四個の再生護謨工場(イ
ワーノウオ綜合企業に屬する底護謨の大
工場を算入して)しか存在せず、且つ再
生護謨の消費が減少しつつあると云ふ看
過し得ない此の情勢は何を以て證明せん

か。それは只ソ聯邦護謨工業の指導者達
の先見の明を缺くことによるのである。
千八百萬留を投資したキエフ再生護謨工
場は年六千噸の生産能力を整備したが何
時動き出すのかは不明である。カザン工
場の建設は一九三七年に停止されたまゝ
になつて居りトウベリ工場のは數年前に
敷地が撰定されたが立消えとなり、ロバ
スネレ工場(モスクワ)は護謨工業局に
よつて一九三九年中に開始されなければ
ならぬが遺憾乍らその準備は極めて些々
たるものである。

ロシヤ共和國漁業及輕工 業一九三九年度生産高

ロシヤ共和國の漁業は一九三九年末ま
でに同年度計畫の一〇三・七%を遂行し
八十九萬六千八百ツェントネルの魚獲を
あげたが、前年度に比し十萬ツェントネ
ルの増獲である。輕工業は全聯邦を通じ
て同三十日に計畫を遂行し、總生産高は
七五億九千三百萬留であつた。また聯邦
食料品工業人民委員部所管の製菓業は全

聯邦を通じ同二十九日同年度計畫を遂行
十二億三千八百五十萬留の總生産高をあ
げた。

貴重諸元素の新製造法

セリニウム、ランタン、ネオヂニウム
等の諸元素は多くの工業部門に缺くべか
らざるもので、特殊合金、瓦斯白熱燈、
陶磁器、特殊レンズ、人造纖維其他の製
造に際して廣く利用され、ソ聯邦は今日
まで多量に輸入してゐたのであるが、プ
ラウダ紙によれば、此度肥料研究所のウ
オリフコーウイチ教授とローギノワ女
史兩名はこれらの貴重なる諸元素を磷灰
石より製出する方法を發見し、近くモス
クワ郊外のウオスクレセンスク化學綜合
工場でこの方法により製造を開始する筈
で、磷灰石を多量に産するソ聯邦にとつ
てはこれによつて國民經濟上得るところ
の利益は極めて大なるものと同紙
は述べてゐる。

纖維工業一九三九年度実績

一九三九年度に於ける纖維工業の計畫
遂行率は一〇〇・〇一%にして、之は各
部門別に見れば次の通りである。即ち計
畫を超過遂行せるものは本棉工業、絹織
物工業、棉花第一加工業、亞麻第一加工
業、本麻第一加工業、羊毛工業等にして
計畫未遂行部門としては亞麻工業、大
麻・黃麻工業、人造纖維工業、絹紡績工
業、洗毛工業、鞣皮纖維工業等の各部門
を初め、半以上の部門は未遂行に終つた
また之を各加盟共和國別に見れば、ロシ
ヤ、白ロシヤ、グルジヤ、アルメニヤ、
キルギース、トルクメン、タヂック、ウ
ズベツクの各共和國纖維工業人民委員部
は計畫を超過遂行したのに反し、ウクラ
イナ、カザフ、アゼルバイジャンの各共
和國のそれは著しく計畫未遂行であつ
た。しかしその詳細については未だ發表
されてゐない。

輕工業一九三九年度実績

一九三九年度に於ける輕工業の計畫
遂行率は一〇〇・〇一%にして、之は各

部門別に見れば次の通りである。即ち計
畫を超過遂行せるものは本棉工業、絹織
物工業、棉花第一加工業、亞麻第一加工
業、大麻第一加工業、羊毛工業等にして計
畫未遂行部門としては亞麻工業、大麻・
黃麻工業、人造纖維工業、絹紡績工業、
洗毛工業、鞣皮纖維工業等の各部門を初
め、半以上の部門は未遂行に終つた。ま
た之を各加盟共和國別に見れば、ロシヤ
白ロシヤ、グルジヤ、アルメニヤ、キル
ギース、トルクメン、タヂック、ウズベ
ツクの各共和國纖維工業人民委員部は計
畫を超過遂行したのに反し、ウクライナ、
カザフ、アゼルバイジャンの各共和國の
それは著しく計畫未遂行であつた。しか
しその詳細については未だ發表されてゐ
ない。

食料品工業の建設進捗

食料品工業に於ける建設事業は可成り
の進展を示し、一九四〇年に入りすでに
一〇〇以上の大企業が操業を開始して居
り、食料品工業生産は著しく増大された

と報せらる。
 即ち一九四〇年稼行開始せる製パン工場は二三工場にしてその製造能力は一ヶ年パン及び菓子製品約三十萬噸に達し、その中強力なるものは極東一三、ウクライナ一五である。又アルマ・アタ、フルンゼ、テルミエーゼ(ウスベキスタン)トルクメンに各一工場が完成する。製茶工業に對して多大の援助を與へつゝあり、製茶工場建設第二期工事(生茶四、三〇〇トンの加工能力を増加する)の完成の外、一九四〇年グルジャに加工力生糸一、八〇〇トンの工場三、壓縮工場二が建設される。更に醸造工業に於ては八つの綜合企業及び工場が建設を開始し、又一ヶ年五萬八千トンを製造する製菓工場六が新設される。第二・四半期にバター工場ナリチク及びクラスノダール製菓綜合企業第二期工事が完成される。ゴリキ、カザン及び極東に化粧石鹼の大工場が設けられ、又全國に五つの香油工場が新設される。年千五百萬噸の生産能力を有つハチマス罐詰綜合企業及び冷凍果

全ソ聯邦双目砂糖生産高

地方及共和國	1913—14年度	1927—28年度	1932年度	1937年度	1937年度の下記年度に對する百分率	
					1913—14年度	1932年度
單位 千「ツエントネル」						
ソ聯邦	13 468	13 331 ¹	8 282	24 211	179,8	292,3
ロシヤ共和國	2 420	2 443	2 602	5 170	213,6	198,7
中央地方	2 349	2 369	2 399	4 218	179,6	175,8
沿ヴォルガ	—	—	—	90	—	—
北高架索	71	74	160	339	477,5	211,9
西部シベリヤ	—	—	43	490	—	11,4
極東	—	—	—	33	—	—
ウクライナ共和國	11 048	10 864	5 597	17 898	162,0	319,8
グルジャ共和國	—	—	—	163	—	—
カザフ共和國	—	—	—	432	—	—
キルギズ共和	—	—	83	548	—	660,2
ソ聯邦	100	100	100	100	—	—
ロシヤ共和國	17,97	18,33	31,42	21,35	—	—
中央地方	17,45	17,71	28,97	17,42	—	—
沿ヴォルガ	—	—	—	0,37	—	—
北高架索	0,52	0,62	1,93	1,40	—	—
西部シベリヤ	—	—	0,52	2,02	—	—
極東	—	—	—	0,14	—	—
ウクライナ共和國	82,03	81,49	67,58	73,93	—	—
グルジャ共和國	—	—	—	0,67	—	—
カザフ共和國	—	—	—	1,79	—	—
キルギズ共和國	—	—	1,00	2,26	—	—

1 ソ聯邦計數中には共和國別となさざる 24,000 ツエントネルを含む

實五百トンの能力を有するバツトム柑橘綜合企業の建設が完了し、オリハバト新製糖工場も近く製品を出し初める筈である。

化學工業第三次五ヶ年計畫

化學工業はソ聯邦國民經濟部門中最も新しいもの一つであるが、短期間に一大躍進を遂げ、一九一三年に比して一五倍以上に發展した。それにも拘らず國民經濟全體の發展テンポよりは遙かに後れ、多數の化學製品が極度に不足を告げてゐる。それが爲ソ聯邦政府は一九三九年一月從來重工業人民委員部の管下にあつた化學工業を分離せしめ化學工業人民委員部を新設してその生産擴充をはかることとなつたが、第三次五ヶ年計畫に於ては特に「第三次五ヶ年計畫は化學の五ヶ年計畫である」とまで重視され、これを「國民經濟及び國防の要求を完全に充し得る指導的工業部門の一つに轉化せしむべき」課題が與へられたのである。即

ち聯邦化學工業人民委員デニソフの發表するところに依ればその生産高は第三次五ヶ年計畫中に二・四倍に増加される豫定で、各部門に就てこれを見るときは左の如くである。
 一、肥料—肥料の増産計畫は次表の通りである。(單位千噸)

過磷酸鹽	一九三七	一九四二
一、四三・四	三、六〇〇	
磷酸肥料	二七五・四	六五〇
窒素肥料	一四五	三五〇
加里岩鹽	一、五八五	三、四〇〇

而して肥料の生産を國內に廣く配置し極力需要地に接近せしめ且つ地方原料資源を大いに利用し、尙その生産には硫酸を使用せず、また新しい技術的工程の採用と各種廢殘物の利用とによつて製品の種類を豊富にする計畫である。

二、護謨工業—自動車とトラクターのタイヤ及び一般住民のゴム靴に對する需要を完全に充つことが根本課題であつて、タイヤ製造工場の生産能力を一千

萬本まで擴充する、これが爲に新設される工場は十四個所で、現存のものも生産の強化及び機械化が實現される。また廢物ゴムの利用を廣く行ひ、そのため十五個のゴム再生工場が建設される。それと同時に人造合成ゴムは一六六%の増産を見、第三次五ヶ年計畫中には天然ゴムの輸入が清算される豫定である。

三、アニリン染料工業—染料の品種を豊富にし、その生産を一六%に増大せしめ、特に青色染料に重點を置きその生産を一六倍となす。

四、硫酸—硫酸製造工場の生産能力を二一六%に増加し、その大部分は現存工場の擴張によつて實現し、新設工場は有色冶金業の瓦斯及び地方産硫化鐵によつて主として濃硫酸の生産をなす計畫である。

その他苛性曹達の産額は約二倍、プラスチックは約四倍となり、窒素工業に於ては多數の工場が新設されると同時にアンモニア生産のため低質燃料の瓦斯化と

高壓に依る作業を採用し、瓦斯の精溜を改善し、より効果的な觸媒が廣く使用されるであらう。

斯くの如くして第三次五ヶ年計畫の遂行によりソ聯邦の化學工業地理は著しく訂正され、化學工業全體に對する各地方の比重は次表の如くなる豫定である。

	第二次五ヶ年計畫	第三次五ヶ年計畫
中央地方	五六・五%	五六・九%
レニングラード地方	二五・一%	一四・〇%
北部地方	一・六%	一・一%
ウクライナ	八・八%	八・二%
共和國	五・六%	八・三%
ウラル	一	四・二%
シベリヤ	〇・八%	二・〇%
極東	一・六%	四・四%

極東新炭坑操業

極東アムール州のブレイヤ河上流のウエルフネ・ブレイヤ地區は極東に於ける石炭の最も埋藏の豊富な地區であるが目下採掘高年三十萬噸の二個の堅坑を建設

中で、本年上半期には採掘作業を開始する豫定である。

極東炭田増産強化

ソ聯邦燃料人民委員部では極東炭田の開発増産強化の爲め最近ドンバス炭坑の優秀な技師坑夫等を極東炭坑に派遣しつつあるが、彼等の多くは政府から勳章を授與されたスタハノフ主義者である、既に一隊七十三名はスタリン州を出發テタに到着した。

北樺太ソ聯側炭業成績

第五回北樺太州黨大會に於て洲黨部書記長シャタリンは洲黨委員會の活動に就き詳細なる報告を行つたが、其中炭業方面の黨部監督状況につき大要左の如く述べた。

第三次極東炭業計畫によれば同計畫年度内に二・七倍の増産を豫定し、昨年度は前年度に比し二六・九%の増加を見、坑夫一人當りの生産高も二七・二噸といふ成績を挙げた、換言すれば是

は坑夫一人當りの産炭高が計畫よりも三・五%、又一九三八年の實際生産高より二五%の増加となつた事になる。

而して採炭機械化も一九三八年には七六%であつたが、昨年度は八〇%に昂揚した、かゝる好成绩の原因は黨機關の經濟問題に對する政治的活動の正しさを證明するもので坑夫並びに其の家族にまで黨活動の浸透を語るものであるが、併し是を以て全的に満足すべき結果なりとは言ひ難い、例へば夏季に於ける勞働力の流動が極めて頻繁で採炭率に著しき影響を與へた事で我々黨員は國家に對し最善を盡さなければならぬのである。

北樺太石油事業ソ聯側業績

一九四〇年春北樺太亞港に於て開催の第五回北樺太州黨大會に於て州黨委員會書記シャタリンは石油、石炭、林業、農業等の諸部門に亘り其の業績批判を行つたが、石油事業に關しては左の如き批判を與へた。

一、一九三九年度採油高は前年度に比し三〇%の増産を爲し過去二ヶ年間の進歩は認むべきものがあるが、同年度の採油計畫も試掘計畫も未遂行に終り、之が爲め多大の損失を蒙つた

一、オハ市黨委員會は第十八回黨大會の決議に依る課題遂行を怠り、サハリン石油トラストの事業に關し一九三九年中十八回の審議を繰返し、幾多の決議を爲し乍ら其の實行を怠つた

一、是には州黨委員會も共同責任を有す即ち過去二年の間石油事業の現況を審議したのは一九三九年八月に僅か一回のみであつた

一、極東の經濟的、國防的需要を完全に充すべき大量の原油を採掘する必要があり、この名譽ある課題遂行の爲には今後産油計畫の六割を出すエハビ礦區に重點を置き、其他カタングリ、アルムダン等の新礦區の産油増加を計らなければならぬ

一、石油工業人民委員カガノウイツチの命令によるエハビ||オハ間狭軌鐵道の

敷設を促進し、サハリン石油トラストの事業改善に資さなければならぬ

米國側情報に依る北樺太ソ聯側石油産額

〇〇からの報道としてアメリカ筋から傳へられる處によれば、北樺太のソ聯側企業の石油産額は一九三九年は約三、三〇〇、〇〇〇バレルと推算されるが一九四二年には計畫數字八、八〇〇、〇〇〇バレルに達するものといはれる。尙同企業の産額はサハリンネフチ・トラストが創設された一九二七年以來、一九三七年を唯一の例外として一路増加し來り、最近四ヶ年に於ても亦左表の如き増加を示して居る。

年次	バレル	(從來の最 高記録)
一九三六年	二〇五,〇〇〇	
一九三七年	一、六二七,〇〇〇	
一九三八年	二、四三六,〇〇〇	
一九三九年	三、三〇〇,〇〇〇	(推定)
一九四二年	八、八〇〇,〇〇〇	(計畫)

尙ソ聯邦の技術者は北樺太の全石油埋

藏量は約二、一六〇、〇〇〇、〇〇〇バレル、既知埋藏量(ソ聯側企業分のみ)は約一三五、〇〇〇、〇〇〇バレルと云ふ巨大な數字に達するものと推算してゐる。(本稿中の數字には幾分疑問のある點もある。)

北樺太のソ聯側採油進捗

北樺太に於ける我利權油田に對するソ聯側側の壓迫は屢次の交渉にも拘らず依然として續行され、既にソ聯側當局に提出承認方を要請中である、一九四〇年度事業計畫、勞働者雇傭、物資送込配船、人事問題等の諸計畫については未だに確たる回答なく、送込季節に際して更に豫定が樹たず、會社側は尠からず困惑の狀態である。一方ソ聯側では我が油田に隣接して採油開拓の衝に當つてゐるサハリンネフチ・トラストをして積極的に採掘を進捗せしめて來た結果、最近オハ、エハビ油田の採油著しく増大し、ハビの如き現に日産五百餘噸を産出、貯油タンクの不足を告げるに至つたので最近

我北樺太石油會社より七萬噸のタンクを強引に借入れ貯油中であるが、五月中旬右借入タンク中既に五萬噸を貯油し餘力二萬噸にすぎない、之が爲ソ聯邦側では早くも積取配船に着手、此の程碎氷船に曳航されたソ聯邦側タンカーがオハ海岸に入港し、目下積取作業中である。以上の事實に徴しても前年度同トラストの採油実績四十萬噸と報ぜられたが一九四〇年度は優に五十萬噸には達するであらうと推定され注目を惹いてゐる。

極東最初の水力發電所

かねてより計畫中であつたハバロフスク地方ゴリリン河（黒龍江の支流、コムソモリスク市地方）岸のタランゲンスカヤ水力發電所の建設は、いよ／＼近く着手されることになつた、同發電所は極東に於ける最初の水力發電所は極東に於ける最初の水力發電所で、竣工の暁はこれによつてコムソモリスク市の各工場は安價な電力を充分に保障される筈で、建設地には既に學校、俱樂部、郵便局等

を有する労働者部落が出来てゐる。

コムソモル市に潜水艦工場と大飛行機工場

極東ハバロフスク地方の軍需工業都市コムソモリスクには各種の工場が盛んに建設せられつゝあるが最近では潜水艦工場と労働者六千人を擁する大飛行機製造工場が竣工既に操業してゐると傳えられて居り、ソ聯邦北樺太國境のトーチカ資材はコムソモル市から供給されてゐると言はれる。

ソ聯邦の支那産礦物輸入増加

ソ聯邦は總ゆる礦物資源に恵まれ、自給自足の域に達してゐるが安質母尼及びタングステンだけは未だ其の域に達せず現在戰略的意義からは等の物資は主として支那から其の供給を受け年々増加の傾向にある、最近のは不明であるがソ聯邦の輸入額は左の通りである。

ソ聯邦の安質母尼輸入

ソ聯邦の總輸入	一九三五年	一九三六年	一九三七年
内支那より	一、〇五九噸	一、五三三噸	二、一五五噸
支那の割合	五・二%	七・八%	七六・八%
ソ聯邦のタングステン輸入	一九三五年	一九三六年	一九三七年
内支那より	一、〇五九噸	一、五三三噸	二、一五五噸
支那の割合	六九・九%	八七・五%	七九・二%

農業

ソ聯邦農業の躍進

ソ聯邦に於ける農業は極めて大なる意義を有し、第二次五ヶ年計畫前までは、ソ聯邦は工業總生産額よりも農業總生産額の方が多額を占めた農業國であつた。しかし、スターリンの採つた社會主義的大農經營の方法は、全面的集團化と強力な機械化との方向に向つて強行せられ幾多の困難に遭遇しつゝ、遂に世界に於て最も進歩した農業國たらしめることに成力した。このことは穀物及び棉花の達成について見れば何よりも明瞭である。

農業經營

ソ聯邦に於ける農業はコルホーズ、ソフホーズ及個人經營農に分れてゐるが、現在では殆ど大部分がコルホーズ化され

ソ聯邦及列國に於ける農作物播種面積及總生産高 (一九二九年に對する百分比)

	播種面積		總生産高	
	1933年	1937年	1933年	1937年
小麥	111,8	139,4	146,9	248,2
資本主義諸國	100,1	105,0	105,0	105,5
大麥	89,8	113,6	108,9	147,0
資本主義諸國	88,1	91,1	85,1	86,0
燕麥	88,4	93,1	97,9	138,9
資本主義諸國	95,1	91,6	86,3	89,7
棉	194,1	201,1	155,4	323,2
資本主義諸國	84,8	109,3	97,7	136,6
甜菜	157,1	154,7	143,9	349,8
資本主義諸國	91,7	98,0	97,8	114,3

てゐる。コルホーズは集團農場或ひは共營農場として我が國にも知られてをり、ソフホーズは國營農場と譯されてゐる。コルホーズ

ソ聯邦が大農主義に基いて農業集團化を開始したのは第一次五ヶ年計畫の一九二九年以降で逐年集團化の過程は進行し現在では農家經營の九三%までがコルホーズに加入してをり、僅か〇・一〇%、即ち一千萬人の個人經營農を残すのみとなつた。

一九二八年以降、コルホーズ數及これに加入せる農民の數は左の如く増大を示してゐる。

集團化の發展

一九二八年	三三・三	同加入農民の割合(%)	一・七
一九二九年	五七・〇		三・九
一九三〇年	八五・九		三三・六
一九三一年	一一一・一		五三・七
一九三二年	一二一・一		六二・五
一九三三年	三四・六		六五・六

M T C 建設状態

	1932年	1934年	1935年	1936年	1937年
M T C 数 (各年末)	2,446	3,506	4,376	4,951	5,817
新 設 数	—	614	870	575	1,067
春までの建設数	—	410	439	465	500
M T C 関係コルホーズ面積 コルホーズの播種面積に對する割合	45.1	63.0	75.9	84.0	227.30
M T C トラクター作業量を耕地に換算(打穀を除く)	—	62,535	98,000	165,500	—

農業生産の發展

第二次五ヶ年計畫中に農業總生産額は五三、九% (農産物五四・一%、畜産物五三、五%) を増加し、一九三七年には總額二百一億二千三百萬留 (一九二六—七年度價格) の巨額に達した。
第一次五ヶ年計畫が播種面積の増大と

年	農業總生産額	農産物	畜産物
一九二九年	一四、七六	九、〇五八	五、六五
一九三〇年	一四、〇〇七	九、六〇一	四、四〇五
一九三一年	一三、九四三	九、八五〇	四、〇九二
一九三二年	一三、〇七二	九、七七九	三、九一
一九三三年	一四、〇一六	一〇、〇五九	三、九六
一九三四年	一四、五九一	一〇、三〇七	三、六三
一九三五年	一六、〇九七	一〇、一四四	三、九三
一九三六年	不明	—	—
一九三七年	三〇、一三三	一五、〇五九	一五、〇七四

ソ聯農業總生産額の發展
(一九二六—二七年價格單位百萬留)

機械の導入によつて農産物の點に於ては多少の上昇を示しつゝあつたが、畜産物の激しい低下のために農業總生産高の上には何らの進歩が見られなかつたのに對し可成りの進歩であるといふことが出来る。今、第一次五ヶ年計畫以來の連年數字を擧げて見れば第二次五ヶ年計畫中にソ聯邦農業が總生産額の上に於て漸次堅實なる進歩を辿り初めてゐることが明らかである。

各共和國別集團農場表 (單位千)

	全聯邦	ロシヤ 共和國	ウクライ ナ共和國	白ロシヤ 共和國	アゼルバ イジャン 共和國	グルヂヤ 共和國	一九三四年
集團農場數							二四・五
1935年	245.4	175.1	27.4	10.8	3.4	3.6	二四・四
1936年	244.4	173.8	27.5	9.6	3.6	4.4	二四・四
農業集團化率							九三・〇
1938年	0.7	1.6	2.5	0.7	1.3	0.9	九三・〇
1935年	83.2	83.4	91.8	79.0	64.3	44.5	八六・四
1936年	90.3	90.3	95.0	86.5	76.5	74.4	八六・四
1937年	93.0	92.6	96.1	87.5	86.5	76.5	七・五

	アルメニ ヤ共和國	トルク メ ン 共和國	ウズベク 共和國	タヂク 共和國	カザフ 共和國	キルギー ズ共和國	一九三八年
集團農場數							二四・四
1935年	1.0	1.6	9.2	3.6	7.8	1.9	九三・五
1936年	1.1	1.8	8.9	3.9	7.9	1.9	九三・五
農業集團化率							—
1928年	0.7	0.5	1.2	—	1.8	1.7	—
1935年	62.4	81.5	82.8	69.4	90.7	70.8	—
1936年	80.8	88.5	88.8	80.3	95.1	82.4	—
1937年	88.7	95.4	55.0	89.9	99.5	89.1	—

而して之を各共和國別について見れば次の通りである。

機械トラクター配給所 (MTC)

コルホーズ、ソフホーズにトラクター其他の農業機械を配給するMTC (機械トラクター配給所) の數も逐増の一途を辿り一九三八年十二月現在六、三五六を數へるに至つた。最近諸年に於るMTC建設状態は左表の如き數字を示してゐる。

機械トラクター配給所に屬するトラクター數を年度別に對比すれば左の如し。
一九二九年 二、四〇〇臺
一九三〇年 三一、一〇〇臺
一九三一年 六三、三〇〇臺
一九三二年 七四、八〇〇臺
一九三三年 一二二、三〇〇臺
一九三六年 三二〇、〇〇〇臺
一九三七年 三六七、〇〇〇臺
コンバイン (合成式刈取機) の増加率は更に高度で、機械トラクター配給所は一九三〇年僅かに七臺を有してゐたところ三六年は六萬一千五百臺の老犬數字を示し、翌三十七年六月には更に十二萬臺

播種面積の變化は次の通りである。
播種面積の變化 (單位百萬ヘクタール)

年	總播種面積			
	穀物	工業用作物	蔬菜	飼料作物
一九三二年	一四・四	九・七	一四・九	九・二
一九三三年	一三・七	一〇・六	一三・〇	八・七
一九三四年	一三・五	一〇・七	一〇・七	八・八
一九三五年	一三・八	一〇・四	一〇・六	九・九
一九三六年	一三・八	一〇・四	一〇・八	九・八
一九三七年	一三・三	一〇・四	一〇・八	九・〇
第二次五年計畫原案	一三・七	一〇・八	一一・一	九・六

主要穀物生産高は次の如く何れも著しい増加を示してゐる
主要穀物生産高(その一)(單位百萬ツェントネル)

年	主要穀物生産高(その一)					
	全穀物	小麥	ライ麥	燕麥	大麥	玉蜀黍
一九三二年	六八・七	二〇・二	三三・〇	一一・四	五・三	三・四
一九三三年	七二・九	二七・三	三四・九	一五・四	六・五	四・〇
一九三四年	八八・〇	三〇・四	三〇・三	一八・九	六・四	三・四
一九三五年	八九・〇	三〇・八	三三・六	一八・七	八・六	二・九
一九三六年	九〇・一	三〇・八	—	—	—	—
一九三七年	一〇二・九	四六・六	二九・〇	二二・六	一〇・〇	—

が目立つ、之は人糧食物としての小麥の後位性より見て當然のことであるが、燕麥、大麥の増反は、畜産、特に馬の増産の必要に相應するものである。

主要穀物播種面積(その一)(單位千ヘクタール)

年	穀物合計	小麥	内春蒔	ライ麥
一九三二年	九・七〇	三・四〇	三・六九	二・六〇
一九三三年	一〇・一	三・三	三・四	二・五
一九三四年	一〇・四	三・七	三・四	二・六
一九三五年	一〇・四	三・七	三・四	二・六
一九三六年	一〇・四	三・六	三・四	二・六
一九三七年	一〇・四	三・八	三・四	二・六

併し收穫率は一樣に、向上したため、一部の減反にも拘らず前述の如く、著しき増産を勝ち獲たのである。主要穀物收穫率の増大は次の通りである。

主要穀物播種面積(その二)(單位千ヘクタール)

年	燕麥	大麥	玉蜀黍	蕎麥	粟	菽類
一九三二年	一五・四	一六・六	三・六	二・二	七・六	二・二
一九三三年	一六・六	一八・〇	三・九	二・三	八・八	二・三
一九三四年	一七・七	一八・四	四・〇	二・四	九・〇	二・四
一九三五年	一七・七	一八・四	四・〇	二・四	九・〇	二・四
一九三六年	一七・七	一八・四	四・〇	二・四	九・〇	二・四
一九三七年	一七・七	一八・四	四・〇	二・四	九・〇	二・四

主要穀物收穫率 (一ヘクタール當りツェントネル)

年	主要穀物收穫率					
	全穀物	小麥	秋蒔	春蒔	燕麥	大麥
一九〇九—一三年平均	七・四	八・七	六・二	七・四	七・九	八・五
一九一三—一五年平均	七・五	八・六	六・一	七・四	八・二	八・二
一九三二年	七・〇	七・四	五・一	八・四	七・三	七・七
一九三三年	八・八	一〇・八	七・一	九・五	九・二	一〇・九
一九三四年	八・五	七・九	八・四	一〇・五	八・〇	一〇・四
一九三五年	八・七	九・六	七・七	一〇・〇	九・四	八・六
一九三六年	八・一	—	—	—	—	—
一九三七年	一一・五	一三・七	一〇・一	一一・四	一一・五	一三・八

之を歐洲諸國及び世界のそれと比較して見る時、未だ及ばざること遙かに遠いのである。

歐洲及世界穀物收穫率 (一ヘクタール當りツェントネル)

年	歐洲及世界穀物收穫率					
	小麥	ライ麥	大麥	燕麥	麥	玉蜀黍
歐洲諸國平均	一一・九	一三・一	九・一	一四・七	一一・三	—
一九二七—三一年	一三・六	一三・七	一四・三	一五・二	一四・二	—
全世界平均	一〇・一	一一・五	一一・九	一二・四	一一・九	—
一九二七—三一年	九・八	一一・九	一一・三	一二・八	一一・二	—
一九三二—三七年	—	—	—	—	—	—
ソ聯邦	—	—	—	—	—	—
一九二六—三五年	—	—	—	—	—	—
一九三七	—	—	—	—	—	—

(註) *春蒔小麥を含まず **秋蒔ライ麥のみ ***春蒔大麥のみ

農業總生産高 (單位 百萬留 1926/27年の價格に依る)

項目	1913年	1929年	1933年	1937年	1937年の下記年度に對する百分率	
					1913年	1933年
農業及畜産業の生産總額	12 067,1	14 744,6	14 013,6	20 123,0 ¹	159,6	143,6
内 譯						
各種農業の生産	8 028,1	9 058,9	11 051,2	15 069,5	187,7	136,4
畜産業の生産	4 579,0	5 685,7	2 962,4	5 053,5	110,4	170,6
經營主體別						
ソフホーズ及其副業的農業生産	—	263,7	1 586,4	1 865,1	—	117,6
コルホーズ生産	—	480,0	7 775,0	12 668,7	—	162,9
コルホーズ員の個人的副業生産	—	243,2	1 961,9	4 318,2	—	220,1
個人農の生産	—	13 757,7	2 690,3	304,5	—	11,3
農業總生産高に對する百分率						
ソフホーズ及其副業的農業生産	—	1,8	11,3	9,3	—	—
コルホーズ生産	—	3,3	55,5	92,9	—	—
コルホーズ員の個人的副業生産	—	1,6	14,0	21,5	—	—
個人農の生産	—	93,3	19,2	1,5	—	—

¹ 總生産高中には1938年に於て 966,5 百萬留に達し労働者及勤務員の個人的副業生産を含む

新棉花栽培地方の開拓

地 方	単 位	1913年	1928年	1933年	1937年	下記年度に對する 1937年の百分比	
						1913年	1933年
ソ 聯 邦							
播種面積	千ヘクタール	688,0	971,3	2051,6	2124,4	308,8	103,5
總産高	千ツェントネル	7440,0	8211,1	13154,0	25815,7	347,0	196,3
舊地方(灌溉播種)							
播種面積	千ヘクタール	688,0	969,0	1666,2	1616,4	234,9	97,0
總産高	千ツェントネル	7440,0	8210,0	12942,1	23455,9	315,3	181,2
新地方(非灌溉播種)							
播種面積	千ヘクタール	—	2,3	385,4	508,0	—	131,8
總産高	千ツェントネル	—	1,1	211,9	2359,8	—	1113,6
新地方の比重							
ソ聯邦の棉播種面積に於て	%	—	0,2	18,8	23,9	—	—
ソ聯邦の棉總産額に於て	%	—	—	1,6	9,1	—	—
備考	新地方 クラスノダール、オルツヨニキーゼ地方、ロストフ、スタリングラード州、ダゲスタン、カルムイク、チエチエノ・イングシユ自治共和國、ウクライナ共和國						

ソヴェート政權下の二十二年間に、ソ聯農業生産高は可成り進歩を示したが、この成績も幾多の矛盾、弱點を含んでゐることを否むことは出来ない。次の一文は、「エコノミスト」所載の「ソ聯農業」の一部であるが、現下のソ聯農業に對する一資料として次に掲載する。

ボルシエヴィズム治下の過去二十二年間に、農業總生産額は若干の改善を見せてゐるが、この改善は比較的近年に行はれたものであつて、前歐洲大戰前即一九一四年前の收穫高に、追いつき追越し初めた最近十ヶ年間に於ける成績も、さして注意を引くにはあたらぬ。

ソ聯邦農業は上記の如く、製造工業の實績に比較して、大いに遜色があるが、其の經營形態においては、過去十ヶ年間

播 種 面 積
(單位 千ヘクタール)

作 物	1913年	1929年	1933年	1938年	下記年度に對する 1938年度の百分比	
					1913年	1933年
全播種面積	104 999	118 050	129 693	136 943	130	106
内 譯						
穀物	94 358	96 012	101 554	102 411	109	101
小麥(冬蒔及春蒔)	31 655	29 728	33 341	41 512	131	125
加工農産物	4 551	8 800	11 981	10 960	241	91
棉	688	1 056	2 052	2 083	303	102
上等亞麻	1 015	1 631	2 395	1 882	185	79
日向葵	969	3 620	3 897	3 145	325	81
甜菜工場用	649	771	1 211	1 180	182	97
蔬菜・瓜及馬鈴薯	3 816	7 635	8 675	9 385	246	108
馬鈴薯	3 064	5 692	5 656	7 365	240	130
飼草	2 050	4 983	7 321	14 102	688	193
一年生飼草	601	1 468	3 090	5 455	741	144
先年蒔多年生飼草(刈入面積)	1 449 ¹	3 155 ¹	2 635	7 158	494	272

¹ 1913年及1929年度分は同年及先年蒔飼草を含む

棉 花

しかし、こゝに注意すべき現象は、全歐洲に於ては上昇しつゝあるが、全世界平均にては殆ど全作物、收穫率の低下して來てゐることである。かゝる際ひとりソ聯邦のみ今までの低水準のために上昇することが出來るとすれば、ソ聯邦穀物生産の將來性を見るべきものがあるといふべきである。

棉花生産はソ聯邦農業中で最も發展を遂げた部門である。かつて國內棉花消費中、五割内外を輸入棉に仰いでゐたソ聯邦は一九三七年に於ては逆に棉花の多量の輸出を示すに至つた。僅々十ヶ年に於けるこの達成はまことに驚異的と言ふことが出來よう。しかも播種面積は減少せしめつゝあつたのである。

原棉收穫高 (千ツェントネル)	總 産 高	灌 溉 地 方	非 灌 溉 地 方
一九二八年	八、二二	八、三〇	—
一九三二年	一三、七二	一三、〇七	—
一九三三年	一三、九六	一三、七二	—

ソヴェート農業批判	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年
總 産 高	一、七、七六	一、七、三六	一、七、三三	一、七、二五
灌 溉 地 方	一、二、五五	一、六、三五	一、三、七五	—
非 灌 溉 地 方	—	—	—	—

ソ 聯 邦 の 農 業

種 別	年 次 別					
	1913年	1928年	1932年	1937年	1938年	1939年
總 生 産 高	—	13,980	13,072	20,123	—	—
總 植 附 反 別	—	113	134.4	135.3	136.9	—
穀 類 收 穫 高	810	733.2	698.7	1,082.7	855 ⁹⁵⁰⁻	1,050
家 畜 類 (百萬頭單位)						
牛	60.6	70.5	40.7	57.0	63.2	—
羊 及 山 羊	121.2	146.7	52.1	81.3	102.5	—
豚	20.9	26.0	11.6	22.8	30.6	—
棉 花 其 他 (百萬米キントル)	7.4	8.3	12.7	25.8	29.2	—
砂 糖 (百萬米キントル)	109.0	65.7	65.5	218.6	210.2	—

に顯著なる根本的變化を遂げてゐるこの根本的變化の中に現はれた中樞的特色を端的に説明すれば、舊來のロシヤ農業が個人農業制であつたに反し、ソ聯邦政府は之に代るに、集團農場制と國營農場制を以てし、各農場間の連絡を圖り且つトラクターを初め、其他の耕作機械器具及び運轉手を農場に供給するために、地方別にトラクター駐屯所を設けてゐる點で、然して家畜飼育の成績は、政府の熱心なる努力にも拘はらず、依然として帝政時代の頭數以下であり、大部分は個人經營の手に委ねられてゐる。

經營狀態に依る耕作反別を、一九三八年統計に徴するに(一)國營農場は三千九百六十一を數へ、一農場に所屬する植付耕地面積は平均二千六百九十一英反であり、(二)集團農場は二十四萬二千で、一農場所屬植付耕地面積は平均四百八十四英反六である。以上國營及集團農場所屬農夫數は、一千八百八十萬人である。併して個人農夫數は僅に百三十萬人に過ぎな。

ソ聯農業組織の變革は、云ふ込もなく機械化を中心として行はれたものであり一九三八年度には六千三百五十八臺のトラクターがあり、ソ聯農業の機械化は、トラクターを中心として運營されてゐる併して集團農場は貸與されたるトラクターに對する反對給付として、農産物の實物納入を以てする契約を結ぶのである。現在ロシヤの植付反別のうちの九〇%以上は、トラクターを使用してゐる。

併して地方別に設けられたトラクター基地にトラクターを集結する目的は、之に依つて、全國農産物の生産を能ふ限り集團農場、國營農場に集注せんとする中央政府計畫經濟の根本政策の要請に基づくものである。

農業機械化の普及情勢を概観すれば左の如くである。

トラクターの數は、一九二八年より一九三八年に至る間に二萬六千七百臺より四十八萬三千五百臺に、コムズインは殆んど皆無より十五萬三千八百臺に、運搬自動車は七百臺より十九萬五千八百臺に

夫々増加した。打穀用具の機械化の比率は一九二八年の-%三より一九三八年に九五%に、又、同期間に於て手植に依る植付は、七四%四より一二%八に、鎌に依る手刈は、四四%四より八%五に夫々減少を示してゐる。

農業機械化の普及は上記の如くであるが、生産高は之に伴つて必ずしも増加してゐない。譬へば穀物の收穫に就いて觀るに、一九一三年度に於て八億米キントル乃至八億二千萬米キントル(一キントルは百グラム)生産したが、ソ聯時代に入つては、一九三三年に至るまでは此の生産高に追ひつかなかつた。一九三七年は記録的增收を示した年度であるが、その收穫高は十億乃至十億二千萬米キントルであつた。一九三九年は之に次ぎ豊作であつたが九億五千萬乃至十億に過ぎない。棉花及棉畑の昨年度收穫は、一九一三年度の四倍に達した。甜菜糖の收穫は一九一四年—一九一八年度の平均標準に比較し倍加した。甜菜糖は近年明に增收の傾向に在る。詳言すれば一九一〇年乃

至一九一四年に於ける一ヘクター當り平均收穫高は七キントル三であつたが、一九二八年乃至一九三二年のそれは七キントル五、一九三三年乃至一九三七年に於ては、九キントル一を示してゐる。

これは機械化と集團主義とが農夫の保守主義にも拘はらず効果を現はして來た實證であるが、農夫の保守主義は、猶ほソ聯農業の將來を判斷する上に於て無視し得ない要因であつて、此の保守主義が政府の企圖する能率増進に制動機を懸けてゐることは争へない事實であり、容易に克服し得ない障礙を成してゐることには今後とても違はないといへ、集團農場數が一九二八年の三萬三千三百から現在の約二十四萬に達し全國個人農場の九五%を集團化し得たことは、ソ聯政府集團化政策の著効といへるであらう。農夫を共産化するには政府の苦心は容易ならざるものがあつたやうである。農業労働者は集團農場が都市労働者の搾取機關に非ざるやを猜疑してゐる。本來集團化運動なるものが、一九二九年の秋季に於て大

規模に實施され初めた當初の主要目的は食糧品の中央集荷にあつたのである。集團農場の起源はそこにあつたのである。しかし乍らボルセヴィズム政府が、農夫の協力を阻害する諸々の障礙を解消するには、猶ほ今後相當の長年月を要することであらう。しかして農夫の意欲が、ソ聯農業の發展に於て占めて來た重要な地位は今後變化はあるまい。

一九三三年一月第二次第五箇年計畫出發の際、政府は農夫に集團農場に於ける勞働以外に、其の餘力をもつて他の賃銀勞働及び自己所有の小面積耕地の耕作を許可したが、それ以來農夫は追々此の副業に用ゆる時間を増大して來てゐる。共產黨指導階級は、之を暫々公開の場所で指摘し難詰して居るにも拘はらず、個人經營に傾く傾向は否定し難い状態を示してゐる。農夫のこの傾向は、社會的、政治的に極めて重要であり、經濟的にはソ聯農業經營上の大いなる障礙を成してゐるのである。併し乍ら、他方生産高は集團化と機械化の進捗に従ひ増大してゐる。

ことは争はれない事實であり、唯だ家畜の飼育のみが、大部分、集團化されてゐない部分となつてゐる。先にも一言した通り、牛馬數は一九一三年度より遙に下位にあり、羊山羊類も同年度より下位にあり、豚のみが同年度を凌駕してゐるに過ぎない。

だがソ聯農業に於ける最も顯著なる失敗は農産物増収高が人口増加に伴つてゐないと云ふ點にある。人口は一九一三年一億三千九百七十萬人、一九二六年一億四千七百萬、一九三九年一億七千五十萬人と増加を來してゐる。就中都市人口は一九二六年の二千六百三十萬人より昨年度の五千五百九十萬人に激増してゐる。(以下略)

最近の農業事情

ソフホーズ(國營農場)の現状

ソフホーズ(國營農場)の不振につきてはすでにソフホーズ人民委員部參與會等に於て度々問題となつたことは周知の通りであるが、最近開かれたソ聯邦ソフ

ホーズ人民委員部種極勞働者會議に於て特にその収益性ある經營となすべきことが強調せられ、それと共にソ聯邦農業の模範的經營たるべきソフホーズの從來の幾多の缺陷が明るみに出されたことは極めて注目すべき現象である。

過日聯邦人民委員會議及び共產黨中央委員會によつて採擇せられたる「聯邦ソフホーズ人民委員部管下ソフホーズ事業改善の諸方策に關する決定」は、同人民委員部組織並にソフホーズ指導機關の根本的改變を意味し、從來ソフホーズに對する正しき指導及び援助を妨げてゐたところの人民委員部機構内部の幾多の組織的缺陷を矯正すべきことを規定したものである。これは從來同事業の内部に存在した一切の誤謬を排除し、ソフホーズ指導機關に明朗さとの確さを齎さんとするにあつた。

の諸任務に關して長時間に亘る演説を行つた。これによれば、ソフホーズ人民委員部機構再組織に於ける基本的なものはソフホーズのトラスト化を更に押し進めることによつて人民委員部の指導とソフホーズとを一層緊密に結びつけることにあるのである。この決定に従つて新に一三五のトラストが創られ(再組織前一〇七)トラスト未加入のソフホーズは七三七から二八八に減少した。しかし何れのソフホーズも一のソフホーズ人民委員部(聯邦又は共和國)だけに屬することとなり、再組織前の如く双方に屬するといふやうなことはなくなりたのである。

ロバーノフは同決定はソフホーズの財政状態の鞏化並に収益ある事業への前進のための凡ての前提を創造するものであると述べ、一九三九年中に於ける穀物ソフホーズ勞働成員一人當り平均生産高は二六六ツェントネルにすぎなかつたが、「クラスヌイ、バルチザン」ソフホーズの如き前衛的經營にあつては一人當り七

〇〇ツェントネルを突破してゐる事實を指摘してゐる。また牛乳、羊毛、肉類等についても同様の事が言へる。即ちソフホーズに於ては依然として勞働生産性は低く、生産原價は高いのである。穀物ソフホーズ全體に於ては昨年度に於ける生産物一ツェントネル當り生産原價は二三ルーブル四〇カペイクであるが、前記「クラスヌイ、バルチザン」ソフホーズにあつては僅かに九ルーブル三一カペイクであつた。このことはソフホーズ改善の大なる可能性が存することを示すと共に、現在のソフホーズ經營の非収益性を如實に物語つてゐるものである。

しかして人民委員ロバーノフはこのことにつき次の如く結論してゐるのである。すべて以上のことは若しもソフホーズが眞に勞働生産性の向上、原價の引下げの實行に着手するならば、ソフホーズはその収益性への闘争に於て大なる勝利を勝ち得るであらうといふことを證明してゐると。

更にその後開催せられたソフホーズ人

民委員部參與會議は、ソフホーズ機構の組織的及び經營的再建計畫に關する諸課題につき討議したが、各參與の論調は主としてソフホーズの計畫的指導状態の不良を指摘する點に於て一致し、現在のソフホーズの情況が第三次五ヶ年計畫の課題を實現するものでない事が強調されてゐる。

即ちこの計畫的指導の不良はソフホーズに於ける播種面積の縮小、飼養家畜頭數の減少、技術導入状態の不振を結果しかくしてはソ聯農業に於ける最高形態なるソフホーズの將來に暗影を投ずるものとして、特にその方法上の缺陷を検討する爲に參與會議は特にソフホーズ人民委員代理ウオルチェンコを議長とする委員會を組織するに至つた。

農産物調達法の改正

ソ聯では農業生産量を増加せしめる爲に、昨年七月コルホーズよりの農畜産物調達の方法の改革に着手し、從來コルホーズの實際生産量に對しその何パーセン

農業使用中のトラクター・貨物自動車及コムパイン

(年末 現在)

種 類	單 位	1928年 (10月1 日現在)	1933年	1938年	1938年の 1933年に 對する 百分率
各種のトラクターの數	1000臺	26.1	210.9	483.5	229.3
内 譯					
無限軌道式	"	—	5.5	77.0	14臺
車輪式	"	26.7	204.1	339.8	166.5
耕作用	"	—	1.3	66.7	51.3倍
各種トラクターの總能力	1000馬力	278.1	3 209.3	9 256.2	288.4
内 譯					
無限軌道式	"	—	221.5	3 498.8	15.8倍
車輪式	"	278.1	2 973.5	5 089.9	171.2
耕作用	"	—	14.2	667.5	47倍
貨物自動車の數	1000臺	0.7	36.6	195.8	7.4倍
コムパインの數	"	—	25.4	153.8	6倍
動力内燃機關	"	—	48.0	83.8	174.6

トカを義務納入せしめる規定になつてゐたのを、實際生産量とは無關係にコルホイズ所有土地面積に應じて義務納入量を決定することに變更し、一九三九年七月先づ家畜につき之を實施し、次いで一九四〇年一月羊毛について之を實施する旨決定したが、更に今回は、穀物、野菜の他牛乳、鶏卵、牛馬、ブルインザ、乾草等を含む一般農畜産品に擴大して之を適用する事に決定した旨の發表が爲された之によつて従來廣大な土地を有し乍らその利用を怠つてゐた所も、その所有土地面積を出来る限り使用しなければならなくなる譯である。

之につきモスクワ駐在のアフス通信員はソ聯の新農業政策に關し左の如く報道してゐる。

タス通信は穀物收納及び農産物の買上に關する黨中央委員會及び人民委員會の命令を發表したが、同命令は共營農場の國家に對する義務納入の從來の基準の誤謬を指摘し、舊基準を廢止して一九四〇年の收穫期以降は粒穀物、

ソフホーズ及其副業的農業

項 目	1929年	1933年	1938年 (暫定的)	1938年の 1933年に 對する 百分率
年末現在ソフホーズの數(副業的農業を含まず)	1 536	4 208	3 961	94.1
労働者及勤務員の平均一年間員數(單位千人)	419.4	2 422.2	1 517.7	62.7
年末現在トラクターの數(單位千臺)	9.2 ¹	83.2	85.0	102.3
トラクターの總能力(單位千馬力)	123.4 ¹	1 401.7	1 751.8	125.0
年末現在コムパインの數(單位千臺)	0.04	15.0	26.6	173.3
播種面積(單位千ヘクタール)	2 274	14 139	12 411	87.8
家畜の數(單位千頭) ²				
牛	204	3 200	3 718	116.2
豚	54	1 800	2 809	156.1
羊及山羊	1 203	5 700	7 025	123.2
政府へ引渡したるもの(單位千噸)				
穀物	391	2 149	3 409	158.6
牛乳製品(牛乳に換算し)	203	742 ³	1 103	148.5
肉類(生の儘の重量)	28	154	340	220.8
コルホーズへ賣渡したる良種家畜(單位千頭)				
牛	—	8.3 ⁴	28.9	348.2
豚	—	42.4 ⁴	46.9	149.3
羊	—	22.4 ⁴	251.4	11.2倍

1 一九二九年十月一日現在

2 一九二九年の家畜の數は同年七月の状態に依り一九三三年及一九三八年は一九三三年一月一日及一九三八年一月一日現在なり

3 ソフホーズより政府へ引渡したるもの及労働者配給部より労働者用として引渡したるもの

4 一九三四年の分

米、馬鈴薯其他の農産物の納入基準を

共營農場の耕作面積一ヘクタール當りと
なし、本年度國家の收納高は粒穀物九
億二千五百萬ブードと定め、工業作物
及び、藥草を作り、未開墾地を耕作し
又は野菜類を作る共營農場には特典を
與ふことを規定してゐる。共營農場
の土地一ヘクタール當り國家納入基準は
肉、羊毛の場合には以前から適用され
てゐたもので、今回穀物のほか牛乳、
鶏卵、生皮の納入に適用することにな
つたもので、共營農場は前記生産物の
納入を完遂すると同時に鶏卵、牛乳に
對する共營農場員各自の納入義務遂行
の責任を負ふこととなつた、共營農場
の土地の面積に應じ軍隊に對する馬匹
納入の最小限度をも規定してゐるが、

これは一九四一年度より實施する豫定
で、養馬の成績良好な共營農場には各
種の特権を與へることになつてゐる、
今回の納入基準の改正は未開墾地の開
拓、經營の集約化、農場使用人員及び
家畜の増加及び一般に農業の發展を企

圖したものととして注目されてゐる。

共營農場指導の缺陷

さきごろ全國に亘り農村區黨會議が行
はれつゝあつたが、之を通觀するに、そ
の中心的議題はコルホーズ建設及びコ
ルホーズ經營に對するポリシエヴィキ的
指導の缺陷に關するものであつて、特
にその克服が要求されてゐる。而してそ
の區委員會活動の缺陷の主なるものとし
ては、政治的活動と經濟的活動の結合不
分、コルホーズ經營の鞏化、收穫増加、
コルホーズ畜産業發展のための援助の不
足、基幹部員養成に對する配慮なきこと
等が挙げられてゐる。

合理的輪作問題

一九四〇年三月十八日附ブラウダ紙に
よれば、ソ聯邦人民委員會議はウクライ
ナ共和國ソフホーズ（國營農業）及びコ
ルホーズ（共營農業）に於ける合理的輪
作に關する決定を公布した。同決定は
(一) コルホーズに於ける輪作

(一) ソフホーズ人民委員會部所管ソフ

ホーズに於ける輪作

(二) 聯邦ソフホーズ

人民委員會部所管ソフホーズに於ける輪作
等に關し詳細に規定してゐるが、要する
にソ聯邦主要農業地方たるウクライナ共
和國のソフホーズ及びコルホーズに於け
る土地生産力の著しき増大、收穫率の昂
揚、及び増大する畜産業のための恒久的
飼料基地の創設を目的としたものである
同決定の特徴は各ソフホーズ及びコルホ
ーズの合理的輪作の方法に關し地域別に
規定してゐる點にあり、ソ聯邦當局がこ
の問題に關し如何に重大なる關心を示し
つゝあるかを察知することが出来る。

農業前衛分子の大量行賞

戦時下のソ聯邦が一般生産力の増大の
みならず、最近一部に低下の傾向にある
と傳へられる農業生産力の増強に全力を
傾倒しつゝあることは周知の通りである
が、一九四〇年三月十七日附各紙は、ま
た／＼クラスノダール、オルジョニキエ

兩地方農業前衛分子の大量的行賞に關す
るソ聯邦最高會議幹部會の決定を掲載し
てゐる。右は兩地方の優秀指導者、並に
農作物及び畜産業に於て優良なる成績を
示した農業前衛分子に對する廣範圍に互
る敘勳にして、クラスノダール地方はレ
ニン勳章一八名、勞働赤旗勳章三一名、
名譽勳章四八名、勞働勇勳章五七名、勞
働功勞章六一名、計二一五名オルジョニ
キエ地方レニン勳章一六名、勞働赤
旗勳章三二名、名譽勳章四八名、勞働勇
勳章五一名、勞働功勞章五九名計二〇六
名の多數に上り、最近のソ聯邦に於ける
農村重視の傾向を窺ふことが出来る。

東部地方農業重視

一九四〇年三月二十二日附ブラウダ紙
は「聯邦東部諸地方に於ける社會主義農
業の新しい昂揚のために」と題する三月
十七日ノヴォシビルスク州農業前衛分子
會議席上に於けるA・A・アンドレーエ
フの演説を掲載してゐるが、同演説中ソ
聯邦農業に於ける東部諸地方の意義が特

に強調せられ、その向上に多大の期待を
かけ、激勵してゐることが特に注目され
る。

即ち當該地方はその穀物産高を一九三
八年の一五億萬ブードに對して二一三
年の間に一ヶ年二〇一二五億ブードに
増大することが可能であり、家畜頭數
は一倍半に増加し得ると稱して、その
一層の努力を要請してゐる。尙一九三
九年の同地方に於ける春時小麥の一ヘ
クタール當り收穫率は二〇・八ツエン
トネルに達したと述べてゐる。

ソ聯農業の戦時體制

ソ聯邦一九四〇年夏季の農業對策とし
て「社會主義農業の戰時的準備」なる課
題が取上げられイズウエスチャ紙も巻頭
に此の問題を論じてゐる、即ち大要左
如し。

ソ聯邦に於ける昨年度の石油採掘高は
三千萬噸、平時國內需要は二千二百萬
噸で、殘餘七、八百萬噸は貯藏及び止
むを得ざる輸出用となるのであるが、

現在の採油量が平時需要量を超過して
ゐるからとして安心してはならない、

ソ聯邦政府は一朝有事の場合を考慮し
トラクター、コンバイン、貨物自動車
其他農業用機械の燃料を硬質燃料（石
炭、木炭、泥炭、藁）をもつて代用せ
んとする一定の方針を決定してゐる、
然るに我國の工業は農業用瓦斯セネレ
ーター式トラクター、コンバイン等を
短期間に製造するといふ課題を解決す
る事が出来ず、又これを使用する人員
の養成も極めて不十分である、現在ソ
聯邦農村に於ける此方面の専門家は約
百萬人で、此の中二十四萬人はトラク
ター操縦手、六萬五千人は同無軌道式
五萬三千人はコンバイン操縦手、七萬
人は農業機械操縦手、二十萬人は各專
門技手である、此の機械化農業軍は國
防上有力なる豫備軍であるが、一朝有
事の際、此の豫備軍が召集を受けたる
時直ちに是を補充する人員がなくては
ならぬ、政府及び黨は之を考慮し女子
をもつて是に代へんとする必要を提唱

した、今、此の中央の指令が如何に實行に移されてゐるかを見るにキルギゾ共和国本年二月現在では女子トラクター操縦手千十六名、スタリングラー州は僅かに八百名で此の二つの實例を見ただけでも女子操縦手養成に關する政府指令の反響を判断する資料となるであらう、現在政府の指令は統制數字をもつて更に強化された、即ち來る夏季に全國農村機關が女子操縦手を養成すべき責任数は普通トラクター十萬無限軌道式三萬以上、コンバイン二萬五千以上である。

機械トラクター配給所の現狀

MTS機械トラクター配給所は一九三八年度より一般國家豫算に編入せられ、名實ともにソ聯邦國家機關として活動しつつあるが、その業績は多々改善の跡を見つゝあると稱せられる。そのトラクター作業遂行面積總計は一九三七年の二一・三百萬ヘクタールより一九三九年には

機械トラクター配給所(エム・デー・エス)

Table with 5 columns: Item (項目), 1930年, 1933年, 1933年, 1938年/1933年比率. Rows include tractor numbers, horsepower, and efficiency metrics.

二二四萬萬ヘクタールに増加した。但しトラクター作業計畫遂行成績は一九三七年の八九・八%に對し一九三九年には八六・五%と更にその遂行率を低下してゐることが注目される。一九三九年度のMTSの豫算外支出超過は前年度に比し半分の巨額に達した。

全國農業保健施設

(一九四〇年一月現在)

ソ聯邦農業人民委員部機關紙の報道によると本年一月一日現在の全國農村の保健施設は左の通りである。

Table listing medical facilities: 病院の病床數 (165, 196), 産院ベッド數 (62, 569), 移動診療所 (12, 608), etc.

土地の個人的盜耕に關する指示

聯邦最高裁判所總會は四月四日終了したが、同總會は裁判所判決及び最高裁判所裁判參與會決定に關する聯邦最高裁判所議長ゴリヤコフ(イー・テイ)及び聯邦檢事パンクラテイエフ(エム・イー)の申立抗議を審査した。總會は各裁判所にコルホーズ及びソフホーズに屬する土地の個人的目的による勝手な利用を限定すべき指示を與へ、且つコルホーズ又はソフホーズに屬する土地の個人的目的による勝手な耕作は不法占據横領を以て律せられ、個人的使用のための收穫の勝手な取得は社會主義財産の竊盜として律せらるべしとの指示を與へた。右土地の個人的目的による盜耕が當局又はコルホーズ、ソフホーズの指導的労働者の許可によつて行はれた場合には、該労働者はロシヤ社會主義聯邦共和國刑法第八七條及び構成共和國刑法該當條項(土地國有に關する法律の侵犯)によつて刑法上の責任者として起訴せらるべし。情を知りて不法許可により利用した者は同條項により共犯として起訴せらるべし。

共營農場商業の發展計畫

ソ聯邦當局は共營農場商業の發展をはかる爲め昨年は約六千萬留を支出して各地に専用の市場並びにそれに附隨する露店、食堂、肉類及び乳製品檢査所、冷蔵所等を新設したが、一九四〇年は更にそのため約一億留が計上され、既にウクライナの共營農場専用市場改善の爲、二千六百萬留が支出された。尙ウズベツク、キルギーズその他諸共和國の市場も著しく改善される計畫である。

共營農場預金額

イズウエスチャ紙の發表によれば、全聯邦を通じて共營農場の預金額が年々増加し、一九四〇年初頭の總額は二、五七二・二百萬留に達した。その内クラスノダール地方に於ては前年の五七・八百萬留が七七・八百萬留に、ロストフ州に於ては三〇・八百萬留が五二・五百萬留に増加した。また各民族共和國に於ても激増し、カルムイク自治共和國では七・二

百萬留が一百万留に、ダゲスタン自治共和国では九・二百万留が一六百万留になつてゐる。

舊波領白露のホルホーズ化

舊ボロランド領白ロシアはさきに赤軍の侵入によつてソ聯邦に属すると共に土地は一般農民に分配されたが最近ソ聯邦はこの地方に多數の農業アルテリ模範定款のパンフレットを配布し盛にホルホーズ化運動を進めつゝあり、着々その成立を見つゝあると稱せられる。尙ほ同地方に一〇一個所のMTSが建設せらるゝ豫定なり。

一九三九年度收穫

ソヴェート統制委員會は一九三九年度の農産物に關し發表をなしたが、ソ聯邦全體を通じたる穀物の納入は前年に比し成績良好であることを認めて居る。しかし納入成績不良の地方も多數あり、特にその著しいのはイワーノウオ、カリニ、チェリヤビンスク、チュカローフ、

クイブシエフ、タンボフ、ペンザ諸州及びバンユキール、タタール、モルドワ各自治共和国であるその他國營農場の穀物納入も極めて不良で計畫の六七%、共營農場は機械トラクター配給所に對する現物支拂の五九%を遂行したに過ぎない。また馬鈴薯の納入高は計畫の三四%、野菜は六三%であると。これによつて見れば恐らく同年の農産物總收穫高は前年に比し著しき減少を示してゐるのであるまいか。

全國家畜調査

ソ聯邦政府は一九四〇年一月一日より八日に亘り十六萬人の調査員を動員して全國一勢に家畜の調査を施行した。結果は未だ公表されないが、ブラウダ紙によれば、近年ソ聯邦の牧畜は一大發展を遂げ一九三三—三八年間の大角獸の年平均増加率は一二・九%（アメリカに於ては平均二%の減少）豚は三〇・六%の増加（アメリカは毎年三・三%の減少）羊と山羊は二〇・八%の増加（アメリカは變化な

し）を示し、帝政時代の戦前五ヶ年（一九〇八—一三年）と平均増加を比較すれば大角獸は八倍、豚は七倍となつてゐる。また家畜の質も著しく向上し、例へば牛一頭の搾乳量は、國營農場人民委員部管下の國營農場に於ては一九三二年の五〇五担が一九三八年には一、七八八担、食料人民委員部管下の國營農場に於ては、八八三担が、二、〇九六担に、また共營農場に於ては九三二担が一、一〇〇担に増加してゐる。然るに昨年第十八回黨大會に於て牧畜發達の一般水準は未だ不十分であると認められ、同七月ソ聯邦政府は第三次五ヶ年計畫の課題を遂行するため共營農場に於ける共有牧畜の發展策に關する決定を發表した結果九、十、十一の三ヶ月間に共營農場に新設された牧場數は大角獸は二萬五千、豚は二萬一千、羊と山羊は三萬四千に及び、そのため購入された大角獸は百三十萬八千頭、豚は三十萬七千頭、羊と山羊は百五十一萬頭に上つてゐる。尙同紙は、今回施行された家畜調査の根本目的は全聯邦及び各共

ソ聯邦に於ける家畜頭數

(各年初現在 單位百萬頭)

經營形態	年度	牛	豚	羊及山羊	馬
總數	1934	33,5	11,5	36,5	15,4
	1938	50,9	25,7	66,6	16,2
1934年に對する1938年度の百分比	—	151,9	223,5	182,5	105,6
内 譯					
國營及コオペラチーフ經濟	1934	4,2	3,6	6,4	1,6
	1938	3,7	2,8	7,0	2,0
コルホーズ(公共有家畜)	1934	8,3	2,8	10,2	9,6
	1938	14,8	6,3	22,8	12,5
コルホーズ員(個人有家畜)	1934	12,6	3,1	11,8	0,4
	1938	25,1	12,8	30,7	0,7
農村地方の個人農	1938	1,5	0,6	2,4	0,5
農村地方の勞働者、勤務員其他の住民	1938	4,2	1,9	2,4	0,3

和國、地方、及び地區に於ける家畜の正確なる頭數と政府の計畫の遂行程度を調査することであるが、それと同時に共營農場及び村ソヴェートに於ける牧畜に關した實際問題、例へば冬季に於ける飼料の確保、飼料基地の擴充、家畜飼養方法、種畜の供給、家畜流行病の防止等を解決せしむる上に極めて重大なる意義を有するものであると述べてゐる。

婦人トラクター操縦士

ソ聯邦當局は婦人トラクター操縦士の養成に大童になつてゐるが、ウクライナでは一九四〇年五萬三千餘名の養成をなす筈。

茶業發展の新法令

グルヂヤ共和國は一九三一年十月三十一日付後部高架索黨機關の活動に關する黨中央委員會の決定發表以後過去八ヶ年の間に同共和國の亞熱帶耕作物の面積は一九三一年の一萬八千ヘクタールから現在九萬ヘクタールに激増し、殊に茶及び柑橘

新甜菜地方の開拓

地 方	単 位	1913年	1928年	1933年	1937年	下記年度に對する 1937年度の百分比	
						1913年	1933年
ソ 聯 邦							
播種面積	千ヘクタール	648,7	769,7	1210,7	1193,4	184,0	98,6
總産高	千ツエントネル	109 000	101 430	89 888	218 551	200,5	243,1
舊 地 方							
播種面積	千ヘクタール	648,7	769,7	1177,2	1120,3	172,7	95,2
總産高	千ツエントネル	109 000	101 430	87 576	206 370	189,3	235,6
新 地 方							
播種面積	千ヘクタール	—	—	33,5	73,1	—	218,6
總産高	千ツエントネル	—	—	2 312	12 181	—	526,9
新地方の比重							
ソ聯邦の甜菜播種面積に於て	%	—	—	2,8	6,1	—	—
ソ聯邦の甜菜總産高に於て	%	—	—	2,6	5,6	—	—
備考 新地方 グルジヤ、アルメニヤ、カザフ及キルギズ諸共和國、アルタイ及沿海地方、クイブイシエフ、ノヴォシビルスク、サラトフ諸州、バシユキル、北オセチヤ自治共和國							

類の栽培は著しき發達を遂げたことは從來ソ聯邦に毎年多量の綠茶を輸出してゐる我國として特に注目し値ひする。ソ聯邦人民委員會議は一九四〇年四月二十五日付命令を以てグルヂヤ共和國の茶業に關し更に今後の發展策に就て左の如き新法令を發布した。

一、グルヂヤ共和國の茶栽培地面積を一九四四年末迄に六萬ヘクタールに擴張しこの爲め一九四〇—一九四四年に新栽培地面積を一萬二千九百ヘクタール増加する、此の内譯左の如し

年 度 (千ヘクタール)

一九四〇年 三、二
一九四一年 二、一
一九四二年 二、五
一九四三年 二、四
一九四四年 二、七

二、一九四四年の綠茶蒐集高を九萬噸以上高め、完全蒐集栽培地一ヘクタールにつき平均收穫綠茶葉二、七五〇匁とす。

ソ聯の棉作世界第三位

ソ聯邦は國民經濟上の重要資材たる棉花の國內生産確保を目標として第一次五ヶ年計畫以來増産を圖り、第一次計畫は大體不成功に終つてゐるが、第二次計畫では播種面積の擴張方針をとらず専ら收穫率向上に對する方策を取つた。其の生産高を示すと左の通りである。(單位千噸)

一九三四年	一、一七〇
一九三五年	一、七三〇
一九三六年	二、三〇九
一九三七年	二、五八〇

斯くて逐年收穫高は増加してゐるが、此の收穫率の向上に對してはプレミアム制度を實施して奨励を行つた事が重要な原因をなし、第二次計畫に於ては國內生産は計畫通り増加を見、棉花自給の域に達した模様であつて、棉花の國內生産に對する輸出の割合は一九三二年に四・七%であつたのが一九三七年には五・四%に増加してゐる。一九三七年の仕向國別は左の通りである(單位千留)

西班牙

二七、九一八

英國 獨逸 米 國

一一、七二八
二、八四七
二、〇八六

一方棉花輸入は依然繼續せられてゐるが、従來米國、埃及を主としたのに反し一九三七年には米、埃及棉の輸入を見ない様になり、現在輸入の對手國中主位を占めて居るのはイランで、全輸入の八九%に相當してゐる。而して第三次五ヶ年計畫に於ては、即ち一九四二年の生産高は實棉三、二九〇、〇〇〇噸を豫定し居り之を一九三七年実績に比較すると二五・五%増となつてゐる。一九三九年の實績に就ては、ソ聯邦は前年に比し五%の増加と報告して居り、之等の報道により判斷すればソ聯邦當局の期待が漸次増大し、本來の目的とする自給の域に發達しつつあり、今や米國、印度に次ぐ世界第三位を占めたソ聯邦は、中央アジアを中心として將來の増産計畫を進めて行くものと見られてゐる。

タヂキスタンの棉花

天山、ヒマラヤ、ヒンドクシの大山脈

を背負ふタヂキスタンはソヴェート化して十年、今やソ聯邦東方の要塞と稱せられてゐるが、同地方の産棉狀況を見るに、埃及棉種の移植成功により現在ソ聯邦第一の高級棉花供給地となつたが、今後六ヶ年間に播種面積を三萬九千ヘクタール増加し、米棉の年平均收穫率を一ヘクタール當り二六・五ツエントネル、埃及棉を一七ツエントネルに引上げ、一九四五年度には一九三九年度の原棉收穫十七萬一千噸に對し三十一萬二千噸に増大せんと計畫してゐる。尙ほ第一、第二五ヶ年計畫期間棉花植付面積は一倍半増加し、埃及棉の播種面積は一九三九年三九、七二四ヘクタールになつてゐる。

更にタヂク共産黨第六回大會は三月十三日より十六日まで四日間に亘り開催せられ、同大會に於ては幾多の重要課題につき熱心なる討議が行はれたが、就中、タヂク共和國內に於ける黨の宣傳工作の缺陷及び國民新發展のための活動の不充分が指摘されたほか同黨地區委員會書記バラモノフは同地方棉花の著しき收穫

増加を強調してゐるが、特にエチプト種の收穫率は一九三七年の一ヘクタールに當り七・八ツエントネルから一九三九年度には一四ツエントネルに増加してゐると

極北に麥、野菜類の移植

極北のコーラ半島とビン凍土帯に於て初めて大麥、燕麥及び小麥の收穫に成功したのは一九二四年のこと、その後十五年間にこの地方の農業は一大發展を遂げた即ち同地方に於ては一年の内温度が一〇度に達する日は六〇乃至六五日に過ぎず最も温度の高い七月に於てすら平均一三度を超えることなく植物の養液が極めて不十分であるに拘らず、専門家の不斷の努力に依り同半島の多數の國營及び共營農場に於て、馬鈴薯、粒穀物、蔬菜、飼料植物等の移植に成功したのみならず著しい收穫をあげ、また全聯邦植物栽培研究所とビン極地支部では耐寒性の新種をつくつたので來年度からその種子を全極北地方へ供給する筈である。また更にキ

特に新設された極北高山植物園に於て目下林檎、梨、櫻、杏その他約三千五百種の植物につきその移植栽培が研究されてゐる。

極東の大食糧基地建設計畫

ハバロフスク地方黨委員會では今回同地方の軍需都市コムソモリスクの郊外に大糧食基地を建設することを計畫しその詳細なる建設案を認めた。それによれば一九四二年には同市の周圍に於ける播種面積を一萬ヘクタール、即ち一九三九年度の七倍となし、それまでに十五の共營農場と數十の酪農、養豚、養禽基地を新設し、大規模の温室栽培を創始することゝなつた。また共營及び國營各農場に對する自動車や家畜の配給も計畫されてゐる。糧食基地の建設は一九四〇年度より着手され、先づ野菜と馬鈴薯の播種面積が二倍にされ、新移民よりなる五ヶ所の共營農場が新設される筈である。

極東沿海地方の農業近狀

プラウダ紙によれば、極東沿海地方の農業は年々機械化せられて現在では四十五ヶ所の農業機械トラクター配給所を有し、耕地五十七ヘクタールに對して十五馬力のトラクター一臺の割合で、一九三九年度播種の九五%はコンバインで刈取が行はれた。また機械化の強化と共に收穫率も増加し、一九三八年の小麥收穫は平均ヘクタール當り六ツエントネルであつたのが、一九三九年度は八・五ツエントネルとなり、最も成績優秀な共營農場に於ては二〇ツエントネル以上にも及んで居り、燕麥の收穫も七・五ツエントネルから九ツエントネルに増加した。

北樺太國營農場家畜數

北樺太には一九三八年十一月初めて野榮國營農場トラスト組織せられ、同トラストの管下に七個の國營農場があるが、其所有家畜數は左の通りである。

牛 二、〇〇〇頭

豚 一、七〇〇頭
鹿 七、〇〇〇頭

尙同島搾乳の國家へ納入せる高は一九三八年度は七、一四六ツエントネルであつた。

一九三九年度の極東移住

プラウダによれば、一九三九年の夏と秋に歐露中央諸州よりハバロフスク地方の共營農場に移住した農民は約二千家族に及び、彼等は既に移住地に馴れ、班長や牧場の主任に選ばれたものが多い。今春更に數千名の移住者が到着する筈で同地方では彼等を迎へる準備に忙しく、共營農場には特別な建設班が作られ移住者の爲の住宅建築に當つて居り、各州執行委員會にはこれらの建設班の指導員養成の講習が開かれ、土地管理部では移住者のために住宅地の區劃に當つてゐる。しかしこれらの準備事業が同地方土地部の罪によつて極めて遅々とは行はれ、建築木材のための伐木區域すら未だ確定されてゐない共營農場が多數に及んでゐる。

薪及藁を燃料とする

トラクター

インドウイストリヤ紙によれば、ハリコフ市のオルジヨニキーゼ・トラクター工場に於て一九三九年度に薪を燃料とする瓦斯ゼネレーター附トラクターが五千臺製作せられたが右は農業地帯にも入手容易なる燃料の利用に着目せるものであつて、目下藁及び泥炭を使用し得る瓦斯ゼネレーターの作成研究中である。該工場ではディーゼル・モーター附農業用トラクターをも製作し目下試験中であるが一九四〇年には大々的製作を開始する豫定である。

護謨代用植物試験栽培

數年前よりカザフ共和國アルマ・アタ州の共營農場で代用護謨含有植物「コクサギズ」の試験栽培を行ひつゝあつたがその結果は良好で、一九三九年一共營農場では三一ヘクタールより九四六畝の種子を採り九萬三千留の収益をあげ一共營農

場では二〇ヘクタールより八一三畝の種子と五ヘクタールより二五ツエントネルの乾燥せる根を採取して八萬三千留の収益をあげた。一九四〇年度は他州にも廣く栽培せしむることになつた。

肉類酪農業一九三九年度實績

一九四〇年一月二十五日より數日に亘りモスクワに於て製肉及酪農従業員活動分子大會が開催され、各地のトラスト及び工場の指導者、スタハーフ運動参加者等千名以上が出席したが、席上聯邦肉類及酪農人民委員スミルノフは、

第一、第二次兩五ヶ年計畫に於て吾國の製肉工業は一大躍進を遂げ二十八の製肉大綜合工場と二十五の腸詰製造所が新設され就業を開始した。

肉の加工は最近十年間に倍加し、燻製品は七倍以上に増加し、モスクワのミヤン製肉綜合工場のみで昨年度に於ては帝政露西亞の工場全體を合したより以上の腸詰及び燻製品を生産してゐる。

る。これに伴ひ冷凍業も又急激に發達し、これまた最近十年間に殆んど四倍となつてゐる。

と述べ一九三九年度実績に關しては、全體として計畫を八・八%の超過を以て遂行し、生産高は一四・二%の増加を示したが、各別部門に於ては、バター、チーズ、罐詰乳製品等の如き計畫未遂行のもの多數あり、また建設方面に於ても四十九の各種工場の内二十六が就業したに過ぎず、就中屠殺所と罐詰工場の如き一ヶ所も開かれなかつた本年度も一月初旬は各部門とも計畫を遂行せず、家畜、家禽、牛乳の調達も成績不良である。

と報告し、これに對して活潑なる討議が行はれた。

ソ聯農業機械化の第三次五ヶ年計畫

ソ聯誌「計畫經濟」は農業労働生産性昂揚の最も重要な條件たる農業の機械化第三次五ヶ年計畫最終年度の數字を次の

如く記してゐる。(一九三七年に對する一九四二年の増加率) 穀物用トラクター播種機一・七七倍、馬鈴薯植付機三・五倍、耕作機三倍、コムバイン總計一・一倍、大幅乾草刈取機十一倍、馬鈴薯收穫機五倍、機械部分品二・八一倍。

農村トラクター操縦士の横暴取締令

ソ聯邦最高會議幹部會公布の「機械トラクター配給所に於けるトラクター及コムバイン操縦士の自由休業禁止」の命令は一九四〇年七月十八日より實施せられたが、これは從來彼等に對する特別の取締規定がないため配給所に於て勝手氣儘な行動を爲し、收穫期の最も多忙な時に午前九時乃至十一時頃より仕事にかゝり、日暮前仕事を切上げ又は農繁期に仕事を休み、或はトラクターの取扱に粗暴を極め眼に餘るものがあり、又操縦士の他の條件良き方面に轉職する者續出するので、今回の命令施行となつたものである。

ソ聯邦農村の隣組制度

ソ聯邦では一九三九年末政府の命令により農村に於ける防火施設として隣組制度を創始し、各村必ず之を設けることとし消防器具を備へホルホーゾ員の晝夜當番及當番用馬匹の常設等を決定し、モスクワ州の如きは既に六千の隣組が組織され、この結果農村の火事は其後殆んど皆無となつたといはれる。併し多數の地方には未だ此の隣組制度は徹底せず當局は此の制度が強制的でないため宣傳と講演によつて此の制度の發展を計つてゐる。

一九四〇年度收穫記録

ソ聯邦農務人民委員ベネディクトフは八日七日の同委員部の黨集會に於てソ聯邦一九四〇年度の穀物成熟は昨年比し十日乃至十五日遅れたが、穀物及工業用原料農作物は一九三七年の記録の最高收穫に近き收穫を擧げ得る充分の可能性あることを報告した。

計 畫 經 濟

ソ聯邦計畫經濟概観

ソ聯邦に於ける計畫經濟は、社會主義を目的とするプロレタリア獨裁國家の當然の歸結であつた。ソ聯邦國民經濟の計畫化の端緒は早くも既に十月革命直後に之を認めることが出来るが(一九一七年十二月二日附最高國民經濟會議、同會議の任務は「國民經濟及び國家財政を組織する」ことにあつた)一般國民經濟計畫化の事業を目的とする専門の計畫機關が設けられたのは一九二二年にして、同年二月二十二日附を以て國家一般計畫委員會が設けられたのを最初とする。これが現在の國家計畫委員會(ゴスプラン)の最初姿であつた。而してこの國家一般計畫委員會は、ソ聯邦政權が漸く危機を

通り抜けた一九二〇年二月二十日附にて設けられた「ロシア電化國家委員會」(ゴエルロ)が凡ゆる一流の學者、専門家、技術者二百餘名を動員して作成せる、かのレーニンの發議に基く有名なゴエルロプランを完成し、その實施を監督する機關として國防労働會議の一委員會として生れたものである。同委員會が先づ食糧計畫、燃料計畫に功績を残し、其他幾多の問題を改善して來たが、本格的經濟計畫への飛躍は一九二五―六年度統制數字の作成であつた。統制數字はその後一九二六―二七年度、一九二七―二八年度と作成せられてゐるその間國勢調査を行ひ、且第一次五ヶ年計畫案の作成に努力したのであつた。

ソ聯邦國民經濟計畫機關

ソ聯邦國民經濟計畫機關の中樞をなす

ものは言ふまでもなく、聯邦國家計畫委員會(ゴスプラン)であり、同委員會は聯邦人民委員會附屬であり、同委員會議長は人民委員會議長代理を兼任することとなつてゐる。同委員會の下には地域別及び産業別計畫機關があり、地域別計畫機關は大體行政區域に従つて設けられ構成共和國ゴスプラン州、地方計畫委員會(オブルプラン、クライプラン)都市計畫委員會(ゴルプラン)區計畫委員會(ライプラン)農村計畫委員會(セリプラン)等があり、産業別計畫機關は、各人民委員部計畫機關以下經營線に沿つて、總管理局、トラスト、(企業工場)、職場、生産班の計畫機關に及んでゐる。聯邦ゴスプランは以上の地域別及び産業別の、横及び縦の計畫機關より來る計畫資料に基き、統一的國民經濟計畫を樹立するのである。

またゴスプランには一九三二年十二月國民經濟中央統計局が設けられ、之もゴスプランの機構に従ひ、地域別及び産業別の統計局及び統計員とを有し、計畫に

五、燃料部

燃料及燃料使用調整班
石炭及頁岩工業班
石油工業班
泥炭工業班
ガス及人造燃料班

六、物資調整部

黑色金屬調整班
有色金屬班
木材班
建築配給班
綜合計畫班

七、設備調整部

電氣設備調整班
機臺及器具班
工業設備班
建築機械及公共施設班
運輸機械班
綜合計畫班

八、電化部

電力調整班
發電所建設班
發電所經營班
地方電化班

九、發電及動力工業課

機械製作部
重機械製作課
中機械製作課
一般機械製作課
組合課

十、食料品工業部

機械製作綜合計畫班
漁業課
食料品工業課
肉、牛乳工業課
綜合計畫班

十一、輕工業部

纖維工業課
輕工業課
原料及半製品調整課
國營農業課

十二、農業部

機械・ラクター配給所(MTS)班
農業班
畜産班
工業用農産物班
灌溉及土地改良班
十三、商品流通部

商品基金調整課

商品流通班
日用品必需品班
社會給養班
商業網班

十四、文化部

教育課
出版課
藝術課
高等教育機關及研究機關課
十五、動員部
發表ナシ

十六、天然資源課

測量及製圖班
地質及水源地質班
有用燃料埋藏物班
有用金屬埋藏物班
有用非金屬埋藏物班
風力及光線班

十七、黑色冶金課

鋼鐵、銑鐵及鑽石班
鋼材班
炭化學班
金屬製品班

十八、有色冶金課

有色金屬探鑛班
有色金屬加工班
稀金屬班
代用品班

十九、水力經濟課

水力設備班
水力資源班
工業用給水班

二〇、化學工業課

基礎化學班
有機化學班
ゴム工業班
特殊化學班
化學肥料及肥料調整班

二十一、航空運輸及自動車道路經營課

航空運輸班
自動車運輸班
道路建設班

二十二、林業課

製材及木材發送班
木材加工工業班
木材化學及マツチ工業班
セロローズ製紙工業班

林業班

二十三、鐵道運輸課
輸送班
車輛班
鐵道建設班
經營班

二十四、水運部

河川運輸課
海運課
北洋航路班
造船及船舶修理班

二十五、調達課

穀物其他農作物調達班
畜産品及原料品班
工業用農産物班
製粉及碾削工業班

二十六、物價局

日用品必需品物價班
工業用物資價格班

二十七、地方工業及工業協同組合課

地方工業班
工業協同組合班
地區工業班

二十八、建築材料工業課

建築材料班

膠材班
硝子及衛生技術設備班
建築部分品及組立班
二十九、住宅、公共經濟課
公共經濟班
住宅經濟班
都市計畫班

三〇、外國貿易課

輸出班
輸入班
商況班

三十一、保健課

病院建設班
託兒所及產院班
療養所及休息の家班
勞働保護班
衛生醫療班
體育班

三十二、通信課

醫藥工業班
電話及電信班
ラデオ及テレビジョン班
郵便班

事務其他部局

三十三、發明登錄局

三十四、計畫幹部部

三十五、計畫及統計商等教育機關管理局

三十六、ゴスプラン議長秘書課

三十七、總務局

會計班

圖書班

機械班

記録課

發着班

勤務員班

三十八、「計畫經濟」誌發行所

三十九、ゴスプラン出版局

四十、技術、經濟情報研究所

四十一、國民經濟監査中央管理局

四十二、聯邦ゴスプラン代表

四十三、學術、技術鑑定會議

共和國國民經濟統計局

(ハ) 州(地方)計畫委員會所屬州(地方)國民經濟統計局

(ニ) モスクワ、レニングラード市(州と同權)計畫委員所屬都市國民經濟統計局

(ホ) 區に於ては區執行委員會所屬、獨立の行政、經濟單位をなす市に於ては市ソウエート所屬國民經濟統計局

監査部

聯邦中央國民經濟統計局と構成共和國内の機關とは單一の體系をなす。構成共和國國民經濟統計局は中央國民經濟統計局に直屬し、その直接指導下に活動し、州(地方)及び治共和國内の下級機關の仕事に指導す。

三、ソ聯邦の諸官廳及び中央機關の計算統計課(部、局)は當該機關の運營指導に従ひつゝ、中央國民經濟統計局の命令及び課題遂行の義務を負ふ。

四、略

五、中央國民經濟統計局は聯邦ゴスプランに對し、その要求に應じ、自己の計

四十四、聯邦ゴスプラン附屬會議(定員九十名)

ゴスプラン議長は、聯邦人民委員會會議の構成メンバーであり、且現在には同議長代理を兼ねてゐる。

議長代理は二名にして、その一人は聯邦國民經濟中央統計局長官を兼ねることとなつてゐる。

聯邦中央國民經濟統計局

中央國民經濟統計局は一九三二年十二月二十七日附、聯邦ゴスプラン國民經濟計算課の昇格たるものにして、翌三二年三月十日中央國民經濟統計局規程が公布された。更に一九三三年二月七日ソ聯邦中央執行委員會及び聯邦人民委員會會議令によつて次の如くその獨立性が規定された。

「聯邦ゴスプラン附屬聯邦中央國民經濟統計局を聯邦ゴスプラン中央國民經濟統計局と改名し、完全に聯邦ゴスプランに從屬せしむ。但し行政的、財政的關係、及び上より下への嚴格なる中央集權化に

算統計事務計畫に關する凡ての必要な計算統計報告を提出する。

六、中央國民經濟統計局は、計算及統計に關する問題の草案、提議、報告を以て聯邦最高機關に獨立的に參入する權利を有す。

七、略

八、略

九、略

十、聯邦國民經濟統計機關單一體系の經費は聯邦豫算により賄ふ。

二、基本的任務

聯邦中央國民經濟統計局の基本的任務は左の如し。

一、經濟的指導の計畫編成及國民經濟計畫遂行の監査並採算經營の實現等の重要武器たる國民經濟全領域に於ける社會主義的計算體系の強化

二、ソ聯邦に於ける計算及統計事務の方法及組織に關する中央集權的指導

三、經濟的諸課題に準據せる初歩的計算及精算組織作業の實施及指導

四、官廳及企業の計算及統計作業強化策

於ては中央國民經濟統計局の獨立性を存續せしむ」

更に一九三四年八月、地區國民經濟計算監査員の職が設けられ、一九三八年二月のゴスプラン改正規定には「ゴスプランの下に、聯邦人民委員會會議確認の特別規程により活動する中央國民經濟統計局を置く」と規定されて居り、統計局規程の改正も豫期せられてゐるが、未だその發表を見ないやうであるから、しばらく一九三二年の規程を左に掲げて置く。

中央國民經濟統計局規程(要綱)

一、一般規程

一、聯邦ゴスプラン附屬聯邦中央國民經濟統計局はソ聯邦に於ける計算及び統計の全業務を中央集權的に指導する獨立の全聯邦的機關なり。

二、聯邦ゴスプラン附屬中央國民經濟統計局の構成共和國内機關は左の如し。

(イ) 構成共和國ゴスプラン所屬當該共和國國民經濟統計局

(ロ) 自治共和國ゴスプラン所屬當該

の講究及實現

五、國民經濟計畫遂行の系統的計算

六、社會主義建設を明瞭ならしむる統計的及經濟的作業(社會的及技術的改造問題、質的指標等)の遂行、國民經濟の動態に關する資料の調製及體系化

七、個々の統計的研究の發表、所定の手續に依る定期的機關誌(雜誌及案内書等)の刊行

八、計算及統計に關する知識並に社會主義建設の進行狀態に關する資料の普及

中央國民經濟統計局機構

一、中央國民經濟統計局指導部

二、長官書記部

三、綜合統計部

四、國民經濟バランス部

五、工業統計部

六、農業統計部

七、收穫高決定部

八、資本建設統計部

九、運輸通信統計部

十、勞働統計部

- 一一、財政及信用統計部
- 一二、商品流通統計部
- 一三、住宅、公共經濟部
- 一四、特別部
- 一五、人口部
- 一六、保健及社會保險部
- 一七、幹部養成及文化統計部
- 一八、財務部
- 一九、世界經濟統計部
- 二〇、精算報告確認部
- 二一、學校部
- 二二、幹部詮衡配置部
- 二三、計算機械化部
- 二四、計算監査部
- 二五、圖表製作
- 二六、建設及物資供給部
- 二七、庶務部
- 二八、中央學術圖書館
- 二九、中央文書館

その他の計畫經濟機關の重要なものとして、勞働國防會議（ストオ）と經濟會議を擧げることが出来る。勞働國防會議は一九一八年設置された勞農國防會議が一九二三年八月改組されて、勞働、經濟統計機關として幾多の役割を果して來たが、一九三七年十一月聯邦人民委員會の下に經濟會議が設立されるに及んでその意義を失つた。

其他の計畫經濟關係機關

勞働國防會議

聯邦人民委員會附屬經濟會議は一九三九年十一月二十一日附聯邦人民委員會令を以て設置されたものであり、同會議は聯邦人民委員會議長、同代理及び全聯邦勞働組合中央協議會議長を以て構成され、聯邦人民委員會議長が之を兼ねることとなつてゐたのであるが、一九四〇年四月同會議は擴大改組され、同會議の中に、部門別に六つの會議（ソ聯邦）

經濟會議

聯邦人民委員會附屬經濟會議は一九三九年十一月二十一日附聯邦人民委員會令を以て設置されたものであり、同會議は聯邦人民委員會議長、同代理及び全聯邦勞働組合中央協議會議長を以て構成され、聯邦人民委員會議長が之を兼ねることとなつてゐたのであるが、一九四〇年四月同會議は擴大改組され、同會議の中に、部門別に六つの會議（ソ聯邦）

が設けられ、その議長は凡て聯邦人民委員會議長代理を兼ねることとなつたから、經濟會議の構成員はそれだけ増加されたわけである。
(詳細は「國家機構」の同項参照)

第一次五ヶ年計畫

概 説

ソ聯邦國民經濟建設第一次五ヶ年計畫は一九二七年十二月全聯邦共產黨第十五回大會に於て、本計畫が提唱され、其實施に關する政治的、經濟的、一般方針が決議されたのに始まるもので、計畫の大目的は聯邦の工業化、農村の社會主義化、國內經濟體制に於ける資本主義的要素の弱体化にある。本計畫の作成は主として國家計畫委員會（ゴスプラン）が中心となり、龐大なる規模を以て諸資料を研鑽調査し、一九二九年四月最高國民經濟會議に於て國家計畫委員會の提案を基礎とし、加盟共和國の代表者参加の下に勞働國防會議と協同し成案を作成し、同五月聯邦政府の承認を得、同月二十日の全聯邦ソ

- ヴェート第五回大會に於て之を裁可した國民經濟發展五ヶ年計畫實施に關して、ソ聯邦人民委員會が發布した法令は左の如くである。
- 一、審査のため政府に提出せられた國民經濟五ヶ年計畫は、計畫體系の大なる達成で、社會主義的要素の一般的増大及ソ聯邦國民經濟建設に於ける社會制度の鞏化を反映するものなることを強調す。
 - 二、ソ聯邦國家計畫委員會（ゴスプラン）の國民經濟五ヶ年計畫作成活動を是認する計畫は國內の工業化、農村の社會主義的改善、國內經濟體系に於ける資本主義的要素の克服及社會主義的要素の徹底的強化、經濟生活の立後れたる要素の昂揚等に於て、ソヴェート主權の經濟政策の一般方針を正しく反映せるものである。
 - 三、來る五ヶ年間に經濟建設綱領として、計畫の最大限を認定す。之れが實現に關しては、國家機關及社會諸團體の全努力を糾合し、且つこの目的のために國內に於けるプロレタリアート、貧・中農、學者技術家の創造力を動員す。

一九三三年九月末日を以て完了する豫定で着手されたものであるが其後實施中作業の進捗の程度に關聯し、多少の變更を行ひ、且つ歷年と會計年度を合致せしめるため、一九三〇年十月より十二月末日迄を特別會計年度とした結果、全計畫は一九三二年末を以て完成したので正味四年三ヶ月で終了したこととなる。次に計畫の立案せられた當時一切の國營産業を統制してゐた最高經濟會議は其後分割せられて、重工業、輕工業、林業の三つの人民委員部となつた。この改造が統計編成方法に變化を與へたことは明かである。第三に原計畫が適用せられる筈であつた工業的企業の数、實行期間中同一のまゝで留まらないで逐年増加したのであるから、(A)最初から計畫に入つてゐた國營企業(計畫に従つて新設されたものを含む)(B)最初は入つてゐなかつたが實行期間中に五ヶ年計畫に入れられたものとを區別しなければならぬ。

尙一言すべきは法令にも明記されてゐる如く、五ヶ年計畫に於ては、單に勞働者農民ばかりでなく、廣く學者技術家をも動員したもので、歐米諸國の新技術を取入れるため米獨其他より多數の熟練勞働者技術家を招聘したことは周知のことである。スターリンの所謂「技術は一切を解決する」と云ふスローガンは、第一次五ヶ年計畫のみならず第二次五ヶ年計畫を通じても國家産業建設の最大課題となつたのである。

第一次五ヶ年計畫の工業實績

一九三三年一月モスクワに開かれた共產黨中央委員會及び統制委員會全體會議(七日―十二日)とソ聯邦中央執行委員會の常例會議(二十三日―三十日)とに於ける第一次五ヶ年計畫の全期間に於けるソ聯邦の産業の發達と第二次五ヶ年計畫の第一年たる一九三三年に於ける産業問題の見透しとに關するスターリン、モロトフ、クイブインエフの諸氏の諸報告の供する情報は、第一次五ヶ年計畫の實績について、正確な圖面を與へてゐないがこ

これらの諸報告と會議の可決した諸決議とを摘要すれば左の通りである。

ソ聯邦人民委員會議々長モロトフ氏提出の報告によると、前述したAグループとBグループとを合計した生産価格は一九二六―二七年現在の價格にて、一九三一年には二百七十一億一千一百萬ルーブル、一九三二年には二百九十二億ルーブルで、前年より八・五%増である。一九三一年にはAグループの生産額は二百二十億二千一百萬ルーブルであつたから、右の八・五%増をこの計數にあてはめると五ヶ年計畫による一九三二年の生産額は二百四十億ルーブルと見積られる。五ヶ年計畫の最後の年（一九三二―三三年）の計數は原計畫では三百四億四千五百萬ルーブルであつたが、その後變更された一九三二年の計數はAグループから三百六億六千二百萬ルーブル、AB兩グループ合計から三百八十三億ルーブルの生産を期待したのであつた。結局、原計畫は五ヶ年間に一千三十七億六千一百萬ルーブルとなつた。斯くして、四年三

ヶ月の實行期間に於ける工業生産額は原計畫の五年間豫定額の約八〇%に達したのである。

第一次五ヶ年計畫の工業生産價格(單位百萬留)

年次	豫定計畫	原計畫に入る企業
一九二八―二九	113,146	113,146
一九二九―三〇	119,091	119,091
一九三〇―三一年	124,330	124,330
一九三一―三二年	130,455	130,455
合計	487,022	487,022

年次	實行成績	原計畫に入る企業	一切の國營企業
一九二八―二九	121,000	121,000	121,000
一九二九―三〇	127,000	127,000	127,000
一九三〇―三一年	133,000	133,000	133,000
一九三一―三二年	146,000	146,000	146,000
合計	527,000	527,000	527,000

十三億ルーブルであつたが、最初に全五ヶ年の分として、計畫された投資額は百八十八億ルーブルであつたのである。ソ聯邦當局は五ヶ年計畫が四年間に充分には實行せられなかつたことを認めてゐるが、然し計畫の規定する主要任務、即ち工業、運輸及農業に於る新技術の骨組の組立を完成したと信じてゐる。前記の諸報告の示す所によると五ヶ年計畫は重工業に於て最も充分に實行され、此の部門の一九三二年の生産額は五ヶ年計畫の最後の一年の豫定額を八・四%だけ超過したといはれる。食糧品工業は豫定額を生産し得たが、輕工業と木材工業とは大いに遅れてゐた。輕工業の發達遅々たるは、ソ聯邦が其の手持外國手形を重工業の裝備に費し、かくて輕工業用原料(棉花、皮革、ゴム等々)の輸入を殆んど全くやめてゐると云ふ事實によるのである。

工業化政策

急速な工業化政策の採用の結果は最も

近代的な技術裝置を施した多數の企業の新設をみた。なかでも、マグニトゴルスク及クヅネーツクの機械工場、ベレズニキ化學工業、コンバイン、ドウニエープロ發電所等々は實に大規模なものである。前記の二會議の決議も、過去四年間に新設又は擴張せられた多くの産業、例へばトラクターの製造(スターリングラード・ハリコフ)、モスクワ自動車(モスクワ、ニジノヴゴロド、ヤロスラウ)、飛行機、機械器具の製造等々を列挙してゐる。さらに、石炭及鐵の中心地方一つ(ウラル・クズネツ)及紡織地域二つ(中央アジアと東シベリア)が最近數年間に新に開かれた。

工業化政策は工業生産と農業との關係を一變してしまつた。五ヶ年計畫の始め(一九二八年)には工業生産額はソ聯邦の一切の生産額の四八%であつたのに、一九三二年には七〇%となつた。工業生産の毎年の平均増加は二二%であつた。同期間に於て一切の工業生産に對する重工業の比率は四四・五%に増加し

た。

機械工業

第一次五ヶ年計畫に於けるソ聯邦機械工業の躍進は實に著しきものあり、五ヶ年計畫の最終年度の豫定は五四%も超過され生産額は一九二八年に比し四倍半となつた。尤もその後擴大された一九三二年の豫定計畫(六十八億留)は九七%しか實行されなかつた。

石油業

石油採掘高は原案の規定より大であつたが(原案二千一百七十萬噸に對し二千二百二十萬噸)更改された一九三二年度計畫(二千八百萬噸)は完全には實行されなかつたのみならず生産は一九三一年(二千二百三十萬噸)に比してやゝ減じた。

石炭業

石炭、鐵等の若干部門に關する限り、五ヶ年計畫の成績は機械工業よりずつと

劣つてゐる、聯邦の新聞紙に發表された暫定數字に依ると、原計畫の七十五萬噸及更改計畫の九十萬噸の代りに、一九三二年には僅かに六十三萬噸の石炭が生産されたに過ぎない。四年四分の一の實行期間中の石炭生産總額は二億二千萬噸に上り、最初の五ヶ年計畫(二億八千二百萬噸)の七八%にあたる。しかし同期間中に石炭業に投下された資本十八億留は原計畫の十二億五千萬留をかなり凌駕した。今では炭業の七〇%は機械化されたが、機械の利用状態は未だ劣悪である。左に五ヶ年計畫案及實行成績を示さう。

年次	五ヶ年計畫	實行成績
一九二八―二九	41,000	41,000
一九二九―三〇	47,000	47,000
一九三〇―三一年	55,000	55,000
一九三一―三二年	63,000	63,000
合計	206,000	206,000

製鐵業

製鐵業の進歩は、依然として遅々としてをり、一九三二年度更改計畫は原計畫

の最終年よりも一層内輪なるものがあつたに拘らず、それさへやつと六〇%乃至七〇%しか實行されなかつた。銑鐵生産は一九三一年より二七%増加したけれども、鋼塊及鋼材の生産増加は各々九%と五%に過ぎなかつた。第一次五ヶ年計畫の期間中の鐵生産額は左の如くである。

製 鐵 業 實 績

年 次	年次計畫	實 績
一九二八—二九	三・八	四・〇
一九二九—三〇	五・五〇	四・九七
一九三〇—(四半期)	一・五	一・三
一九三一	八・〇〇	四・九〇
一九三二	九・〇〇	六・五

一九三〇年以來、多くの新企業が開設されたに拘らず、生産の増加は豫期通りの速さを示さなかつた。一九二八年當時に比し熔鑛爐は十七基、マルチン爐は四十五基、展鐵機は十一臺、いづれも増加してゐるばかりでなく熔鑛爐二十三基、マルチン爐二十一基、展鐵機十二臺は全く改造された。

原 計 畫 (單位百萬噸)

年 次	銑鐵	鋼塊	鋼材
一九二八—二九	四・〇	四・六六	三・六〇
一九二九—三〇	五・〇〇	五・〇〇	四・〇三
一九三〇—三二	六・一八	六・四三	四・二九
一九三一—三三	七・八三	八・〇五	六・〇九
一九三二—三三	一〇・〇〇	一〇・四五	八・〇一

鋼 材 實 績

年 次	年次計畫	實 績
一九二八—二九	四・七〇	三・四
一九二九—三〇	五・五	四・七〇
一九三〇—(四半期)	一・八〇	一・五
一九三一	八・二	六・七
一九三二	九・五〇	六・七〇

一九二八年には七百立方米を超える容積を有する熔鑛爐は一基だけしかなかつたが一九三二年にはそれが七基に増加、内、二基の容積は各千八百立方米である。

因みに一九一四年、二八年、三二年に於ける熔鑛爐數及平均容積は左の如くである。

年 次	爐 數	平均容積
一九一四	一六	一九〇立方米
一九二八年十月一日	六九	二二〇
一九三二年一月一日	九三	三二六

マルチン爐の數及平均爆床面積は左の如くである。

年 次	爐 數	平均爐床面積
一九一三年	三四	一八・四立方米
一九二八年十月一日	三三	二二・六
一九三二年一月一日	三六	三三・八

電 化

第一次五ヶ年計畫に於ける電化計畫は「ロシア社會主義聯邦ソヴェト共和國電化計畫」(ゴエルロ)を基礎としこれを擴大實施したものである。先づ當時の電化進捗状態を見ると、

年 次	發 電 力 (千キロワット)
一九三三年	三、五〇〇
一九三五年	一、三六六
一九三六年	一、五七三
一九三七年	一、六七三

發 電 力 量 (千 百 萬 千 瓦 特 時)
一九三三年 三、五〇〇 一九三五年 一、三六六 一九三六年 一、五七三 一九三七年 一、六七三
でゴエルロ案では三十の發電所が建設さ

れる筈であつたが、更に六十四の大發電所と十二の小發電所が一九三三年末迄に増設されることとなり、總發電力は同年末に四百八十萬キロ、發生量は百七十億キロワット時に増加され、動力供給の比率は一九二七年に全體の九・五%であつたものが、三三年度には二〇%に増大されることとなつた。この第一次五ヶ年計畫は順調に経過し、左表の如き實績をあげた。

年 次	發 電 力 (千キロワット)
一九二八年	二、九〇〇
一九二九年	三、一〇〇
一九三〇年	三、三〇〇
一九三一年	三、五〇〇
一九三二年	三、七〇〇
一九三三年	三、九〇〇

即ち發電量は一九二八—一九三二年の五ヶ年間に五十億キロワット時から百三十一億キロワット時(二・四倍)に、發電力は百八十七萬キロワットから四百五十六萬キロワット(二・六倍)に増大した。發電力百七十五萬キロ、發電所三十を創設すると云ふゴエルロ案は、すでに一九三一年に實現を見たわけである。一

九二八年には十萬キロワット以上の出力ある發電所は一つもなかつたが一九三二年には三十一萬キロワットのドウネープロ發電所を始め、幾多の大發電所が建設され、總發電力の三三%を占めるに至つた。主要なるものは次の通り。

(單位千キロワット)	年 次
シヤトゥラ發電所(モスクワ州)	一、三六六
カシラ發電所(モスクワ州)	一、八六六
ドウニエープロ發電所	三、〇〇〇
シテロフ發電所(ドンバス)	一、五七〇
ズーエフ發電所(ドンバス)	一、五七〇
ゴオリキイ發電所(ゴオリキイ地方)	一、五七〇

然し五ヶ年計畫の數字百七十億キロワット時及四百八十四萬二千キロワット(一九三二年度更改計畫では五百六十萬キロワット)には及ばなかつた。大戦前に於けるソ聯邦の人口一人當りの電力使用量は一四・四キロワット時であつたが一九二六年には二二キロワット時に上り、一九三二年には一〇三キロワット時に達した。然しこれを歐米諸國に比すれば、尙非常な懸隔がある。一九二八年に於ける各國人口一人當り電力消費量は、アメ

其他の諸工業

第一次五ヶ年計畫に於てはその主力を重工業の發展に注いだ結果、輕工業に於ては、たいして見るべきものがなかつた。一九三二年度計畫は輕工業人民委員部管下の企業からの生産價格を百億留と定めてあつた。詳細な成績は不明であるがクイブイシエフ氏の報告に依ると一九三三年度生産を前年より一〇%増して八十八億留とすべしと豫告してゐるからこれから推定すると一九三二年の生産價格

は凡そ八十億留と見積り得る。

食料品工業人民委員部管下企業の一九三二年度生産は四十一億留で同年度計畫の僅か五七%に過ぎない。林業人民委員部管下の企業は、一九三二年度計畫(二十八億留)を七二%だけ實行した、尤も原計畫では最終年の生産を二十二億六千萬留と規定してゐたのである。製紙高は四十七萬噸で一九三一年より五%少い。(原計畫の最終年は七十萬噸の豫定)

労働生産性と生産費

労働生産性は一九二八年以來四〇%増したが、原計畫は五年間に七〇%を増す豫定であつた。一九三二年度の増加は二二%と豫定せられたが、實際には若干の重工業をのぞけば何等の増加もなかつたし、これら重工業の増加もたかゞ五%を出でない。生産性の減じた場合もあるので、工業全體としての増加は僅か一%にすぎなかつた。

一九三二年中に七%を減する筈の生産費は生産増の總額が名目賃金の上昇より

も少なかつたので、僅か乍ら増した。五

ケ年計畫の最初の二年間に、生産費は一六・七%だけ減つたが、一九三一年中には又も三・七%だけ上昇した。かくて五ケ年計畫の豫定では三二%を減する筈の生産費は差引僅か一〇%ばかり減じたゞけであつた。

工業従業人口の最近の調査によると、一九三二年の總數は六百四十一萬六千人であつて一九二八年の三百二十萬四千四百人に比すると、その増加は原計畫の豫定よりも五七%も多くなつてゐる。工業労働者一人當りの平均名目賃金は一九二八年水準よりも六七%だけ原計畫の豫定よりも一八%だけ、いづれも増加してゐる。

農業五ケ年計畫

五ケ年計畫期間に農業へ一、九〇〇千馬力のトラクター一二〇千臺餘、一六〇〇百萬馬力の農業機械を供給した。即ち農業への供給は一九二八年の二倍であつた。

ルに達した。蓋し、五ケ年計畫の課題は一九三二―三三年に於て千一百万ヘクタールであつた。

(四)農業の發展に據り國內に於ける商品穀物が増加した。即ち、一九二七―二八年には七〇〇百萬封度の穀物が國家に納入され、此の内ホルホーズ及ソフホーズからの納入は約一〇%に過ぎなかつたが、一九三二―三三年には一、四〇〇百萬封度が納入され、此の内約七五%がホルホーズ及ソフホーズから納入されてゐる。

(五)牧畜業は種々の缺陷のため不振であつたが、五ケ年計畫はこれらの缺陷を清算し大有角獸は一九三二年末に於て大規模なるソフホーズ及其販賣所には七、六百萬頭(此の内ソフホーズに二、一百万頭ホルホーズ經營の販賣所に五百萬頭)に増加した。蓋し一九二八年には三三二千頭に過ぎなかつた。豚は一九二八年の七五千頭より三、六百萬頭(ソフホーズに九五〇千頭、販賣所に二、六百萬頭)に増加した。羊は一九二八年の九七

第一次五ケ年計畫の四ケ年の間に二、

四四六ヶ所の機械トラクター・ステーションが新設され、新式の農具、農具修繕自動車等々を供給した。

最近三ケ年間に二〇〇千の集團經營(ホルホーズを含む)が組織され、農民經濟の六〇%、播種總面積の七五%が集團化された。尙同期間に五、〇〇〇のソ聯邦粒穀牧畜及機械耕作ソフホーズが組織された。従つてホルホーズ及ソフホーズ兩經濟を合すれば播種總面積の約八〇%が集團化されたのである。

その結果(一)クラーク階級が崩壊し、農業に於ける資本主義分子が根こそぎにされ、ホルホーズ經濟は社會主義建設の鞏固なる支柱となつた。(二)小規模なる、個人主義的なる、分散せる農民經濟を社會主義的大農の軌道へ誘導し、ソ聯邦は小農國より大農國へ轉換した。

(三)播種面積は一九二七―二八年に比較し二百万ヘクタール増加した。特に機械耕作は一九三二年千五百萬ヘクタール

〇千頭より九、九百萬頭(ソフホーズ一

四、四百萬頭、販賣所一五、六百萬頭)に増加した。

上記に依つて明らか如く、第一次農業五ケ年計畫は如何に大規模農業主義に立脚してこれを集團化せしむべきかがその主要眼目であつた。

其の初年に於てはホルホーズ數は極めて尠く、個人農が殆んど全農業を支配してゐた。スターリンが當時のホルホーズを個人農の大海中の一滴に譬へてゐるが、爾來あらゆる行政的、經濟的援助を與へてホルホーズの發達を促進したのである、場合に依つてはホルホーズに反對する富農を投獄したり、その財産を沒收するなど思ひ切つた手段も辭さなかつた。そのために農民は家畜を殺す、種子を食ひつぶすと云ふ状態で、收穫高は減少し家畜は半減すると云ふ結果さへ生じた。ソ聯邦當局はこれに怯けず、黨員中の精銳一萬七千人を農村に送つて、行政的手段の外に農民の教育組織に努めしめた結果、とにかくホルホーズは次の様に

發達した。

年	ホルホーズ數(千)	ホルホーズ加入せる農民の割合(%)
一九二八年	三三・三	一・七
一九二九年	五七・〇	三・九
一九三〇年	八五・九	三・六
一九三一年	三二・二	五・七
一九三二年	三二・二	六・五
一九三三年	三四・五	六・四

ホルホーズの増大と共に作付反別の割合も年と共に増大して、一九三三年にはソフホーズと合して八四・九%を占め、個人農の手には僅かに作付反別の一五・一%が残されてゐるに過ぎなかつた。總作付反別に於ける社會主義農業の割合(%)を示せば、

年	ソフホーズ	ホルホーズ	合計
一九二三年	一・五	一・二	二・七
一九三二年	一〇・〇	六・一	一六・一
一九三三年	一〇・九	七・四	一八・三

で、收穫高の上では、一九三三年にはホルホーズは穀物收穫高の七七%、棉花の八九・一%亞麻の七八・六%、甜菜の八四六を占むるに至つた。

鐵道運輸

鐵道運輸は第一次五ヶ年計畫中に於ては、技術、線路延長、何れの點から見ても著しい發展は遂げなかつた、國內に於ける産業の發展が著しい割に、鐵道輸送の發達は並行せず、常に立後れの觀を呈するに至り、特に技術的には幾多の缺點を有つてゐた。幾多外國人技師を招聘、技術其他幾多の改善を施したにも拘らず效果は頓に上らず、ソ聯邦鐵道輸送機關が著しい發展を遂げるに至つたのは第二次五ヶ年計畫、それも極く近年に至つてからである。しかし鐵道延長は一九二八年の七六、八八七軒から一九三二年末の八三、三一三軒に、新規操業開始線路は同じく四一八軒から三一年の二、六四五軒に増大、新設幹線延長は二八三三二年間に六千五百軒に達した。その中最も有名な建設工事はトルクシブ鐵道（一、四四二軒）である。

水 運

第一次五ヶ年計畫中に於ける水運方面の最大建設事業は、白海バルチック運河でこれは一九三三年に完成された。諸河水及マリノ水系を以て白海、バルチック海と、ヴォルガ河、カスピ海とを聯絡するものである。水運路は、一九二八年の七萬一千六百軒から三二年度の七萬七千六百軒に増大し貨物及旅客の輸送高は、三千九百八十八萬二千軒から七千九百九十二萬二千軒に増加した。

第一次五ヶ年計畫スローガン

第一次五ヶ年計畫に於て、生産能率増大の爲め唱導されたスローガンは社會主義競争、突撃隊運動であつた、この社會主義競争は一九二九年四月の全聯邦共產黨總會に於て提唱されたもので、右檄文中には「國民の創造的精力及自發心を覺醒し、勤勞者を社會主義的建設に引入れる永續的方法」と述べられてゐる。

この社會主義競争なるスローガンが一度掲げられるや全國に轟々たる反響を呼

び起し、各工場、勞働者間に着々と實行せられ、一九三三年一月一日現在には工業勞働者の七一%は參加したと云はる。社會主義競争の本質は、資本主義諸國に見られるが如き單なる生産能率増加のための競争ではなく、技術を獲得した優秀なる工場又は勞働者が遅れたるものを指導、鞭撻して自己と同一水準に引き上げるにあつた。社會主義競争が呼應計畫の同義語として用ひられた意味もそこにある。

社會主義競争と並んで一九二九年以來突撃隊運動（ウダルニチエストヴォ）が唱導せられ、第一次五ヶ年計畫の終期に於いては突撃隊員は五百萬人に達したと云はれる。

然し一九三五年の半頃、ドンバスに發生したスタハノフ運動は俄然ソ聯邦全産業部門を席捲し、以來スタハノフ運動が今日に至る迄ソ聯邦産業能率増進のスローガンとなつてゐるのである。

第二次五ヶ年計畫

概 説

第一次五ヶ年計畫が、其の各年度の豫定を期間内に遂行し、若干の部門に於ける缺陷を除けば全般的に成功し、殊に基礎的部門に偉大なる成果を収めたことは全計畫を四ヶ年即ち一九三二年末までに完成し得る見透を確實ならしむると共に、更に第二次五ヶ年計畫を一九三三年度より實施し得ることの確信を與へたるを以て、聯邦政府は之に對する實際的準備を行ひ、一九三二年初頭これが方針を決定し、五月二十日聯邦人民委員會は國家計畫委員會に基本的計畫の立案を命じ、其の提出の期限を八月十五日迄と指定した。國家計畫委員會ではクイブインエフ議長以下七十三名の委員を以て特別委員會を組織して、計畫案の作製に従事し、一般的成案を得た。

今、第十七回黨大會に於る人民委員會議長モロトフ氏の報告大要に依り、第二

次五ヶ年計畫案並に第一次五ヶ年計畫との比較を概観することにする。

第二次五ヶ年計畫の課題

黨は第二次五ヶ年計畫に於て三つの基本的課題を提起した。

第一は第二次五ヶ年計畫の基本的な政治課題で資本主義的分子及階級一般の終局的清算、階級的差別と搾取を誘發する諸要因の完全な廢棄、經濟に於ける資本主義の殘滓の克服及國內の全勤勞者を轉じて無階級的社會主義社會の意識的積極的建設者たらしめること、第二は勞働者及びホルホーズ大衆の福祉を昂揚しその消費水準を二倍半乃至三倍に引上げることに、第三は工業、運輸及農業の技術的改造を完成することである。

第一の課題に就いては、ソ聯邦に於ける資本主義的要素は第一次五ヶ年計畫當時まだ相當の役割を演じてゐたのである尤も工業に於ける資本主義分子の割合は第一次五ヶ年計畫前まで年々縮減され、今から五年前の全工業生産高に於て資本

主義分子は僅か一を占めてゐたに過ぎなかつたが、商業に於ては私營商業は依然として優勢で小賣總額の二五%を占めてゐた。然し第一次五ヶ年計畫の諸年に於て私營商業は殆んど完全に驅逐されてしまつた。

農村に於ける資本主義分子の掃滅は頗る困難な問題であつたが、第一次五ヶ年計畫の諸年に於て貧農及び中農を集團化するに依つて階級としての富農を破碎することが出来、今日までに農家の三分の二を共同經營化し、ホルホーズ及びソフホーズは粒穀物全播種面積の八四・七%を耕作するに至つた。

達成された總決算並に當面の任務は左表に明らかである。

ソ聯邦經濟に於ける社會主義部門の割合(%)

	一九三六年	一九三三年	一九三二年
大工業總生産高	九〇・〇	九〇・九三	一〇〇・〇
農業總生産高(ホルホーズ員の個々の經營を含む)	三〇・〇	七四・七	一〇九・〇
播種總面積(ホルホーズ員の個々の經營を含む)	二・八	七九・七	一〇〇・〇

農家のコルホーリズム 六・五 一〇〇・〇
小賣商業 七・二 九〇・〇 一〇〇・〇
ソ聯邦國民所得 四四・〇 九三・〇 一〇〇・〇

斯くして第二次五ヶ年計畫末に於ける
社會主義部門は國民經濟各部門に於ける
占的地位を占めるに至るであらう。

第二の課題たる勤勞者の物質的水準の
昂揚に就いては、第一次五ヶ年計畫に於
て大なる達成を得た。即ち失業を絶滅し
富農と貧農への分化を排除した。而して
勞働者大衆の生活水準が高まり、農民の
福祉昂揚の前提條件が創られたので、物
質及文化上の需要が増大して來た。この
要求を満足せしめたるため、農業、輕工
業及食料品工業を進展せしめなければな
らぬ、そこで第二次五ヶ年計畫に於ては
巨額の投資をなして勤勞者の需要水準を
二倍半乃至三倍に増大することになつ
た。

第三の課題たる工業の急速なる發展、
輕工業及び食料品工業の進展並に運輸作
業の改善等は、結局國民經濟の技術的改
善問題に歸結される。故に第二次五ヶ年

第二次五ヶ年計畫の工業生産高に於け
る二群の割合を示せば左の如くである。
工業生産高に於ける二群の相關々係の
變化(%)

工業部門 一九三二年 一九三七年
a 群(生産手段) 五三・三 四七・一
b 群(消費用物資) 四六・七 五三・九
計 一〇〇・〇 一〇〇・〇

尙ほ第二次五ヶ年計畫の特徴の一つと
して地方工業の發展を一層促進せしめる
計畫であることに注意を要する。殊に一
般消費物の生産を激増せしめたるため地
方産の原料と燃料とを使用する工業を發
展せしめると共に或る工業企業はこれを
地方機關に移管することになつてゐる。

工業の昂揚と改造

次に第二次五ヶ年計畫に於ける工業各
部門の發展計畫を見るに生産用具を生産
する重要工業部門の基本課題は次の如く
である。

a 群工業部門總生産高増加(一九二六
—七年度物價による)

計畫の根本的且つ決定的經濟課題は全國
民經濟改造の完成である。

技術的改造の完成と國民

經濟の昂揚

第二次五ヶ年計畫の經濟的主要課題は
國民經濟を改造して生産諸力を大いに展
開することである。既に第一次五ヶ年計
畫に於て工業及び農業の技術的改造が進
捗したが、これは端緒に過ぎず、本格的
技術改造は第二次五ヶ年計畫に於て行は
れることになつてゐる。その結果第二次
五ヶ年計畫の期間中に、國民經濟總生産
高に於ける工業の割合は次の如く變化す
る。

國民經濟總生産高に於ける工業及農業
の割合(%)

一九三二年 一九三七年
一、全工業 六六・八 七九・五
二、農 業 三三・二 二〇・五
計 一〇〇・〇 一〇〇・〇

斯くして第二次五ヶ年計畫末年度には
工業の割合を約八〇%に達せしめて先進

生産手段(單位十)
の生産(億留) 一九三二年 一九三七年
に對する
割合(%)

一、機械製(單位十) 九三・三 三三・〇 三三・〇
二、金屬(單位十) 一五・〇 四〇・〇 三三・〇
三、大型機械(單位百) 一四・三 四三・〇 三三・〇
四、トラク(單位千馬力) 五・七 一九・〇 三三・〇
五、コンバ(單位千) 一〇・〇 三三・〇 三三・〇
六、機關車(單位千臺) 八・六 二九・〇 三三・〇
七、貨車(單位千臺) 三・三 一六・〇 三三・〇
八、自動車(單位千) 三・三 一〇・〇 三三・〇
九、紡織機(單位百) 六・〇 三六・〇 三三・〇
一〇、食料品工(單位百) 四七・七 一四〇・〇 三三・〇
一一、業機械(單位百) 四七・七 一四〇・〇 三三・〇
一二、電力(單位十萬キ) 一三・四 三六・〇 三三・〇
一三、石炭(單位百) 六四・三 一五三・〇 三三・〇
一四、石油(單位百) 三三・一 四七・〇 三三・〇

工業國たる獨逸及合衆國の域に到達せし
めやうと見込んでゐる。工業割合の斯か
る増大は工業生産高の激増を豫定してゐ
るからである、即ち第一次五ヶ年計畫末
年度の工業生産高は四百三十億留であつ
たが、第二次五ヶ年計畫末年度には千三
十億留に達せしめる計畫である。これは
第二次五ヶ年計畫の期間に於て二・四倍
に増大し戦前に對して九倍に相當する。
この増産計畫は専ら新設企業を基礎とし
て作成されたものであるから、新建設問
題は勿論であるが、これらの新技術及新
生産の把握問題が重要な意義を有して
來る。

第二次五ヶ年計畫の工業生産高に於け
る特徴は、生産要具を生産するA群と消
費用物資を生産するB群の發展速度の變
化で、第一次五ヶ年計畫に於ては全國民
經濟の技術的基礎たる重工業の創設に重
點を置いたが、この目的が達せられたの
で今回はこれを基礎として一般消費物
資を生産する輕工業を促進せしめること
が出来るやうになつたのである。

五、銑鐵(單位百) 六・二 一八・〇 三三・〇
六、鋼鐵(單位百) 五・八 一九・〇 三三・〇
七、壓延鋼(單位百) 四・二 一四・〇 三三・〇
八、銅(單位千) 四・七 一五・〇 三三・〇
九、化學(單位十) 一・九 五・七 三三・〇
一〇、挽材(單位百萬) 三・四 一七・〇 三三・〇

重工業の重要部門は大なる發展をす
る。殊に國民經濟の技術的改造に指導的
役割を演ずる機械製造工業は重工業の平
均増大速度よりも高くなつてゐる。その
結果第二次五ヶ年計畫末年度に於ける全
工業生産高の八〇%は新設若しくは改造
された企業に於て生産される計畫となつ
てゐる。

次に消費用物資を生産する工業部門を
見るに、その重要部門の生産課題は左表
の如くである。

b 群工業部門總生産高増加(一九二六
—七年度價格に依る)

消費物(單位十) 一九三三年 一九三七年 對する元 七三・〇 七三・〇 割 合(%)

Table with 2 columns: Item (e.g., 輕工業人民委員部, 供給人民委員部) and values for 1933 and 1937.

農 業

農業は第一次五ヶ年計畫に於て工業の如き急速なる昂揚を見ることが出来な

つた。尤も粒穀物及工業原料作物は昂揚したが畜産業は不振で家畜頭数は減少さへ示した、然し農業の技術的改良、殊に農業の社會化の方面に於て大なる達成をなし、一九三六年には約二十五萬のホルホーズ(共營農場)五千以上のソフホーズ(國營農場)五千の機械トラクター配給所が組織された。

第二次五ヶ年計畫に於ける主要作物の増産計畫は次の如くである。

Table with 2 columns: Crop (e.g., 粒穀物) and values for 1933 and 1937.

二、工業原料作物 棉 花 一九三三年 一九三七年 對する元 七三・〇 七三・〇 割 合(%)

Table with 2 columns: Crop (e.g., 亞 麻, 甜 菜) and values for 1933 and 1937.

百四十三萬五千ヘクタールから三七年の一億四千萬ヘクタール、即ち五ヶ年計畫中に僅か四%の増加に過ぎない。工業原料作物中には五五%の減少さへ豫定されてゐるものがある。

増産を実現するためには收穫率を引上げなければならぬのである。而して第二次五ヶ年計畫に於ける收穫率引上げ計畫は次の如くである。

Table with 2 columns: Crop (e.g., 秋 蒔 小 麥, 春 蒔 小 麥) and values for 1933 and 1937.

右表の示す如く五ヶ年計畫末までには粒穀物の收穫率は四〇%以上、工業原料作物の收穫率は五五%以上増大せしめねばならぬ、而してこの課題の實現はホルホーズ及びソフホーズの技術的改装に大なる關聯を有してゐるので、農業の機械化問題は第二次五ヶ年計畫に於て本格的に進展せしめる筈、農業に使用するトラクター臺数は次の如く累増する筈。

Table with 2 columns: Year (e.g., 一九三二年, 一九三三年) and values for tractor numbers.

では全コルホーズにサービスをするこ
と出来る。
農業の機械化はトラクターのみならず
その他の農業機械に依つても行はれる。
即ち農業機械類の増加を示せば左の如
し。

コルホーズ	一九三三年	一九三七年
コンバイン(單位千臺)	五・五	一〇〇・〇
打穀機(單位千臺)	四七・七	八〇・〇
電機設備(單位千キ)	六五・九	四三三・〇
修理所	三三三・〇	六九三・〇
貨物自動車(單位千臺)	一四・五	二六・〇
乗用自動車(單位千臺)	一・〇	四三・〇

以上の如き機械類に依つて農業機械化
の完成を保證出来る見込みで、農業労働
を機械労働に變化せしめる計畫である。
これと同時に農業技術の方策と礦物肥料
の普及を行ふ筈。化学工業の肥料生産は
第一次五ヶ年計畫末までに十倍に達せし
め、循環耕作法を廣く採用し、灌漑施設
作業を展開する計畫である。

運 輸

工業と農業の生産高激増、都市農村間
に於ける物資取引進展、勤勞者の福祉及
び文化の急速なる昂揚等は、運輸に對し
巨大なる任務を課してゐるが、運輸の進
展は國民經濟の發展を條件づけるもので
ある。

第二次五ヶ年計畫に於ける貨物輸送高
増加は左表に明かである。
第二次五ヶ年計畫の貨物輸送

一九三三年	一九三七年	増加割 合(%)
一、鐵道	一九・三	一七・四
二、河川	三六・一	二四・二
三、海運	一八・三	三六・二

貨物總運送量に於て決定的な役割を演
ずるのは鐵道運輸である。これまで鐵道
運輸の成績は餘り思はしくなかつた、今
後從來の缺陷を匡正しないと國民經濟の
發展に支障を來たす虞れがある、斯かる
缺陷の原因となつてゐるのは技術的裝備
の立遅れのためであるから、先づ鐵道運

輸の技術的改造を行はねばならぬ。
然らばその方策は如何にと云ふに、五
ヶ年計畫中に五千斤を電化する。殊に貨
物輸送の輻輳してゐるウラル・ケズバ
ス、ドンバス、ザバイカル、ウスリーの
諸線を約九千五百斤複線とする。自働閉
鎖信號装置は一九三二年には五百八十二
斤であつたが、これを八千三百斤に延長
する。
特に貨物輸送力を引上げる方策として
注目すべきは輪轉材料に關する計畫で左
表の如くである。
第二次五ヶ年計畫に於ける鐵道運輸
轉材料の増大

一九三三年	一九三七年	對する元 日現在 合(%)
一、機關車臺數	一九・四	二六・五
貨車用機關車	一六・三	二〇・六
右總牽(單位 引力(千噸))	一九・二	二五・三
客車用機關車	三・三	四・八
右の總牽(單位 牽引力(千噸))	三・四	四・五
二、電氣機關車 臺數	一〇	四〇

三、重油機關 車臺數	六	二七・六
四、車輛(單位 千輛)	五三・九	六六・六
貨車(單位 千輛)	五〇・八	一七・八
貨車積載(單位百 總能力(萬噸))	九・五	二五・八
客車(單位千輛)	元	四三

右表の示す如く、總牽引力は機關車臺
數より著しく増大してゐる。これは鐵道
運輸が強力な機關車を多く採用すること
を示すものである。同様の現象は貨車の
臺數とその積載能力の増大に於ても見る
ことが出来る。即ち車輛の増加よりも積
載能力の方が遙かに大きい。これは從來
の二車軸貨車よりも四車軸貨車の製造に
重點を置くやうになつたからである。鐵
道建設中注目すべきは、延長千四百米の
バイカル・アムール幹線の建設でこれは
ザバイカルとアムール下流を聯絡し今日
まで利用し得なかつた廣大なる地域を經
濟生活に引き入れる。上述した諸方策
は、國民經濟の一般的増大に對する鐵道
運輸の立遅れを清算するものである。

水運は第二次五ヶ年計畫に於て大いに
強化され、水運網も増大する。既に第二
次五ヶ年計畫の第一年には二百二十七斤
の白海バルチック運河の建設は完成され
百二十七斤のヴォルガ・モスクワ運河の
建設は開始されてゐる。又第二次五ヶ年
計畫の期間中に百斤のヴォルガ・ドン運
河は建設される豫定である。白海とバル
チック海、バルチック海と黒海、モスク
ワとヴォルガ河を聯絡する運河が完成す
れば、ソ聯邦歐領の水運系統は強大なも
のとなるであらう。河川及び海上運輸の
更新並に改造事業は盛んに行はれて、鐵
道運輸の課題を少なからず緩和するであ
らう。自動車運輸も國民經濟上重要化し
て來たので道路建設も大なる計畫を有し
てゐる。航空輸送も同様である。

技術的改造の完成と把握

技術的改造事業を實現するためには新
技術と新生産を把握せねばならぬ。この
新技術の把握と新生産の成否は作業の實
際的結果に依つて測定出来るものであり

斯かる結果は先づ労働能率の増大と生産
物の原價引下に反映される。第二次五ヶ
年計畫に於て、工業の労働能率は六三%
を増大、工業生産物の原價は二六%引下
げることになつてゐる。

然らば工業及び他の國民經濟諸部門に
於ける労働能率の増進は何を基礎として
計畫されたかと云ふに、労働能率の増進
は先づ國民經濟の完成されたる新技術
を基礎としてゐる。第二は、工業諸企業
に於て利用されずにある労働時間の活用
を基礎としてゐる、ソヴェト當局は工
業内に於ける労働時間を七時間に短縮し
たが、實際の労働時間は五時間乃至五時
間半に過ぎないので、利用されずにある
時間を活用して労働能率を増進すること
が出来た。第三は、社會主義建設に對す
る労働者大衆の積極性の増大を基礎とし
てゐる。例へば社會主義的競争乃至突撃
隊運動等は労働者の積極性の現はれて、
これを基礎として労働能率の増進を行
ふ。最後に指導者技術家、熟練労働者の
豊富なる生産上の經驗を基礎として労働

能率の増進を行ふ計畫である。殊に熟練労働者技師及び技手、企業指導者等は、第二次五ヶ年計畫に於ける技術的裝備の把握問題を解決せねばならぬ。

労働者及技術家に就き一言すれば、第一次五ヶ年計畫に於ては、四十六萬人の工場徒弟學校卒業者が國民經濟に加里、その内三十萬人は工業に従事してゐる。第二次五ヶ年計畫の期間に工場徒弟學校卒業の熟練労働者二百七十萬人が國民經濟に加はる豫定である。その内百七十萬人は工業に五十萬人は運輸に従事することになつてゐる。その外、農業に活動するトラクター及びコンバイン操縦士等を百五十萬人養成する。尙ほ自動車學校及び講習會に於て七十萬人の自動車運轉手が養成される。斯くして第二次五ヶ年計畫に於て約五百萬人に資格づけられた活動家が生産に参加することになつてゐる。

高等及び中等技術學校に於ける専門家の養成も第一次五ヶ年計畫に比し著しく増加する。即ち工業關係に於ては中等技

術學校卒業者数は第一次五ヶ年計畫の六萬九千人に對し第二次五ヶ年計畫には十七萬二千人に、高等技術學校卒業者数は六萬人に對し十一萬二千人に、夫々増加する。運輸に於ては前者は二萬八千人に對し九萬七千人に、後者は八千人に對し二萬八千人に、農家に於ては前者は五萬七千人に對し十五萬三千人に、後者は二萬九千人に對し五萬四千人に夫々増加する。斯くの如く、工業、運輸及び農業に活動する専門家の養成は、第一次五ヶ年計畫よりも増加する。茲に於て我々はこれら幹部と共に新技術及び新生産の把握といふ大問題の解決のため闘争することが出来、且つ國民經濟部門の技術的改造を完成し、國民經濟昂揚計畫を遂行することが出来るのである。

建設計畫と生産力の新分配

國民經濟の技術的改造の完成と勤勞者大衆の福祉及び文化の迅速なる昂揚は新建設を大いに進展せしめなくては實現し得ないのである。第二次五ヶ年計畫に於

ては國民經濟の全部門に互つて建設が行はれる。而して今回の建設計畫の特徴は、ソ聯邦生産諸力の正しい分配であつて、黨及び政府はソ聯邦領域に均衡のとれた分配をするやうに意を用ひてゐる。殊に原料及び動力源に工業を接近せしめ、時代後れの諸共和國及び諸州の經濟及文化的昂揚を迅速ならしめ、都市と農村の對立を除去するようにしてゐる。

茲に第二次五ヶ年計畫の新建設投資額を第一次五ヶ年計畫と比較して見るに、第一次五ヶ年計畫に於ては五百五億留であつたが、第二次五ヶ年計畫に於ては約二・三倍の千三百三十四億留である。斯かる巨額の資金を如何なる國民經濟部門に投資するかと云ふに、右金額の過半即ち六百九十五億留は生産手段及要具を生産する工業に投資して、國內工業の基礎たる重工業の鞏化を保證する計畫である。

輕工業及食料品工業に對しては第一次五ヶ年計畫に於て三十五億留を投資したが、第二次五ヶ年計畫に於てはその四・

六倍たる百六十一億留を投資して一般消費物を生産する工業部門の發展を保證する計畫である。

ソフホーズ、機械・トラクター配給所及コルホーズ等の農業に對する投資額は、第一次五ヶ年計畫に於ては九十七億留であつたが第二次五ヶ年計畫に於ては百五十二億留である。この金額のうちにはコルホーズ自體が投資する額は含まれてゐない。

運輸に對する投資額は第一次五ヶ年計畫に於ては八十五億留であつたが、第二次五ヶ年計畫に於てはその三倍の二百六十三億留である。

工業諸部門の新開設

國民經濟諸部門は次の如く進展する。

1、機械製造業

第二次五ヶ年計畫に於て九十四の新工場が操業を開始する。第一次五ヶ年計畫の諸年に着手された諸工場が今回の計畫期間中に完成する。例へば十萬噸の製造能力を有するウラルの大型機械工場、十

五萬噸の製造能力を有するクラマトルスキー工場、ウラルの化學器械工場、千八十臺の蒸氣機關車を製造するルガンスキー工場、蒸氣及ディーゼル機關車を各々五百臺製造するオルスキー工場、三百臺の電氣機關車を製造するカンスキー工場の建設は完成する。五百四十輛の四車軸貨車を製造するウラル車輛工場は一部操業を開始し、クズネツキー及びノヴォ・チエルカツスキー機關車工場、カヂンスキー車輛工場の建設は進展する。河川及び海洋汽船の造船所建設は進展し極東のコムソモルスクに於ける造船所建設は完了する。モーター五萬臺を製造するウフアの工場建設は本期中に完了する。ゴリコフスキー自轉車工場は三十萬臺に擴張される。モスコフスキー自轉車工場は八萬臺に、ヤロスラフスキー工場は五萬臺に、貨物自動車二萬五千臺に擴張される、三

應積貨物自動車を各々十萬臺製造するウヒムスキー及びスタリングラードスキー自動車工場、五萬噸貨物自動車を二萬五千臺製造するサマルスキー工場は本期中

に建設される。自動車製造に關聯した諸工場も多く建設される。ハリコフに於ける百五十萬キロワットのターボゼネレーター工場は完成し、ウラルのトランスホマー其他電機工場、各種工作機械製造工場も各所に建設される。化學工業、食料品工業、木材業、製紙業に使用する各種の機械設備の製造工場も本期中に建設される計畫である。

2、電 化

電化領域に於ては七十九の地方發電所の建設が行はれる。その内四十八發電所は新規建設である。モスクワ、レニングラード、ウクライナに於ける冶金根據地ウラル・クヅネツキー綜合工場等の工業地方に大發電所を建設する。主要工業中心地は相互に高壓線を以て結びつけ、電力の供給を完全に保證し一九三四年投資額は九九〇萬留を計上されてゐる。

3、石炭、石油

石炭業に於ては、投資額六六二億留採炭計畫は九六二五一千噸であり、その中ドンバス六〇百萬噸、クズバス一二百

萬噸(二〇%の増大)、交通人民委員部四百萬噸の豫定、更に大堅坑を増加し、一億四千三百萬噸の産炭能力を有する百七十八坑の操業を開始する。

更に重要な石油業に於ては多數の製油工場を建設し、カスピ・オルスク、マハチカラ・ヴォロネヂ、ネフテタゲ・クラースノヴォドスク間に送油管を建設し、バクウ・バツム間に送油管を建設し、バクウ・バツム間の送油管を擴張し、グロズヌイ・アルマヴイル、ツルドワヤ・ドネプロペトロフスク間に精油輸送管を建設する。一九三三年度採油豫定額は三〇六百萬噸、三三・二%の増加であり、アツ・ネフチは三四・六%増加で二二百萬噸に上り、グロズ・ネフチは一八・八%の増加の豫定であり、掘進豫定は一五五萬米である。ベンデン及燈油の分解蒸溜並に製油は、將來の工業發展テンポを促進するもので、該計畫の遂行は特に重要である。

第二次五ヶ年計畫の成果

ソ聯邦は一九三七年で第二次五ヶ年計畫を終了して、一九三八年一月から第三次五ヶ年計畫に移行した。第二次五ヶ年計畫の最初の豫定は既に去る四月迄に、つまり四年三ヶ月で遂行された。そこで政府は四月二十八日附の聯邦人民委員會を以てかねて準備中の第三次五ヶ年計畫の作成を終へ、七月一日までに政府に提出する様國家計畫委員會(ゴスプラン)に命じた。

ソ聯邦は第一、第二の五ヶ年計畫に依つてアメリカ合衆國に次ぐ工業品となつた。第一次を國民經濟建設計畫と稱し第二次を國民經濟發展計畫と稱んでゐるのは面白い。建設から發展へ—その結果、ソ聯邦は工業生産高から云へばアメリカに次いでゐるが、トラクター、コンバイン、人造ゴムの生産、甜菜、小麥の收穫高では世界一になつた、そして機械製作、石油、銑鐵、製材、鐵道貨物輸送高ではヨーロッパ中第一位を占め、電力、石炭貨物自動車、鋼塊、アルミニウム、過燐酸、加里肥料の産額では米獨に次い

でゐる。

五ヶ年計畫の一つの目標は技術的、經濟的獨立といふことであつたが、この點でも相當成功してゐる。五ヶ年計畫が始まつた一九二七—二八年當時、國內の需要に對する輸入の割合は頗る大きく、機械類では二割一分、トラクターでは六割六分一厘に達してゐたが、一九三五年には機械類は一分に減少し、トラクターの輸入は全く消滅して了つた。機械類は後れたロシアの工業を近代化し、謂はゆる生産力の擴充の上に缺くことの出来ないものであり、トラクターはソ聯邦農業政策(大規模共營農場)を進める上になくてならないのだが、それが何れも國産で間に合ふやうになつたのだから大した成功である。そのほか自動車の輸入は殆ど姿を没し、一九二八年には百%輸入に俟つてゐたアルミニウムの生産は需要の九割八分、同じくゴムは四割一分を國産で充たすやうになつた。

かやうにソヴェート經濟は僅々數年間に驚嘆すべき進歩を遂げたが何としても

急拵の建物の感を免れない。第三次五ヶ年計畫ではその仕上げに着手することになるのであるがその前に一應第二次五ヶ年計畫の結果を検討して見やう。

第一に第二次五ヶ年計畫の遂行は去る四月迄に完了されたと云ふがこれは工業生産高が最初の豫定に到達したと云ふだけのことである。その内容に立ち入ると種々の缺陷がある。

先づ工業生産を二つに分けて、いはゆる生産力の擴充に宛てられる生産財と國民生活の改善に宛てられる消費財とに分類すると第二次五ヶ年計畫では消費財の方が生産財よりも急速に増加する筈であつた。ところが後者の生産高は三倍に増加したが、前者は二倍にしか増加しなかつた。今年の計畫でも最初の豫定では消費財の方は四百七十二億留、生産財の方はそれよりも少く四百五十五億留の豫定であつたが、實際は前者は四百三十億留しか計上されて居らず、後者は六百億留の巨額に上つてゐる、一九三三年當時、生産財は工業生産中の五七%を占め消費

財は四三%にしか當つてゐなかつたが、五ヶ年後の本年はこの割合が生産財四九%に對し消費財五一%と僅かながら逆轉する筈であつた。つまりそれだけ消費財品、日用品が多くなり、國民生活が改善される筈であつた。ところが前記の様に本年になつても一九三三年の生産財偏重の傾向が依然として改められず、生産財は五八・二%消費財は四一・八%と却つて右の傾向を強めることとなつてゐる。

これはこゝ數年來國際情勢が急迫して、ソ聯邦の軍備の擴張に次ぐに擴張を餘儀なくされた結果である。そこで第二次五ヶ年計畫の當初約束された國民生活の改善は、少しは實現されたが大體に於て第三次五ヶ年計畫に繰越されることとなつたのである。

以上の様に第二次五ヶ年計畫の遂行は、消費財よりも生産財、輕工業よりも重工業の發展に負ふてゐる。しかしこれは重工業が全面的によかつたからではなく主として機械工業と金屬加工工業がすばらしく發展したためである。そして石炭

や石油の様に非常に重要な部門が當初の計畫に遙に及ばなかつた。

左に最近の資料に基づき各産業部門計畫遂行状態を概記して見よう。

スタハノフ運動

第二次五ヶ年計畫に於てソ聯邦當局が採つたスローガンはスタハノフ運動である。

突撃隊運動、イゾトフ運動、社會主義競争に引續いて、次に採用されたスタハノフ運動は一九三五年八月三十一日にドンバス炭坑夫アレクセイ・スタハノフが採炭機を以て六時間に石炭一〇二噸を採掘したことに始まる。これは例のない記録であつた。これを切つかけにして記録保持競争が開始され彼等は相互に急激に追ひ越し十月末にはゴルロフカのカリニン炭坑の坑夫アンドレイ・ゴルバチエキが六時間に四〇五噸の石炭を採掘して新記録を作つた。新記録保持は他の工業部門でも急速に開始され、遂にはソ聯邦全經濟部門を始め、軍隊、文化方面

にまで及び一九三五年末には第一回スタ
ハノフ主義者大会が開催されスタハノフ
運動の波は全國を席捲するに至つたので
ある。

スタハノフ運動の發生、その性質に就
いては一九三五年十一月十四日モスクワ
市に於て開催された「第一回全聯邦スタ
ハノフ労働者會議」に於けるオルジョニ
キーゼ氏の演説が問題の核心を傳へてゐ
るから左にこれを要約しやう。

オルヂョニキーゼの演説

要旨

本年度の重工業生産計畫は超過遂行の
趨勢にあり、重工業問題は本日の議事日
程の埒外に屬するものであるから、余は
茲に其の決算報告を引證するのを避けた
る。

我々は目下、極めて重要な問題に當面
してゐる。スタハノフ運動がそれである。
然らば、スタハノフ運動とは何か？
今日まで我々は採炭作業に鋭意努力を
續けてきたのであるが、採炭機一臺につ

き六噸乃至七噸以上の成績をあげること
は全く不可能であつた。外國では如何か
と云ふに、ルール炭田では十四噸、英國
では十一噸の採炭量をあげてゐる。とこ
ろが我がソ聯邦に於ける採炭標準は六噸
であつた。然るに今ではソ聯邦の英雄と
なつてゐた。スタハノフ君が、或る日採
炭機一臺につき實に百二噸といふ採炭量
を突然出現したのである（一人で百二噸
の採炭量をあげた如く考へてゐる人が偶
偶あるが、それは誤で、一作業班全部で
百二噸である）スタハノフに次いで他の
ものが二百噸、三百噸、四百噸と云ふ採
炭量をあげ、遂に五百五十二噸の實績を
あげるに至つた。

何故右の様なおこつたのであら
うか？ 實際に、總ての指導者が全くの
白痴であつて、今日まで何事も理解し得
なかつたからであらうか？ これに對し
ては、勿論、否と答へざるを得ない。問
題は、偉大なる歴史的意義を帯びた他の
現象にあるのである。

一九一九年にレーニンは次の如く述べ

てゐる。

「労働能率は、究極に於て、新しい社會
組織の勝利にとつて最も重要なもので
ある。資本主義は、農奴制の下では未
だ會て見られなかつた様な労働能率を
生み出した。しかして、資本主義は決
定的な勝利を協し得るであらう。だが
社會主義が培ひつゝある新しい、より
一層高度の労働能率によつて資本主義
は敗北の苦杯を喫するであらう」

スタハノフ、ブスイギン、ヂュカノフ、
クリヴォノス等のスタハノフ主義者は、
レーニンの教義を實現して、労働能率の
模範を垂れたものである。ドンバスの現
状を以てしては、一年間は一億七百萬噸
以上の採炭量をあげることが不可能であ
るが、スタハノフ式によれば右の數字は
倍化し得るのである。

然らば、何故今日までかゝる現象が現
れなかつたのであらうか？ これに對し
ては、我々が現在擁してゐるあらゆる可
能性を我々が今日まで知らずにゐたこと
を卒直に認めざるを得ない。

或る同志諸君は、お前は我々が盲目で
あるかと云ふのかと反問されるかも知れ
ぬが、問題はそれと全く事違ふ。我々は
立派な工業、立派な工場を建設した。然
して、それは我が黨、労働者、技師、經
営者達がなした仕事である。だが我々の
標準は、時代後れの教授や學者が學んだ
ものであるから、今では古臭くなつてし
まつたのである。彼等は、古い立後れた
技術から出發して、革命前の露西亞で教
育を受けたのである。

次にスタハノフ運動はソ聯邦獨特の現
象であることを忘れてはならない。

資本主義世界の労働者が、ソ聯邦の勞
働者の如く働くことは決してない。資本
主義世界はスタハノフを生み出すことが
出来ない。若しも資本主義世界にスタハ
ノフ主義が現れるとすれば、それはよく
よくの變り者であらう。何故ならば、勞
働能率を極度に高めるならば、尠くとも
労働者の三分の一乃至は半數が職を失ふ
結果になるからである。

スタハノフ主義者が齎した労働能率の

増大は、ソ聯邦を強力にし、豊かにし、
それによつて労働者自身は賃金を大いに
増加し、富裕となり、自己の文化水準を
高めることが出来る。同時に、労働者が
失業の脅威におびやかされる様なことも
ない。スタハノフ主義者が多く輩出すれ
ば輩出する程、我々の期待する課題はよ
り速かに解決されるのである。

スタハノフ運動は如何に理解されたの
であらうか？ 誰もが即座にそれを理解
したのであらうか？ 私はこれに對して否
と答へざるを得ない。スタハノフ運動の
意義はまだよく徹底してゐない證左とし
て次の様な實例をあげることが出来る。

私が二、三の經營家に對して、彼等が
何を行ひ、また、スタハノフ的方法を如
何に應用してゐるかを質問した際に、そ
の答へは次の如きものであつた。「我々は
スタハノフぐらゐの生産計畫を遂行して
ゐるから、スタハノフ運動は我々には關
係のないことである。それは、炭坑夫の
問題である」また我が同志の一人は、ス
タハノフ運動は労働組合の問題らしいか

ら、労働組合が宣傳すべきである、とさ
へ極言した程である。

とまれ、スタハノフ主義者の新しい強
力な運動が今や職場からまき起つたが、
これはスターリンの指導の下に一路前進
への道を辿るであらう。

ではスタハノフ運動に依つてソ聯邦各
經濟部門は如何なる影響を受けたか。そ
の最も顯著な事實は、重工業部門、特に
採炭業が下半期に至つて俄然、生産高を
高めて、ウオロシローフ炭田やスヴェル
ドロフスク炭田の如きは既に十一月末に
於いて同年度計畫を完全に遂行してつ
つた程である。

製鐵業に於ても、一九三五年末に於い
てソ聯邦全體の日産高を、鋼塊四〇、〇
〇〇噸、銑鐵三八、五〇〇噸と増加せし
めたのであるが、それより一ヶ年經過し
た一九三六年末には、日産目標は鋼塊六
〇、〇〇〇噸、銑鐵五〇、〇〇〇噸鋼材
四五、〇〇〇噸に増大せしめられた。
この目標に向つてスタハノフ運動、社
會主義競争が展開されてゐるのである。

スタハノフ運動の生産力増加に對する影響は疑ふべくもないが然しソ聯邦労働者内に於ける不満、特に最近に於ける不満は可なり増大して來てゐる様である。幾分中傷、誹謗のそしりあるは免れないが或る外國批評はスタハノフ運動に對して左の如き感想を述べてゐる。

「ソ聯邦には死物狂ひの痼癩を起し、恐らくは落付きを失つた人々の、深く且つ野蠻な暴力形態に立向ふべき地盤が、不可避的に造り出されるのである。政府の新聞はこれらの暴力行爲をさへ抹殺し、スタハノフ政策のすべての不備の現れを隠蔽しやうとしてゐる。だが斯る狡猾な機構の助けを以てしても、労働者大衆をして、スタハノフ政策が彼等にとつて善行美舉である旨を確信させることは出来なう。

否労働者階級の利害の観点からすれば労働能率増進問題は、全く異つた方法で解決される。即ちそれは健康を破壊し明らかに力不相應である記録保持によつて労働者を驅り立てる方法によつてはな

い。又上層労働者と下層労働者とを對立させる方法に依つてはなく、廣汎な労働者大衆の一般的な物質的、文化的向上の道に依つてである」

ソ聯邦國民經濟發展第三次五ヶ年計畫（一九三八—一九四二年）に關する

決議（モロトフの報告に基くもの）

一、第二次五ヶ年計畫実績と第三次五ヶ年計畫の基本的課題

（一）ソ聯邦に於ける第二次五ヶ年計畫（一九三三—一九三七年）の成功的遂行の結果、第二次五ヶ年計畫の基本的歴史的課題は解決せられ、一切の搾取階級は最終的に清算せられ、人による人の搾取社會の搾取者と被搾取者との區分を生む諸原因は完全に絶滅せられた。社會主義革命の最も困難な課題は解決せられた。即ち農業の共營化は完成せられ、コルホーズ制度は全く強化した。我が國に於ては「共產主義の第一段階である社會主義

は根本的には實現せられた」。(スターリン) 社會主義の勝利は立法的にソ聯邦新憲法中に確立せられた。

生産資本、生産手段及び生産建設物に對する社會主義的—國家及び組合、コルホーズの—財産は、第二次五ヶ年計畫末に於て我が國に於ける全生産資本の九八・七%となつた。生産の社會主義的機構はソ聯邦國民經濟の全面に互つて一様に支配し初めた。即ち工業總生産額についてはそれは九九・八%、農業總生産額についてはコルホーズ員の私的副業を加へ九八・六%、商品取引については一〇〇%に達した。

我が國經濟の社會主義的改組に順應してソ聯邦社會の階級構成も變つた。ソ聯邦の社會主義的經濟に従事する労働者及び勤務者は一九三七年我が國全人口の三四・七%、コルホーズ農民は組合組織の手工業者を合し五五・五%、軍人、學生年金受領者及び其の他は四・二%に當る斯くの如く當時既に我が國人口の九四・四%は社會主義的經濟に従事し、又はそ

れと密接な關係を有した。人口の殘部、即ち個人農、組合組織外の手工業者及び職人は人口の僅に五・六%であつた。爾來人口の此の部分は一層減少した。

ソ聯邦に於ける社會主義的社會は、今や二つの互ひに親愛なる階級、即ち労働階級及び農民階級から成り立つて居り、兩者の間の障壁、又同様に此等階級と知識階級との障壁は磨滅し漸次消滅してゐる。ソ聯邦の勤勞者は、その歴的大部分階級なき社會主義的社會、共產主義の積極的且自覺ある建設者である。ソ聯邦に於ける社會主義の勝利は、共產黨及びソヴェート政權の旗幟と指導の下に、嘗て何處にも見られなかつた國內的な國民の道徳的及び政治的團結、勞務者の道徳、政治的結束を保障し、その結束は嘗て敵對階級の殘滓、彼等の異端的影響を掃滅し、外部からの凡ゆる敵對策動に反撃を與へ得るのみでなく、それは亦我が祖國の將來の成長と繁榮との最良の保障、我が國に於ける共產主義勝利の保障である。

（二）第二次五ヶ年計畫の主要にして且決定的な經濟課題—ソ聯邦國民經濟の技術的改造の完成—は根本的には遂行せられた。

我が國の生産、技術的機關は根本的に更新せられた。一九三七年には工業總生産の八〇%以上は、第一次及び第二次五ヶ年計畫中に新設せられたか、又は全然改造せられた新企業から得られ、現に農業に使用中のトラクター及びコムバイン全數の約九〇%は第二次五ヶ年計畫に於てソ聯邦工業により生産せられた。工業及び運輸方面に於て第二次五ヶ年計畫の課題は期限前に遂行せられた。工業は第二次五ヶ年計畫を一九三七年四月一日迄に、即ち四年三箇月で遂行し、而も第二次五ヶ年計畫に於て重工業は特に急速に發達した。鐵道運輸第二次五ヶ年計畫は四年間に超過遂行せられた。又農業の生産に關する第二次五ヶ年計畫の最重要課題、即ち粒穀、棉花に付ても超過遂行せられた。

一九三二年—第一次五ヶ年計畫の最終年に比較し、一九三七年に於ける工業生産

三%増大した。スタハノフ運動の昂揚及び高度の労働生産性を示したスタハノフ運動者の社会主義的、自覚的労働の顯著なる多数實例は、我が國の凡ゆる企業及び官廳に於ける労働規律の根本的強化の前提を創り、それは全勤労働者の高度労働生産性の必須条件であり、且ソ聯邦に於ける共産主義の新しい飛躍の保障である。

第二次五年計畫の遂行を保障する爲には、敵對階級分子の殘滓、竝に國民經濟文化建設、全政治生活に於ける敵對階級の影響との闘争を組織することが必要であつた。此の爲には先づ國家及びホルホイズ財産の盜奪者竝に私消者に對し、ありと凡ゆる階級の敵味方に對し、就中外國諜報者と合體してファシスト秘密警察の手先となつたトロツキスト・ブハリン派及びブルジョア國家主義派の間諜、破壊者及び有害分子が代表する國民の裏切者に對して社会主義的、國家及びホルホイズ財産の擁護に強化の爲の闘争を組織することが必要であつた。彼等の裏

切的作業はソ聯邦國民經濟の多數部門に互り甚大なる損害を與へた。此等間諜、有害分子徒黨の撃滅は、我が國に於ける社会主義的經濟の將來に、更に更に強大なる成功への道を拓いた。

國民經濟全部門を通じて労働者及び勤務者の員数は第二次五年計畫中に一七・六%増加した。労働者及び勤務者の年平均賃金は全國民經濟を通じ一九三七年には一九三二年に比較し、一一三・五%、即ち二倍餘に増加した。労働者及び勤務者の賃銀基金は第二次五年計畫の豫定増加五五%に對し一五一%増加、即ち二倍半餘増大した。教育、保健、體育及び社會保障に關し都市及び農村勤務者の文化生活設備に對する國家支出(聯邦、共和國及び地方豫算に付)竝に國家社會保險に對する支出は、一九三二年の八十三億留から一九三七年の三百八億留、即ち三・

七倍に増加した。其の他労働者の住宅生活条件改善及び公共經濟に對する支出は第二次五年計畫期間に百六十三億留に達した。第二次五年計畫期間にホルホイズ員の富裕程度は著しく増加した。ホルホイズ員の總收入は四年間(一九三三—一九三七年)に二・七倍餘となり、労働日數によりホルホイズ員に配分せられる金錢收入は此の間四・五倍となつた。

一九三七年には大衆消費品の生産は一九三二年に比し二倍餘となつた。大衆消費向多數食料品及び商品を通じその生産は二倍となつた許りでなく三倍ともなつた。第二次五年計畫期間に國營、組合商店の商品出廻は二倍餘となり、ホルホイズ商業を加へそれは一九三二年に於ける四百七十八億留から一九三七年の千四百三十七億留となつた。大衆消費品の小賣價格引下げに關する第二次五年計畫課題の未遂行は、五年計畫が豫定した以上の大中の労働者及び勤務者の賃銀引上げに依り、又ホルホイズ及びホルホイズ員の

金錢收入の著しき増加に依つて補填せられた。

第二次五年計畫期間にソ聯邦に於ては文化革命が實施せられた。初等及び中等學校の生徒數は二千三百三十萬人から二千九百四十萬人に増加し、而も五—七年級の生徒數は二倍となり、及八—十年級の生徒は十五倍となつた。高等教育機關の學生數は五十五萬人となつた。他の凡ゆる部門に於ても文化的建設が展開せられた。

ソ聯邦の各構成共和國に於ては工業化及び國民の物質的、文化的水準向上に關し、民族的ポリシエヴィキ幹部員の養成に關し、内容的に社会主義的な全民族的文化的向上に關し顯著な成功を擧げた。就中ソ聯邦東方諸民族の物質的及び文化的向上のテムボは大であつた。

(四) 第二次五年計畫の勝利的遂行と社会主義の達成した成功に基いてソ聯邦は、第三次五年計畫に於ては發展の新段階、階級なき社会主義的社會の建設完成竝に社会主義から共産主義への漸進的移

行の段階に入るのであつて、茲に於て、労働者の共産主義的養成、人—共産主義建設者—の意識に於て資本主義的殘滓を抹殺することが決定的意義を有して行く。

然し此の巨大なる課題解決の困難を殊に敵意を含む資本主義的環境の條件下に於て過少評價することは許されない。況んや第一次及び第二次五年計畫の成功的遂行にも拘らず、我が國工業の記録的發展テムボにも拘らず、生産技術の點に於てソ聯邦工業は先進資本主義諸國を超越したにも拘らず——此等の總てにも拘らず、吾人は尙經濟的關係に於て最も發達せる資本主義國に追付いてゐないのである。

ソ聯邦は、我が國經濟及び國防の必要に對し凡ゆる必要な技術的裝備を保障してゐる經濟的に何處にも依據しない國となつた。

その發展テムボに於てソ聯邦工業は世界第一位である。他方資本主義諸國の工業が一九二九年末初まつた困難な經濟恐

慌後、一九三七年に至り、辛ふじて一九二九年水準の一〇二・五%に達し、次いで一九三七年の後半期から新しい危機の打撃の下に再び轉落した時、ソ聯邦の工業は一九三七年には一九二九年水準の四二八%に達した。之は戰前の水準に比較して工業生産額が八倍餘となつたことを意味するものである。一九三八年度に於てはソ聯邦工業生産高は前年に比しても尙一一・三%の増加で、一九二九年の水準に比し四七七%に達した。然るに一方資本主義諸國では一九三八年度に於ては工業生産額は前年度に比し一三・五%減少し、一九二九年水準の九〇%に低下した。

資本主義に於ては諸國の發展が著しく不均衡であつた爲最近十箇年間に互り工業は全體として發展せず、工業生産は著しく減退して居るのに反し、ソ聯邦に於ては工業は堅實且急速なる發達を示し、其の生産物は逐年高度の發展テムボを辿つて居る。然し乍ら我が國は過去に於て經濟的に非常に遅れて居た爲、人口一人

當りの生産額を以て示せるソ聯邦工業發達の水準は、現在尙技術的・經濟的に最も發達せる歐洲の資本主義諸國及び北米合衆國よりも遙に低い。又我が國に於ては人口一人に付必要とする工業生産高は北米合衆國、英國、獨逸、佛蘭西等の諸國に比し遙に少いことも明瞭である。例へば第二次五年計畫の末期にはソ聯邦に於ては人口一人當りの電力使用量は佛國の二分の一以下、英國の約三分の一、獨逸の約三分の一、米國の約四分の一に當り、石炭に付てはソ聯邦に於ては人口一人當りの消費は佛國に比し若干少く米英、獨逸に比し遙に少い。ソ聯邦は織物、紙、石鹼其他數種の商品の人口一人當りの生産高に付ても尙遅れて居る。

資本主義との歴史的競争に於て共產主義の決定的勝利を確實ならしめんが爲には此のソ聯邦の工業生産高が技術的・經濟的關係に於て最も發達せる資本主義諸國に比し不足して居る點を完全に清算せねばならぬ。

(五) ソ聯邦が社會主義國家として成熟し、大體に於て國民經濟の建直しを完了せる外、工業及び農業に於ける生産技術の水準に付ては歐洲の如何なる資本主義國にも先んじて居る今日に於ては、經濟的關係に於ても最も發達せる歐洲の資本主義諸國及び北米合衆國に追ひ付き追ひ抜き最短期間内に本問題を最終的に解決すると言ふソ聯邦經濟の根本問題の解決を全面的實際的に取上げ且實行することは可能であると共に必要である。

結局に於て新社會制度の勝利の爲最重最要のものである」と言つたレーニンの教義に従ひ、吾人は凡ゆる手段を盡して、社會主義競争並にスタハーフ運動の發展を保障し、總ての企業及び官廳並にコルホーズに於ける労働規律の牢乎たる振肅を保障し、社會主義的社會に價する労働者、農民及びインテリゲンチヤの高き労働性を保障せねばならぬ。

之と同時に第三次五年計畫各年度中に國民の消費を一倍半乃至二倍に引上げ得る程度に國民所得及び商品の流通を増大せしむることを保障せねばならぬ。之が爲には重工業及び國防工業の異常なる發達と並行して大衆必需食料品の生産増加運動を擴大し且之に應じて労働者及び勤務員の實質賃金の増加、コルホーズ員の所得の増加を保障することが必要である

此等第三次五年計畫の基本的課題に應じ、都市及び農村の全勤勞者大衆の文化的水準の顯著なる引上げを保障し、社會主義社會の先進的指導的動力たる労働階級の文化的水準を引上げて技術勞務者の

水準に達せしめ此の歴史的事業に於て巨大なる一步の前進を實現することが必要である。

第三次五年計畫に於ける工業及び全國經濟の著しき發達と、一般國家計畫に従ひ今後之が不斷の發達を保障する必要とは、殊にソ聯邦の外域を環る帝國主義の侵略勢力が愈々増強しつつある事態下に於ては、國內の關係地方間に正しく配分し、不生産的な遠距離間の輸送を避け國內の主要經濟中心地に對し現地に於て最大限度の資源を保障することに依り、第一に燃料、電力、若干の國防的生產並に運輸の發達に付大なる國家的餘力を創設することを要求してゐる。

(一) 第三次五年計畫最終年度たる一九四二年のソ聯邦全工業生産高を一九三七年度の九五、五〇〇百萬留に對し一八四、〇〇〇百萬留(一九二六—二七年度の價格に依る)と定める、即ち第三次五年計畫中に於ける工業生産品の増加率を九二%とする。

第三次五年計畫中に於けるソ聯邦工業全體(一九二六—二七年度の價格に依る)其内

工業全體	一九二六—二七年度	一九四二年	對一九三七
生産手段の生産	一一四・五(十億留)	二〇七	年百分比
消費物件の生産	六九・五(十億留)	一七二	一九二
機械製作及金屬の加工(一九二六—二七年度價格に依る)	六三(十億留)	二二九	
幹線用機關車(假に「エ」型及「エス・ウ」型に換算す)	二、三四〇(臺)	一四八	
貨車(二軸車に換算)	一一〇(千臺)	二〇三	
自動車	四〇〇(千臺)	二〇〇	
電力	七五(十億キロ時)	二〇六	
石炭	二四三(百萬噸)	一九〇	
原油(瓦斯を含む)	五四(百萬噸)	一七七	
泥炭	四九(百萬噸)	二〇六	
鉄塊	二二(百萬噸)	一五二	
鋼塊	二八(百萬噸)	一五八	
鋼材	二一(百萬噸)	一六二	

第十八回黨大會はソ聯邦國家計畫委員會より提出せられ全聯邦共產黨中央委員會及聯邦人民委員會に於て採決せられたるソ聯邦國民經濟第三次五年計畫の次の諸項を確認する。

二、第三次五ヶ年計畫に依る生産増加計畫

其内特殊鋼		化學工業(一九二六—二七年度の價格に依る)	
洋灰	一四(十億留)	二二七	
木材の搬出	一一(百萬噸)	二〇二	
製材	二〇〇(百萬立方米)	一八〇	
紙	四五(百萬立方米)	一五六	
綿織物	一、五〇〇(千噸)	一八〇	
毛織物	四、九〇〇(百萬米)	一四二	
革靴	一七七(百萬米)	一六七	
雙目砂糖	二五八(百萬足)	一四三	
罐詰(食料工業、漁業、地方工業各人民委員部)	三、五〇〇(千噸)	一四四	
金屬骨組	一、八〇〇(百萬箇)	二〇六	
	九〇〇(千噸)	一六一	

(二) 國民經濟の技術的武裝上主要なる役割を有する機械製作業を全面的に發達せしめ以て現下の國家的要求に副つてソ聯邦の總ての産業部門並に國防の各方面に對する最新技術の扶植を保障すること。第三次五年計畫末に於ける機械製作工業の生産額を二・三倍に増加すること即ち工業の一般的發達テムボよりも遙に高からしめること。各種の工作機の生産を保障し、生産能率高き機械、特殊機械殊に自動式機械及び半自動式機械の比率を大ならしむること。金屬切斷機を一九三七年の三萬六千臺に比し一九四二年には七萬臺とし、八〇〇種の型及びサイズを異にする工作機を製作すること。凡ゆる方法に依り磨損機械裝備の再生及び改裝を進展せしむること。工具特に標準型工具の生産を倍加すること。壓搾空氣、電氣及び多數の他の特殊工具の生産を増加すること。動力機の製作が日進月歩のソ聯邦國民經濟の需要より遅れて居る點を克服すること。一九四二年に蒸氣タービンの製造高を一九三七年の五・九倍に、汽罐を五・二倍に達せしむ

ること。出力一萬二千キロワット及び夫以下の中、小タービンの生産比率を擴大すること。クイブイシエフ水力發電所用の大型水力タービンの生産を確實ならしむること。蒸氣機關、固定式及び船舶ディゼル機關、差當り高速ディゼル並に瓦斯を燃料とする動力機械の製作に特に注意すること。木材伐採地に於ける一切の機械を瓦斯發生裝置に替へ、農業用トラクター及び自動車の大部分を瓦斯發生裝置に移すこと。建築及び道路建設用機械の生産及び建設用工具の製作不振を挽回すること。蒸氣掘鑿機、土掘機及び水力機械生産の増加に努むること。化學工業用の複雑なる機械及び設備の生産を強化し化學工業の急速なる發達を完全に保障すること。紡織工場、莫大小工場及び製靴工場用の最新技術に依る高速紡績機、工作機、裝備の生産を確立すること。之がため生産過程を自動化せる機械の習熟に特に注意し以て紡績裝備生産の不振を挽回し紡績機の製作を五年計畫末には六倍

(一) 一般機械製作人民委員部)に達せしむること。この他食料品工業用機械製作を強化し特に注入機械及び包装機械の生産増加を保障すること。各種の近代船舶を以て海洋船隊を保障し増大しつつあるソ聯邦の海上及び河川運輸需要を國産を以て保障し得べき程度の造船能力を創造すること。自動車及び電氣操縱機械の製作を擴張すること。

(四) 我が國の全國民經濟の燃料基礎たる石炭及び石油の産業部門を全面的に發達せしむること。石炭採掘を單に國內の消費に充つるのみならず、經濟的貯藏並に國家的豫備の創設を保障し得べき水準に迄發達増大せしむること。ウラル炭田、モスクワ附近の炭田、極東及び中央亞細亞に於ける採炭の最高テムボを確保し、此等の地方に於ける採炭量を第三次五箇年計畫中に、ウラルに於ては——三倍、モスクワ附近に於ては三・七倍、極東に於ては——二・七倍、中央亞細亞に於ては——四・四倍に増加せしむること。褐炭採掘量を第三次五年計畫中に二

六倍に増加せしむること。我が國の凡ゆる地方に於て、假令それが小規模の埋炭量にせよ、此處に地方炭の新採掘基地を創設し、其の發達に連れて地方産業の諸企業、公營企業、學校、病院、官廳を遠隔地方よりの輸送燃料より地方燃料に移行せしむること。我が國の凡ゆる産炭地方に於て採炭の綜合的機械化を完成し、採炭を國の凡ゆる産炭地方に於て、炭坑夫のスタハノフ的勞働生産性の基礎であるサークル制作業の圖表採用を基礎として、組織すること。

ヴォルガ及びウラル間に新しい石油基地「第二のバクー」を創造すること。採油及び精油の豫定を地質調査作業の急速なる發達、全石油工業部門に於ける高度の技術の導入に依り保障すること。廻轉式掘鑿機、高壓掘鑿、瓦斯採取式及び瓦斯よりベンジンを採取する特殊採油法、化學的精油法を廣く採用すること。極力良質の燃料及び油を生産すること。特にソ聯邦の東部諸地方に送油管及び石油基地網を建設すること。

石炭長距離輸送を低減する爲、特にイワノヴォ州の如き諸州に於て泥炭業を發達せしめ、固形泥炭及び乾燥泥炭の生産を増加し又油母頁岩の採掘及び利用を全面的に強化すること。凡ゆる種類の燃料の瓦斯化及び石炭の地下瓦斯化を廣汎に展開し、第三次五年計畫に於て石炭の地下瓦斯化を産業の獨立部門たらしむること。石油含有層及び純粹瓦斯含有量よりの並に石炭地下瓦斯化に依る瓦斯採取を第三次五年計畫中に三・五倍に増加せしむること。ドンバス、ボドモスクワ炭田及びソ聯邦の東部に於て數箇所の地下瓦斯工業配給所を建設及經營し、採掘瓦斯を動力、化學工業及び公營事業に利用すること。大都市、先づモスクワ、レニングラードに於て地方燃料を基礎として薪材暖房を瓦斯及び蒸氣暖房に代ゆること。瓦斯輸送管網を先づドンバスに建設し、以てコークス用熔鑪用瓦斯利用を發達せしむること。先づ東部に於て固體燃料の液體化及び瓦斯體よりの液體燃料の合成を基礎として人工液體燃料工業を

創設すること。

(五) 電力經濟の領域に於ては工業の大なる發展と發電所能力の不充分なる増大との間に見られる部分的不調和を清算し、以て發電所の發達をして工業の發展を超越さしむるのみならず、電力の顯著なる貯藏を可能ならしむる様にせねばならぬ。之に照應して發電所の總發電力を五箇年間に二・一倍に増加せしめねばならぬ。火力發電所の建設に當つては二萬五千キロワット乃至それ以下の中小發電所に移行すること。小中發電所の損失に於て大發電所を謳歌することは經濟にとつて不當有害なるものとして非難されねばならぬ。ライオン火力發電所の發電力は箇々に付政府の認定を必要とする。最新の電氣技術、高壓蒸氣及び過熱蒸氣最新式火力タービンの適用、發電所配電の基本的生産過程の自動裝置化を廣く採用すること。總ての工業企業、公共經濟運輸及び農業の最重要なる課題は燃料及び電力の節約である。

(六) 化學工業を國民經濟及び國防の

要求を完全に充し得る指導的工業部門の一たらしめねばならぬ。第三次五年計畫は化學の五年計畫である。大會は化學工業の生産高を二・四倍に増大すべきことを決議してゐる。之は全體としての工業の發達よりも著しく高いのである。硫酸、硝酸、合成アンモニア、人造纖維及び製紙原料の生産を著しく増大しなければならぬ。有機化合物(合成アルコール、醋酸その他)の新部門を石油精製ゴム、コークス及び天然瓦斯副産物の利用を基礎として創設する。化學工業の全部門に於て恒常的技術様式と最近の達成の不斷の採用實施、即ち化學生産の集約化、定期的工程の恒常的工場の移行、高度の壓力利用、電氣化學的方法の發達を保障せねばならぬ。化學工業に於ける大作業を機械化し、生産の自動を促進せしめねばならぬ。

(七) 製鐵業の領域に於ては、その發達は全工業及び國民經濟の發達を規制すること大であり、従つてその生産力の増強に付ては特に不斷の配慮を必要とする

を以て、此の方面に於ては不斷の眞剣なる生産向上に努めなければならぬ。第三次五年計畫は特殊鋼の五年計畫である。大會は壓延鋼の生産を二倍に増加し硬質合金、不銹性合金、酸化及び耐火合金、工具製作用合金、精密機械用合金、變壓機用合金及び珪素合金の如き特殊鋼の生産の著しき増加を保障すべきことを決議してゐる。硫黄及び燐を含まざる原鋼より木炭焼入れ鑄鋼の精鍊を廣汎に展開しなければならぬ。金屬の無計畫的及び遠距離輸送を招來する壓延機の有害なる専門化を清算し、國內の主要冶金基地に於て最も需用多き種類の壓延材を保障すること。

繼目無金屬壓延法を工業的規模に於て習得し及び熔鑄爐作業に於て酸素送入法を廣汎に採用すること、變壓ダイナモ用銑生産の第二基地を組織すること。マルチン爐に依るボール・ベアリング及び其他の良質鋼類生産を習得發達せしむること、ハリロフスク其他の埋藏地の鑛山に於て第一に自然合金銑より含有物少なき

鋼の生産を習得し且之を最大限度に確立すること。遠心鑄造法に依り銑管及び鋼管生産を増進すること。ウラル及び西伯利に於て滿掩鑛石採掘を増加し依つて南部よりの鑛石輸送を停止すること。地方に於ける機械製作の總ての要求を充す爲極東に完全なる冶金工業サークルを有する冶金基地を新設すること。五年計畫中にソ聯邦全東部地方の製鐵高の比率を國內總製鐵高の二八%より三五%に増大せしめる。

(八) 非鐵金屬の生産を國民經濟及び國防の急速に増大する要求を満足せしめ得る程度まで増加させる。一九四二年には一九三七年に比して黒銅製鍊を二・八倍、アルミニウム(シルミンを含め)製鍊を約とも四倍に増加させる。鉛、亜鉛、ニッケル、錫、マグネシウム、ウオリフラム、モリブデン、アンチモニーの高度の生産を保障すること。機械製作工業の全部門に於て非鐵金屬の代用品を廣く採用すること。採掘、選鑛及び製鍊に際し生ずる損耗低減並に製品單位の金

屬使用規準減量、加工工場に於ける凡ゆる種類の屑の合理的利用及び建設用に規格鋼を供給することに依り黒色金屬の決定的節約戰を開始せねばならぬ。酸及び黒色金屬製品被覆用耐熱エナメル生産及び黒色金屬の有色金屬代用の廣汎なる發展を爲さねばならぬ。

(九) 木材工業の立後れを清算すること、瓦斯發生機及び蒸氣動力を廣く應用し製材の全生産工程を廣汎に綜合機械化すること。冬期製材の季節的特點を最大限度に利用し、同時に全季節を通じての製材を保障すること。木材集散地に天然乾燥の木材の大貯藏をなす。製紙業及び木材化學工業、並に製紙業の鋸屑及び屑材を使用する酒精製造を全面的に發達せしめる。

(十) 凡ゆる方法に依り建設用器具、特に木製、コンクリート製、鐵筋コンクリート製、石膏製並に金屬構造器具の生産を増加せしむ。特殊セメント、衛生技工裝備、仕上及び上塗材料生産の一つの強化を保障し並に非鑛物及び非金屬埋藏

物、特に石綿及び石綿製品の採掘生産を保障せしめる。

(十一) 大會は日用品の生産を第三次五年計畫中に一・七倍に増加せしむべきことを決議してゐる。

輕工業に於ては生産増加、品目の擴張及び生産品の品質向上の爲、且同時に原料の必要なる貯藏を行ふ爲、増大せる原料資源を完全に利用すること。下受け職場と紡績職場、同様にまた織物職場と立後れた紡績職場との間の不調和を清算すること。凡ゆる織維工業及び特に木綿工業の裝備を技術的に完全なものにする、即ち高速度の一工程式梳淨機械等、高級なる裁縫用具一式、自動式織機、自動式工程機械を採用すること。

食料品工業に於ては生産品の品目、特にその高級一流品の品目の著しき擴張を爲し、乳製品、野菜及び果物罐詰の生産トマト其の他の液汁の生産、冷凍野菜及び果物の生産、冷凍品の工場的生産、麥酒、葡萄酒及びシャンパン酒の生産を増加すること。

魚肉工業の立後れを斷然回復し、凡ゆる地方、特にムルマンスク及び極東に於ける魚獲を増加し、且魚類の加工及び魚類罐詰生産を増加すること。地方團體は地方的意義を有する水域(河川、湖沼池)基地に於ける州内漁業經濟を凡ゆる方法に依り發達せしむること。

(十二) 地方工業及び工業協同組合を全面的に發達せしむること、之は勤勞民の増大する諸要求を満足せしむる巨大なる源泉である。其の發達の現在のテムボの不充分なるに鑑み、第三次五年計畫中に地方工業及び工業協同組合の生産を二倍以上に増加し且品目(特に家具、食器及び其の他の家庭用品)の擴張及び改良を爲すこと。地方工業及び工業協同組合の基本的な任務である所の日用品の製造擴張に並んで、地方的燃料の獲得及建築材料の生産を全面的に發達せしむること。履物及び衣服並に家具及び家財の機械化せる修理所網及び其の他の國民奉仕の職業を廣汎に發展せしむること。

(十三) 工業生産増加の確定計畫と新

技術の習得の今後の任務は、勞働生産性の著しき向上と生産原價の著しき低下を要求する。大會は第三次五年計畫に當つて次の如く決定してゐる。

(イ) 第三次五年計畫中工業に於ける勞働生産性の増加は六五%とする、右に依り一九四二年に於て一九三七年に對し勞働生産性の増大のみにて六百二十億留方の工業生産高の増加を保障せねばならぬ。

(ロ) 五箇年間の工業生産物の原價引下は一〇%とす(一九三七年度價格による)右に依り一九四二年度には一九三七年度に比し二百億留の國費節約を齎すこと。

工業の全部門に於て極力品質を向上し、生産上の不經濟、休止及びロス減少の決定的闘争を組織し、原料、材料、燃料及び電力の使用規準の引下を必要とする。生産に於て生ずる屑及び下等品質の原料を廣く利用する。規格統一及び標準化の問題を整備し、國民經濟に於て更に廣汎に規格適用を保障する。

(ハ) 家畜類數の増加及畜産物の増

大はソ聯邦の畜産問題の解決を完全に保障し得るに足る規模とすること。即ちホルホーズ畜産場の發展、擴張に特に留意し、依つて馬匹數は三五%増加、牛は四〇%増加、豚は一〇〇%増加、緬羊及び山羊は一〇%増加とすること。畜産の生産性を、家畜種別改良、優良種繁殖事業の改善種別の正當なる地域別分布、飼料基地の強化、家畜飼育方法の改善によつて向上せしむることを重要課題とすること。

(ニ) モスクワ、レニングラード、バクー、ハリコフ、キエフ並にドンバス、クズバス、ゴリキー市等の工業中心地、極東諸都市及其の他の大都市の周圍に馬鈴薯、野菜基地及畜産基地を設置し、之を以て右中心地に對する野菜及び馬鈴薯の供給の全部並に牛乳及肉類の供給の大部分を保障すること。

(ホ) 穀物及び其の他農作物の播種は、之を専ら選定種及地方種中の特に優良な又改良せられた選別種子によつ

て保障すること。

ホルホーズ及びソフホーズに、地味の著しき沃度向上、收穫率の増大及益々増大する畜産の爲に飼料基地の設置を保障すべき、牧草式及休閒式を適用せる正しき循環播種を普及すること。

(ヘ) 耕地整理事業に於ける放任を清算し、ホルホーズの同事業を整理し且同事業を國家豫算に移管すること。

(ト) 第三次五年計畫中に農業作業の全般的機械化を完了すること。トラクターの現在數及型に適應する聯結農具に對する農業の需要を完全に充足することを保障すること。

先進的な農業技術を普及せしめ、農業方面の先驅者の深き實際的經驗を科學的に利用すること。ソフホーズ及びホルホーズ農場に於て多量の勞力を要する畜産業の工程の機械化に特に留意すること。地方の燃料を基礎とするホルホーズの小規模水力發電所、風力及び瓦斯發生機に依る發電機の建設を廣汎に發展せしむること。

(十四) 第十八回黨大會は、全農業部門に於ける生産物の増加を、一九三七年度の二百一億留(一九二六—二七年度價格)から一九四二年度三百五億留迄、即ち五二%と定む。農業の主要諸部門に就ては大會は左の如き課題を定める。

(イ) 穀物は平均收穫率を一三ツエントネルたらしめ、依つて第三次五年計畫終了迄に毎年穀物收穫八〇億ブードを保障すること。

(ロ) 一九四二年度の工業作物に就ては甜菜は收穫率一ヘクター當り二三五ツエントネルとして二億八千二百萬ツエントネル、棉花は灌溉綿收穫率一ヘクター當り一九ツエントネルとして三千二百九十萬ツエントネル、亞麻は收穫率一ヘクター當り四・六ツエントネルとして八百五十萬ツエントネルとすること。大麻收穫率の著しき増加を保障すること。護謨、向日葵其の他の油脂作物の生産増加を、種子改良の正しき組織、各地方に對する合理的配置、農業技術改良に依り保障すること

農作物の害蟲及び疾病撲滅用の機械及び器具の生産を増加すること。挽馬用特に運輸農具の生産を増加すること。最も簡單なる粒穀揀別機の生産擴張を保障すること。

(チ) 特に堆肥及其の他の地方的肥料の合理的保存及利用に留意し、ホルホーズ及ソフホーズに於て有機及無機肥料の正しき配合法を習得し、無機肥料の損耗を清算すること。

灰質土壤の石灰施肥及アルカリ性土壤の石膏施肥の慣行を廣汎に採用すること。

(リ) 今後に於ける一層の農業生産の機械化及勞働生産性の向上を根據としてソフホーズをして事實上農業生産機構の典型、高度の收穫率及生産性の典型たるべき高度生産性及高度収益性の經營に轉化すること。ソフホーズ人民委員部管下のソフホーズに於ける家畜頭數を特に穀物ソフホーズ内の畜産業組織に基き増加すること。

(十五) 鐵道荷廻數量の増加に付大會

は、一九三七年度三千五百五十億噸に對し一九四二年度五千億噸と定める河船運輸は三百三十億噸に對し五百八十億噸、海運は三百七十億噸に對し五百十億噸とする。運輸方面に於ける重大なる課題は、鐵道の遠距離輸送を極力削減し、逆輸送及非合理的輸送を絶滅し、又今後全國荷廻數量中に於ける水運及自動車運輸の比重を増大せしむべく、荷廻計畫を調整することに存する。第三次五年計畫に於て勞働生産性を鐵道運輸に在りては三二%方、水運に在りては三八%方向上せしめ、鐵道、水運及自動車運輸に於ける貨物積卸作業を機械化すること。

(十六) 大會は第三次五年計畫下の鐵道運輸に關する課題を左の如く定める。

- (イ) 機關車數を八千臺増大すること。但し右内譯は「エフ・デー」型千五百臺、壓縮空氣機關車四千二百臺、「イ・エス」型客車用機關車一千五百臺とする。尙壓縮空氣機關車は今後數年中に貨物用機關車の大部を占むべきも

のとする。

- (ロ) 車輛數は、貨車四軸車二二萬五千輛、客車一萬五千輛を増加すること。現に使用中の貨車三萬輛及客車四千輛に自動連結器を裝置し、現に使用中の貨車二萬臺に自動制動機を裝置すること。機關車及車輛の修繕基地を、特にウラル、中央亞細亞、シベリヤ、極東の諸鐵道に於て擴張すること。壓縮空氣機關車修繕のため製作基地を準備すること。

(ハ) 鐵道運輸、特に線路の今後一層の再建を保障すること。第三次五年計畫中に一萬一千桿の鐵道を建設及開通せしめ、又延長八千桿の複線敷設を行ふこと。

- (ニ) 千八百四十桿の鐵道を電化すべし。但し荷廻激甚な嶺山鐵道及都市近郊の輻輳せる大分岐線を第一順位とすること。自動閉塞裝置、發着信號及び自動停車裝置を極力設備すること。
- (ホ) 鐵道驛及び分岐驛を擴張すること。但しドンバス・クリヴォイ・ロ

ツグ、レニングラード・モスクワ、東部ウラル地方、北部地方、ムルマンスク州・ソ聯邦中央連絡線、西部西伯利亞中央亞細亞等の諸線並に西南、西部及び東部の諸鐵道を第一順位とす。

(十七) 大會は第三次五年計畫下の水運、自動車及び航空輸送に關する課題を左の如く定める。

- (イ) 水運の立遅れを清算し、其の國民經濟に對する寄與貢獻の役割を増大すること。就中木材、穀物、石炭、石油等の大量貨物の輸送に於て特に然りとす。海洋及び河川用船舶の技術方面の状態を改善し、優良船型の船舶を補充し、河川用船舶に於ては瓦斯發生機の裝置を普及せしめ、船舶修繕基地及び港灣の建設を擴張すること。

現存水路の再建整理に關する方策を廣汎に實施し、アストラハン・ゴリキール・イビンスク・モスクワの水路の改造を行ひ、第三次計畫末には最淺部分も總て水深二・六米以上のアストラハン・モスクワ間の深水運河を完成す

ること。ヴォルガ・バルチック水路を改造すること。國內航路の全延長は五箇年間に之を十萬二千桿から十一萬五千桿に増大せしめること。

第三次五年計畫に於て河川、即ちヴォルガ、ドン及びドニエプルの綜合再建計畫を立案し、カスピ海の水準維持策を準備し且ヴォルガ・ドン聯絡建設に着手すること。

北水洋航路は第三次五年計畫末迄には、極東との計畫的連絡を保障し得るが如き主要定期航路に轉化せしむること。

(ロ) 主要自動車道路、國道並に都市、鐵道驛及び水路に至る貨物輻輳する連絡路に於ては自動車定期運輸を設けること。自動車運輸のため必要なる修繕基地を保障すること、自動車用車庫及び車庫を有せざる宿營所、サービス、ステーション及び燃料積込所の建設を進展せしむること。自動車運輸を五箇年間に四・六倍に増加すること。貨物運輸に於ては自動車聯結用具の生

産及び採用を極力發展せしむること。

- 延長二十一萬桿の道路改修を行ひ、第二次五年計畫に比して、コルター舗裝道路、アスファルト凝固土舗裝道路及びコンクリート舗裝道路等完成道路の比重を著しく増大すること。

(ハ) 非軍用航空事業を幹線國道に集中すること。地上設備を擴張改善し航空幹線の技術的裝備を強化すること。同時に適時必要の小修繕及び根本的修繕を行ひ、以て現在道路の適當なる状態維持に特に留意すること。

(十八) 大會は通信全般特に都市間の夫を著しく發達せしむべき必要性を強調する。

モスクワと共和國、地方及州の各中心地を連絡する直通電話線の敷設を完了し、又ソ聯邦大都市間の通信中繼組織を以てラデオ網を補充すること。

區の中心地、村ソヴェート、エム・ティ・エス及びソフホーズの電話設備を完成すること。ラデオ中繼器數を二・三倍に増加すること。諸所の大都市には

テレヴィジョン中央局を建設すること。

(十九) 第三次五年計畫に於ける生産増進計畫遂行のための重要條件をなすものは、熟練せる中堅勞働者、技師及技師の養成並に最新技術及生産の科學的組織の普及事業の廣汎なる展開である。大會は第三次五年計畫中に左の諸事項を規定するの必要を認める。

- (イ) 社會主義的勞働の熟練工及職工長の養成並に教育に關する學校及講習會の組織網を擴大設置すること。
- (ロ) 各種専門職業の技師百四十萬人及高等教育程度の専門家六十萬人の養成。

三、第三次五ヶ年計畫に於ける新規建設並に其の配置計畫

(一) 第十八回黨大會は生産増大計畫に照應し、第三次五年計畫に於ける國民經濟關係重要諸事業の總額を第二次五年計畫期に於ける千四百四十七億留に對し千九百二十億留(現行見積價格による)と規定してゐる、その中

(イ) 工業關係は第二次五年計畫に於ける五百八十六億留に對し千百十九億留、其の内生産財生産工業關係は第二次五年計畫に於ける四百九十八億留に對して九百三十九億留、即ち八九%の増加、一般消費財生産工業は第二次五年計畫に於ける八十八億留に對して百八十億留、即ち一〇五%増。

(ロ) 運輸關係は第二次五年計畫に於ける二百七億留に對して三百七十三億留、即ち八〇%増。

(ハ) 農業關係は百十億留、其の内機械トラクター配給所關係五十二億留灌漑及土地改良費十三億留、その他ソフホーズの家畜頭數増加に對して二十五億留である。第三次五年計畫に於てコルホーズ自身の農業に對する投資は二百四十億留に達する。

(ニ) 大會は第二次五年計畫に於ける千三十億留に對して第三次五年計畫に於ては總額千九百三十億留(現行見積價格による)の新設並に再建企業の操業開始を確認してゐる。

大會は、右所定の重要諸事業に新設及再建企業の操業開始がソ聯邦の生産、技術的基礎を今後大いに鞏化し且重要な國民經濟諸部門内に於て必要な豫備的能力を形成せしむる旨を指摘してゐる。第三次五年計畫に於ては左の如く生産能力は増大する。即ち

發電所關係に於ては第二次五年計畫末の八百十萬キロワットから第三次五年計畫に於て千七百二十萬キロワットに、採炭業關係に於ては第三次五年計畫末までに炭坑能力は三億三千五百萬噸となり、一・八倍に増大し、黑色冶金工業(銑鐵)に於ては二千五百萬噸有色金屬(銅)に於ては二・四倍、アルミニウムは三・八倍、自動車工業は約二倍、綿織業(紡錘)は一・五倍に夫々發展する。

(三) 大會は、不合理且極度の遠距離輸送を清算し、並に過去に於て經濟的に立後れたソ聯邦各地方を一層發展せしむる目的の下に、第三次五年計畫に於けるソ聯邦各地方に互る新建設の配置に際し

ては、工業を原料根據地及消費地方に接近せしむると云ふことから出發しなければならぬと見てゐる。

右に關聯して第三次五年計畫に於ては次の如きことを必要とする。

(イ) 聯邦の基本的經濟地區に於ては經濟的綜合的發展を保證し且つ燃料採取並にセメント、雪花石膏、化學肥料、硝子、右地方の需要を充足するに足る大量的な輕工業及食料品工業製品等の生産を組織することが必要である。大工業地區に對し燃料並に輸送困難なる若干の製品を現地に於て保證することは大なる意義を有する。工業的發展並に都市人口の急速なる増大に關聯し大量的な貨物の遠距離移入に對する右大工業地區の依存性が増大してゐる。至る處で大量的に消費せらるる馬鈴薯、野菜、乳製品、肉製品、穀粉、菓子類、麥酒の如き食料品並に小間物、衣類、家具、煉瓦、石灰等の大衆消費工業製品は、各共和國、地方及州に於て充分なる程度に生産されなけ

ればならぬ。

モスクワ及レニングラードに於ける新企業建設禁止に關する黨中央委員會並に聯邦人民委員會議決定の遂行に對し然るべき監督をなし、右決定をキエフ、ハリコフ、ロストフ、ゴリキー、スヴェルドロフスクに適用し、右諸都市に於て今後新企業の建設を禁止しなければならぬ。

(ロ) 東部諸地方、ウラル及ヴォルガ沿岸地方の如き國內經濟根據地に於て、獨擅的地位を占むる企業より若干工業製品の供給の偶然性を廢除するため、第三次五年計畫に於ては機械製作、精油、化學工業諸部門を互り右に代るべき企業を創設しなければならぬ。

(ハ) ソ聯邦東部及極東諸地方に於ては重要事業の一層急速なる進展、新企業の建設を豫見せねばならぬ。右地方に於ける冶金工業根據地の發展は百方之を繼續せねばならぬが、これが爲には熔鑄爐總數中の四分の三を第三

次五年計畫に於ては東部諸地方に建設すべきである。

ソ聯邦東部地方に於ては、中央亞細亞の棉花を加工する大纖維工業生産根據地を新設しなければならぬ。極東地方に於ては同地方の需要を充足するに足る採炭業並にセメント工業の急速なる發展を豫定すべきである。

(ニ) 第三次五年計畫に於ける生産力配置に關する基本的課題に照應して各民族共和國及州の經濟的、文化的昂揚を保證しなければならぬ。

(四) 大會は、第三次五年計畫に於ては左記の重要な建設事業に注意を集中するを必要と認める。

(イ) 機械製作工業に於ては、工業發展の一般的速度を著しく凌駕する第三次五年計畫規定の生産計畫に順應して、建設事業を廣汎に展開せしめ、且新設工場、就中工作機械製作工場並に動力裝備品製作工場の運轉開始を促進しなければならぬ。三つの重工作機械製作工場、ゴリキーに於けるフライ

ス盤製作工場、キエフに於ける自動工作機械工場の建設を完了せしめ、研磨盤、齒切盤、縱平削盤、堅旋盤、中グリ盤、自動工作機械生産に關しては中程度の能力を有する多數の工作機械工場並に鍛冶プレス裝備品製作工場の建設事業を發展させなければならぬ。また、第三次五年計畫中に四つの蒸氣タービン製作工場を建設し、操業せねばならぬ。右の中にはスヴェルドロフスク、ウファ、ノヴォシビルスク、カルガ地方に於ける工場を含む。その他ノヴォチエルカスク地方に於ける蒸氣タービン工場及クイブイシエフに於ける水力タービン工場の建設を開始し、蒸氣タービン工場に對應するポイラー製作及補助的動力裝備品製作工場を建設し且操業せしめねばならぬ。右の内にはオルスクのポイラー工場を含む。風力原動機的大量生産を組織せねばならぬ。ゴリキー及びモスクワの自動車製造工場の建設を完成し、輕量自動車製作工場及多數の自動車組立工場(極東

(を含む)を新設し、またシベリアに於ては新しい貨物自動車製作工場並に之に隣接する多数の自動車工業企業及自動車修繕基地の建設事業を發展させなければならぬ。東部地方に於ては農業機械の生産並にトラクター組立及修繕の基地を創設せねばならぬ。クルスク及西部シベリアに於ては織機製作工場を建設せねばならぬ。サラトフのポールベアリング工場の建設を完了し、二つの新しいポールベアリング及ロールベアリング工場の建設を發展させなければならぬ。製紙機械工場を建設し新たに機關車製作工場の建設を開始せねばならぬ。大型及中型の化学工業用機械製作工場を二乃至三建設せねばならぬ。工事中の海洋船舶建造工場の建設を強行する外、新たに海洋及び河川船舶建造工場の建設に着手せねばならぬ。

(ロ) 電化の領域に於て大會が建設計畫の重心と見做してゐるのは、新しい中・小發電所の建設による發電能力

の増加並に水力發電所の建設強化である。二つのクイブイシエフ發電所は三百四十萬キロワットの總出力を有する世界最大の建設であるが、これが建設を發展させなければならぬ。右建設は同時に、ザヴォールジエ地方に於ける安定的收穫を達成する爲の乾地灌漑問題並にヴォルガ、カマ河航行問題を解決するものである。またオカ河畔のカルガ水力發電所の建設も開始せねばならない。尙、建設を完了し運轉を開始せねばならぬ水力發電所としては、ウグリチ、ルイビンスク、二つのチルチク、カナキール、スヴィーリ第二號、フラム、ニエヴァ第三號、スプーミ發電所等々があり、建設に着手すべき新しい水力發電所としてはヴェルフネ・カマ、ミンギチャウル、ウスチ・カメノゴルスク、及ギムシユスク發電所がある。また、ウラル地方、トウーラウフア、チユソウアヤ、ペーラヤ、ミアス等の谷河川及北部ドン地方に小さな地方水力發電所の建設を廣く發展さ

せなければならぬ。燃料節約のため小規模の風力發電所の建設を廣く展開せねばならぬ。更に一〇二のライオン火力發電所を建設し之が運轉を開始する豫定である。即ちクラホフンク、ネスヴェタイ、モスクワ及レニングラートに於ける數箇の中央發賣所、チエリヤビンスクの中央火力發電所、スムガイト、コムソモリスク、キエフ、ニコラエフスク、キーロヴォ・チエペツツク、スイズラン、オルスク、カラガンダ、クラスノヤルスク、ハバロフスク、クヴァサイ、クラスノダル等のライオン火力發電所がそれである。また、イヴァノヴォ區に於ては纖維工業用のために泥炭を利用する新しい火力發電所を建設せねばならぬ。高壓電線網及變壓所の建設を極力展開せねばならぬ。第三次五年計畫に於ける發電所建設關係の出力増加總量は九百萬キロワットにして、これに依り工業地區に於ては常に一〇%乃至一五%の出力を有す動力豫備量が作られる

管である。

(ハ) 石炭工業に於ては石炭及褐炭採掘の炭坑を建設すること。新石炭採掘地を開發すること。就中重要な地方はウラル、タタール及バシキール自治共和國、中央亞細亞、東部シベリア、極東、カザフ共和國、ウクライナ、キルギーズ及タヂク共和國である。

中、小生産能力の炭坑を裝備し、而もその建設期間を可及的短縮すること。第三次五年計畫期間を通じて總生産能力一億七千萬噸に及ぶ新炭坑を開發しその内操業を開始すべき炭坑の總生産能力は一億六千萬噸である。

石油工業に於ては、石油加工工場の新總生産能力千五百萬噸の實現を保證し、その外四百五十萬噸のクラツキング工場裝備を完了すること。第三次五年計畫に於ける決定的な課題はヴォオルガ、ウラル間の地方に更に一の有力な石油基地を創設して生産能力六百萬噸の石油加工工場を建設することである。ヴォオルガ、ウラル間の地方、シベリヤ

極東地方、ウクライナ及中央亞細亞及カザフ共和國の新採油地方に於ける地質調査及試掘事業の開始を保證すること。

泥炭及び油母頁岩工業に於ける主要事業の必要不可欠な程度の發達を保證すべきこと、泥炭の人工乾燥工場を建設して、泥炭採掘の季節性を除去する基礎を創ること。一、三のコークス工場の建設を實現し、又同工場に於て化學製品の製造を豫定すること。

(ニ) 黑色冶金業に於ては六熔鑪及二分塊壓延機を有するマグニトゴルスク綜合企業、ニジニ・タギル工場、ペトロフスコ・ザバイカリスキー工場、アムルスタリストロイ、ザボロジスタリ、アゾフスタリ、クリヴォイ・ログ工場、ノヴォ・モスコフスキー、亞鉛板工場、ノヴォ・ウラルスキー及ニコポリ鋼管工場の建設を完了すること。南ウラル(バリロフスキー及バカリスキー鑛山)及東部シベリアに於ける新冶金工場、ウラルに於ける鍛接鋼管工

場、シベリヤに於ける壓延鋼管工場、中部地方に於ける鋼管鑄造工場の新建設を開始すること。中央亞細亞及後高架索の諸地方に於ける地方的な需要に應ずる爲め、屑鐵を利用して小規模の改装工場を建設すること。熔鑪準備作業改良の爲め十七箇の選鑪ベルトを建設すること。操業中の全工場に於て多大の勞働力を要する作業の機械化を完了し且生産の自動化を廣汎に採用すること。鋼延の質改良のため全工場の壓延職場に必要な精鍊設備を完備すること。第三次五年計畫期間を通じて二〇基の熔鑪を建設し、ウラルの木炭熔鑪三基を復活すること。中央の黑色冶金業の補充基地としてクルスク磁氣異常地方に於て堅坑建設に着手し且同地方に於ける冶金工場建設に關し準備作業を始むること。アタスウイスク及カルサクバイ鑛産地に於ける工業的試掘を完了すること。

(ホ) 有色冶金業に於ては、バルハシ附近の製鋼綜合企業、中部ウラリス

キー及ブリヤヴィンスキー綜合企業の建設を完了すること。ヂェスカズガン及アルマルイク製銅綜合企業、アルタイに於ける鉛及亜鉛工場の建設を進捗せしめること。ウラルのアルミニウム綜合企業、カンダラクシヤ及クズバスのアルミニウム工場の操業を開始し且其の他のアルミニウム工場の建設に着手すること。チフヴィンアルミナ工場南ウラル及北部地方ニツケル綜合企業の操業を開始すること。鉛、亜鉛、錫、ヴォリフラム及水鉛生産の新企業の建設を開始すること。歴延有色金屬工場、金銀工場、アルミニウム及マグネシウム合金加工工場を建設すること。

(ハ) 化學工業に於ては、主として地方の有色冶金工場及發電所の瓦斯を利用する新硫酸工場、腐蝕肥料綜合企業、曹達工場、合成ゴム工場及タイヤ工場を建設し、國內に散在する一三一五の合成ゴム工場、一六のタイヤ工場、九のコード工場の操業を開始すること。人造液體燃料工場二、再生ゴム

工場二、タイヤ工場附屬再生ゴム職場一五及石綿製品工場二一三を建設すること。ゴム加工を完全に保障する生産基地を創設すること。ゴム加工を完全に保障する生産基地を創設すること。

(ト) 歐露より東部諸地方及中央亞細亞諸共和國に對するセメントの輸送を停止して、極東、シベリヤ、カザフ共和國、中央亞細亞の諸共和國、ウラル等の諸地方に總生産能力四百八十萬噸の中・小セメント工場を建設すること。

(チ) 現在及第三次五年計畫に於て建設せらるる企業に對し工業原料貯蔵を保障するため及國內の總ての地方に於て次年度以降に持越すべき新しき工業用貯蔵の豫備を創設するため地質調査事業を進捗すること。

ルプ製紙綜合企業及キーロフ區の新聞紙製紙工場の建設を完了し操業を開始すること。セルローズ製紙企業、木材化學企業、ベニヤ板企業、木材加工企業及木質纖維加水分解工場の新建設を進捗せしむること。歐露の北西部、ウラル及極東に於ける木材調達の急速なる發達を豫定し、歐露北部、シベリヤ極東に於ける製材、木材加工場の能力を強化し、シベリヤより歐露に對する木材の輸送を停止すること。

(リ) 木材工業に於ては、ソリカムスク、マリー、クラスノヤルスク、カマ、コンドボガ、ソロムバリスキイ、アルハンゲリスク、リゴフ、コムソモリスク、コトラツス、セルローズ及パ

新纖維工場の建設を進捗せしめ、莫大小工場、靴下工場、小規模亞麻綜合企業、皮革工場、製靴工場、絹織物工場及硝子容器工場の新建設を進捗せしめること。

(ル) 食糧品工業に於ては、オルスク、エンゲリス、ウラン・ウデ、イルクーツク、ハバロフスク、スヴェルドロフスク、イヴィノヴォ、ナリチク、クイブイシエフ、ドニエプロペトロフスク、ヴォロシロフグラード、アシハバド、スタリナバドに於ける精肉綜合企業、エラニ・コレノ、ジエルヂエフカ、ソヴェツキイ(クールスク州)アルマ・アタ、ノヴォ・トロイツク、グニヴァン(ヴィンニツア州)シニボラ(キエフ州)に於ける製糖工場及アルメニヤ共和國に於ける一製糖工場の建設を完了して操業を開始すること。若干酒精工場、油工場、煉乳及ドライミルク工場、製菓及製茶工場を新設すること。中規模の精肉綜合企業、製糖工場、パン工場及冷蔵庫、煙草工場及

石鹼工場の新設を進捗せしめること。

漁業に於ては海洋漁船隊を増加し、コムソモリスク、ハバロフスク、モスクワ及ムイナクに於ける漁業綜合企業バルハン、マンギスタウ、アフタライソヴガワニ、カムチャツカのペトロパウロフスクに於ける冷蔵庫及極東地方に於ける二十の小冷蔵庫並にムルマンスク、アムールのニコラエフスク及カムチャツカのペトロパウロフスクに於ける造船所の建設を完了すること。

漁業人民委員部並に地方及州團體によるカムチャツカ、オホーツク及アヤンスク地方開發のテムボを更に促進すること。 (ヲ) 地方工業及産業組合に於ては、地方的原料及燃料を基礎とする小規模企業の建設を進捗せしむること。 (ワ) 都市建設に於ては、都市及工業中心地の住宅建設及整備に關する事業を進展せしむること。五十都市に於て水道を敷設し、四十五都市に於て下水施設を完備し、八都市に電車を敷設

都市經濟に於ける瓦斯の利用を發達せしむること。

二千九百臺の新電車を増加し、モスクワ、レニングラード、キエフ及其他の大都市に最新型四軸車の生産を保障すること。都市及都市間の自動車運輸の發達に特に留意し、乗合自動車二萬七千臺を増加し且乗客、貨物タクシーの運行を最大限度に進展せしむること。モスクワ、レニングラード、キエフ及其他の大都市に無軌道電車の運行を擴張し、之が爲同電車の生産を増大し、特に二階附車の大量生産を組織すること。都市計畫に相應してモスクワ及レニングラードの一層の發展と改善とを保障すること。モスクワに於ける地下鐵の第三次工事を完了すること。ソ聯邦官殿造營の基礎的工事を第三次五年計畫末迄に完了すること。 (カ) 農業に於て新設と舊エム・テ

ラクター、コムバイン及其の他の農業機械の必要なる修繕基地の建設を保障すること。家畜の飼育を完全に保障するに足る牧場建設をソフホーズに於て進捗すること。

灌漑及土地改良に關しては、ヴァフシ、コルヒダ、ネヴィンノムイスキー運河、ムルガブスキー・オアシス等の既に起工せる大規模灌漑及排水事業を全部完了すること。

ザヴォルジエに於ける灌漑工事に着手すること。早魁農業地方に於ける生産技術的基礎を鞏固にすること。

(ヨ) 總容量千萬噸以上の穀物エレヴァートル及倉庫網を新設して、以て穀物を庭で蔽ひ野天に貯蔵するが如き事態を第三次五年計畫前半期に於て完全に清算すること。

(五) 生産能力の建設期間及操業開始の時期を促進せしめ且新設企業を國內の主要經濟地方に分散する目的を以て第十八回黨大會は、建設事業に於ける巨大癲に對して決定的に闘争し、且ソ聯邦國民

經濟全部門に互り一般に中・小規模企業の建設に移行することを要求する。工業建設に於ては極端に分業化せる企業の建設を許容せず且經濟地方内に於ける企業の協力を組織する。

大會は急速なる建設方法を決定的に實施すべき必要性に留意し、之が爲建築工事の發達、凡ゆる方法に依る地域的建築團體の強化、建築工業の國民經濟の遅れたる部門より先進部門への推移を要求すると共に、廣く全般的機械化を發達せしめ、規格統一せる部分品及構造法を採用せしめ且之に必要な企業を建設することを要求する。

上述の建設事業計畫遂行のため第三次五箇年計畫に於て、建設事業の勞働生産性を七五%増進し、且建設事業の生産原價を第三次五年計畫の末期の水準に對して一二%低下すべきことを決定する。

四、第三次五ヶ年計畫に依る 勞働者の物質的及文化的 水準の今後の昂揚計畫

生産力の増加に依り、著るしく増大すること。

(ホ) ソ聯邦勞働階級の文化技術的水準を技術者の水準迄高めると云ふ歴史的課題の實現に關し顯著なる前進を遂ぐる爲廣汎なる方策を行ふこと。

(ハ) 都市に於ては全般的中等教育の實施を行ひ、而して農村及凡ゆる民族共和國に於ては全般的七年制中等教育を完成し且その際十年制教育の就學兒童を増加し、以て都市及勞働者町に於ける初等及中等學校生徒數を八百六十萬人から千二百四十萬人に増加せしめ、而して農村に於ては二千八十萬人から二千七百七十萬人に増加せしめること。

(ト) 高等専門學校及高等工業學校の生徒數を六十五萬人に増加し、今後數年間主として高等教育の質の向上に留意すること。

(チ) 映畫劇場、俱樂部、圖書館、文化の家及讀書室網を擴大し、常設館及其の他の發聲映畫館を廣く組織し六

第一次及第二次五年計畫の遂行は、國民經濟の巨大なる昂揚及社會主義的改造にソ聯邦の國防力の強化のみならず、ソ聯邦國民の物質的・文化的水準の大きな昂揚をも意味した。第三次五年計畫は必要なる商品、生産品、住宅、國民の文化的施設に對する勞働者の入用及要望に對して、更に一層高い満足を與へなければならぬ。加之、第三次五年計畫の遂行は、ソ聯邦に於ける社會主義社會の生産能力、福祉及文化の次の發展の爲の強力なる物質的基礎の創設に新たな前進の巨歩を確保するものである。今や問題は失業者の根絶及農村に於ける貧窮の清算ではない——之に就ては我々は既に完全且永久に處理したのである。今や課題はソ聯邦國民の増大する要望に答へ、最富裕なる資本主義國にとつて到達し得ぬ、且社會主義の力の眞の隆盛、新しい社會主義的文化の繁榮の端緒を意味する、勞働者の斯る福祉と文化の昂揚を創造することにある。

第十八回全聯邦共產黨大會は第三次五

倍に擴大すること。

(リ) 勞働者の保健、傷病救済の改善、衛生豫防策の擴大、産婦に對する助産、小兒科病院の擴張、勞働保護と勞働者休息及體育の向上に關する仕事を著るしく強化して保健に對する國家支出を一九三七年の百三億留から一九四二年には百六十五億留に擴大すること。常設託兒所及幼稚園の席數を一九三七年の百八十萬に對して一九四二年には四百二十萬に増加すること。

(ヌ) 都市及勞働者町に於ける住宅建設を強化して第三次五年計畫中に三千五百萬平方米の新居住面積を實現すること。

(ニ) 勞働者生活の物質的水準の昂揚を計るため第三次五年計畫中に文化的ソ聯邦商業の全面的發展を確保し且之に應じて左の通り決定すること、即ち

(イ) 國營消費組合の商品取引額を一九三七年の千二百六十億留に對して一九四二年には二千六十億留迄に増大して、公衆食堂、料理店、カフェー、

年計畫に對して勞働者及農村勞働者の物質的及水準の昂揚の領域に於て次の諸課題を定める。

(一)(イ) ソ聯邦の勞働者の消費を勞働者、農民及勤務者の収入増加に應じて一倍半以上に増大すること。

(ロ) 勞働者及勤勞者の數を第三次五年計畫の終り迄に國民經濟の全部門を通し一九三七年に比し二一%増大し平均賃銀を三七%、及賃銀基金を六七%増大すること。

(ハ) 都市及農村勞働者の文化・生活施設に對する國家支出、即ち社會保險及教育、保健、多産婦扶助費の支出、並に住宅及公共建設に對する國家支出以外の勞働者及勤勞者の文化・生活施設に對する國家支出を一九三七年の三百八億留に對し五百三十億留に——一・七倍以上に増大すること。

(ニ) コルホーズ員の收入をコルホーズに於ける勞働生産性の増進、凡ゆる農業生産物の收穫性の増大及畜産業

プフェーの取引高を二倍に増加すること。

(ロ) 國營消費組合小賣網を三八%方擴大し、凡ゆる商業關係事業(冷蔵庫經營、商業基地及倉庫の建設、商品の配達及運搬)を改善し、急速に發達する農業地區に於て、農民の増大せる生活用、修繕用及建設用の必需に應ずる商品を有する屋臺及商店を特に發達せしめること。

(三) 大會は國民收入を第三次五年計畫中に一・八倍に増加することを決定し且之に關連して、國民消費の需要、又同じく、國民經濟の發達、國防力の強化及必要なる國家的豫備創設に對する國家的需要を、増加する國民及國家の收入により完全に確保し得ると確定する。

全國民經濟の巨大なる昂揚は國民經濟の計畫樹立及計算の組織に關する凡ゆる事業の一層の改善を要求する、計畫事業再建の中心的課題は、計畫遂行の審査を組織し、以て經濟に於ける不均衡の發生を豫防し、計畫遂行のための新しき豫備

を發見し且計畫遂行の實績に應じ各部門及地方に付矯正を爲すことである。

大會は、豫算及金融事業の改善、採算主義經濟の今後の強化、不經濟性に對する闘争強化、重工業及其他の國民經濟部門に於ける採算水準の向上、社會主義生産の發達を基礎とするソ聯邦留の強化商品取引の擴大發展、及國民生活の物質的水準の一般的昂揚の必要なることを確認する。

第十八回全聯邦共產黨大會は、第三次五年計畫により提起せられたる問題を無條件に遂行する爲に凡ゆる黨機關、ソ聯邦機關、經濟機關及労働組合機關に對して次のことを要求する、即ち

(イ) 經營指導の活潑なる効果と事務能力、指導者の任務を、部員の正しき選擇、黨及政府によりて提起せられたる課題の遂行に對する日常の實際的點檢に集中すること。

(ロ) 労働者、職長、及技術者の賃銀を正しく組織し、且労働生産性の増大に對して當然なる物質的獎勵をなすこと。

である。

第三次五年計畫の大なる課題の實行は、労働者、農民及ソヴェト・インテリゲンチヤの切實なる利害と密接に關連してゐる、即ち其の遂行の確保は、第一に我々―共產黨員及びボリシエヴィキ―指導者にかかり、且特に労働を組織化し労働者の共產主義的教養を高める我々の手腕にかかつてゐるのである。

第三次五年計畫が勝利する爲には、ソ聯邦が共產主義の安全なる勝利への道に巨歩を進める爲には眞先に、自己の任務に對する自覺的態度、眞面目なる労働、後進者に對する援助が、我々全部に、指導者に、平労働者に、勤務者に、ソ員に對して要求せられる。

ソ聯邦に社會主義的經濟形態、社會主義的所有、社會主義的労働組織が不可分のに行はれ、且我々の國家、國民、及全労働者の爲の仕事に於ける共產主義的意識が我々の事業の成功にとり決定的意義を有する現在の諸条件下にあつては、労働者の文化性と共產主義的意識の昂揚の

(ハ) 社會主義競争及スタハーフ運動を展開して、企業及機關に於ける全労働者の確固たる労働規律及高度の労働生産性を確保すること。

ソ聯邦に於ける課題は、將來に於ける農業の昂揚並にソ聯邦農民生活の物質・文化的水準向上の基礎たる農業アルテリの今後に於ける全般的なる組織、經濟的強化、ソ聯邦共有制の發展及強化、ソ聯邦牧場、共有建設物、共有保險基金及其他のソ聯邦財産の發展である。従つてソ聯邦の利益侵犯、ソ聯邦規律強化の阻害を招來する農業アルテリ定款侵害に對する闘争を強化し、農家の自家耕作、自家用地區及各ソ聯邦員所有家畜の不法なる擴張増加を禁ずること、ソ聯邦規律の一層鞏化、全ソ聯邦員大衆間の當該教育事業の強化、労働生産性の昂揚、優秀ソ聯邦員獎勵及ソ聯邦員内に於ける作業班組織に向つて一般的移行を爲すことを必要とする。更に規律を一層鞏化し、労働生産性を昂揚し、コ

ソ員一人當りソ聯邦收入を増加し且工業を一層發達せしめ、國內商品を増加し、ソ聯邦員中の労働人員を工業企業に供給する目的を以てソ聯邦は、組織的にソ聯邦員を、第一にソ聯邦内の労働に利用せられることと少く且少き労働日を有し、従つてソ聯邦の負擔たる者を、工業企業に労働に差向くるが如き事態を達成することを必要とする。

第三次五年計畫の課題を實行する爲には反革命的有害工作の結果を、ソ聯邦員及外國資本の間諜的、トロツキ・ブハリンの手先を、完全に清算することが必要であり、共產主義建設の全活動に互つてボリシエヴィキ的警戒心を昂揚せしめ、而して、外部的資本主義の包圍が存続する間は外國の情報部は我が國に對し害毒分子、破壊分子、間諜、暗殺者を派遣して我が國を墮落せしめ、侵害し且弱体化せんとし、ソ聯邦に於ける共產主義的發展を妨害せんとすることに關する黨の教示を常に銘記することが必要

爲に、ボリシエヴィキ的に働き、ボリシエヴィキ的に闘ひ得るソヴェト・インテリゲンチヤの役割が非常に高まつてゐるのである。

ソ聯邦に於ける社會主義的社會的政治的及經濟的地位が最後の強化した今日には生産技術を習得した人材が問題を解決し、共產主義の完全なる勝利の爲の偉大なる闘争に於て労働者大衆を指導するソ聯邦的文化勢力が問題を解決する。

資本主義諸國に於ては社會は、新しい數百萬の失業者を街頭に投出し、資本の奴隸と化した労働者大衆の間に貧困と失望を強めつつある新しい世界的經濟危機によつて、益々深刻に腐敗しつつある。資本主義國に於てはソ聯邦諸國が其の國內的流血のテロと對外的帝國主義的侵略をもつて音頭をとつてゐる。其の帝國主義的侵略は、歐洲及び亞細亞の一連の諸國の参加によつて、既に第二次帝國主義戦争となつてをり、且更に氾濫する虞れがある。之は總て、資本主義の一般的不治なる恐慌、資本主義につきもの

第一、工業地理

一、生産配置の變化

ソ聯十月革命以來、ソ聯における生産の配置は根本的な變化を遂げるに至つたが、是は新らしき土地の個人的壟斷が禁止となり、政府の資力によつて組織計畫化されるようになったからである。生産配置の距離的躍進の顯著なのは「東への飛躍」である。先づ第一にウラル、クズバス間に横はる西部シベリヤとカザフスタンの兩地域を占めるウラル・クズネツ綜合休業地帯の建設である。ウラル鐵とクズネツ炭を結合する此の綜合企業の基礎は第一次及び第二次五ヶ年計畫中既に創設を見た。

第一次五ヶ年計畫期間中の大躍進は又

南方の高架索及び中央亞細亞に於ても見られた、殊に顯著な事柄は是等石油（高架索）及び棉花（中央亞細亞及び高架索）の専門的な諸地方に地方的原料に依存する織維及び食料品工業と、重工業とが發達したことである。

極北地方では北洋航路の建設、舊經濟部門たる養鹿、漁業、狩獵等の發展のほか木材及び有用礦物加工の新工業中心を創設し、殆んど前人未踏の僻遠地方を社會主義的建設の一般軌道へ導入するの端緒を開いた。

農業配置の顯著な成果に北部高架索及びウクライナに於ける棉花栽培地方の創設と、中央亞細亞及び高架索に於ける新織維農産物（ケナフ、ケンドウイル、ラミ等）の栽培區域の創設である。

二、動力の配置

ソ聯ヨーロッパ部で最も動力資源に富んでゐるのは最南部（ドネツの石炭、高架索の石油、ドニエーブル及び高架索の白米）と、西北部（ペチョーラの石炭、泥炭及びオゼルノイ地方諸河の水力）である。

動力資源の貧弱なのは歐露中央部で、モスクワ近郊の褐炭、泥炭、薪の如き比較的價值低き燃料のみ産出される。併し此の中央地帯には恰度動力の産業技術方面における全需要の約半分が集中されてゐる、殊にモスクワ、イワーノウオ、ゴリキイ地方にはソ聯工場總數の半分迄が存在してゐる、是等の地方の燃料需要は僅かに三分の一しか地方資源によつて充足されず、三分の二はドイツ炭、バク1石油によるもので實に千五百料乃至二千料の遠地から移入されるものである。

斯の如くソ聯需要燃料の大部分は大なる輸送費をかけ遠隔の地方より移入しなければならぬので、歐露中部において

は地方産燃料と最大限度に利用する必要のあることは明瞭である、即ちモスクワ近部の泥炭採掘増加、並びにそれらを基に發電所を建設することである。併し歐露中部の動力は上部及び中部ウオルガにおける多數の水力發電所の建設によつて著しき發電を遂げるものと見られる。

〔石炭〕

ソ聯の燃料需要において石炭は其の三分の二に當る。ソ聯炭田の中最も重要なものはドネバス（ドネツ炭田）である、同炭田はドン河の支流、北ドネツ河の沿岸でウクライナとロシア共和國のロストフ州の一部に跨つてゐる。

ドネバスは其面積二萬五千平方料、埋藏量九百億噸、炭層は比較的薄く二反ある炭層のうち可掘炭層（厚さ〇・五米以上）は三〇乃至四〇である。此の様な炭層は採掘費を餘計に要するものである、クズネツ炭に比較するとドネツ炭は灰分多く、且つ硫黄の含有率が高い、ドネバスの變つてゐる主要點は豊富な鐵礦

産地（クリウオイ・ローグ及びケルケ半島）に比較的接近（約四百料）してゐること、ドネバスの西部はコークス用炭を東部は無煙炭を産出する。

ドネバスに次ぐ大炭田はクズバス（クズネツ炭田）である、同炭田はアルタイ山脈間のトミ河流域にある、其の面積からいへばドネバスと同様であるが、埋藏量では遙かにそれを凌駕してゐる、クズバスの埋藏量は四千五百億噸と計算され、全聯邦石炭埋藏量の十分の三に當る、是はソ聯第一の埋藏量であるばかりでなく、世界でも第二位を占めるもので、ドイツ、イギリスのを合計してよりも多いのである。

第三の石炭基地はカザフスタンのカラガンダ炭田である、是はシベリヤ鐵道幹線から東南ベトロバラにフスクに出る新鐵道線にあるもので、其の埋藏量は五百億噸でコークス用炭である。ウラルにはカラガンダ炭田はクズバスに至るよりも二倍も近い、且つ同炭はカザフスタンの有色金屬工業及び輸送工業にも極めて必

要である、同地方に大建設が進捗し毎年産炭高の増加するの理由あることである。

ソ聯邦における他の炭田中、その位置が首都モスクワに最も近いのはモスクワ近郊炭田である、火力低く燐燒悪く灰分率高く巢の多いこと等は革命前ドネツ炭と競争することの出来なかつた缺點であるが、現在では特別裝置の溶鑛爐によつて同炭使用を經濟的ならしめた。

其の占める位置のためウラルのキゼル及びチェリヤビンスタ炭田も亦重要である。

殘餘の炭田中注目すべきものは左の通りである。

チエ、ムホウオ 此の炭田はイルクーツクの西寄に在る、目下鐵道用に需要されてゐるが、將來アンガフ河水力發電所其他の大建設と共に多大の重要性を持つであらう。

トウングース エニセイ河岸支流にある大炭田であるが調査不十分である。ブレイヤ 極東にあり、極めて最近の

調査にかゝるものであるが、小ヒンガン
鐵鑛産地に近い爲め非常に重要である。
ベチョーラ ベチョーラ河流域にあり、
全く新しい炭田で既に開發中であるが、
北方航路の石炭供給基地として重要である。

〔石油〕

石油は内燃發動機の爲めにはかけ替のない特殊燃料として重要であるが、ソ聯邦の石油資源は世界第一位を又採掘部においては米國に次ぎ第三位を占めてゐる、産油地のうちバクーは第一位で埋藏量の半分餘、採掘高の同じく半分以上を占めてゐる。

バクー油は大部分裏海よりアストラハンに行き、同地よりウオルガ河及び其の支流を傳つて各地に配給される。バクー油の殘餘に油送管によりバトウーミに送られ同地の石油、精油所において精製された上油槽船で國外に輸出される。

採掘高ではグロズヌイ地方があり、油送管で外國市場より黒海のアブセ港

よりアルマウイル經由ドンバスの國內市場に配給されてゐる。

埋藏量及採掘量共に次位にあるのはクラスノグル地方のマイコプである、新石産油地のうち注目すべきはテュソフスキエ・ゴロドキ(ベルミ附近)、イシムバール(バシユキール自治共和國ステルリタマク附近)、スイズラン(クイブイシエフ州)、ウフチンスク(コミ自治共和國ベチョーラ河流域)、北樺太(極東)、フエルガナ及びネビトグダ(前者はウズベクスタン、後者はトルクメニスタンの裏海沿岸にあり)等で此中現在最も重要性をもつてゐるのはイシムバールエウオベ新鐵道線によりウフアに連絡しバシユキール自治共和國とウラル地方に出廻り北樺太油は極東地方と日本に送られてゐる。

〔泥炭〕

ソ聯の如く豊富なる泥炭埋藏國はない、その埋藏量は三萬億噸で世界泥炭埋藏量の五分の二を占めてゐる。全國中泥

六分の五は亞露の部に屬する中央アジア、カザフスタン、シベリヤ、極東におけるソ聯邦南部境界の山岳地帯は水力の最大包藏量を有する地帯である。

最も廣い動力を供給し得るものはアンガラ、エニセイ及びイルトウイシユ河である、アンガラ水力發電所の動力のコストは一キロワット時につき〇・五乃至〇・三哥である。一九三二年南露ドニエープル急流に歐洲第一の巨大水力發電所を建設した。

三、黑色冶金業

〔主要製鐵地區〕

主なる製鐵地區は南部、中央及び東部(ウラル・クズバス)であるが、ウクライナ、クリミヤ、及びアゾフ、黒海地方の冶金工場は南部地區にあり、此地方の燃料供給基地はドンバスである、その鐵鑛基地は二ヶ所あつて一つはクリウオイ・ローグにあり、他はケルチ半島にある。クリウオイ・ローグ産地はドンバス

から四五〇料も隔つてゐるドニエープル支流のイングーリツア河の沿岸にあつて埋藏されてゐる一億噸鐵鑛石は最優良品(含有鐵分量五八—六二%)であるが、深層にある。南部地方の殆んど總ての工場はクリウオイ・ローグの鐵鑛採掘事業に關與して居り、その採掘量からいへば此の鐵坑はソ聯における首位を占め、その鐵坑一ヶ所で自餘の各鐵坑の採掘量を突破する。

ケルチ産地はクリミヤ所在ケルチ半島の沿岸にあり、その埋藏量は約三十億噸でその埋藏量から云ふとソ聯最大の産地で露天掘りが可能であつて廉價であるが、その反面含有鐵分量は多くはなく(三三—四〇%)、しかも粉末状を呈してゐる爲、それを熔鑛爐に投入する前には撰鑛して凝結せしめなければならぬ。

南部地方が他の製鐵業地區に對比して大いに優越的地位にあるのは最優秀の鐵鑛石(クリウオイ・ローグ産)と石炭産地に比較的近く所在するからである、併

炭の多く採れる州はモスクワ、イワーノウオ、ヤロスラーウリ、レニングラード諸州で、その主なる需要先は現在のところでは發電所である。

〔頁岩〕

頁岩の最大産地はクイブイシエフ州、サラトフ州、カザフスタン境界におけるオプシチイ、スイルト地方である、此他頁岩はウオルガ河のウリヤノフスク、スイズラン附近、レニングラード州、ゴリキイ、キエフ兩州にもある、頁岩の採掘高は目下それ程多くないが近年著しく増産傾向を辿つてゐる。

〔水力資源〕

白炭の豊富なことに於てソ聯は世界第一で世界包藏量の三六%を占めてゐる、高架索は歐露の水力資源の大半、即ち三千百二十萬キロワットのうち一千六百二十萬キロワットを占めてゐる、併し高架索を含む歐露全體としては全聯邦水力資源の僅か六分の一にしか當らぬ。殘餘の

レドネツ石炭の中に含有されてゐる高率の硫黄は南部地方の諸工場をして主に並等の銑鐵を生産せしめてゐる。

クールスク磁計偏差地方も南部地區にあるが、その含鐵石炭の總埋藏量は二百億乃至二百五十億噸と推定され、全世界における他の總ての鐵鑛生産地の埋藏量を凌駕する程である。

中央地區における製鐵業はゴリキイ州からブリヤンスクに至る大地帯を占め、その區域内に三つの工場群を有してゐる、即ち

- (一)ゴリキイ州内のオカ河沿岸地區
- (二)ウオローネツ州内のリベーツ
- (三)トウーラ州内のトウーラ

であるが、前記各工場群はその近傍に鐵鑛生産地帯を控へ、此の地盤を基礎に工場が生れ、當初に於ては木炭が冶金用燃料として使用されたのである。

レニングラードには六十萬噸の良質鐵を産出する大工場が創設されつゝ、あ

ウラルに於ける鐵鑛生産地は其の山脈

に沿うてイウデリ（北方）から南方のハリロウオに至る迄蜿蜒長蛇の如く連つてゐる、その埋藏量は十六億噸以上と推定されてゐる。主なる産地は次の如くである。

(一) マグニトゴールスク（四億七千萬噸）

此處ではマグニトゴールスク工場が活動してゐる。

(二) バカール（一億五千五百萬噸）、ズラトウーストの西方、サトカの近傍にあつて、その純粹無此の鐵礦石と最良質の鐵とを産することによつて評判が高い、目下チェリヤビンスクに建設中のバカール工場は近く活動を始める豫定と傳へられる。

(三) コマロウオ・シガツンスク（一億噸）、バシキール共和国のペロレツクの西方にあるが、そのペロレツク工場は未だ多くの産出を見てゐない。

(四) タギーロ・クシウインスク・グルプタの北方、ニシニイ・タギール附近に所在し、その区域内にウイソールカヤとブラゴダーチの兩鐵山を収めてゐる。

る。此の一群の中ではノウオタギール工場が近く活動を開始する筈である。

クズバスに於ては極めて優良な冶金用燃料の豊富な埋藏が極めて最近にゴールナヤ・シヨリヤ（テリベス、テミール・タウその他）の區域にあるスターリンスク（舊クズネツク）の南東地方で發見された比較的平凡な鐵礦層と相對立し其の總埋藏量は三億噸と推定されてゐる。ウラルの豊富な鐵礦とクズバスの無盡藏な石炭とを結合せしめ、振子の原理によつて二工場群を創設しクズネツ炭をウラルへ輸送し歸途同じ貨車でウラルの鐵礦をクズバスに持運ぶといふ考へが生れてきた。ウラルのマグニトゴールスク工場とクズバスのクズネツ工場とが斯る方法の下に活動し始め、その各々は年一百万噸の生産力を示した。

四、有色冶金業

ソ聯邦における有色金屬に對する需要は高は全部で漸く數千萬乃至數萬噸であるが、現在の貯藏量は（含有鐵石を除き純

金屬だけで）銅が一、七〇〇萬噸、亞鉛

が六五〇萬噸、鉛が三三〇萬噸である。

ソ聯邦中カザフスタンは最も銅に富み、同地には二五〇萬噸を産出するソ聯最大の銅産地コウンラード（バルハシユ湖北岸附近）を擁し、年一〇萬噸を産出する大製銅綜合工場が建設されてゐる。

亞鉛と鉛もカザフスタンのイルツウイシユ右岸リール附近が大産地で、これに次ぐものは東部シベリヤ、ウラル、極東地方及び中央アジアである。

ニツケルはウラルに産し一九三四年ソ聯最初のニツケル工場をチェリヤビンスク附近に新設した。

アルミニウムはウラルの生産もソ聯では新しいもので、その主要原料たる鐵礬土はレニングラード州（チフウイン）とウラルに産する。此處より産出されるアルミニウムはウオルホフとドニエーブル兩發電所附近の二工場に於て製造されてゐる。

五、機械製作業

帝政ロシアに於てはトラクターは全く製作されなかつたが、革命後、レニングラードのクラススイ・ブチーロウエツ工場

で最初に作られ、其後スターリングラード及びハリコフの二大工場が建設され初めてからトラクター製作で獨立の生産部門となつた、是に續いて第三の巨大トラクター工場たるチェリヤビンスク工場は年四萬臺の五〇馬力裝軌式トラクターを有してゐる。

ソ聯の自動車工業はモスクワのスターリン自動車工場、ゴリキイのモロトフ自動車工場の建設によつて創始された。自動車及びトラクターの如き同じ機械製作の中でも特に複雑ある部門のため多數の補助的な企業と製造工業が創始されたが、其内でモスクワのポールベアリング工場は世界最大のものである。

發動機製作ではハリコフのタービン發電機工場が最大のものである。ダイゼル機關の製作はモスクワ州（コロムナ）とレニングラード及びゴリキイ市に集中されてゐる、發電機的全製作能力は一九三

五年には二〇〇萬馬力以上となつてゐる。

黑色冶金と鑛山業用機械を製作する重機械製作工場のうち主なるものはウクライナの「ノウイ・クラマトールスク」とスウェルドローフスクの「ウラルマシユ」の二大工場である。

工作機械製作はモスクワ、レニングラード及びゴリキイに集中されてゐる、更に大規模の新設工場としてはモスクワの轉刀旋盤工場とゴリキイの削截機工場が擧げられる。

運輸機械製作、即ち機關車及び車輛の製作は古い歴史を有するゴリキイ市附近のソルモウオ、コロムナ、ブリヤンスク、ハリコフのほか新たにロストフ附近のノウオチエルクアスク、ウラルのオルスク、クズバスのスターリンスクに創設されてゐる。新設の機械車製作工場の中最大なのはウオロシロフグラー（舊名ルガンスク）の新工場である、なほ新設の車輛製作工場中最大なのはタギール工場（大型貨車の製作）である。

造船業は第一次五ヶ年計畫を通じて八

六隻、總噸數二十萬噸の商船を建造した、海洋船舶建造の主なる地方はレニングラード、ニコラエフ、セワストーポリ、浦鹽であるが、新しい中心として極東アムール河畔のコムソモリスクが代表的である。次に河川用船舶の中心はゴリキイ（ソルモウオ）、ゼリヨースイ・ドール（カザン附近）、ペルミ及びウオルガ河畔のクラスノアルメイスク（スターリングラード附近）、ドニエーブル河岸のキエフ、オビ及びイルトウイシユ水域のチュメーンである。

古い工業諸地方、特に優秀な設備、熟練せる幹部労働者並に機械製作に對する數十年間の技術上の經驗を有するモスクワとレニングラードは工場機械、ダイゼル機關、電気機械及び紡織機械、印刷機械、精密機械（時計、各種計器等）の如き最も複雑な技術を要する機械製作を専門としてゐる。

第二次五ヶ年計畫はソ聯邦の機械工業の改造を完成した、それ故今や機械工業

はその技術的に進歩した設備によつて全
經濟部門の總ゆる需要に應じ得るのであ
るが、特に運輸機械、紡績機械及び自動
車の製作を進展を見た。

六、化學工業

帝政時代には化學製品に對する主なる
需要者には比較的レニングラードとモス
クワに多く存在したので、その仕向先も
自然西部國境方面を主とし國內原料所在
地に對し背向けて移動し、レニングラー
ド(六〇%)とモスクワ(一六%)が化
學工業地として發達した、元來ソ聯邦は
化學工業原料に恵まれ其中でも最も重
要な石灰、石油のほか頁岩、泥炭、森林
に豊富なことは周知の通りで、更に燐灰
石、鹽化曹達、鹽酸加里、芒硝、硫黃、
硫化鐵、クロム礦等の如き特殊の化學
的礦物品原料の蓄積の如きは世界的な意
義をもつてゐる。

燐灰石の最大産地はキエフ州のウヤ
トカ、カマ兩河の分水點におけるウヤト
カ地方であるが、其他モスクワ州、ク

ルスク州、ウクライナ及びカザフスタン
(テクチュビンスク附近)にも産出す
る。コーラ半島のキエフスク附近(舊
ヒビンゴルスク)の燐灰石は最近の發見
にかゝり、既に大規模の採掘が行はれて
ゐるのみならず西歐諸國へも輸出してゐ
る。

曹達製造の原料となる食鹽はスタリン
グラード州のバスクンチャクと、エリン
トン及びカザフスタンと、岩鹽はウクラ
イナのアルチヨモフスク、チカローフ州
のイレーツク及びヤクート自治共和國の
各所、なほ食鹽はスウェルドローフスク
州、カマ河岸のソリカムスク、東部シベ
リヤ、イルクーツク附近のウソリーエ等
である。而して前記のうち曹達生産基地
となり得るものは最も燃料に恵まれた地
帯、即ちキゼル炭坑とドンバスに近きソ
リカムスクである。ソリカムスクの鹽酸
加里層は世界最大のもので世界總産額六
〇億噸に對し一八〇億噸である。

硫酸製造原料としてはウラル、高架索、
カザフスタンの硫銅礦石、有色冶金業の

廢物及ぶ最近中央アジアに於て發見され
た純粹硫黃層が數へられる。

第一次歐洲大戰前までは殆んど生産さ
れなかつた窒素肥料が今日ではベレズニ
キーではキゼル炭により、スタリノゴー
ルスクではモスクワ附近の石炭により、
ゴルロフカではドネツ炭により、又チエ
ルー・レチエンスク綜合工場では窒素よ
りの窒素採取によつて夫々製造されてゐ
る。此他ドンバスとクズバス及びマガニ
トゴルスク綜合工場に於けるコークス化
學装置による窒素肥料の製造も好調に進
んでゐる。

また馬鈴薯酒精からの合成彈性ゴムの
製造(ヤロスラーウリ、ウオローネジ
ユ、エフレーモフ其他における諸工場)、
木質纖維からの人絹抽出及びプラスチック
ク、沃度、臭素、加里肥料の製造の如き
多くの新しい化學的生產事業が創設さ
れた。

ウクライナ、ウラル、シベリヤにおけ
る新工場の建設は化學工業の地圖を急激
に塗りかへ、それを原料と動力とに接近

せしめつゝある。

斯してソ聯邦の化學工業は一大進歩を
遂げ、帝政ロシアが化學工業において最
下位の一を占めてゐたに反し、現在ではア
メリカ及びドイツに次ぎ世界第三位を占
めてゐる。

七、木材加工業

森林の豊富なることに於て世界第一位
を占めるソ聯邦の木材加工業は特に重要
なる意義を有してゐる。

ソヴェト時代を迎えてからは林業の全
戦線に亘つて多大の發展を遂げてゐる、
木材の供給は著しく機械化され、トラク
ター使用の木材輸送路が約一萬五千軒も
建設され、流送用の河川は數萬軒に及ん
で清掃され約二〇〇の製材工場が新設さ
れた。その大部分は北部地方、西部シベ
リヤ、東部シベリヤ及び極東の如き充分
に開拓されてゐない大なる木材の蓄積を
有する諸地區に建てられてゐる。ベニヤ
板の製造業は大いに發達し其の大量は輸
出され普通の挽材に比し、一立方米に

き四倍半の外貨を吸収してゐる。

近年製紙工業が急激に發達し歐洲最大
のバラフナ新聞紙製造工場の如き巨大企
業が新設された、併し近年文化の向上に
つれ紙に對する需要が急に激増し生産が
これに間に合はない現状である。

八、纖維工業

纖維工業中の主要なのは全纖維に労働
者の五分の三以上を占める紡績業である
が、從來その原料たる棉花の半ばをアメ
リカから、其他は中央アジアと後部高架
索から供給してゐた。第一次五ヶ年計畫
の建設事業は主として重工業方面に向け
られてゐたので纖維工業の發展に歸する
所、既存の諸工場の改善と擴張にあつ
た。第一次五ヶ年計畫期間に後部高架索
及び中央アジアに若干の紡績工場を建設
したが、これらは原料生産地區に新らし
い織緯工業中心を創設するための基礎を
置いたといふことに大なる意義を有して
ゐる。

第二次五ヶ年計畫の當初に於ては紡績

業はモスクワ及びイワノウオ州に九〇
%以上が集中されてゐた。絹絲業の中、
只繭繰工場だけが原料地區に散在し、紡
績及び絹織は中央非黒土地帯(殆んど全
部がモスクワ)に集中され、麻織物業は
イワノウオ州が七五%以上を占めてゐ
る。

毛織物業の中、細毛織の生産はモスク
ワ州に、粗毛織はクイブイシユフ、ウオ
ローネジ及びモレンスク諸州に振り當
てられてゐる。
莫大小業は其の六〇%までもモスクワ
州に在る。

麻織物綜合工場は亞麻の産地たる白ロ
シヤ共和國、モレンスク、カリーニン、
ゴリキー、キエフの諸州及び西部シ
ベリヤに新設され、毛織物綜合工場は牧
羊地區たる北部高架索、ウオルガ下流、
カザフスタン、キルギーズ、西部シベリ
ヤ及び東部シベリヤに、また紡績綜合工
業は古い棉花栽培地方たる中央アジア、
南部カザフスタン、後部高架索及びウク
ライナ並びにモスクワより遙かに中央ア

ジャに近い西部シベリヤに創設された。

九、食品工業

食品工業の最も大きな部門は製粉、製パン、製糖、製菓、火酒の醸造、罐詰業及び漁業であり、その主要地区はウクライナ、中央地方、ウオルガ沿岸地方、北部高架索であり、その主要生産の中心はモスクワとレニングラードである。甜菜糖工業はウクライナ及びモスクワ地方の如き舊地区と共に新地区が（甜菜の播種と共に）、沿ウオルガ地方、バシユキール共和国、高架索、キルギーズ共和国、西部シベリヤ及び極東に創設されてある。

家内工業的タイプの屠殺場に驅逐した巨大なる製肉綜合工場で指導的な役割を果しつゝある、此種の綜合工場は主として、肉類畜産業地帯（カザフスタン、中央アジア、沿ウオルガ地方、南部ウラル及び東部シベリヤ）の大工業は中心地、又は特に労働者階級の多いモスクワ、レニングラード、ゴーリキイ、スウエルド

ローフスクの如き大都市に建設中である。

アルハンゲリスク、ウオーログダの二州及び東西シベリヤの乳産業地方には罐詰乳製品と粉ミルクの工場が多数配置されてある。

一九三七年ソ聯邦は製粉業に於て世界の首位を占め罐詰製造はアメリカ、漁業は日本に次いで第二位を占めるに至つた、而して食品工業の總生産高においてはソ聯邦はアメリカに一籌を輸するのみである。

第二、農業地理

一、農業の配置

現在に於ける穀物の播種面積は一億ヘクタール以上に達してあるが、是は戦前の全播種面積に等しい。全穀物の播種面積の四分の三を占める穀物生産の主要地方に森林、草原地帯に草野地帯とに分れてゐる。而も此の地帯、即ちウクライナ、北部高架索及びウオルガ下流沿岸地方に

於て農業の改造が最初に決定的な成功を収めた。

第一の重要穀物生産基地はウクライナと北部高架索における此の地帯の西部で第二の基地は後部沿ウオルガ地方及び西部シベリヤである。

第一の穀物生産基地は國內の主要工業中心地附近にあり、又發達した鐵道網を有してゐる。この地方は農村人口の密度が非常に高いので空地が少なく従つて國營農場も比較的狭い地域を占めてゐる。

第二の東部穀物生産基地は大部分が温度の不十分な地帯を占め第一の基地と比較して週期的に反復する早魃のため收穫は少く、且つ餘り安定してゐないのである、特にスタリングラード、サラートフ、タイビイシエフ三州内の後部ウオルガ沿岸地方及びチカロフ、チエリヤビンスク二州内の南部及後部ウラル地方はさうである。

東部穀物生産基地、就中その西部シベリヤにおける廣大なる未開墾地の存在は此の地方に大規模な穀物國營農場の建設

を盛んにした、此の地方では耕作に適した廣大な地域があるが未だ開拓されてゐない、特に西部シベリヤに於て然りである。

二、粒穀作物

ソ聯邦における重要な粒穀物栽培は、その播種面積の順位に従ふと小麦、裸麥、燕麥及び大麦である。玉蜀黍と米を含む他の總てのものは穀物播種總面積の五分の一以上を占めるに過ぎない。

小麦には秋時と春時とがあり、秋時の小麦は早魃の到来するまでに成熟し終るため其の收穫が遙かに多く、且つまたより安定である。しかし氣温並に風土に對する要求が大きく、暖い冬を好み寒い冬が到来する時は凍害を防ぐため厚い降雪を必要とする、東部穀物生産基地の後部ウオルガ沿岸地方及び西部シベリヤの草原地帯に見られる如き烈しい酷寒と、少量の積雪は秋時小麦にとつては致命的なものである。それ故、秋時小麦の主なる播種地方はウクライナのドニエーブル右

岸、南北兩高架索、クリミヤ及び中央アジアである。其他の地方に於ては少なく、カザフスタンとシベリヤに於ては稀である。秋時小麦の分布は西南部に集中され、北部と東部は春時小麦に占められてゐる。

近年小麦の播種面積は著しく擴張され秋時小麦が北部及び東部で播種されるようになつた。小麦の播種面積は一九三三年の三一、六百萬ヘクタールから一九三七年には四一、四百萬ヘクタールに増加した。

ソ聯邦の歐羅巴部では専ら秋時裸麥が播種され春時裸麥は特に冬期嚴寒の諸地帯、東シベリヤに盛んでゐる。

燕麥は勞役用家畜、特に馬にとつての榮養に富める主要飼料である。燕麥は土壌や氣温を擇ばない、小麦のように遠く北部にも栽培される、此點では大麦と異なるたゞ燕麥の恐れるものは水分の不足のみである、それで南部の乾燥地帯や極北地方では大麦が代作される。燕麥播種の最も廣い地域はトウラー—ペンザ—

キエフを結び三角形内の土地である。

大麦は燕麥と同じく家畜飼料用、特に養豚用農作物である、又碾割して食用にも併せられる、大麦の大部分はビール醸造に用ひられる。早熟種の大麥は極めて短期間に成熟する、それがため北部及び山岳地方（高架索）では他の農作物より收穫が多く家畜飼料としてばかりでなく食料としても用ひられる。夏の後半期のひどい早魃襲來前に其の早熟性によつて逸早く成熟を終つてしまふ、大麦の全收穫の三分の二以上はウクライナ高架索が台めてゐる。

黍は早魃に最も堪え得る主要食料農作物であるが、好收穫を擧げるには夏の初めに充分土で圍はねばならない。黍の大部分は中央黒土帯（クルルスク、タンボウ）に集中してゐる、此の地帯では循環播種において小麦の代用を爲してゐる、播種面積の最大比重は早魃によつて他の穀物の枯渴した半未開の中央カザフスタんに境を接する地方にある。

玉蜀黍は主に飼料となり、多收穫の早

越に抵抗強く比較的南方的な農作物である、高架索とウクライナに集中されてゐる、大戦前に比較して玉蜀黍の播種地は二倍になつたが中でも北部の進出は目ざましい。

米は穀物中收穫量で第一位を占める南方的食用農作物である、米の耕作上の特徴は田を一〇——一五種だけ水に漬さなければならぬ點で此の爲めに人工灌溉を用ひる、ソ聯では南部國境の三地方——後部高架索、中央アジア及び極東のウズベキスタン地方に産する、米は多量の水を要して棉花の妨げをなすので近年其の一部が北に移された、即ち後部高架索から北部高架索へ、中央アジアから南カザフスタンへ。因みに一九三九年四月現在の棉花播種面積は五六二・五千ヘクタールであつた。

三、工業用農作物

工業用農作物とは工業に、それも特に織物と食糧に關する工業に原料を提供する農作物である。而して工業用農作物に

〔纖維用新農作物〕

國外からの棉花、黄麻の輸入を避けるためソ聯邦は在來の纖維農作物の發達を計ると同時に、是迄栽培されたことのない新たな工業用農作物に手をつけた、これはケナフ（一名ボンベイ麻）とラミ（一名支那いらくさ）である、ケナフは黄麻のすぐれた代用品となる、はじめアドウガイ自治州と北部高架索に専ら栽培されたが、其後他の南部地方——後部高架索、クリミヤ、ウクライナ、中央アジアに擴まつた。ラミはひきの強いのと見かけが美しいので綿と共に紡いで美事な織物をつくる、これは濕氣の多い亞熱帶地方——黒海沿岸とレンコランに栽培されてゐる。

〔植物性油農作物〕

ソ聯の植物性油農作物の中で最も主要なもの向日葵である、向日葵のみで全纖維農作物の占めると同じ栽培面積の五

屬するものは棉花、亞麻、大麻、甜菜、煙草、向日葵、馬鈴薯等である。

工業用農作物は、それより造られる生産品によつて纖維農作物、植物性油農作物、護謨含有農作物、製糖農作物等に區別される。

〔纖維農作物〕

纖維農作物の中で最も重要なものは棉花、亞麻、大麻である。

ソ聯邦は第一次五ヶ年計畫中に棉花の播種面積を二倍半に擴大し今では國產棉花で自給し得るに至つた。ソ聯邦の棉花栽培地は中央アジアと後部高架索の低地で、古くからの棉花産地として重要である。

〔亞麻〕

棉とは反對に北部地方の農作物である、七月の氣温が一八・五——一九度以上にする事のない北部の多濕地帯が亞麻の栽培に好適なのである。革命前も亞麻の産額は全世界の八五%を占め第一位

百萬ヘクタール以上に當つてゐる。その主要栽培地は北部高架索（特にクバン）、ウクライナ（東南部）、ウオローネジュ州、ウオルガ上流地方及び中流地方である。製油工場も此の地方に集中してゐる。

新しい植物性油農作物の中ではソイヤ（滿洲大豆）がある、ソイヤは油となるばかりでなく穀粉にされ、特殊のチーズを作るためのミルクにも製造されるし、又チコレートの代用品ともなる、ソイヤに第一次五ヶ年計畫の當初までは支那人と朝鮮人が初めに持ち込んだ極東地方に栽培されてゐるに過ぎなかつた、ソイヤの新栽培地としてはウクライナと北部高架索がある。

〔砂糖甜菜〕

甜菜から砂糖を製造する國々の中でソ聯邦に獨逸を凌駕して世界第一位を占めてゐる。

砂糖甜菜の主要産地はウクライナの草原地方（特にドニエール沿岸地）並びにクルスク州（西南部）である。此地

であつた、是は自然的條件に恵まれてゐるといふことによつてのみ説明されるものではなく、ソ聯邦の農村に餘剩勞働力が豊富に存するからである、土地の少ない農夫達は非常に收益の多い農作物として亞麻の栽培に熱心である。ソ聯邦の纖維用亞麻栽培の主要地域はカリーニン州、それに接する白ロシヤの一部、レニングラード州、スモレンスク州に及び更に北東のウオログダとキエフまで達してゐる。又亞麻栽培はシベリヤの森林地帯にも増加した。ソ聯では現在世界的に優秀な亞麻收穫機が發明された、又播種面積及び栽培方法でもソ聯邦は指導的地位を占めてゐる。

ソ聯邦には亞麻の主要な二地帯がある、一つはウクライナの北部、スモレンスク州の南部、クルスク州の西北部（チエルニゴフ、ブリヤンスク、オリョール、クルスク）に亘る一帯で、いま一つはクイブイシエフ州の西部、モルドワ自治共和國、タタル自治共和國とゴリキイ州に隣接する地方（ペンザ、リヤ

方には砂糖甜菜工場が密集してゐる。猶新しい栽培地が北部高架索、後部高架索、ウオルガの中流及び下流地方、バシキール自治共和國、キルギズ共和國、南カザフスタン、西部シベリヤ（アルタイ草原）、極東地方ウスリイ地方の南部）に開拓された。斯うした地方には既に可成りな数の製糖工場が設けられてゐる、甜菜の播種面積は一九一三年の六〇萬ヘクタールから一九三七年には一二〇萬ヘクタールに増大した、

〔馬鈴薯〕

ソ聯の馬鈴薯主要産地は砂糖甜菜地域の北方から亞麻地域に至る間及びそれよりも稍々亞麻地域に近い白ロシヤ共和國、スモレンスク州、モスクワ州、ヤロスラウリ州、イワノウオ州、中央黒土地帯の北部である。

大戦前に比べソ聯の馬鈴薯播種面積は二倍半に擴り、一九一三年の三百萬ヘクタールから一九三七年には六百十八萬ヘクタールに達した、收穫は一ヘクタール當り八

九廬として六千萬乃至六千五百萬廬である。

四、畜産

畜産は夫々の地方に應じ専門化が行はれつゝある、此の専門家は家畜飼料其他の如何によつてばかりでなく、その生産品に對する需要によつて決定されるものである、而して需要は中心的大都市とか輸送設備とかで、それに應じて種々異なる。

牛乳の産出主要地帯はアルハンゲリスク、ウオーログド、レニングラード、カリニン、モスクワ、ヤロスラウリ、イワノウオの諸州、ウラル、シベリヤ(草原地帯を除く)の大部分及び後部高架索である。肉類は白ロシア、スモレンスク州、ウクライナ、中央黒土地方の諸州、ウオルガの中流及び下流地方、北部高架索、ウクライナ及びシベリヤの草原地帯である。カザフスタンと中央アジアでは肉と共に革と羊毛が産出される、ソ聯邦の北部地帯における畜産搾乳の發展

は天然の乾草の多いことで説明されるし、西部も亦、牧草が豊富である。大きな労働者中心地から離れた地方は畜産搾乳の代りに牛酪生産を行つてゐる。

モスクワ、イワノウオ、レニングラード、カリニン、スモレンスク等の諸州では牛酪の全生産高は牛乳の一〇乃至二〇%であるが、牛酪の主要生産地アルハンゲリスク州、ウオーログド州とシベリヤでは牛乳の五〇%が牛酪に精製されてゐる。高架索の山岳地帯は特に乾酪の生産地として優れてゐる。乾酪地方の新生産地にアルタイ地方がある。

畜産搾乳發展に指導的役割を有つてゐるのは酪農國營農場と共營農場の牧場である。

羊毛の生産は牧羊と密接な關係があるが、牧羊の重要地方はカザフスタン、中央アジア共和國、シベリヤの牧場地で、其處には羊毛を製産する多數の共營農場が集中してゐる。皮革材料の重要地域はウオルガ沿岸、カザフスタン、シベリヤである。

極北の凍土帯では畜産の重要部門として農業と共に養鹿が行はれてゐる。養鹿は凍土帯の住民に食糧(乳と肉)、衣服(毛皮、鹿毛)のほか索引力を提供してゐる。

畜産と縁のあるものは養蠶業であるが、是は蠶が桑葉を食つて成長するため桑の樹の栽培と關係がある、養蠶業は専ら後部に高架索と中央アジアに行はれる。

五、漁業

ソ聯邦になつてから漁業は集團化され、大きな國營企業トラストが組織された。漁夫は殆んど總て共營農場に加へられた、漁夫共營農場の援助のため新しき技術的基礎に基き漁業を共營的組織に改め、漁勞發動機船隊を補充し、更に改良された漁獲方法を採り入れ、熟練漁夫を備へた發動機船漁業管理所が數十ヶ所に設立された、十三萬人の労働者と二十二人の漁夫がソ聯邦の漁業に従事してゐる。漁獲高においてソ聯邦は日本の次

位、北米合衆國の上位に位し世界第二位を占めてゐる。

ソ聯邦漁業の最重要地は裏海一帯である、裏海は魚類繁殖に極めて優れた條件を具へてゐる、ウオルガ、ウラル、チェレク及び其他の河川より流れる水が裏海に有機物の残滓を運んで来る、岸は非常に浅く是が魚の産卵に好都合である。

第二位は極東漁場である、素晴しく魚は豊富であるが、漁場の開拓は不充分である、但し最大の缺點は需要中心から遠いこと、労働力の不足、鹽の産地のないこと(鹽は黒海沿岸から海路アジアを通じて送られてゐる)である。漁撈の中心地は勘察加沿岸、特に西岸及びアムール河口で、魚の主なる種類は鱈、鮭屬(白鮭、鱒)である。

漁獲高で極東漁場に次ぐものは黒海、アゾフ海の漁場である。アゾフ海の漁場の自然的條件(遠浅、魚類の豊富)では裏海のそれに極めて近い。北氷洋の重要漁業地帯はムルマンスク沿岸で、魚の主なるものは鱈、蟹である。

其他魚類の豊富な地方の中でアラル海、シベリヤの諸河川(オビ、エニセイ、レナ等)の河口である。

第三、運輸地理

一、鐵道運輸

ソ聯邦の主要鐵道線は中央非黒土地方と黒海、バルチック海、白海の諸港とを結ぶ線、ドンバスの石炭とウクライナの穀物とを結ぶ線、ウオルガ沿岸の諸港を結ぶ線、ウラルとシベリヤを結ぶ線、それからシベリヤ幹線、チカーロフ・タンエケント線、トウルケスタン・シベリヤ鐵道、高架索線、キエロフ鐵道等である。

中央非黒土地方とウクライナを連結する諸線の主なる貨物は石炭、金屬、穀物である、革命後、新にドンバスからレニングラード(ハリコフ、ブリヤンスク、ウテプスク經由)、ドンバスからマリウーポリへ、そして海路遙かにケルチ工場へ、輸出品の一として石炭が輸送されるようになった。クリウオイ・ローグ向け

の石炭、ドニエーブル沿岸地方とドンバス向けの鑛石の輸送貨物が増加した。スタリングラード・ドンバス線は多大の意義をもつてゐる、それはウオルガを上つてスタリングラードへ達する木材が此の線によつてドンバスへ送られるからである。

中央黒土地方とウオルガ沿岸を連絡する諸線の輸送貨物はウオルガ沿岸からの穀物と、ウオルガを廻りサラトフ、スイズラン、ゴリキイ、ヤロスラウリで鐵道に積替られる。

チカーロフ・タンエケント線によつて北上するものは棉花と果實、南下するものは穀物と木材である、特に木材及び穀物の莫大な量が今日シベリヤからトルクシブ鐵道によつて中央アジアに輸送されてゐる。

シベリヤ幹線の貨物は日毎に増加しウラルからノウオンピルスクへ送られてゐる、此の線でウラルから東部へは鑛石、クズバスから西部へは石炭、西シベリヤ一帯からは穀物が送られてゐる。

クズバスの石炭はウラルの二地區、即ち(一)スウェルドロフスクと(二)チェリヤビンスクと(三)マグニトゴルスクへ輸送される。カラガンダの石炭はペトロパウロフスクとチェリヤビンスクを経てウラルに達する。シベリヤ幹線で東行するものは中央非黒土地方、レニングラード、ウラルの機械及び工業生産品とウオルガからの石油である。

木材はキーロフ鐵道(ムルマンスク、レニングラード間)と北方鐵道により、アルハンゲリスクからウオーログダ、キーロフからモスクワへ送られる。猶、復線敷設中又は既に開通せる重要な線は左の通りである。

- (一)クリウオイ・ローグ・ドンバス
- (二)ドンバス・モスクワ
- (三)レニングラード・ドンバス
- (四)レニングラード・モスクワ・ハリコフ・ロストフ・プロフラドナヤ(五)モスクワ・ウラル(六)レニングラード・ウラル
- (七)ウラル・クズバス(八)モスクワ・中央アジヤ

し同一海洋の諸港間の航海は黒海、特に裏海に盛んでバクーからアストラハンに石油輸送を行つてゐるが、石油輸送量は同種航海の總輸送量の七〇%に達してゐる。

黒海及びアゾフ海の特徴はその諸港の大部分不凍港であり(アゾフ海諸港及び河口の諸港のみが短期間凍結する)、穀物産地(ウクライナ、北部高架索)及び第一の冶金基地に近接してゐる點にある。黒海航行は冬季屢々暴風雨のため若干妨害される。黒海とアゾフ海の海上運輸はウクライナ、クリミア、高架索地方によつて行はれ對外輸出と國內商品交易が行はれてゐる。

近年ソ聯の造船力が向上し大規模の造船、修理工場が多數創設された、現在造船及修理工場の設置されてゐる港は白海のアルハンゲリスク、バルト海のレニングラード、黒海のニコラーエフ及セワストーポリ、裏海のバクー及アストラハン、太平洋の浦潮斯德、アムール河畔のコムソモリスクである。

以上のほか重要新幹線で大體敷設を終つたのに左の諸線がある。

- (一)ドンバス・モスクワ線
- (二)ドンバス・レニングラード線
- (三)太平洋、マグニトゴルスク線(黒海とバルト海に支線を有す)

此中第三線は次の如き各獨立の重要意義を有する線區に分れてゐる、即ち

- イ、トウイング・コムソモリスク間
- ロ、アクモリンスク・カルタリイ間
- ハ、イレーツク・ウラリスク間
- ニ、マグニトゴルスク・ウフア間
- ホ、カザン・ゴリキイ間

なほ我が對支處理問題に重要な意義を有する援蔣新疆ルートたるタルヂクルガンとソ支國境附近のテケリとを結ぶ線が本年(一九四〇年)中に開通するといふ。因みに第三次五ヶ年計畫中に建設されるべ鐵道線は延長一萬一千軒である。

二、河川運輸

ソ聯邦河川の總延長數は四十二萬軒と算定せられ、其中十萬軒は自然のまゝでは小舟も通行不可能である、併し舟行可

現在荷役作業の機械化は完成しレニングラード、トウアプセ、ノウオロシイスク、浦潮等の港は擴張され、新に改装されてゐる。エニセイ河下流の木材輸出港イガルカ、裏海のイリイツチ港、ペチヨーラ、ソローカ等の新港が續々新設されてをり、最新技術の起重機、冷蔵庫等が設備されてゐる。

一九三五年以來北氷洋沿岸直通航路の探險航海が開始されたが、同航路は將來歐亞をつなぐ大航路として軍事的にも注目すべきものがある。

猶、一九三九年十一月初旬に完了した北洋航路輸送は參加船百四隻で、西より東に至る直通航路には十隻參加、東より西への直通航路は一隻就航した。

四、自動車運輸

ソ聯邦には鐵道網を缺く地方が未だ多數に上つてゐる、例へばヤクト全地方、極北の殆んど全部及び南部シベリヤ、カザフスタン、中央アジヤの大部分等である、従つて自動車運輸にある遠距

能河川の中で實際に利用されてゐるのはソ聯の鐵道網と同じだけの八萬四千軒である。未利用のものが猶二萬六千軒残つてゐる。是はビヤシナ、ハタング、アナバラ、オレニョーク、ヤナ、インデギルカ、コルイマ等のシベリヤの諸河川である。是等諸河川開拓の事業は目下着々と進行中である。

猶、河川航運の一九三九年實績及一九四〇年度計畫は左の通りである。

	發送貨物
一九三九年實績	七二・六百萬噸
	三五・〇億噸料
一九四〇年計畫	七八・七百萬噸
	四〇・八億噸料

三、海上運輸

海洋を異にする諸港間の航海はソ聯邦においては距離遠隔のため特に重要視されてはゐない、主要なる輸送航路は黒海を起點とし、ノウオロシイスクからセントをレニングラード及びアストラハンへ、オデッサから砂糖を浦潮斯德及びアルハンゲリスクに輸送してゐる、之に反

離輸送の餘地は極めて多い。

併し自動車運輸と道路の良否とは重大なる關係があり、戦前ソ聯邦の舗裝道路は二四、三〇〇軒であつたが、一九二八年には三二、〇〇〇軒に増加、第一次五ヶ年計畫時代に一、二〇〇軒を延長し、第二次五ヶ年計畫當初には四四、〇〇〇軒となり、一九三七年には八七、五〇〇軒まで擴張された、め新開設幹線道路の主なるものはアムール鐵道よりアルダン金嶺經由ヤクトクに至るアムール・ヤクトク幹線道路(八六九軒)、ビイスクより蒙古人民共和国に至るチユイイ大道、ミヌシンスクよりトウワ人民共和國に至る大道路等である。

五、航空運輸

ソ聯邦は地域廣大で道路少なく従つて遠隔地、殊に北部地方の如きと連絡するために特に航空運輸の役割は重要である。

ソ聯邦の航空路は世界最長のもので、その航空網は歐露も覆ひ高架索に中央ア

シヤに、シベリヤに、更に浦潮にまで達してゐる、なほ鐵道幹線に沿つてシベリヤに通ずる主要航空路から極北地方に向つて多數の支線が走つてゐる、即ち左の如し。

(一) スウェルドロフスクノールウイ・ボルト間

(二) クラスノヤルスクノドウヂンカ間

(三) イルクーツクノヤクーツク間

(四) ハバロフスクノ勘察加間

猶、ソ聯邦一九四〇年度の總航空距離は三千六百萬噸、輸送旅客數二八五、〇〇〇人、貨物四二、三〇〇噸で一九三九年度に比し噸數に於て三六%増加である。

ロシア共和國

面積千六百五十萬平方尺、人口

一億五百萬人、人口密度六・五

八、首都モスクワ。

ロシア共和國(ロシア・ソヴェート聯邦社會主義共和國)は加盟共和國その面積及び人口において最も大きく全聯邦

面積の五分の四(七八%)、總人口の五分の三(六二%)に當る。

ロシア共和國は西より東にバルチック海から八千尺の太平洋に至り、北より南へ、北氷洋より高架索山脈、裏海アルタイ及サヤン山脈並びにアムールまで二千五百尺乃至四千尺に亘つてゐる。

ロシア共和國は他の加盟共和國に對し、總ゆる機械と設備(殊に自動車、飛行機、機關車、鐵道車輛、タンク、大型壓延機、精密器械類等)、化學製品(肥料、染料、ゴム製品等)、織物、木材、木製品、紙、書籍、其他の印刷物を供給する。而してウクライナ共和國から同共和國の受取るものは石炭、金屬、或種の機械、砂糖、小麦肉、鹽である。

一、白ロシア共和國から來るもの——豚肉、木工品(殊にベニヤ板)、燐寸。

二、アゼルバイジャン共和國から來るもの——石油、棉花、果實、生糸。

三、グルヂヤ共和國から來るもの——煙草、茶、葡萄酒、蜜柑、レモン、其他の果實。

ソ 聯 東 亞

行政區劃

ソ聯東亞とは舊東亞地方と東部シベリアを合した廣義の東亞を指すものであり、これを現行行政區劃(一九四一年現在)より見ればロシア共和國中の沿海地方(直轄區、ウスリー河)、ハバロフスク地方(直轄區、ユダヤ自治政、アムール河、ニジネアムール河、サハリン河、カムチャツカ河)、チタ河、ブリヤート蒙古自治共和國、イルクーツク河を包括してゐる。

位置

ソ聯東亞はアジア大陸の最北本部に位置し、太平洋に横はるソ聯の國境地域である。東經九八度より一九〇度、北緯一九〇度、北緯四二度より七一度に亘つてゐる。

る。

面積

面積は四七五萬二四〇〇平方尺で、ソ聯全面積の二二%、わが帝國領土の七倍弱、滿洲國の三倍半強に當る。

地勢・河川

沿海地方は日本海岸に沿つてシホタ・アリン山脈が南北に從走し、南はビョートル大帝灣、北はアムール入江に及んでゐる。

その東斜面は險しく一部分は絶壁をなして海に臨んでゐる。従つてビョートル大帝灣からオリガ灣までは海岸線の屈曲に富んでゐるが、以北の日本海、間宮海峡ではソヴェート灣、デカストリ灣を除いて船舶の碇泊に適するところはない。

四、アルメニヤ共和國から來るもの——有用建築材料、銅、葡萄酒。

五、トウルクメン共和國から來るもの——棉花、果實、生糸。

六、タヂク共和國から來るもの——棉花、果實、生糸、稀少金屬。

七、キルギーズ共和國から來るもの——ケンドウイリ(纖維植物)、ケナフ(同上)、棉花、獸毛、肉。

八、カザフ共和國から來るもの——鉛、銅、石油、石炭、獸毛、肉、粒穀物、棉花。

然しその西斜面は比較的なだらかで、北方においてウスリー河の支流イマン、ビキン、ホル、黒龍江の支流オニユイ等の水源地となつてゐるが、この西南傾斜は漸次ウスリー平野に連り、ウスリー、イマン西河の合流點から南方はとみに廣調となり、興凱湖に注ぐ諸小河川の溪谷を抱く沿興凱平野を展開してゐる。

ハバロフスク地方は東シホタ・アリン山脈とその支流シブケ山脈によつて沿海地方と區劃せられ、北はスタノヴォイ山脈が西南より東北に走り、ヤクート自治共和國との境をなしてゐる。

スタノヴォイ山脈と黒龍江諸河川及びゼーヤ河溪谷との間にはアレール・ゼーヤ臺地が横たはり、それはゼーヤ河の下流からゼーヤ・プレーヤ平野に移り、黒龍江まで延び、こゝに「東亞の穀倉」沿黒龍の沃野が開けてゐる。

プレーヤ河の東から子午線に沿つて小興安嶺山脈が延び、その東斜面に黒龍江下流の所謂「太平洋低地」が擴がつてゐる。それは幾多の支流によつて從横に斷

ち切られ、大小無数の湖水を抱いてゐる。

サハリン河、北樺太の兩海岸には東西二山脈が南北に從走し、その中間にトミイ、ポロナイ兩河流域の平野を挟んでゐる。北部はツンドラと沼澤地帯である。

カムチャツカ河は太平洋火山圈に入る火山半島であり、活火山一九、休眠火山三七がある。

活火山中もつとも高いものはクリエケエフスカヤ山で、活動の強烈な火山はカイルムスカヤ山である。この高さは一三二〇米である。

半島には中部を貫く中部カムチャツカ山脈と、これと平行して東海岸を走る東部山脈があり、その間にベーリング海に注ぐカムチツカ河の溪谷が横はつてゐる。

その北部大陸につゞく地方一帯はツンドラ地帯で、度地及び沼地多く、平地及び乾地は非常に少い。また大陸部の南部においてはスタノヴィイ山脈がヤクート自治共和国との境に延びて、一帯の山地

を形成し、その北部チコト地方にはスタノヴォイ山脈の直系、アナドイル山脈が西より東に走つてデジネフ岬に及んでゐる。

ザバイカル地方はアジアの最古の部分で、地質學者によつて「アジア最初の高地」といはれてゐる。この高地をヤブロンヴィイ山脈が走つてゐる。この山脈はソ連東亞全域の屋臺骨をなし、西南斜面はバイカル湖に向つて漸次低下し、その東南斜面は太平洋に向つて下降してゐる。

この地方は滿洲、蒙古との國境に沿ふ草原地帯を除けば多かれ少なかれ山岳地帯をなし、山脈はたゞセレンガ、インゴダ、オノン、シルカ及びアルグンの諸河川の深い溪谷によつて斷ち切られてゐる。インゴダ、オノンの兩河は合してシ

ルカ河となり、これとアルグン河が合流して黒龍江をなす。

イルクーツク河はエニセイ河とレナ河の間にある中央シベリヤ臺地の東南部を形成してゐる。この臺地は「アンガラ」大チーブルランドといはれ、北方に緩かに低下する卓状高地である。南部は人跡未踏のサヤン山系によつてトウワ共和国と境を接してゐる。

レナ河の上流はバイカル山脈に、エニセイ河の支流アンガラ河はバイカル湖に源を發して北流してゐる。

人口及民族

一九三三年一月一日現在によると、東亞地方、東部シベリヤ地方並にヤクート共和国の人口と面積は左の如くである。

地域	首都	面積(千平)	人口		
			農村	都市	計
1 極東地方	ハバロフスク	一、一三・七	一、一三・七	七七・四	一、八六〇・一
アムール州	ブレゴウエシ	二二・八	二八五・四	一三七・九	四三三・三
ゼーヤ州	ルフロウオ	一七五・六	六・九	四七・五	一一六・四

一九三九年一月十七日現在の國勢調査の結果發表されたソ連東亞の人口は、都市人口二三四萬八一六三人、農村人口二九七萬八二七六人、合計五三二萬六四三九人で一平方軒當りの密度は僅か一一・二人にすぎない(ソ連邦總人口は一億七〇四六萬七一一八六人で人口密度は八・〇五人)。もつとも人口密度の稠密な沿海地方でも僅かに四・三九人にすぎず、わが北海道の三五人、滿洲國牡丹江省の三九人に比すれば遙かに少い。

なほ、ソ連東亞の人口現象において注目すべきは人口増加の著しいことである。このことは第二次五年計畫以後において甚しい。

即ちソ連東亞の人口は一九二六年十二月から三九年一月までの十二年間に三一六萬八五〇〇人から五三二萬六四〇〇人に、即ち二一五萬七九〇〇人だけ増加した。この數字は年平均約一八萬人の増加を示してゐることになる。

人口の最も稠密な地方は沿海地方であり、ソ連東亞の海門ウラヂオ港、アルチ

地域	首都	面積(千平)	人口		
			農村	都市	計
カムチャツカ州	ペトロパヴロフスク	一、一五・八	五一・七	六・六	五八・三
ニシネ・アムール州	ニコラエフスク	五九・六	六七・七	二〇・〇	八七・七
沿海州	浦潮	九六・七	一五九・〇	二五・六・三	四一五・三
サハリン州	アレクサンドロフスク	四〇・七	三五・〇	三五・〇	七〇・七
ウスリー州	ウオロシロフ	五三・一	二七・二	九六・七	一二三・九
ハバロフスク州	ハバロフスク	二二・七	二八・六	一五・五	四四・一
猶太人自治州	ビロ・ビジャン	三六・八	二五・〇	二五・〇	五〇・〇
2、東部シベリヤ地方	イルクーツク	一、七九・一	一、六四・七	五四〇・六	二、一八三・三
ブリヤート蒙古共和国	ウラン・ウデ	三三・四	五五・二	七〇・七	一二五・九
ヤクート共和国	ヤクーツク	三、〇三・九	九、二七・九	五三・六	三三・五

ヨム、スーチヤンを擁する南部地帯とウスリー河流域及び興凱湖附近の農業地帯に密集してゐる。ハバロフスク地方における人口は、黒龍、ゼーヤ、セレムヂヤ、ブレイヤ各河流域の農業地帯を主とし、漁業、林業等のさかんな港附近にも比較的住居が多い。オホーツク海沿岸は最近開發されつゝあるが、有名な採金地帯グリストロイを背後地とする新興マガダン市附近を除けば住居は少い。

カムチャツカ河は大部分ツンドラ地帯で人口密度は極めて稀薄であり、一平方軒當り〇・〇九人にすぎない。半島の中北部以北にはチュクチ、コリヤク等の遊牧土人以外に住居はゐない。

サハリン河は南部諸河流域及び海岸地帯には農耕、漁獵、採炭等のため住民も比較的多いが、北部は一般に濕地帯で、オハ附近の採油地帯以外には僅かの土人が住んでゐるにすぎない。

ザバイカル地方は植民の歴史が最も古い地方で、土着民も相當多く、鐵道沿線及びその南西部に人口集中し、比較的人口稠密である。

この地域を占める民族を見ると、頗る多様でその境界を容易に決定し得るが如き各箇の地域に居住せず、寧ろ數多の地點に於ては雜居すると共に、交通の不便な氣候の酷烈な僻遠の地に分布するため、人口の調査も頗る困難で、正確を期し難いが、先づこれを原住民と移住民に大別すると更に左の五群に類別することが出来る。

- スラブ族||大ロシア人、小ロシア人、白ロシア人、ポーランド人
- その他
- 蒙古族||ブリヤート人、ツングス人、朝鮮人、支那人その他
- 土著民族||ヤクート人、タタール人、チワシ人その他

フィン族||モンダワ人、オステヤク人、サモエド人、ソイホト人、エスト人その他

而してこれ等民族の分布状態は東亞地方の基本住民をなすツングス人、(ゴリド人、オロチ人、ウデヘ人オリチ人、ネギダリ人、オロク人等)古亞細亞人で、支那人及び朝鮮人も古く移住してゐるが、現に住民の大部分を占めるのは歐羅巴ロシア並にシベリヤより移住した諸民族である。

東亞地方(單位千人)

民族	人口	人口	人口	人口	人口	人口	人口	人口	人口
大ロシア人	一、八八二、四〇〇	小ロシア人	三、一五五、二〇〇	白ロシア人	四、一〇四、〇〇〇	朝鮮人	一、六六〇、〇〇〇	支那人	七、二〇〇、〇〇〇
蒙古人	一、七五五、〇〇〇	タタール人	一、六六七、〇〇〇	ユカギル人	二、三〇〇、〇〇〇	チワシ人	八、九〇〇、〇〇〇	土人	七、七〇〇、〇〇〇
その他	六二、四〇〇	その他	一六、七〇〇	その他	二、三〇〇	その他	八、九〇〇	その他	三、八〇〇
合計	三、七〇〇、〇〇〇	合計	三、七〇〇、〇〇〇	合計	三、七〇〇、〇〇〇	合計	三、七〇〇、〇〇〇	合計	三、七〇〇、〇〇〇

又本部シベリヤ地方の大部分を占める住民はロシア人で、ブリヤート人、ツングス人、オロチ人、オロク人等である。今これ等諸民族の分布率を示せば次の如くである。

東部シベリア地方

民族	人口	人口	人口	人口	人口	人口	人口
大ロシア人	三、一三三、〇〇〇	小ロシア人	二、八〇〇、〇〇〇	白ロシア人	二、八〇〇、〇〇〇	ブリヤート人	二、三〇〇、〇〇〇
朝鮮人	一、六六〇、〇〇〇	支那人	七、二〇〇、〇〇〇	土人	七、七〇〇、〇〇〇	その他	一、八〇〇、〇〇〇
合計	三、七〇〇、〇〇〇	合計	三、七〇〇、〇〇〇	合計	三、七〇〇、〇〇〇	合計	三、七〇〇、〇〇〇

ブリヤート蒙古共和国

民族	人口	人口	人口	人口	人口	人口	人口
大ロシア人	三、一三三、〇〇〇	小ロシア人	二、八〇〇、〇〇〇	白ロシア人	二、八〇〇、〇〇〇	ブリヤート人	二、三〇〇、〇〇〇
朝鮮人	一、六六〇、〇〇〇	支那人	七、二〇〇、〇〇〇	土人	七、七〇〇、〇〇〇	その他	一、八〇〇、〇〇〇
合計	三、七〇〇、〇〇〇	合計	三、七〇〇、〇〇〇	合計	三、七〇〇、〇〇〇	合計	三、七〇〇、〇〇〇

ヤクート共和国

民族	人口	人口	人口	人口	人口	人口	人口
大ロシア人	三、一三三、〇〇〇	小ロシア人	二、八〇〇、〇〇〇	白ロシア人	二、八〇〇、〇〇〇	ブリヤート人	二、三〇〇、〇〇〇
朝鮮人	一、六六〇、〇〇〇	支那人	七、二〇〇、〇〇〇	土人	七、七〇〇、〇〇〇	その他	一、八〇〇、〇〇〇
合計	三、七〇〇、〇〇〇	合計	三、七〇〇、〇〇〇	合計	三、七〇〇、〇〇〇	合計	三、七〇〇、〇〇〇

リ地方等、未だ土人の壓倒的に多い地點に於てはこれと雜婚してゐる。一般にその性格は、頗る移動性に富む

と共に、定着的精力的且情熱的で、冷淡と情氣より屢々緊張した活動に轉じ、思索より實行に移るのも速かである。

而してこれ等諸民族を見るに

大ロシア人は始めヤクーツクに進出して(一六三三年)、此所よりオホーツク海岸、カムチャカ半島、チウコトスキー半島、アムール河に現はれて、ネルチンスク條約後に(一六八九年)一時退却したが、愛琿條約後に(一八五八年)再び到來して、一八九五年にはウスリー地方に移住した。當時は國境警備のために、始めはザバイカルコザツク、次いでドン及びウラルのコザツクを黒龍江左岸と烏蘇里江右岸に移住せしめたが、鐵道の開通と共に移民も増加し、殊に一九〇六年乃至一九一〇年には大量の農民が移住した。

大ロシア人の出生地はソ聯歐羅巴部の中部及び南部で、移住と共にその風俗習慣、建築様式、方言等を移入した。農業地方への移住者は本来の生業を続け、農業の不可能な地方への移住者は、その傳統的農業を捨て、土人と同じく狩獵と漁業を営み、ザバイカル北部、オホーツク地方、カムチャツカ地方、アナドワイ

小ロシア人 一八八二年に始めて東亞に現はれ、義勇艦隊によつて海路より移住して、大ロシア人と反對に東より西に進出したが、シベリヤ鐵道の開通と共に、その移民數を増加して、ザバイカル地方、アムール州、沿海州の鐵道その他の交通路の附近に定着した。小ロシア人の出生地は、ソ聯歐羅巴部の氣候溫和な南部地方で、その自然條件が郷土に類似する地點に移住した。

小ロシア人は、帝政時代に行はれた大ロシア化にもかゝらず、その特性と、その生活様式を保ち、ウクライナ式の家屋に住み、農業と園藝を營み、大ロシア人よりも優秀な農夫であるが、土地に施肥せず、寧ろ未開墾地の開墾を得策としてゐた。また大ロシア人はライ麥を播くが、小ロシア人は常に小麥を播き、大ロシア人は牧畜を土人の如く營むが、小ロシア人は牛の外、豚をも飼ひ林業漁業を重視せず、殆んど毛皮業に従事しない。一般に小ロシア人は忍耐力に富み、労働を愛するが、東亞の生活には大ロシア

人よりも適せず、大ロシア人は土人と融和するも、小ロシア人は「異種族」を嫌ひ、これをその定着地より驅逐してゐる。白ロシア人 は遅く東亞に現はれ、漸く一九〇六年乃至十年の移民運動に伴つて移住した。農業を營むも甚だ幼稚で豊饒の沿海地方に定着するも郷土に於ける傳統を守り、園藝方面に於ては白ロシアに良く生育する馬鈴薯の栽培に努め、小獸の狩獵と養蜂を副業とし、木材の流送と出稼に従事して、貧弱な民族の印象を與へる。

一般に、白ロシア人は創意性を缺くが、労働を愛する特性を具へてゐるから、その因循を捨て、常に接觸する隣人より經濟生活の様式を容れることを得ば、その生活を改善することが出来るのであろう。

猶太人 既に一七世紀の三〇年代にシベリヤに現はれてゐる帝政政府は一七九四年に「猶太人居住區域令」を發布して、シベリヤの居住を禁止したが、爾後數十年間に専ら追放人、囚人として、イルク

ツク縣、ヤクーツク州、ザバイカル州に居住した。

次いで一八三六年に帝政政府は、邊境開發の目的を以て、南部ステツプに定着せしむべき猶太人の一部を西部シベリアに送り、これに土地、農具、牧畜と所要の什器を支給した。斯してシベリヤ移住を希望する猶太人の増加するに及び、一八三七年に猶太人のシベリアの移住を「永久に」禁止する法令を發布して、四〇年以上の處刑囚のみを送り、しかもこれを遠隔のイルクーツク縣及びザバイカル河に定住せしめ、シベリアに於ける猶太人の人口を減ずる方針を採つたが、國法並に諸他の制限も、そのシベリア進出を阻止することを得ず、歐洲大戦前には政治犯人の増加と共に更にその人口を漸増した。

シベリアの猶太人は、移住當初よりソヴェート政權の確立するまで、専ら商工業方面に活動し、農村に移住した猶太人は徐々に都市に接近して、大中商業殊に金鑛地方に於ける食料品農産品の賣買及び

蒙古に於ける家畜の買付等に顯著な役各を占め、小工業、手工業の發達にも相當に寄與するのみならず、醫師、法律家等の「自由職業」の方面にも活動し、バルグヂン、ネルチンスク、チタの諸區に於ては採金業にも従事してゐる。

一九二八年三月二十八日のソ聯中央執行委員會令に基き、猶太人自治制を建設して、猶太人の大量移住を講ずるに及び既に翌年三月には約七〇〇家族が移住した。

初年度は水害並に傳染病のために重大難關に遭遇したが、移民の基幹部は殘留すると共に、在外猶太人も積極的に移住を援助した。移民は、ウクライナ、白ロシア共國より行はれ、なほアメリカ、リトワニヤ、パレスチナその他よりの外、在外猶太人の移住を増加してゐる。

支那人 一八九一年乃至一九〇五年に旺んに移住して、この期間にはザバイカル洲、アムール洲、烏蘇里地方に於て尠なくも一〇萬以上に達した。支那人の居住は、植民のためでなく、その自然富源

の開拓である。農業を營むものは頗る尠なく、これに従事する程度は、冬期の生活を保證するに過ぎず、専らあらゆる産業部門の労働に従事して、新職業を容易に短時間に會得する勞働者たるのみならず真に必要な人的資源である。

朝鮮人 始めて一八六四年に烏蘇里地方に移住したが、大量の移住を見たのは一九一〇年以降で、殊にソヴェート政權の確立後に漸増してゐる。朝鮮人は専ら農業を營み、その農耕法は殆ど一定して何等の進歩も示さないが、支那人と反對に家族と共に移住して堅實な生活を營み、都市附近に密集して園藝を勵み、森林地方に於ては狩獵を行ひ、海岸地方に於ては漁業に従事し、金鑛その他各種の土木工事の勞働者として生活してゐる。

ツングス人 かつてレナ河流域を占め、強大な民族であつたが、ヤクート人のために驅逐されて、一部は西方エニセイ河流域に、一部はザバイカルその他は大平洋岸並にアムール洲、沿海洲に移住した。

北部ツングス人は北部の峻烈な環境を反映した典型的な北方民族で、南部ツングス人の人口は、北部ツングス人よりも頗る尠ない。ツングス人はその生活様式によると、養鹿、狩獵を營んで遊牧するものと、土着して牧畜または漁業を營み雇傭労働に従事するものとに分れる。

ブリヤート人 遊牧民民族であつたが、シベリヤに移住すると共に定着して、イルクーツク縣に移住したブリヤート人は農業を營み、ザバイカル地方に定着したものは牧畜に従事したが、ヤクート人のために驅逐され、更に大ロシア人のために再び蒙古方面に驅逐されてゐる。

その原始的な牧畜は、豫暇を與へ怠惰の生活を送らせてゐるが、一度馬に乗ると、見事な騎手となる。大ロシア人がザバイカル地方に定着する頃には、未だなほ成吉思汗時代の戰鬪的傳統を保ち、從つて土人コザツクを編成する動機を與へた程である。

また幼稚な牧畜も、大ロシア人の影響を受けて、これを改善すると共に、東部

シベリアの植民が旺盛となり、ブリヤート人の牧場が減少するに及んで、農業を重視してゐる。ブリヤート人は一般に智能が発達して、その多数の子弟はロシア人の學校に學び、高等専門學校をさへ卒業する者も尠くなく、將來の文化的經濟的發達を期待されてゐる。

ヤクート人 一三世紀にツングス人と闘ひ、アルダン以北のレナ河流域を占領したが、此所に定着し得ず、ヤクート人は他の民族地域に侵入する足場となつたに過ぎない。

ヤクート人は、その環境に對する順應性に富み、南部のヤクート人は農業に従事するが、寧ろその本來の生業たる牧畜を好み、現在は専ら牛を飼ひ、北方のヤクート人は馴鹿を飼養する。

また商業を營み、獵夫と商人の仲介に従事して、他の民族(ツングス人、ユカギル人、ラムート人)を經濟的に支配してゐる。

ヤクート人は一般に同化力を具へ、これに接觸するあらゆる民族を同化せし

め、ツングス人のみならず、大ロシア人をもヤクート化してゐる。精力と勇氣に富み、近來子弟の教育に努め、ブリヤート人の如く、中等高等の教育を受くるもの多く、植民の觀點より有望な民族で、その資源と經濟的活動は、ヤクート人が既に廣汎な發展軌道に入つたこと、好條件の下に於ては速かに文化國民の水準に向上することを示してゐる。

タタール人 自からタタール人と呼ぶロシア人は中央亞細亞よりシベリアにかけて住む蒙古人、トルコ系及びその雜種を總稱的にタタール人と名づけてゐる。

レナ河岸より地中海に至る廣大なる地域を占め、多くは遊牧と漁業を營み、シベリアタタール人は蒙古人と混淆してゐる。舉動活潑で容貌は端正、女子には美人が尠くない。

サモエド人 シベリアの極北、オビ河、エニセイ河口附近より東北ツンドラ帯に分布する。かつて南方に現はれたが、タタール人及びオステアク人のために現在の居住地に驅逐された。馴鹿の飼

養と漁業並に狩獵を營み、鹿馴の減少と共に人口も漸減してゐる。天資性急にして、復讐心に強い。

オステアク人 往時は大民族で、ロシア人の現はれた當時は民族的組織を保ち、城砦に住み、頑強に抵抗したが、現在は殆んど死滅に瀕してゐる。資性寛大で、専ら狩獵と漁業に従事する。

ギリヤク人 他の民族より早くロシア人に接したため、その生活様式は他の民族よりも多くその社會的及び經濟的影響を蒙り、大資本を擁する漁業殊に酒精の誘惑はその固有の生活を破壊し、勞働力あるギリヤク人を大漁業定に寄食する懶惰者とした。革命當時、漁業の破壊されるに及びその因循を捨て、馬を飼ひ園藝を營み、貨物、郵便、旅客の運送に従事してゐるが、動作は鈍く狡猾で復讐心に強い。

コリヤク人 かつてオーツク地方全體を占め、南はシヤンタル群島附近に於て、ギリヤク人と境を接した時代もあつたが、次いで北東に驅逐された。馴鹿を

飼養するものと、海獸の狩獵に従事するものとに分かれ、自然と氣候の影響によつて、實際的な稍々鈍重な民族であるが、文化生活を取入れてゐる。

チクチ人 ロシア人が「チウコト」の地を侵略した當時には、最も頑強な抵抗を試み、爾來、全く獨立の生活を保ち、毛皮を貢納するも、その時代、品質、數量を任意に決定したほどである。古亞細亞人のうち最も堅實な生活を營み、一定の人口増加率を示してゐる。

遊牧するものと、漁業をするものに分かれ資性勇敢で、鬭争的遊技を好み、如何なる壓迫も庇護も欲せず、北方に於ては絶好の案内者である。

カムチャダル人 ロシアの考古學者の説によると、チクチ人及びコリヤク人と同じく、石器時代には亞細亞の北部に勢力を揮ひ、人口も多かつたが、他の民族と同様に死滅してゐる。體力弱く老衰も速かに兒童の死亡率も高い。高慢頑強で復讐心に強い。

ペトロパウロフスク市附近、カムチャ

ツカ河河谷に住むカムチャタル人は稍々進歩して、勞働を好み住屋も清潔で、漁業と狩獵に従事してゐる。

アレウト人 典型的な島嶼住民で、智的方面に於ては遙かにエスキモーに優り、海獸の狩獵を生業として、一〇家族乃至は四〇家族の集團の生活を營んでゐるが、ロシア人のために甚だしく搾取されて、死滅に瀕してゐる。

チワン人 ツンドラ帯に住むものは馴鹿を飼ひ、河川と海岸に住むものは漁業、海獸毛皮獸の狩獵に従事してゐる。帝政政府はチワン人を搾取するために、そのロシア化に強行した結果、殊に定着チワン人は、殆んどその特徴と民族語を失ひ、一部はロシア化し一部はヤクート化した。

ユカギル人 かつて頗る廣大な地域を占め、チクチ人及びヤクート人と激戦したが、帝政時代に夥しく人口を減じた。河川の漁業に従事するものと馴鹿を飼養するものとに分かれ、ツングス人と著しく混血してゐる。

エスキモー 大膽な航海者で、多くは狩獵と漁業を營み、チクチ人と頗る混血してゐる。勞働を好み決斷力に富み、一切の缺乏と困難を勇敢に打開する。

ソ聯東亞の諸民族のうち、最も生活力に富む進歩的な民族は大ロシア人である。大ロシア人は自然の開拓に成功しつゝあるのみならず、その接觸する多種の民族に融和する點に於ても、偉大な經驗を積み、他の民族は從屬的地位を占め、強大民族のために同化されるか死滅の一端を辿らねばならない。弱小民族が死滅に瀕するといふ所見は廣く行はれる所であるが、之等の民族は寧ろ庇護教導して、その生存を保護すべきは、人道上的のみならず、現地の經濟的開發上よりも當然の要求である。あらゆる民族は、各々その特性を具へ、現地の風土氣候に慣れて、此所に移住する他民族の缺陷と困難を補足しつゝ自然の開拓を完たらしむる要素である。

假に東亞地方の土人が死滅したとすれば、この不毛地の經濟開發は勢ひ他民族

によつて行はれねばならないが、極寒に慣れた大ロシア人と雖も、風土氣候の異變と闘ひ、これを開拓するのは頗る困難でその經濟的效果も多くを期待し得ないであらう。

帝政政府が弱小民族を火酒と性病と搾取で、幾多の民族を死滅させたが、ソヴェート政權が少數民族を庇護して、その文化水準の向上に努め、これを地方産業に動員しつゝあるは注目すべきである。

政治機構

ソ聯邦の統治機構は形式から云へば下は村落、部落から上は聯邦に至る人民の選舉に依る所謂ソヴェート（會議の意）と名付けられるところの議決と堂行の機關に外ならない。共產黨員にあらざれば人にあらずの感のあるソ聯邦に於ても憲法其他の凡ゆる法令の上では、形式に於ては共產黨の機關は全然政治組織には參與してゐないものゝ如くである。即ち立法に聯邦最高會議あり、行政に地區別ソヴェート大會執行委員會、幹部會あり、

司法に聯邦最高ソヴェートの設立し任命するところの裁判所及檢察があるとするれば、ソ聯邦に於てはソヴェート制による民意暢達の方法に何等缺くるところなき強力なる組織と言はねばならぬ。然しながらソ聯邦國家、及び各地方の所謂推進力乃至指導勢力なるものは那邊にあるかと云ふにそれは黨機關なりといはねばならない。

民委員會（内閣）及人民委員部（省）の兩組織がある。聯邦の組成する各共和國にも同様此の組織があつたが、一九三六年末の新憲法により國民總選舉を経てソ聯邦、各共和國に於てはソヴェート大會及中央執行委員會、同幹部會は廢止され、夫々最高ソヴェート同幹部會が組織され、地方、州、自治州、管區、市、町に於てはソヴェート大會及執行委員會を廢して勤勞民代表ソヴェート及其の執行委員會（村に於てはソヴェート議長代理）が出来た。

ソ聯邦に於ける政治の主要な特色は其の會議制度と無産階級獨裁の確保を目的とする共產黨の存在にある。

新憲法によつて選舉法は從來の間接公開投票となつたので、直接ソ聯或は共和國最高ソヴェートの代議員を秘密に投票し得ることとなつた。これは表面民主的に見えるが、實際は選舉委員會が適當な選舉候補者を指定して一般民衆が之を選舉するよう、半ば強制的に推薦する結果多數の黨員が當選することになる。選舉によつと黨員が公然とソヴェート機關を指導する方法として、ソヴェート制度の行政機關には上級機關と下級機關とを問

はず之に對應的に黨組織が並行的に設けられ、夫々の黨機關の決議をソヴェート機關にその履行を要求したり、ソヴェート機關自身の中に潛入してゐる黨グループを通じて機關内の人事まで干渉する等の方法もある。即ち黨委員會内に農務部、工業部、運輸部等の各部が夫々擔當部門の調査を行はせ、行政執行機關たるソヴェート機關の業務に就て公然非難を加へたり、要求を提出したりする。

ソ聯東亞のソヴェート及黨機關

ロシアに於ける地方の政府機關は勤勞民代表ソヴェートであり、其の執行機關はソヴェートであり、其の執行機關はソヴェートに依り選出される執行委員會である。

ソ聯東亞地方には地方級機關として東亞地方勤勞民代表ソヴェートがある。この機關は東亞地方における最高政治機關で、閉鎖期間中は専ら黨員のみより成る

執行委員會が事務を處理してゐるのである。

代表ソヴェート執行委員會は、代表ソヴェートにより選出され、ソヴェート閉會中の各種業務の實際處理者となる。地方監察委員會は、代表ソヴェートにより選出され各機關の事務取扱を監督する。

ソヴェート統制委員會は、黨會議により選出されるが、人民委員會に屬する。ソヴェート機關と黨機關の中間にあり、中央よりの指令の實施状態を監督するものである。

調達委員會代表、國家に必要な農作物其他を調達する機關である。

執行委員會所屬各部、全聯邦人民委員部系統の代表局と、共和國人民委員部系統の代表局及執行委員會直屬の諸部の三種類があり、前二者は執行委員會（代表ソヴェート）に屬すると共に、其の系統の人民委員部にも隸屬する。

州級機關には、州代表ソヴェート、州執行委員會及直屬諸部、全聯邦人民委員

系統諸局がある。區（市）級機關、初級機關がある。

黨地方級及洲機關としては東亞地方黨會議がある。これは最高の黨決議機關で、黨委員會及び監察委員會を選出するもので、定期會議は一箇年半に一回開く。

東亞地方黨委員會は中央委員會に直屬し、三箇月に一回以上總會を開催し、閉會中の事務を東亞ビュローに委任する。

東亞委員會ビュローは黨委員會により選出された十一名の委員よりなり、實際的に各種の事務を司る。黨活動の中核をなし、ビュロー委員會には東亞地方の黨有力者を網羅して居る。

東亞地方黨監察委員會は地方黨會議により選出される機關で全般の黨務の監査に當つてゐる。

黨統制委員會東亞代表は地方の黨組織とは獨立して中央委員會に直屬し、地方全般の黨活動の指導をなす。

洲以下の諸機關の組織も前述のもの